


市立大津中学校昇降機設置建築その他工事

図面リスト

図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺
A-01	改修工事特記仕様書1	-	A-26	建具キープラン・建具表	1:50、200	M-01	機器表・器具表・凡例	-
A-02	改修工事特記仕様書2	-	A-27	部分詳細図	1:5-10-20	M-02	1階平面図	1:300
A-03	改修工事特記仕様書3	-	A-28	昇降路 平面図・断面図	1:50	M-03	2階平面図	1:300
A-04	改修工事特記仕様書4	-	A-29	既存建物改修 配置図	1:800	M-04	3階平面図	1:300
A-05	改修工事特記仕様書5	-	A-30	既存建物改修 立面図1	1:200	M-05	4階平面図	1:300
A-06	改修工事特記仕様書6	-	A-31	既存建物改修 立面図2	1:200	M-06	空調設備1階荷受室平面図	1:50
A-07	案内図・配置図	1:600	A-32	既存建物改修 建具表	1:50	M-07	空調設備1階配膳室平面図	1:50
A-08	工事概要・仕上表	-	A-33	既存建物改修 詳細図	1:50	M-08	空調設備2階配膳室平面図	1:50
A-09	1階平面図	1:300				M-09	空調設備3・4階配膳室平面図	1:50
A-10	2階平面図	1:300	K-01	仮設計画図1(参考用)	1:300	M-10	衛生設備1階荷受室平面図	1:50
A-11	3階平面図	1:300	K-02	仮設計画図2(参考用)	1:800	M-11	衛生設備1階配膳室平面図	1:50
A-12	4階平面図	1:300	K-03	仮設計画図3(参考用)	1:200	M-12	衛生設備2階配膳室平面図	1:50
A-13	R階平面図・PHR階平面図	1:300	K-04	仮設計画図4(参考用)	1:200	M-13	衛生設備3階配膳室平面図	1:50
A-14	荷受室 1階平面詳細図	1:50				M-14	衛生設備4階配膳室平面図	1:50
A-15	配膳室・少人数教室 1階平面詳細図	1:50						
A-16	配膳室 2階平面詳細図	1:50	S-01	構造設計標準仕様書	-			
A-17	配膳室 3、4階平面詳細図	1:50	S-02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	-			
A-18	断面図1	1:50	S-03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	-			
A-19	断面図2	1:50	S-04	鉄骨構造標準図(1)	-			
A-20	1階荷受室 展開図	1:50	S-05	鉄骨構造標準図(2)	-			
A-21	1階配膳室 展開図	1:50	S-06	あと施工アンカー・無収縮モルタル施工標準図	-			
A-22	2階配膳室 展開図	1:50	S-07	基礎・1、2階伏図(撤去、増設)	1:50			
A-23	3、4階配膳室 展開図	1:50	S-08	3、4、R階伏図(撤去、増設)	1:50			
A-24	廊下、ホール 展開図	1:50	S-09	軸組図(鉄骨部材増設)	1:50			
A-25	天井伏図	1:100	S-10	床補強詳細図・ビット配筋図・鉄骨詳細図	1:30、20			

公共建築課長	主査等	担当者
		

特記仕様書
1. 本特記仕様書は、本工事における建築関連工事に適用する。
2. 本特記仕様書における採用事項
(1) 項目欄に番号等を○印を付したものを採用する。
(2) 項目欄に○印を付し特記事項欄に○印を付していない場合は標準仕様書による。
(3) 特記事項は○印を付したものを採用する。但し○印の付かない場合は※印の付した事項を採用する。
○印と※印を付した場合は共に採用する。
3. 本特記仕様書に記載なき事項については下記による。
(1) 国土交通省大臣官房長官官務部監修 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）平成31年版
(2) 国土交通省大臣官房長官官務部監修 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）平成31年版
(3) 国土交通省大臣官房長官官務部監修 建築物解体工事共通仕様書 平成31年版
4. その他事項
・各項目欄の番号(例：1.4.0.0)は標準仕様書の番号(章番号を除く)に照合する
・各項目欄の番号(例：表0.0.0.0)及び図0.0.0.0は標準仕様書の各表、及び図番に該当する項目とする
・各項目欄の番号(例：●公0.0.0.0、●公0.0.0.0)は公共建築改修工事標準仕様書の各項目に相当する
・各項目欄の番号(例：1.*.0.0)は標準仕様書の番号(章番号を除く)に該当しない項目とする

項目 特記事項
3.2 仮設機材切取り
仮設機材切取り：・無し ○有り
設置箇所：○図示
種別：・A種 ○B種 ・C種
仮設機材：・不要 ○必要【設置箇所：・図示 ○任意の場所】
仮設機材の種別：・鋼製 ・木製 ・図示 ○施工者にて適切な材料を選択
監督職員事務所等
監督職員事務所等の設置：・必要 ○不要
監督職員事務所等の規模、設備、備品等
()号(会議室()m²を含む)
()号に会議室()m²を加えた規模
・専用電話 ・兼用FAX ・冷暖房機 ・机 ・椅子 ・書棚 ・検査用具
・その他：
受注者事務所等の設置：・必要 ・不要
受注者事務所等の規模、設備、備品等
()号(会議室()m²を含む)
()号に会議室()m²を加えた規模
・専用電話 ・兼用FAX ・冷暖房機 ・机 ・椅子 ・書棚 ・検査用具
○その他：規模等施工者にて選択
構内既存の水道施設：・利用できない ○利用できる(・有償 ○無償)
構内既存の電力施設：・利用できない ・利用できる(・有償 ・無償)
○動力以外利用できる(○有償(受注者事務所等) ○無償)

項目 特記事項
3.3 種別及び工程
◎屋根保護防水
防水立上りの保護コンクリートの適用：・適用しない ・適用する
防水立上りの保護コンクリートの工法：・図示
施工部位 工法/種別 備考
・PHR階屋上 ・PIB/・B-1 ・B-2 ・B-3
・R階屋上 ・PIB1/・BI-1 ・BI-2 ・BI-3 断熱材：t=
・TIB1/・BI-1 ・BI-2 ・BI-3 断熱材：t=
・PZA1/・AI-1 ・AI-2 ・AI-3 断熱材：t=
・PZA/・A-1 ・A-2 ・A-3
◎屋根露出防水
施工部位 工法/種別 備考
・PHR階屋上 ・M4C/・C-1 ・C-2 ・C-3 ・C-4 仕上塗料；
・R階屋上 ・M3D/・D-1 ・D-2 ・D-3 ・D-4 仕上塗料；
・POD/・D-1 ・D-2 ・D-3 ・D-4 仕上塗料；
◇W3D工法及びFPD工法の脱気装置
脱気装置の種類：※製造所仕様による ・図示
脱気装置の設置数量：※製造所仕様による ・図示
◎屋根露出防水断熱断熱工法
施工部位 工法/種別 備考
・PHR階屋上 ・POD1/・DI-1 ・DI-2 仕上塗料；
・R階屋上 ・M3D1/・DI-1 ・DI-2 仕上塗料；
・M4D1/・DI-1 ・DI-2 仕上塗料；
脱気装置の種類：※製造所仕様による ・図示
脱気装置の設置数量：※製造所仕様による ・図示
◎屋内防水
施工部位 工法/種別 備考
・浴室 ・PIE/・E-1 ・E-2 保護層：普通コリアート
・機室 ・PZE/・E-1 ・E-2 保護層：普通コリアート
・保護層：軽量コリアート
保護層のコンクリートの厚さ：・100mm ※80mm ※60mm ・図示
床面コンクリートの平坦さ：表8.1.5【a種 ・b種 ・c種】
防水立上り部の保護：・露出 ・コリアート ・レンガ押え ・乾式保護材；
屋上排水溝：・設置する ・設置しない
4. 改質アスファルトシート防水
改質アスファルトシートの種別・厚さ：
※表3.4.1~3.4.3による ・製造所仕様による
私着層付改質アスファルトシートの種別・厚さ：
※表3.4.1~3.4.3による ・製造所仕様による
露出防水断熱工法の断熱材の材質：・図示 ・製造所仕様による
露出防水断熱工法の断熱材の厚さ：・図示 ・50mm ・35mm
◎屋根露出防水密着工法
施工部位 工法/種別 備考
・PHR階屋上 ・M4AS/・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J2
・R階屋上
◎屋根露出防水断熱工法
施工部位 工法/種別 備考
・PHR階屋上 ・M3AS/・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1 ・AS-J3 脱気装置：設置
・R階屋上 ・POAS/・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1 ・AS-J3 脱気装置：設置
◎屋根露出防水断熱断熱工法
施工部位 工法/種別 備考
・PHR階屋上 ・M3ASI/・ASI-T1 ・ASI-J1 防湿層：設置
脱気装置：設置
・R階屋上 ・M4ASI/・ASI-T1 ・ASI-J1 防湿層：設置
脱気装置：設置
・POASI/・ASI-T1 ・ASI-J1 防湿層：設置
脱気装置：設置
5. 合成高分子系ルーフィングシート防水
ルーフィングシートの種類・厚さ：※表3.5.1~3.5.3による
断熱シート：※発泡ポリイソシアヌレート ・図示
機械固定工法の断熱材の厚さ：・図示 ・50mm ・35mm
接着工法の断熱材の厚さ：・図示 ・50mm ・35mm
接着工法の断熱材の厚さ：・図示 ・50mm ・35mm
施工部位 工法/種別 厚さ(mm)
S-F1(S1-F1) ・加硫ゴム系/均質シート・複合シート ※1.2 ・1.5 ・2.0
S-F2(S1-F2) ・エポキシ樹脂系/均質シート・複合シート ・1.2 ・1.5 ※2.0
S-M1(S1-M1) ・加硫ゴム系/均質シート・複合シート ・1.2 ※1.5 ・2.0
S-M2(S1-M2) ・エポキシ樹脂系/均質シート・複合シート ・1.2 ※1.5 ・2.0
S-M3(S1-M3) ・強化ビニル樹脂系/均質シート・複合シート ※1.2 ・1.5 ・2.0

項目 特記事項
5.3 種別及び工程
施工部位 工法/種別 備考
・PHR階屋上 ・POS/・S-F1(S1-F1) ・S-F2(S1-F2)
・R階屋上 ・POS/・S-M1(S1-M1) ・S-M2(S1-M2) ・S-M3
・POSI/・S-F1(S1-F1) ・S-F2(S1-F2)
・POSI/・S-M1(S1-M1) ・S-M2(S1-M2) ・S-M3
・S4S/・S-F1(S1-F1) ・S-F2(S1-F2)
・S4S/・S-M1(S1-M1) ・S-M2(S1-M2) ・S-M3
・S4SI/・S-F1(S1-F1) ・S-F2(S1-F2)
・S4SI/・S-M1(S1-M1) ・S-M2(S1-M2) ・S-M3
・S3S/・S-F1(S1-F1) ・S-F2(S1-F2)
・S3SI/・S-F1(S1-F1) ・S-F2(S1-F2)
・M4S/・S-M1(S1-M1) ・S-M2(S1-M2) ・S-M3
・M4SI/・S-M1(S1-M1) ・S-M2(S1-M2) ・S-M3
脱気装置：・設置
断熱材の種類：・押出法ポリイソシアヌレート(※2種B(※付)) ・図示
断熱材の断熱材の厚さ：・25mm ・35mm ・50mm
目地処理(防水種別S-C1の場合)：
PCコンクリート下地の場合：・図示
ALC下地の場合：・図示
入隅部の増張り(防水種別S-C1の場合)：
PCコンクリート下地の場合：・図示
ALC下地の場合：・図示
機械的固定工法の場合の風圧力に対応した工法：・製造所仕様による
保護層の施工(防水種別S-C1の場合)：
平場のタタキ床塗り工法：※6.15.6(2)(イ)及び6.15.6(3)(イ)による ・図示
平場のタタキ床塗り厚さ：・30mm
平場のコリアートの厚さ：・60mm ・80mm
立上りのタタキ床塗りの厚さ：※7mm以下
6. 塗膜防水
施工部位 工法/種別 備考
・POX/※X-1 ・X-2 脱気装置：設置
・L4X/・X-1 ※X-2 脱気装置：設置
・昇降機ピット ・ケイ酸系塗膜防水 / C-UP
仕上塗料の種類：・製造所仕様による ・塗料種類
仕上塗料の使用量：
7. シーリング
種類及び施工箇所：・種類は表3.7.1により施工箇所は下表による
○種類は、標準仕様書3.7.1による。
ノンブリードタイプシーリング材の適用：※使用する ・使用しない
施工箇所：・ポリウレタンシーリングで仕上げありの部位
施工箇所 シーリング材の種類 目地寸法(mm) 保証年数
・各階打継部分 ※9.6.2による 15(W)x10(D) 3年
・外壁伸縮目地 15(W)x10(D) 年
○が止め付付 シリコン系 5(W)x5(D) 年
○が止り(内部) 変性シリコン系(仕上なし) 10(W)x6(D) 年
○が止り(外部) ポリウレタン系(仕上あり) 15(W)x10(D) 年
※簡易接着性試験 ・引張接着性試験
シーリング保証書：・提出する ・提出しない
・保証書(請負人、材料製造所、シーリング施工者連帯保証)は各2通提出すること。
8. とい
料どいの材種：・7x7x材被覆鋼板 ・耐候性被覆鋼板
縦どいの材種：・配管用鋼管 ・強化ビニル管【・が-VP ・が-VU ・VP】
掃出口：・有 ・無
飾り脚：・塩ビ製 ・銅板製
土間受け金物及び足金物の材質：※表3.8.2 ・図示
軒巻の取付間隔：※表3.8.2 ・0.9m ・1.2m
壁巻の取付間隔：※表3.8.2 ・1.2m ・1.5m ・図示
ルーフトレーン：・ステンレス鋼板製 ・7x7x材製
既存といの撤去及び降雨時の養生：・仮設のといを設置する ・図示
銅管製といの防露巻き：・行う ・行わない
施工箇所：※表3.8.4による ・図示
ルーフトレーンの取替え：・行わない ・行う【・3.8.3(8)による】
9. アルミニウム製窓木
施工部位 工法/種別 備考
2Fバルコニー ・250形 ・300形 ・350形
RFバルコニー ・オープン形式 ・シャ形式
アルミニウム製窓木の厚み：※2.0mm
窓木体の表面処理：・AB-1 ・AB-2 ・AC-1 ・BA-1 ・BB-1 ・BC-1 ・C
新規窓木の地下及び撤去後の補修：
板材折曲げ型窓木の取付方法：・図示

公共建築課長 主査等 担当者
横須賀市 都市部 公共建築課
設計年月日 令和 2年 2月

設計名称
市立大津中学校昇降機設置建築その他工事
図面名称
改修工事特記仕様書1

設計者
市立大津中学校昇降機設置建築その他工事
図面番号
改修工事特記仕様書1
縮尺
1:1

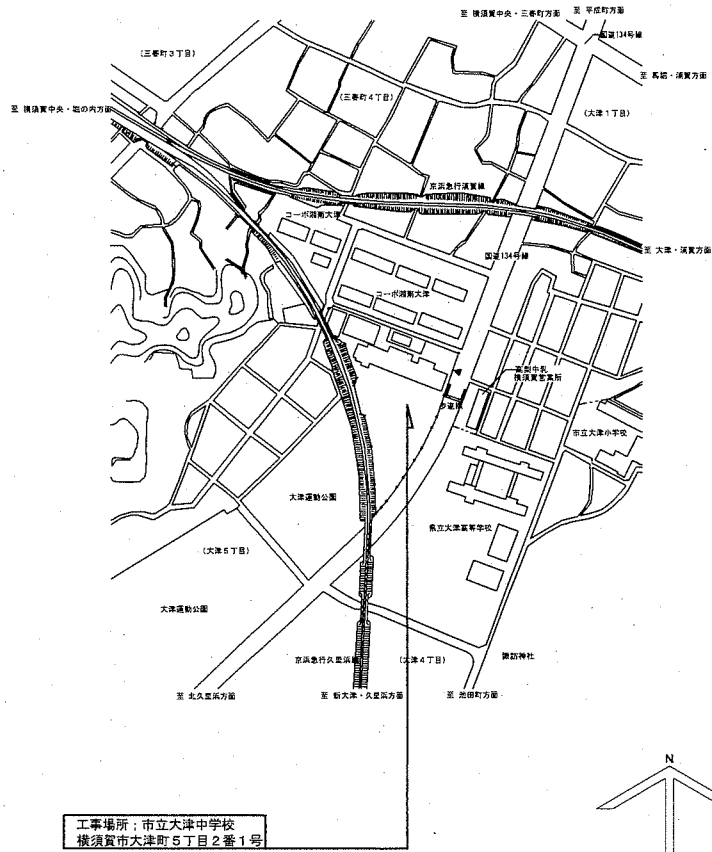
設計者
市立大津中学校昇降機設置建築その他工事
図面番号
改修工事特記仕様書1
縮尺
1:1

Table with 4 main columns representing different stages or sections of a construction project, each with sub-tables for materials, methods, and specifications.

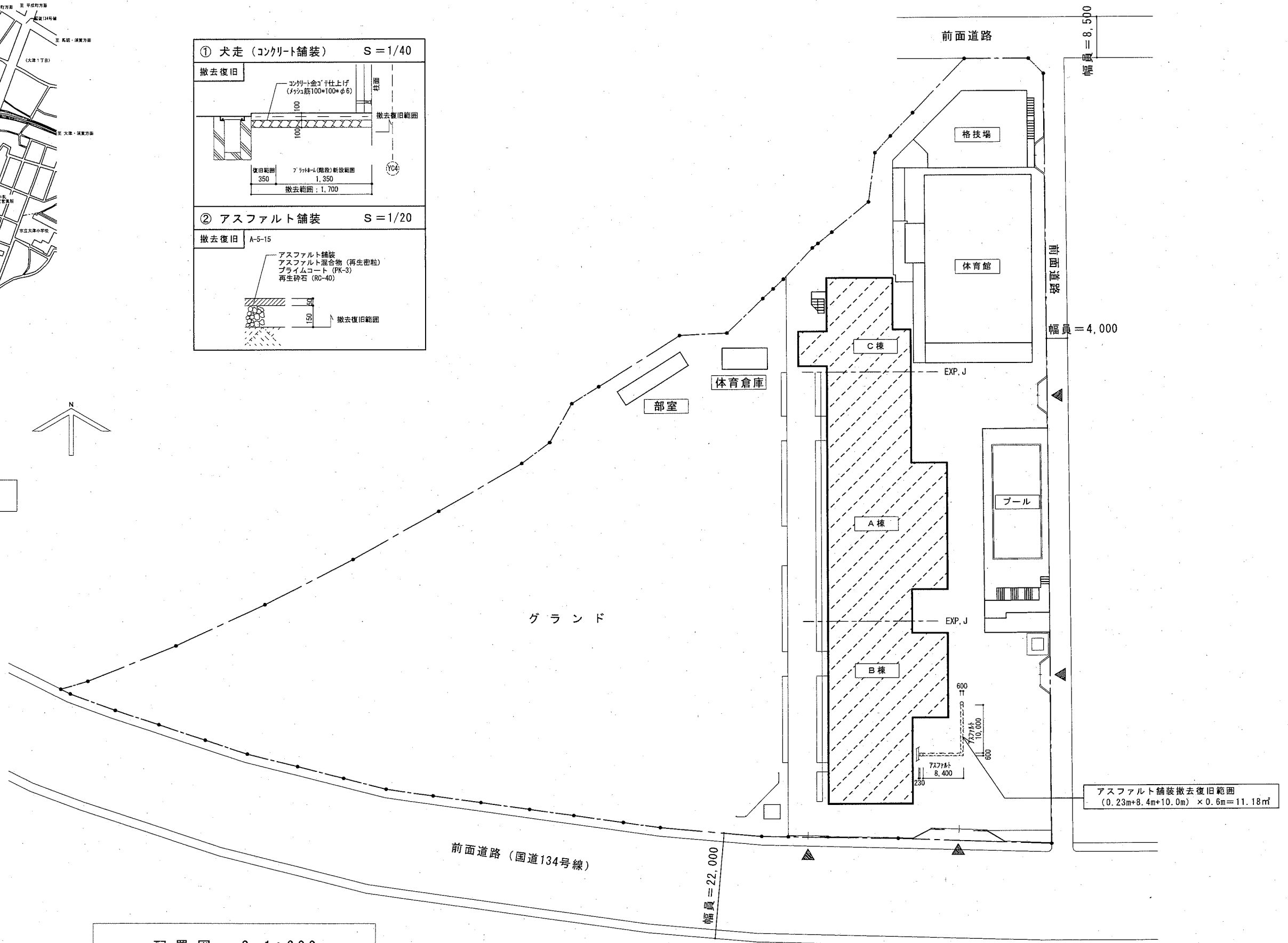
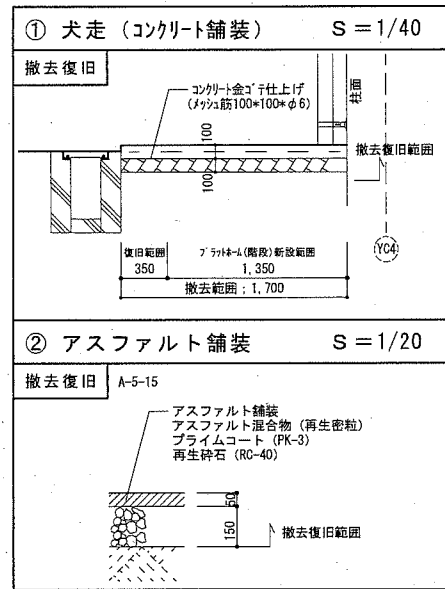
章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	
8章 耐震改修工事 その他工事	2.6 構造体用材料の材料及び割合	モルタルの圧縮強度：・図示・18N/mm ² モルタルのフロー値：・図示・180mm未満・180mm以上240mm未満・240mm以上 型枠の材料等：・下表による・図示	8章 耐震改修工事 その他工事	11.1 一般事項	1.1. 無筋コンクリート コンクリートの種類：※I類・II類・その他； 適用箇所：・下表による・図示	9章 環境配慮改修工事 その他工事	23.5 溶接金網巻き工法 溶接閉鎖7-7巻き工法	外部に面する打直し仕上げの増打厚さ：・25mm・20mm・15mm 型枠セパレーターとしてのシアコネクタの使用：・適用する・適用しない 打込み工法：・流込み工法・圧入工法・図示 工法の種別：・鋼板巻き工法・帯板巻き付け工法 柱脚の隙間：・図示・設けない・設ける 柱脚の隙間：・図示・設けない・設ける 補強工事後の仕上げ：・図示	
	2.7 型枠の材料	種類・厚さ・材質 ○合板 ※「コンクリート型枠用合板のJAS」・12mm ※複合 ・「コンクリート型枠用合板のJAS」・15mm ※南洋材 ・床型枠用鋼製「オプレート」 スリーブ：・硬質強化ビニール管・溶融亜鉛めっき鋼管・鋼管・つば付き鋼管 ・鋼管・紙チューブ		12.4 穿 孔	1.2. あと施工アンカー工事 埋込配管等の設置方法：・電磁波レーダ方式・電磁波誘導法・図示 施工確認試験：※引張試験機による引張試験・図示 試験の箇所数：※3本/ロット(径及び仕様毎)・全数・図示 1ロットの定義：※1日に施工されたもの数(径及び仕様毎)・図示		23.6 鋼板巻き工法及び 帯板巻き付け工法	23.7 仕上げ	2.4. 連続繊維補強工事 ひび割れ部の改修工法：・標準仕様書4.1.4に準ずる・図示 柱の隅角部の面取りの形状、寸法：・図示 連続繊維補強材の引張強度試験の数値：・図示 連続繊維補強材の付着強度試験の数値：・図示 補強工事後の仕上げ：・図示
	2.8 鋼 材	鋼材の材質：・下表による・図示		12.7 施工確認試験	1.3. 鉄骨工作 仮組の実施：・行わない・行う		23.7 仕上げ	2.5. 耐震スリット新設工事 スリットの幅、及び深さ：・図示 耐火充填材の仕様箇所、及び仕様：・図示 遮音充填材の仕様箇所、及び仕様：・図示	
	2.9 高力ボルト	鋼材の形状及び寸法：・図示 種類：・M7型高力ボルト2種(S10T)・JISの高力ボルト2種(F10T) ・溶融亜鉛めっき高力ボルト1種(F8T相当)		13.10 仮 組	1.4. 高力ボルト接合 すべり係数試験の実施：・行わない・行う 試験の方法、試験片の摩擦面の状態：・図示 ボルト長さがねじの呼びの5倍をJIS型ボルトのナット回転法の回転量：・120°		24.6 施 工	2.6. 免震改修工事 支承材の材質等：・図示 減衰材の材質等：・図示 性能確認試験の項目：・図示 性能確認試験の数値：・図示 製品検査の項目等：・図示 材料の防錆処理：・図示 ※製造所仕様による 材料の設置位置寸法の許容差：・図示 ※製造所仕様による 新設補強筋の設置：・図示 支承材又は減衰材設置後の仕上げ：・図示 支承材への耐火保護の適用及び仕様：・図示 免震化部に設置するエキスパンションジョイントの仕様及び工法： ・図示 ※製造所推奨仕様による	
	2.10 溶接材料	表8.2.9以外の溶接材料：・図示		14.2 摩擦面の性能及び処理	1.5. 溶接接合 溶接技能者の技能付加試験：・行わない・行う 開先の形状：・図示 エンドタブの切除の有無：・有り・無し 【エンドタブの切除の適用箇所：・図示		24.6 施 工	2.7. 耐震改修工事 既存鉄骨の撤去範囲及び方法：・図示 既存鉄骨の撤去：・図示 減衰材の材質等：・図示 性能確認試験の項目：・図示 性能確認試験の数値：・図示 製品検査の項目等：・図示 材料の防錆処理：・図示 ※製造所仕様による 材料の設置位置寸法の許容差：・図示 ※製造所仕様による 別置の材料の種類、形状、寸法、数量等：・図示 ※製造所仕様による 新設補強筋の適用：・図示 減衰材設置後の仕上げ：・図示 検査の項目：・図示	
	2.11 スパイク	表8.2.9以外のスパイク材料：・図示 スタッドの規格、形状、寸法等：・下表による・図示		14.7 締付け	1.6. 溶接準備 溶接部の外観試験：※告示第1464号第二号による試験： ※JASS 6 附則B(付表3「溶接」)； 完全溶け込み溶接部の超音波探傷試験：・適用する・適用しない		24.6 施 工	2.8. 土工事及び地盤工事 既存杭の撤去、方法等：・構造特記仕様書による・図示 既存杭の杭頭処理等：・構造特記仕様書による・図示 既存杭の補強：・構造特記仕様書による・図示 既存杭の試験：・構造特記仕様書による・図示 ◎埋戻し及び盛土 種別：・A種・B種・C種・D種 ・搬入まさ土(砂礫等の混入のない良質なものとし、水締め、機器による締固めとする) ◎建設発生土の処理 ・現場説明書による・構外搬出適切処理 ※構内指定場所堆積 ※構内指定場所敷均し ・他現場に搬入() ・指定処分地() ◎山留めの撤去 ・撤去・存置	
	2.12 柱底均しEM及びびびり材	柱底均しモルタル：※無収縮モルタル ○図示		15.2 溶接部の試験	1.7. 鉄骨の錆止め塗装 S R C造の鋼製スリーブ(鉄骨に溶接されたもの)の内面： ・図示・標準仕様書 表7.3.1【※A種・B種・C種】 耐火被覆材の接合面：・図示・標準仕様書 表7.3.1【A種・B種・C種】		24.6 施 工	2.9. 地盤工事 ◎試験杭 試験杭の位置、本数、寸法：・図示 ◎載荷試験 載荷試験：・水平試験・鉛直試験 試験杭の位置、本数、載荷荷重：・図示 試験方法：・図示 試験報告書の記載事項等：・図示 ◎地盤の載荷試験 載荷試験：・平板載荷試験 試験の位置、載荷荷重：・図示 試験方法：・図示 試験報告書の記載事項等：・図示 ◎杭地盤は「公共建築工事標準仕様書(建築工編)」4章【地盤工事】による。	
	2.13 連続繊維シート及び 含浸接着剤等	材料：・図示 工法：・図示 引張強度、ヤング係数等：・図示 引張りを受ける鋼板の試験：・適用する・適用しない・図示 杭の材料：・構造特記仕様書による・図示 杭の継手、工法等：・構造特記仕様書による・図示		15.12 溶接部の試験	1.8. 耐火被覆 耐火被覆材の種類及び性能：※図示 耐火被覆材の工法：◎図示・吹付工法・巻付け工法 耐火被覆の耐火性能：※図示 ◎建築基準法に基づく所定の性能		24.6 施 工	2.10. 基礎工事 基礎工事の材料 基礎工事の材料 基礎工事の材料	
	2.14 鋼材の材料試験等	鋼材の材料試験等		15.12 溶接部の試験	1.9. 鋼材の加工及び組立 継手の種類：◎重ね継手・ガス圧継手・機械継手・図示 継手の位置：・図示 主筋の重ね継手長さ：※標準仕様書8.3.4(3)(7)による・図示 耐力壁鉄筋の重ね継手長さ：※標準仕様書8.3.4(3)(7)による・図示 先組み工法等の継手の位置：・図示 柱への梁引張り鉄筋の定着長さ：※表8.3.4による・図示 鉄筋等のかぶり厚さ：◎表8.3.6による・図示 土に接する柱、梁、スラブ及び壁の鉄筋のかぶり厚さ(軽量コンクリートの場合)： ・図示・40mm・50mm・60mm 塩害を受ける恐れのある部分等の鉄筋のかぶり厚さ：・図示		24.6 施 工	2.11. 基礎工事 基礎工事の材料 基礎工事の材料 基礎工事の材料	
	2.15 基礎工事に用いる材料	基礎工事に用いる材料		15.12 溶接部の試験	1.10. 鋼材の加工及び組立 鋼材の加工及び組立		24.6 施 工	2.12. 基礎工事 基礎工事の材料 基礎工事の材料 基礎工事の材料	

案	項目	特記事項
9 年 環 境 配 置 改 修 工 事	3.4 工 法	風圧力に対応した工法： ・製造所仕様による ・図示 ・ 下地調整： ・製造所仕様による ・図示 ・ 断熱材の施工方法： ・製造所仕様による ・図示 ・ 外装材の施工： ・製造所仕様による ・図示 ・ 外装材の取付： ・あと施工アンカ ・接着剤 ・図示 ・ 通気層： ・有り(厚み： mm) ・無し
	4.2 材 料	4. ガラス改修工事 複層ガラスの種類・組合せ・厚さ： ・図示 ・ 複層ガラスの断熱性・日射遮蔽性区分： ※U3-1 ・ U3-2
	5.2 断熱材打込工法	5. 断熱・防露改修工事 種 類 種 別 厚さ(mm) ・ビーズ法 [※] リソレンフォーム ・ ・ 25 ・ ・押出法 [※] リソレンフォーム ・ 3種：土間コンクリート下地 ・ 25 ・ 50 ・硬質ウレタンフォーム ・ A種 ・ ・ ・フォームフォーム ・ ・ ・ 接着剤の [※] MA7 [※] HT [※] 放散量： ※F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆ ・
	5.3 現場吹付発砲断熱材	材料： ・吹付け硬質ウレタンフォーム ・ 種類： ・A種1 ・ 難燃材： ・1級 ・ 2級 ・ 3級 吹付け厚さ(mm) ・図示 ・ 25 ・ 30 ・ 20
	5.4 断熱材後張り工法	種 類 種 別 厚さ(mm) ・ビーズ法 [※] リソレンフォーム ・ ・ 25 ・ ・押出法 [※] リソレンフォーム ・ 3種：土間コンクリート下地 ・ 25 ・ 50 ・硬質ウレタンフォーム ・ A種 ・ ・ ・フォームフォーム ・ ・ ・ 接着剤の [※] MA7 [※] HT [※] 放散量： ※F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆ ・
	6.2 材 料	6. 屋上緑化改修工事 芝の種類： ・コライオン [※] ・ /3m ² ・ 地被類の樹種/芽立数/コンテナ径/コンテナ数： ・図示 ・ 縁材、舗装材、水抜き管、マルチング材等： ・図示 ・ 建設省告示第1458号に対応した工法： 灌水装置の設置/種類： ・設置しない ・設置する【種類： ・図示 ・ 】 既存保護層等の撤去： ・撤去しない ・撤去する 新種芝、地被類の枯保証期間： ・1年 ・半年 ・
	6.3 工 法	7. アスファルト舗装改修工事 既存舗装の撤去： ・撤去しない ○撤去する【範囲等： ○図示 ・ 改修部分全面】 既存舗装の再利用： ・再利用しない ・再利用する【範囲等： ・図示 ・ 改修部分全面】
	6.4 ***の枯補償	凍上抑制層の適用： ○適用しない ・適用する 厚さ： ・車道部 mm ・歩道部 mm 透水性舗装のフィルター層の適用： ・適用しない ・適用する 厚さ： 車道部【 ・ 150mm ・ mm】 歩道部【 ・ 50mm ・ mm】 路床安定処理の適用： ・適用しない ・適用する 路床安定処理の方法： ・添加材料による処理 ・図示 ・ 処理内容：【厚さ： ・ 300mm ・ ・ 】 【目標CBR： ・ 5以上 ・ ・ 】 盛土の種類： ・A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 フィルター層の材料： ・砂 ・図示 ・ 砂の品質： ・75μmふるい通過量10%以下 ・ 路床安定処理用添加材料： ・普通 [※] ポンドセメント ・ 高炉セメントB種 ・ 77 [※] ポンドセメント ・ 生石灰【 ・ 特号 ・ 1号】 ・ 消石灰【 ・ 特号 ・ 1号】 路床土のCBR試験： ○行わない ・ 行う【 ・ 乱した土 ・ 乱さない土】 路床締固め試験： ・ 行う ○行わない 車道部の路盤の厚さ： ○図示 ・ 150mm ・ 歩道部の路盤の厚さ： ・ 図示 ・ 100mm ・ 路盤の材料： ※砕石【※クワックラック ・ 粒度調整砕石】 ※再生材【※クワックラック ・ 粒度調整砕石】
	7.2 既存舗装の撤去及び再利用	舗装の厚さ(mm)：車道部【○50mm ・ mm】 歩道部【 ・ 30mm ・ mm】 舗装の平坦性： ※著しい不陸のない程度 ○水の滞留がない平滑性 アスファルトの種類(車道部)： ・図示 ※ [※] リマ改質75 [※] 7 [※] 1 [※] 型 ○再生密粒 ・ [※] リマ改質75 [※] 7 [※] 1 [※] II型 ・ アスファルトの種類(歩道部)： ・図示 ※ストリート75 [※] 7 [※] 1 [※] 材 アスファルトの抽出試験： ・ 行う ○行わない
	7.3 路 床	
7.4 路 盤		
7.5 舗装の構成及び仕上げ		
7.6 試 験		

工 事 区 分 表					
No	工 事 内 容	建築	電気 (別途工事)	機械	備考
1	昇降機計画通知申請手続き		○		
2	仮設足場(脚立を除く)	○			
3	発生材運搬・処分	○	○	○	
4	発生土運搬・処分	○	○	○	
5	貫通部穴埋め補修		○	○	
6	点検口(天井・壁)取付及び開口補強	○			
7	天井付各種設備器具穴あけ、取付枠及び開口補強	○			
8	天井付各種設備器具取付		○		
9	ステンレス製(木製)流し(トラップ共)	○			
10	同上 水栓金物及び配管接続			○	
11	衛生器具取付			○	
12	衛生器具取付用下地	○			
13	排水目皿			○	
14	排水目皿廻りシーリング	○			
15	排水溝・樹蓋設置及び配管敷設工事			○	
16	側溝・蓋設置(グレーチング含む)(配管接続は機械設備工事)	○			
17	換気扇取付用アルミパネル	○			
18	同上 穴あけ	○			
19	換気扇スイッチ本体取付、配線		○		
20	給気口及び室内レジスター			○	
21	給気ガラリ	○			
22	空調機各種リモコン			○	
23	空調機外機・屋内機廻り配線(冷媒管共巻き)			○	
24	空調機器一次側電源供給		○		
25	昇降路の築造工事及び仕上げ工事	○			
26	昇降路ピット防水	○			
27	昇降路頂部機器機重畳用ビームの設置工事	○			
28	各階出入口三方枠、インジケーター、押釦等の取付用下地及び穴あけ	○			
29	出入口三方枠、敷居、インジケーター等取付後の隙間埋め	○			
30	乗場関係機器取付後の壁、床の仕上げ工事	○			



案内図



配置図 S=1:600

公共建築課長	主査等	担当者	横須賀市 都市部 公共建築課	設計名称 市立大津中学校昇降機設置建築その他の工事	図面名称 案内図・配置図	A-07
			設計年月日 令和 2年 2月	縮尺 1:600		

建築概要

○昇降機設置に伴う建築工事
・1階：パンコーナーを荷受室へと改修 普通教室を配膳室・少人数教室へと改修
・2階：会議室を配膳室へと改修
・3階：更衣室を配膳室へと改修
・4階：更衣室を配膳室へと改修
・その他（既存アルミ建具ガラス改修及び渡り廊下腰壁撤去、物置撤去）
○機械設備工事
○電気設備工事（別途工事）

外部仕上表

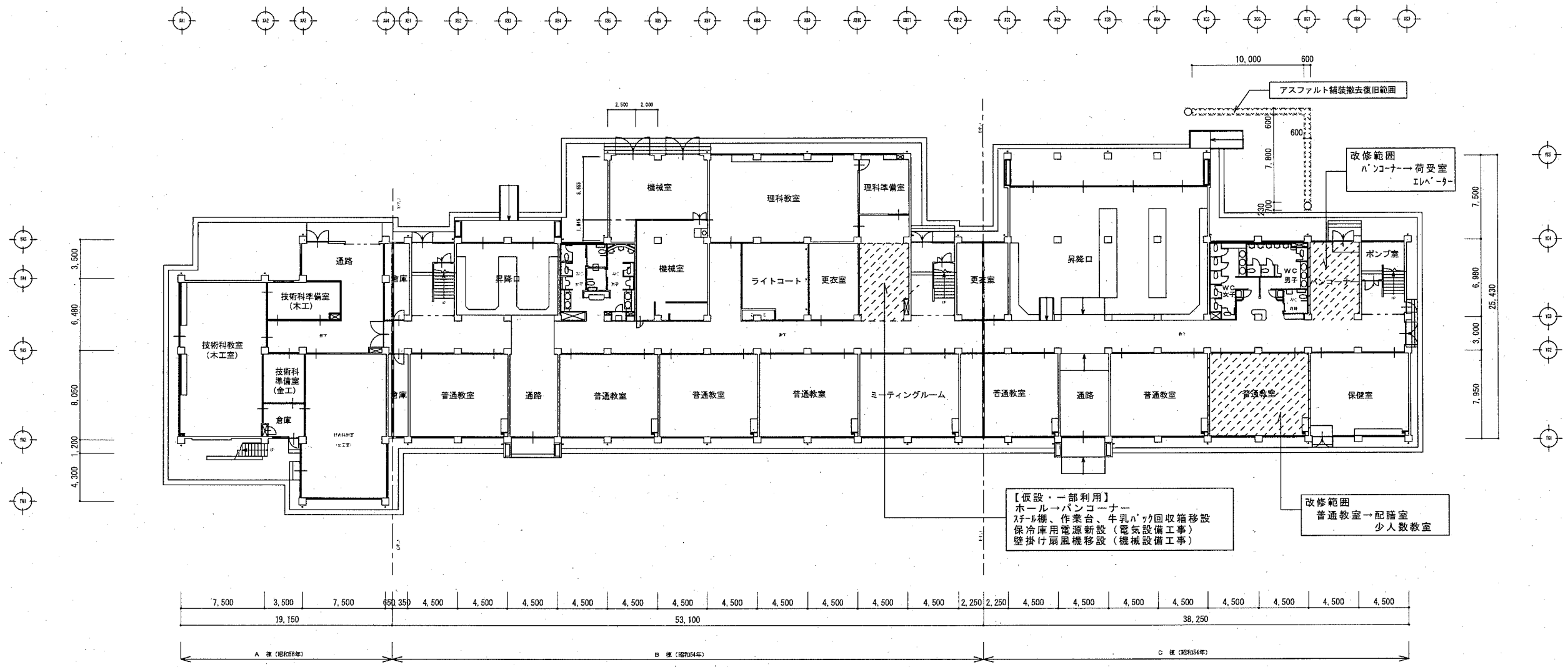
	既存	改修	備考
外壁	複層塗材吹付	サッシ撤去部の一部：外壁用塗膜防水材塗	
軒裏	塗材吹付	既存のまま	
外中木	珪藻土金網		
外構 プラットフォーム	土間コンクリート・階段	（撤去） コンクリート金網仕上（水勾配） 立上：コンクリート打放し A種	溶融亜鉛メッキ製 L-50×50×67kg/m SUS製グレーチング W150（ノリツブ P10-T-2）

注記

- 塗膜防水材塗：外壁用塗膜防水材塗（ロー・さざ波模様 シロ仕上）
下地調整：C-1（新規珪藻土・既存珪藻土）
- EP-G：つや有合成樹脂珪藻土塗り
木部・新規：工程A種 下地調整RA種 塗替：工程B種 下地調整RB種
珪藻土・せつこうボード面・新規：工程B種 下地調整RB種 塗替：工程B種 下地調整RB種
- EP：合成樹脂珪藻土塗り
せつこうボード面・新規：工程B種 下地調整RB種 塗替：工程B種 下地調整RB種
- DP：耐候性塗料塗り 工程B種 下地調整RB種 上塗り等級：1級（フッ素樹脂）
- 荷受室・配膳室ビニル床シート：抗菌、耐動荷重性床シート=2.0
- 床：下地調整：珪藻土珪藻土塗
- AD-1：豊和工業株式会社 HAA-1006 II-K 同等品以上 SUS製フッ素樹脂仕様
- 捨てコン呼び強度 18 S18、床スラブ・土間スラブ：Fc21 S18、プラットフォーム：呼び強度 21 S18（別紙参照）
- 塗膜防水材：ケイ酸系系塗布防水 JASS3 M-301規格適合品 C-UP

内部仕上表

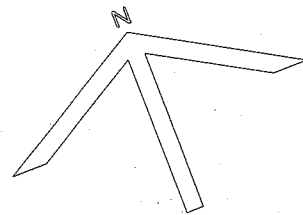
階	室名	床	巾木	壁	天井	高さ	備考
1階	既存 パンコーナー	土間スラブ t=120 珪藻土=28下地 ビニル床シート=2.5（コシタイプ） （一部サッシ入れの上撤去） （撤去）	珪藻土金網 VP H=100 （既存のまま）	珪藻土金網 VP （既存のまま）	LGS下地 化粧石膏ボード t=9.5 （撤去）	2700	撤去：珪藻土金網、木製流し台、ノリツブ金物、PS7珪藻土（下地共） 移設：珪藻土製棚、木製牛乳棚
	改修 荷受室	既存珪藻土面下地調整の上 珪藻土床シート=2.0 （新設） コンクリート（溶接金網φ6×100×100）金網下地 珪藻土床シート=2.0（新設） 土間スラブ（復旧）珪藻土=28下地 珪藻土床シート=2.0 （一部新設）	珪藻土合板 t=12（1類）の上、ビニル巾木 H=300（新設）	壁-1・2、珪藻土-1の上 化粧珪藻土合板 t=6（珪藻土珪藻土） （新設）	LGS19形@225（ノリツブ共）下地 化粧石膏ボード t=9.5 （新設） 珪藻土製廻縁 （新設）	2650	新設：珪藻土金網、珪藻土製建具 SUS製カテナール（ノリツブ付）、PS壁点検口300角（SD-2）、室名札、天井点検口450角
	既存 普通教室	土間スラブ t=120 珪藻土=35下地共 フローリングフロア t=15 珪藻土=35下地共 （撤去）	木製巾木 t=24 OP H=100 （撤去）	腰壁：珪藻土金網 VP 壁：プラスチック塗 （一部撤去）	LGS下地 石膏ボード t=9 EP （撤去）	3000	撤去：珪藻土金網、木製カテナール、珪藻土製カテナール、珪藻土製掃除用具入、珪藻土製棚、珪藻土製PS壁（下地共） 撤去：木製教壇・黒板・掲示板・木製カテナール・木製流し台・木製棚・上部カテナール・取外し：珪藻土カテナール
	改修 配膳室	珪藻土=48下地 ビニル床シート=2.0 （新設） 土間スラブ（復旧）珪藻土=48下地 珪藻土床シート=2.0 （新設）	珪藻土合板 t=12（1類）の上、ビニル巾木 H=300（新設）	壁-1・3、珪藻土-1の上 化粧珪藻土合板 t=6（珪藻土珪藻土） （新設）	LGS19形@225（ノリツブ共）下地 化粧石膏ボード t=9.5 （新設） 珪藻土製廻縁 （新設）	2650	新設：珪藻土製建具、木製カテナール（スラブ t=20 W120H100 EP-G）、SUS製カテナール、ライニング、ライニング 甲板（珪藻土 ストフト t19 片面小口化粧） PS点検口200角（SD-1）、SUS流し（W900×D600×H800 バックボード・排水トラップ付）、天井点検口450角（珪藻土製廻縁）、室名札
改修 少人数教室	珪藻土=35下地 複合フローリングボード t=15塗装品（表層 t=3 クッション付） （新設）	木製巾木 t=10（珪藻土） EP-G H=100 （一部新設）	珪藻土塗りの上 EP-G 既存面 EP-G 壁-3'の上 EP-G （一部新設） （新設） （新設）	LGS19形@225（ノリツブ共）下地 化粧石膏ボード t=9.5 （新設） 珪藻土製廻縁 （新設）	3000	新設：珪藻土製建具、UOタイプ・ホロ・白板 W3600×H1200、掲示板（珪藻土）W3600×H1200・W1800×H900、室名札 再取付：カテナール	
2階	既存 PTA会議室	珪藻土=35下地 フローリングフロア t=15 床スラブ t=120 珪藻土下地共 （撤去） （撤去） （一部撤去）	木製巾木 t=24 OP H=100 （撤去）	腰壁：珪藻土金網 VP プラスチック塗 （一部撤去）	LGS下地 化粧石膏ボード t=9.5 （撤去）	2700	撤去：珪藻土金網、木製カテナール、カテナール
	改修 配膳室	珪藻土=48下地 珪藻土床シート=2.0 （新設） 床スラブ（復旧）珪藻土=48下地 珪藻土床シート=2.0 （一部新設）	珪藻土合板 t=12（1類）の上、ビニル巾木 H=300（新設）	壁-1・2、珪藻土-1・2の上 化粧珪藻土合板 t=6（珪藻土珪藻土） （新設）	LGS19形@225（ノリツブ共）下地 化粧石膏ボード t=9.5 （新設） 珪藻土製廻縁 （新設）	2650	新設：珪藻土製建具、木製カテナール（スラブ t=20 W120H100 EP-G）、SUS製カテナール、ライニング、ライニング 甲板（珪藻土 ストフト t19） 壁点検口300角（SD-2）、SUS流し（W900×D600×H800 バックボード・排水トラップ付）、天井点検口450角（珪藻土製廻縁）、室名札
3階	既存 更衣室	ビニル床シート=2.5（コシタイプ） 珪藻土=28下地（一部撤去）、木下地 プラフローリング t=15 床スラブ t=120 珪藻土下地共 （撤去） （撤去） （一部撤去）	木製幅木 H=100 （一部撤去）	腰壁：珪藻土金網 VP プラスチック塗 （既存のまま） （既存のまま）	LGS下地 化粧石膏ボード t=9.5 （撤去）	2700	撤去：珪藻土金網、木製カテナール、カテナール、木製流し台、PS7珪藻土（下地共） 移設：固定珪藻土棚
	改修 配膳室	既存珪藻土面下地調整の上 珪藻土床シート=2.0 （新設） 床スラブ（復旧）珪藻土=28下地 珪藻土床シート=2.0 （一部新設） 木下地撤去部：珪藻土=28下地 珪藻土床シート=2.0 （新設）	珪藻土合板 t=12（1類）の上、ビニル巾木 H=300（新設）	壁-1・2、珪藻土-1・2の上 化粧珪藻土合板 t=6（珪藻土珪藻土） （新設）	LGS19形@225（ノリツブ共）下地 化粧石膏ボード t=9.5 （新設） 珪藻土製廻縁 （新設）	2650	新設：珪藻土製建具、木製カテナール（スラブ t=20 W120H100 EP-G）、SUS製カテナール、ライニング、ライニング 甲板（珪藻土 ストフト t19） 壁点検口300角（SD-2）、SUS流し（W900×D600×H800 バックボード・排水トラップ付）、天井点検口450角（珪藻土製廻縁）、室名札
4階	既存 更衣室	ビニル床シート=2.5（コシタイプ） 木下地 プラフローリング t=15 床スラブ t=120 珪藻土下地共 （撤去） （撤去） （一部撤去）	木製幅木 H=100 （一部撤去）	腰壁：珪藻土金網 VP プラスチック塗 （既存のまま） （既存のまま）	LGS下地 石膏ボード t=9 EP （撤去）	2700	撤去：珪藻土製建具、木製カテナール、カテナール、木製流し台 移設：固定珪藻土棚 一部撤去：床スラブ
	改修 配膳室	既存珪藻土面下地調整の上 珪藻土床シート=2.0 （新設） 床スラブ（復旧）珪藻土=28下地 珪藻土床シート=2.0 （一部新設） 木下地撤去部：珪藻土=28下地 珪藻土床シート=2.0 （新設）	珪藻土合板 t=12（1類）の上、ビニル巾木 H=300（新設）	壁-1・2、珪藻土-1・2の上 化粧珪藻土合板 t=6（珪藻土珪藻土） （新設）	LGS19形@225（ノリツブ共）下地 化粧石膏ボード t=9.5 （新設） 珪藻土製廻縁 （新設）	2650	新設：珪藻土製建具、木製カテナール（スラブ t=20 W120H100 EP-G）、SUS製カテナール、ライニング、ライニング 甲板（珪藻土 ストフト t19） 壁点検口300角（SD-2）、SUS流し（W900×D600×H800 バックボード・排水トラップ付）、天井点検口450角（珪藻土製廻縁）、室名札
各階	既存 廊下	珪藻土=28下地 ビニル床シート=2.5（コシタイプ） （一部サッシ入れの上撤去） （一部サッシ入れの上撤去）	珪藻土金網 VP H=100 （一部撤去） （1階パンコーナーは既存のまま）	腰壁：珪藻土金網 VP プラスチック塗 （一部サッシ入れの上撤去） （一部サッシ入れの上撤去）	LGS下地 化粧石膏ボード t=9.5 （一部撤去） （一部撤去）	2300	
	改修 廊下	珪藻土撤去部 珪藻土=28下地 （一部新設） 既存珪藻土面下地調整の上 ビニル床シート=2.5（コシタイプ） （一部新設）	珪藻土塗りの上 EP-G H=100 （一部新設） ビニル巾木 H=100 （一部新設）	珪藻土塗りの上 EP-G 壁-2'の上 EP-G （一部新設） （新設）	LGS19形@225（ノリツブ共）下地 化粧石膏ボード t=9.5 （一部新設） （一部新設） 珪藻土製廻縁 （新設）	2300	
	改修 ホール	1階：土間スラブ 珪藻土=28下地、2階：珪藻土=48下地 （新設） 既存珪藻土面下地調整の上 ビニル床シート=2.5（コシタイプ） （新設）	珪藻土塗りの上 EP-G H=100 （一部新設） ビニル巾木 H=100 （一部新設）	珪藻土塗りの上 EP-G 既存面 EP-G 壁-1'・2'の上 EP-G （一部新設） （新設） （新設）	LGS19形@225（ノリツブ共）下地 化粧石膏ボード t=9.5 （新設） （新設） 珪藻土製廻縁 （新設）	2300	新設：天井点検口600角珪藻土製廻縁（4階のみ）、室名札（EV）

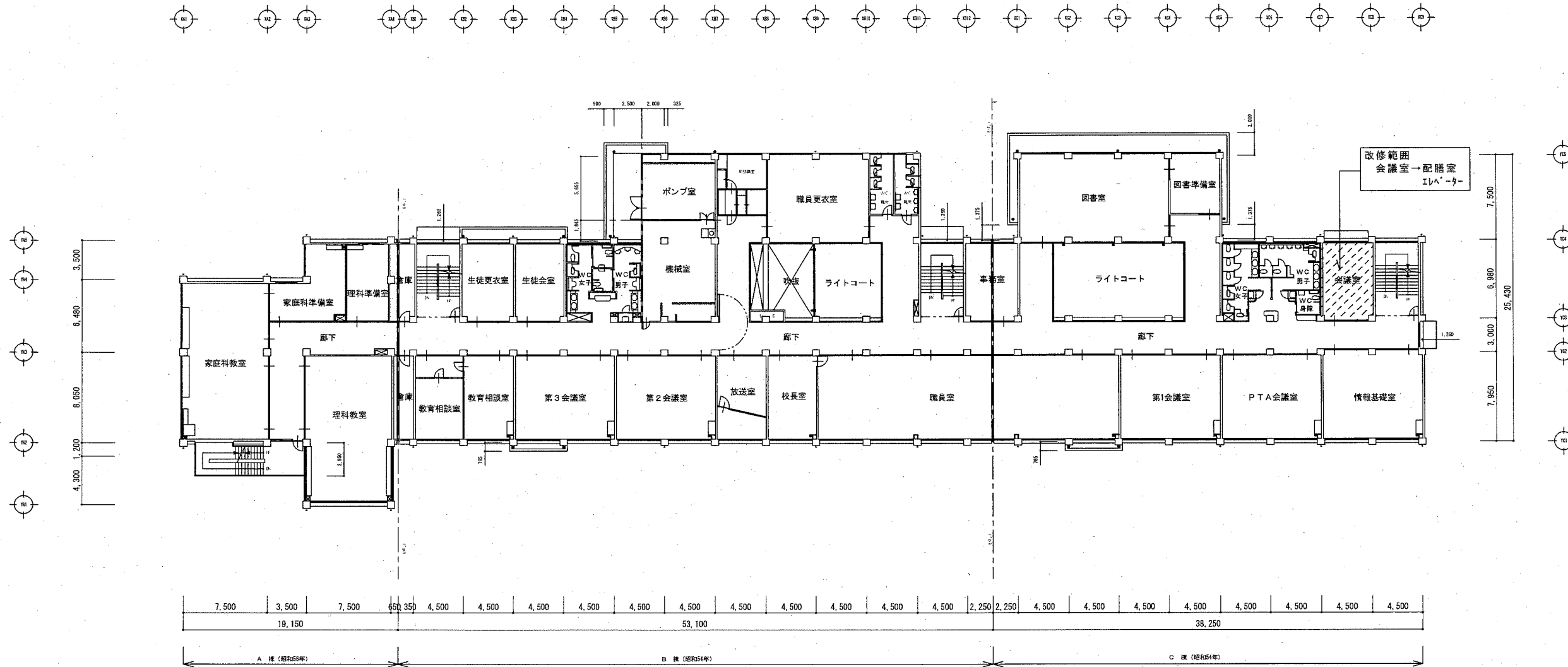


【仮設・一部利用】
 ホール→バンコナー
 スチール棚、作業台、牛乳パック回収箱移設
 保冷库用電源新設（電気設備工事）
 壁掛け扇風機移設（機械設備工事）

改修範囲
 普通教室→配膳室
 少人数教室

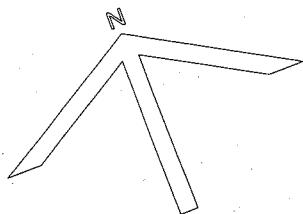
1階床面積：2,317.69㎡
 1階平面図

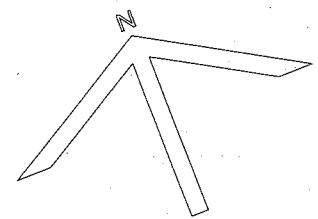
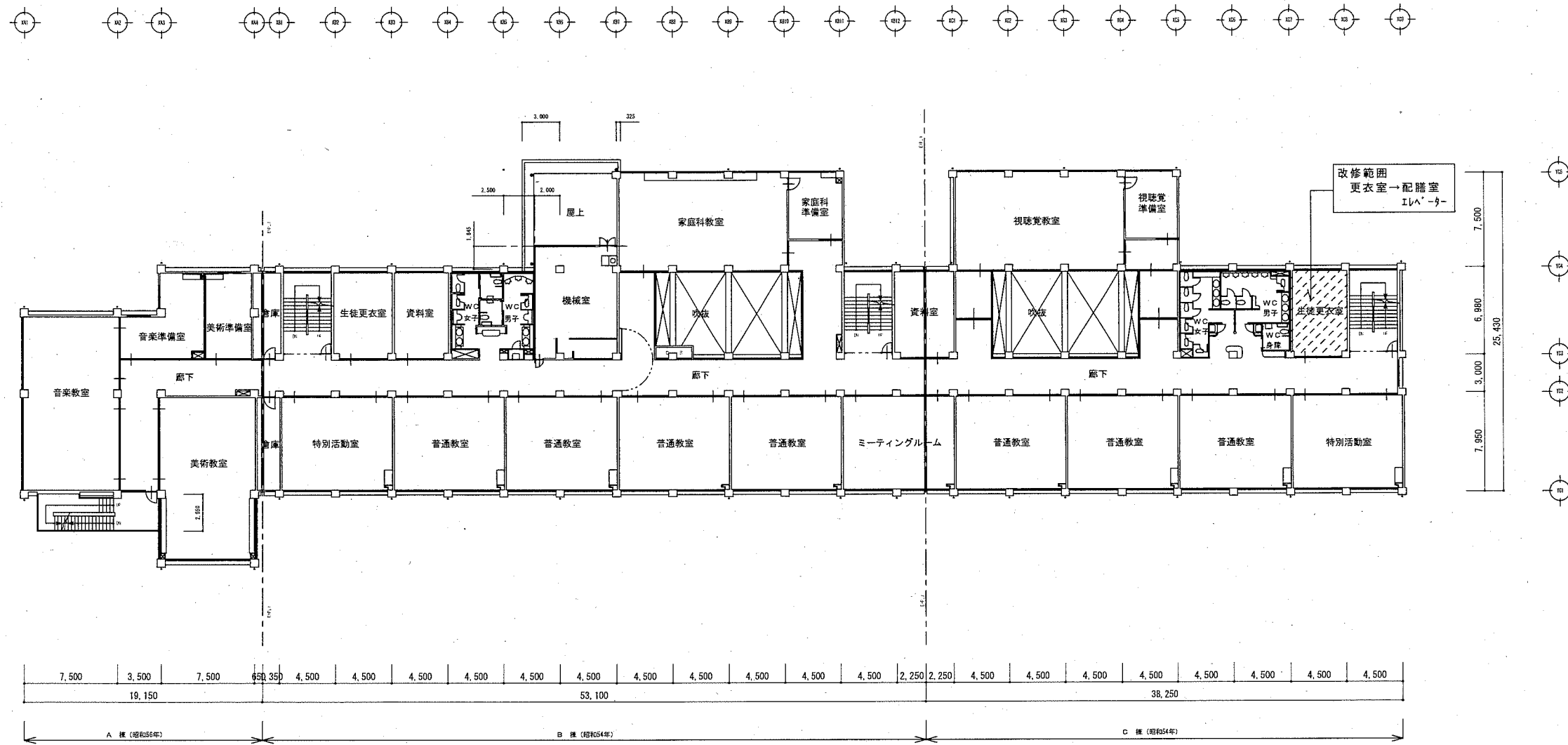




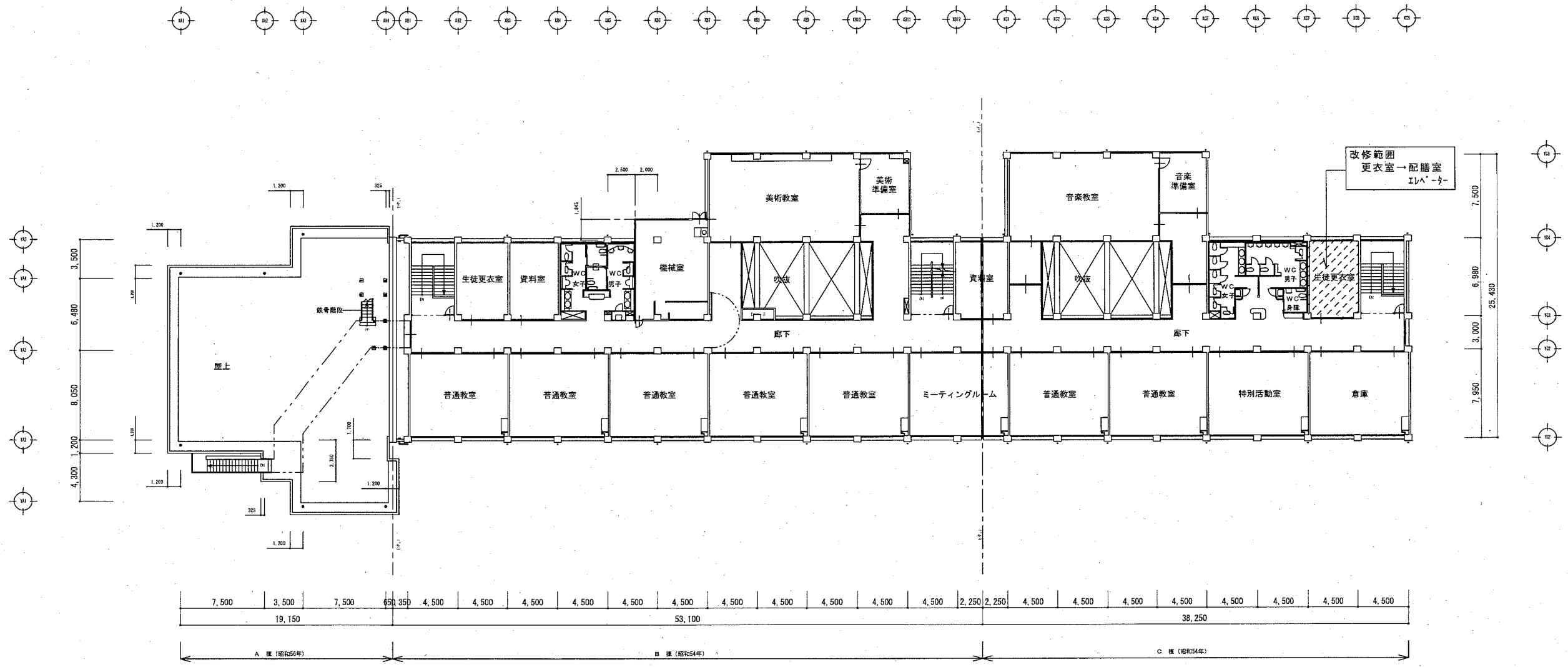
2階床面積 ; 2,106.60㎡

2階平面図



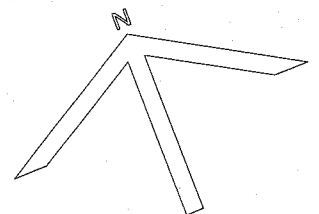


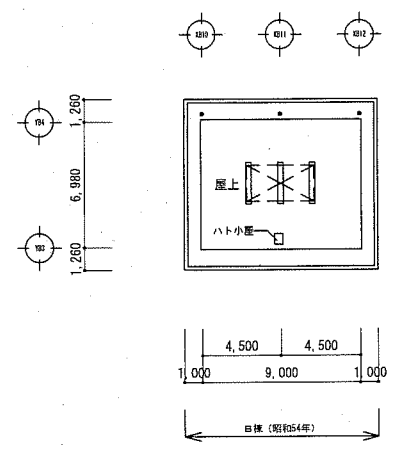
公共建築課長	主査等	担当者	横須賀市 都市部 公共建築課	設計名称 NAME OF PROJECT	図面名称 ITEM OF DRAWING	A-11
			設計年月日 令和 2年 2月	市立大津中学校昇降機設備建築その他工事	3階平面図	
				縮尺 1 : 300	図面番号	
				PROJECT NUMBER	DRAWING NUMBER	



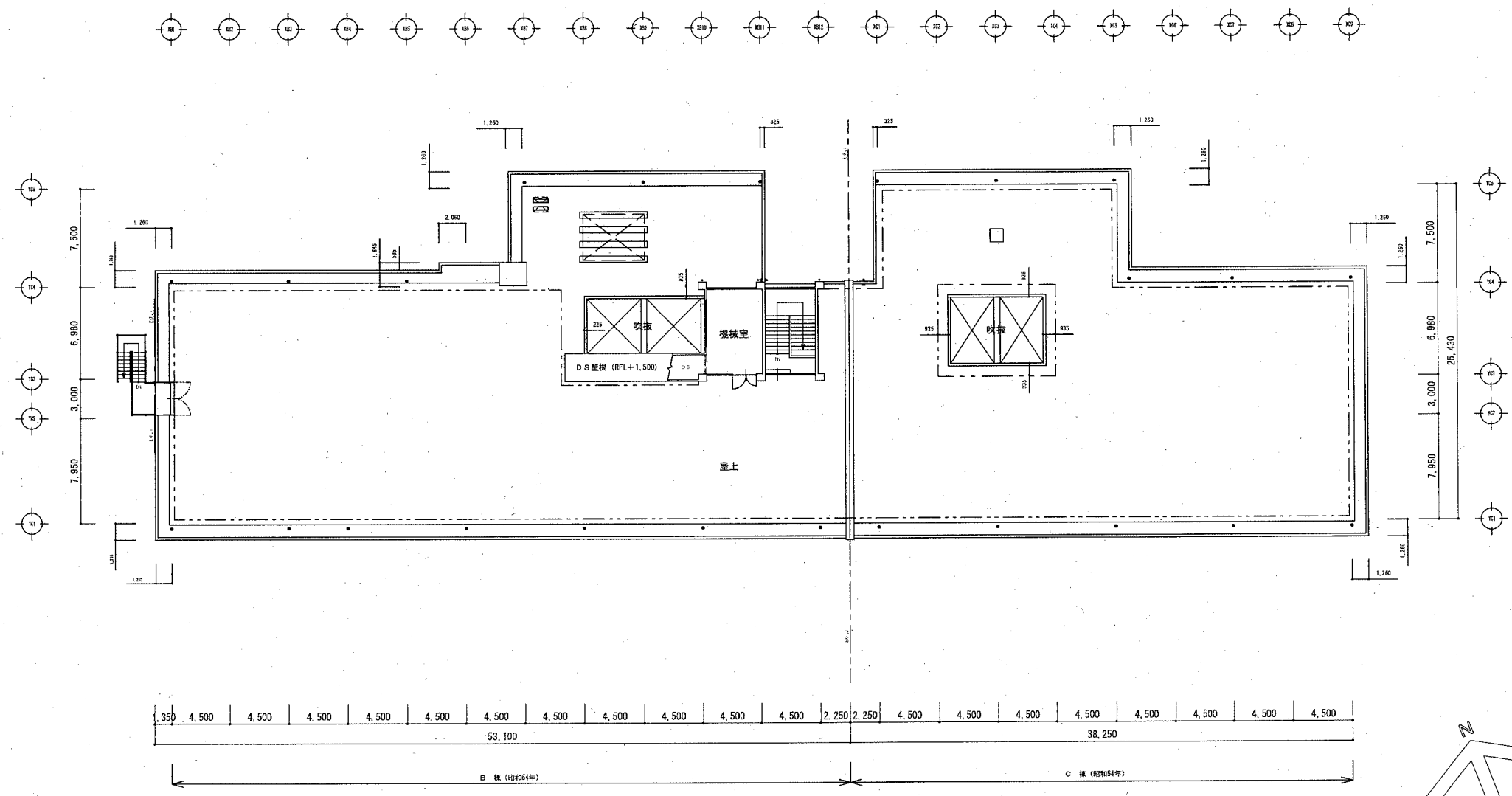
4階床面積：1,705.11㎡

4階平面図



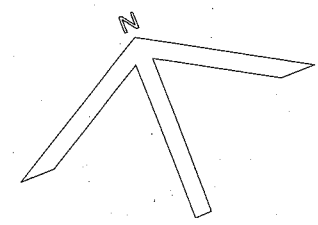


PHR 階平面図

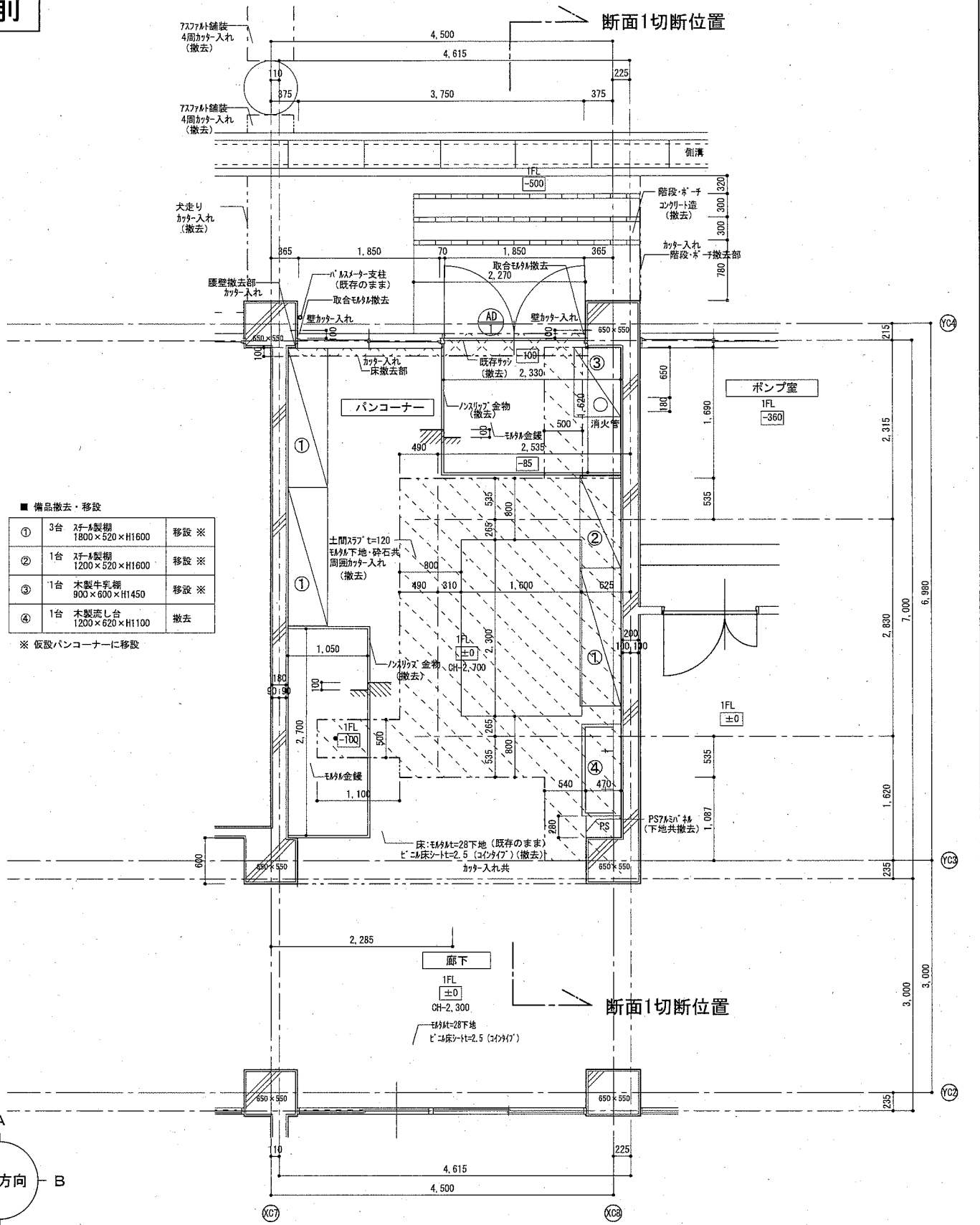


PH床面積 ; 56.17㎡

R 階平面図

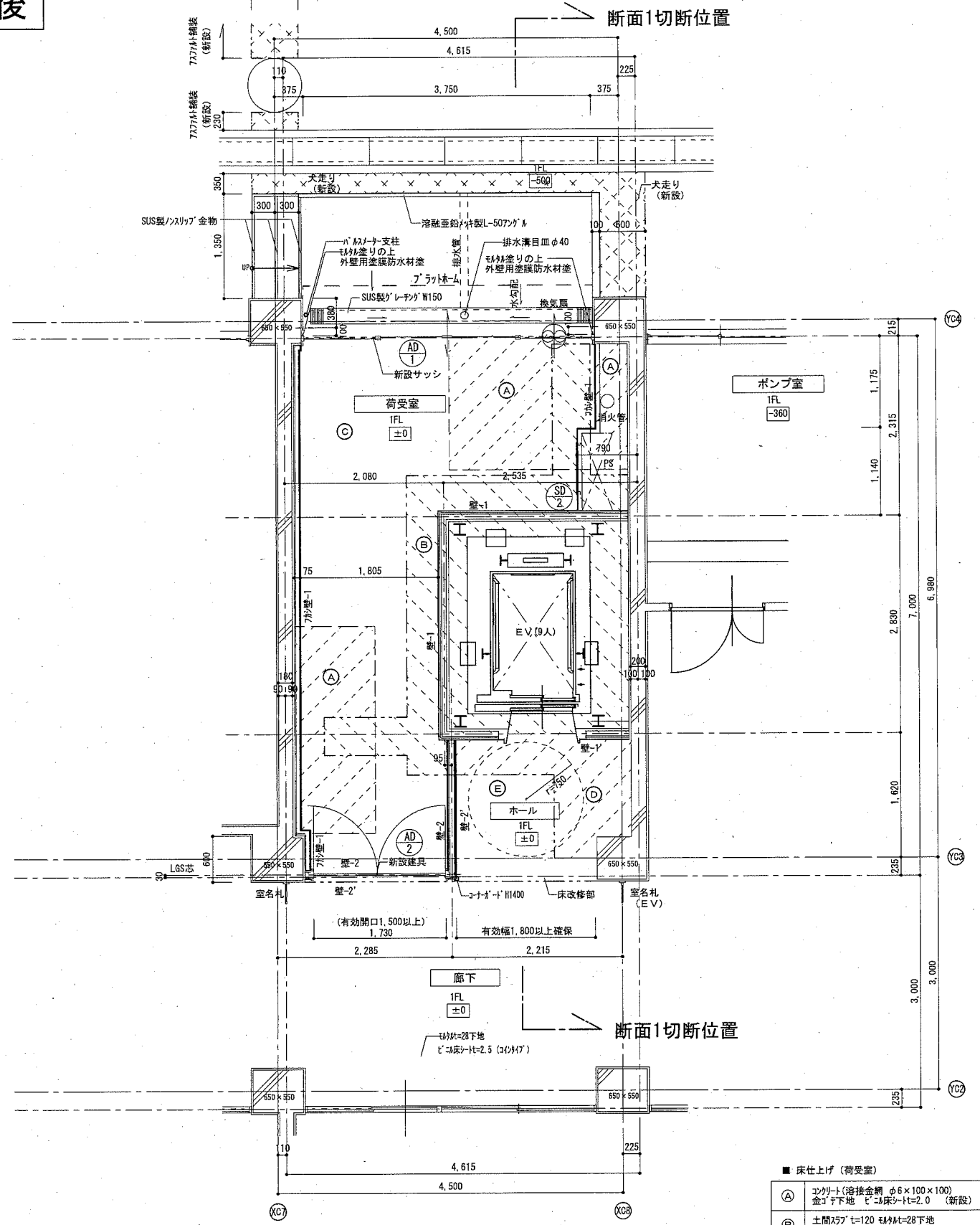


改修前



1階平面詳細図 (改修前・パンコーナー)

改修後



1階平面詳細図 (改修後・荷受室)

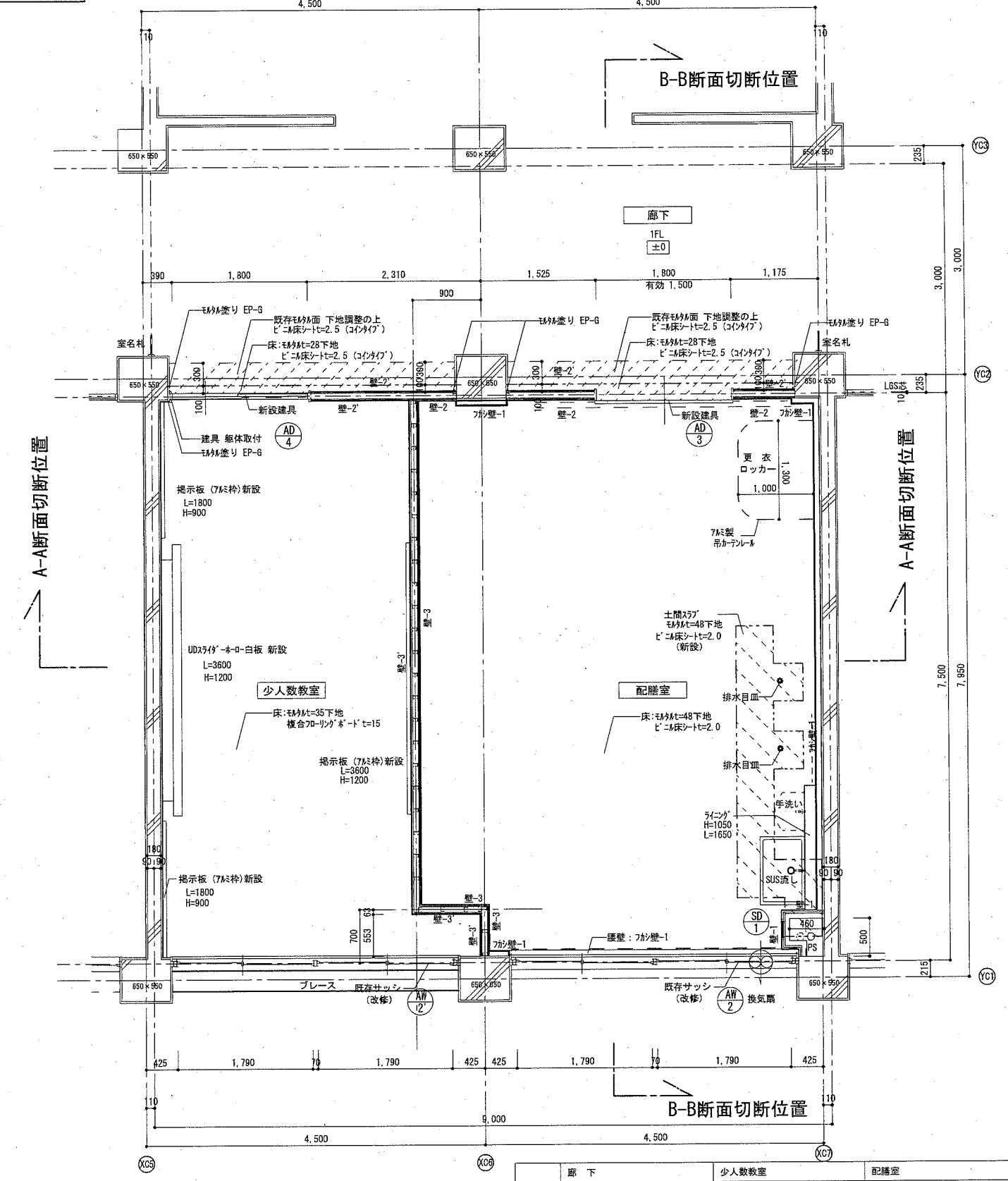
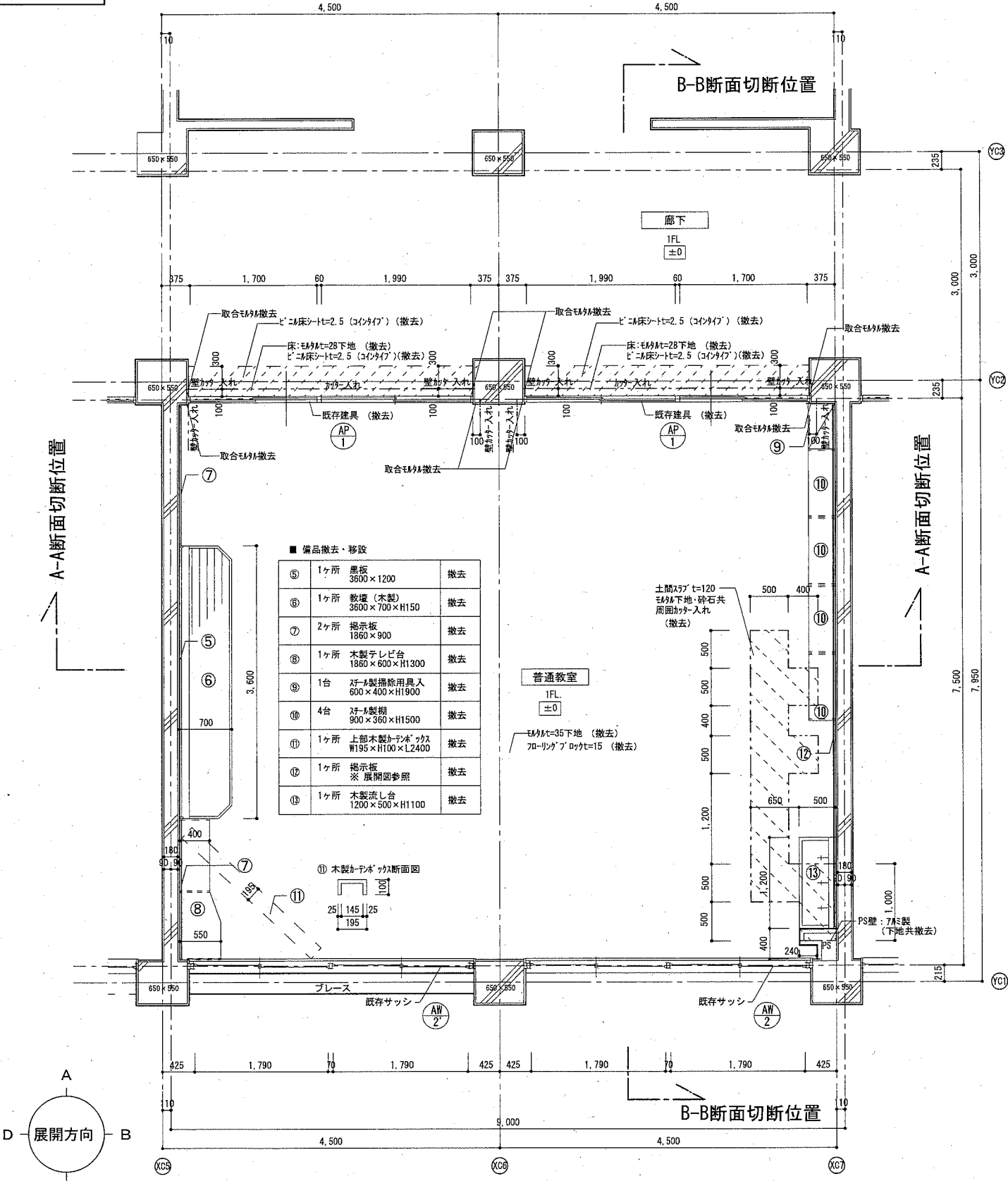
公共建築課長	主査等	担当者

横須賀市 都市部 公共建築課
設計年月日 令和 2年 2月

設計名称 NAME OF PROJECT	市立大津中学校附属施設建築工事
図面名称 ITEM OF DRAWING	荷受室 1階平面詳細図
縮尺 SCALE	1 : 50

改修前

改修後



1階平面詳細図(改修前・普通教室)

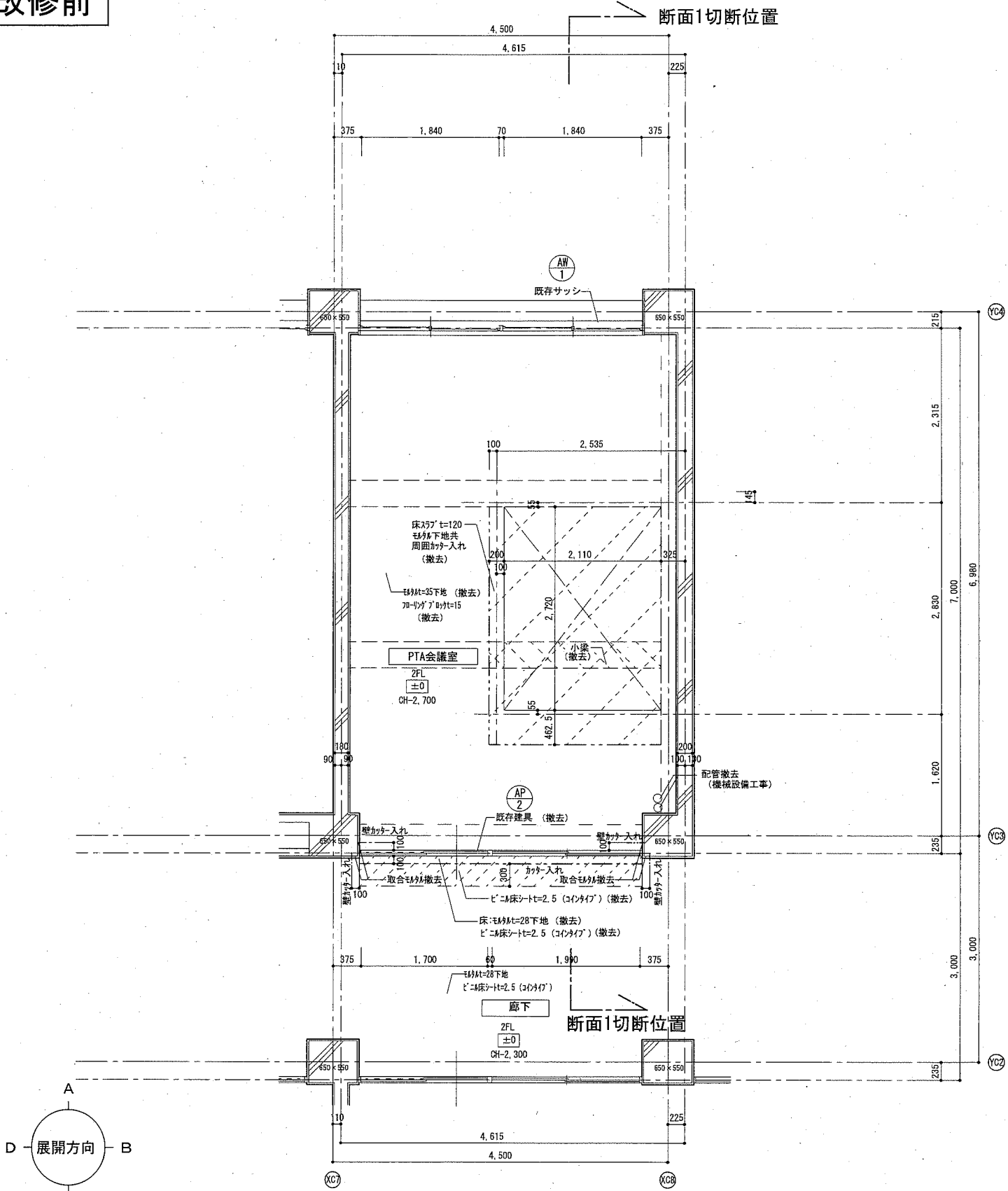
1階平面詳細図(改修後・配膳室)

廊下	モルタル=28下地 (一部撤去)	モルタル=35下地 (撤去)
床	モルタル=28下地 (一部撤去) ビニル床シート=2.5 (コウガイブ) (一部撤去)	土間スラブ t=120 モルタル下地・砕石共 フロリングボード t=15 (一部撤去)
巾木	モルタル金縁 VP H=100 (一部撤去)	木製巾木 t=24 OP H=100 (一部撤去)
壁	モルタル金縁 VP (一部撤去)	モルタル金縁VP (一部撤去)
天井	LGS下地 (一部撤去) 化粧石膏ボード t=9.5 (一部撤去)	石膏ボード t=9 EP (撤去)

廊下	モルタル=28下地 (一部新設) 既存モルタル下地調整の上 ビニル床シート=2.5 (コウガイブ) (新設)	モルタル=35下地 (新設) 複合フロリングボード t=15 塗装品(新設)	モルタル=48下地 ビニル床シート=2.0 (新設) 土間スラブ t=120 モルタル=48下地 ビニル床シート=2.0 (一部新設)
巾木	モルタル金縁 VP H=100 (一部新設) ビニル巾木 H=100 (新設)	木製巾木 t=24 OP H=100 (一部新設)	ビニル巾木 H=300 (新設)
壁	モルタル塗りの上 EP-G (一部新設)	モルタル塗りの上 EP-G (一部新設)	石膏ボード t=10 (一部新設)
天井	LGS19形@225 (コウガイブ) 下地 (一部新設) 化粧石膏ボード t=9.5 (一部新設)	LGS19形@225 (コウガイブ) 下地 (新設) 化粧石膏ボード t=9.5 (新設)	LGS19形@225 (コウガイブ) 下地 (新設) 化粧石膏ボード t=9.5 (新設)

※ 吊カネールの取付高さは、天井面より400以上下げる。 (消防法)

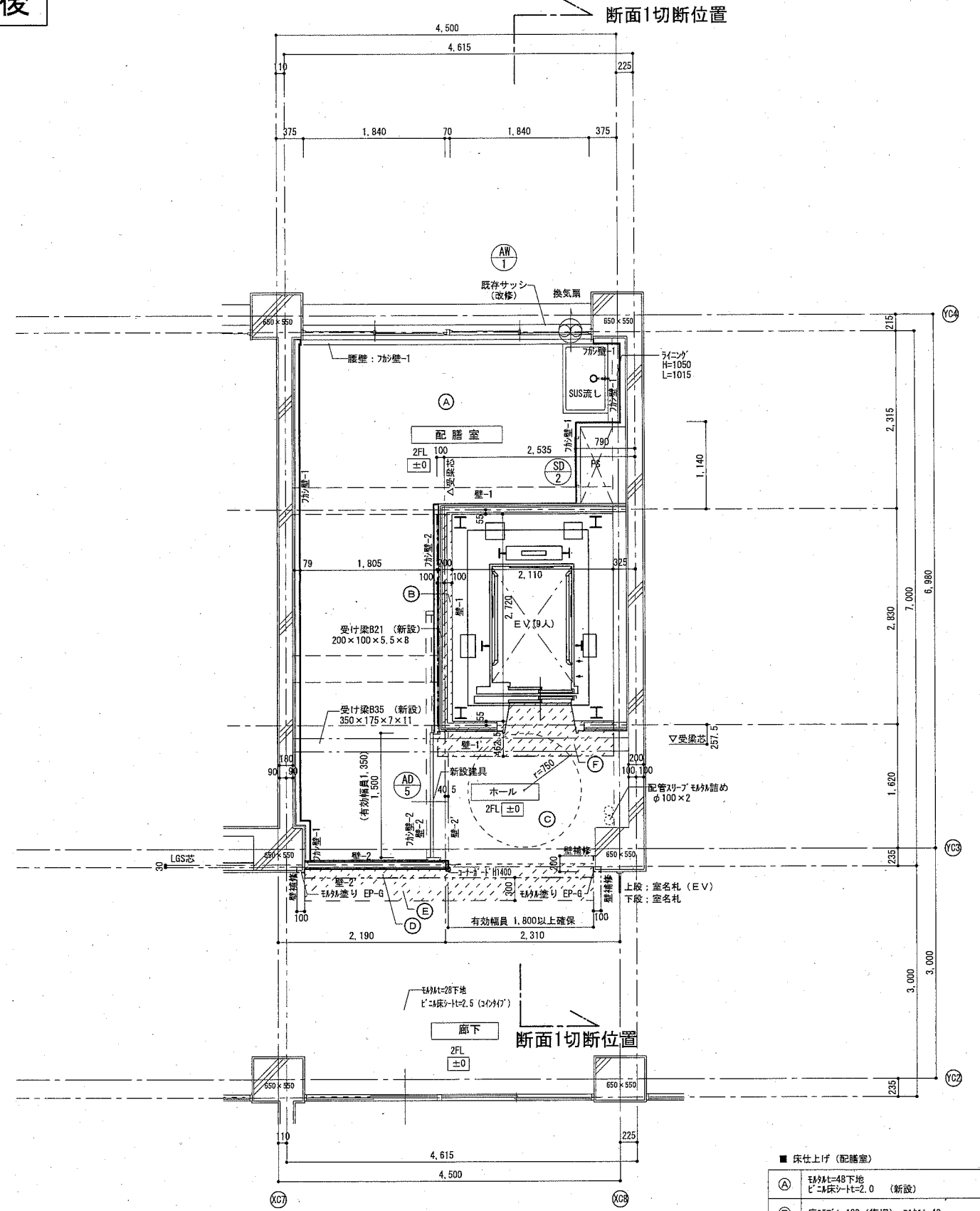
改修前



2階平面詳細図 (改修前・PTA会議室)

廊下	床 モルタル=28下地 (一部撤去) ビニル床シート=2.5 (コウキアゲ) (一部撤去)	PTA会議室 モルタル=35下地 (撤去) 床スラブ=120 砂利下地共 (一部撤去) 70-70アブリ=15 (撤去)
巾木	モルタル金線 VP H=100 (一部撤去)	木製巾木=24 OP H=100 (撤去)
壁	モルタル金線 VP (一部撤去) アクリル塗 (一部撤去)	モルタル金線 VP (一部撤去) アクリル塗 (一部撤去)
天井	LGS下地 (一部撤去) 化粧石膏ボード=9.5 (一部撤去) (二重張り)	LGS下地 (撤去) 化粧石膏ボード=9.5 (撤去)

改修後



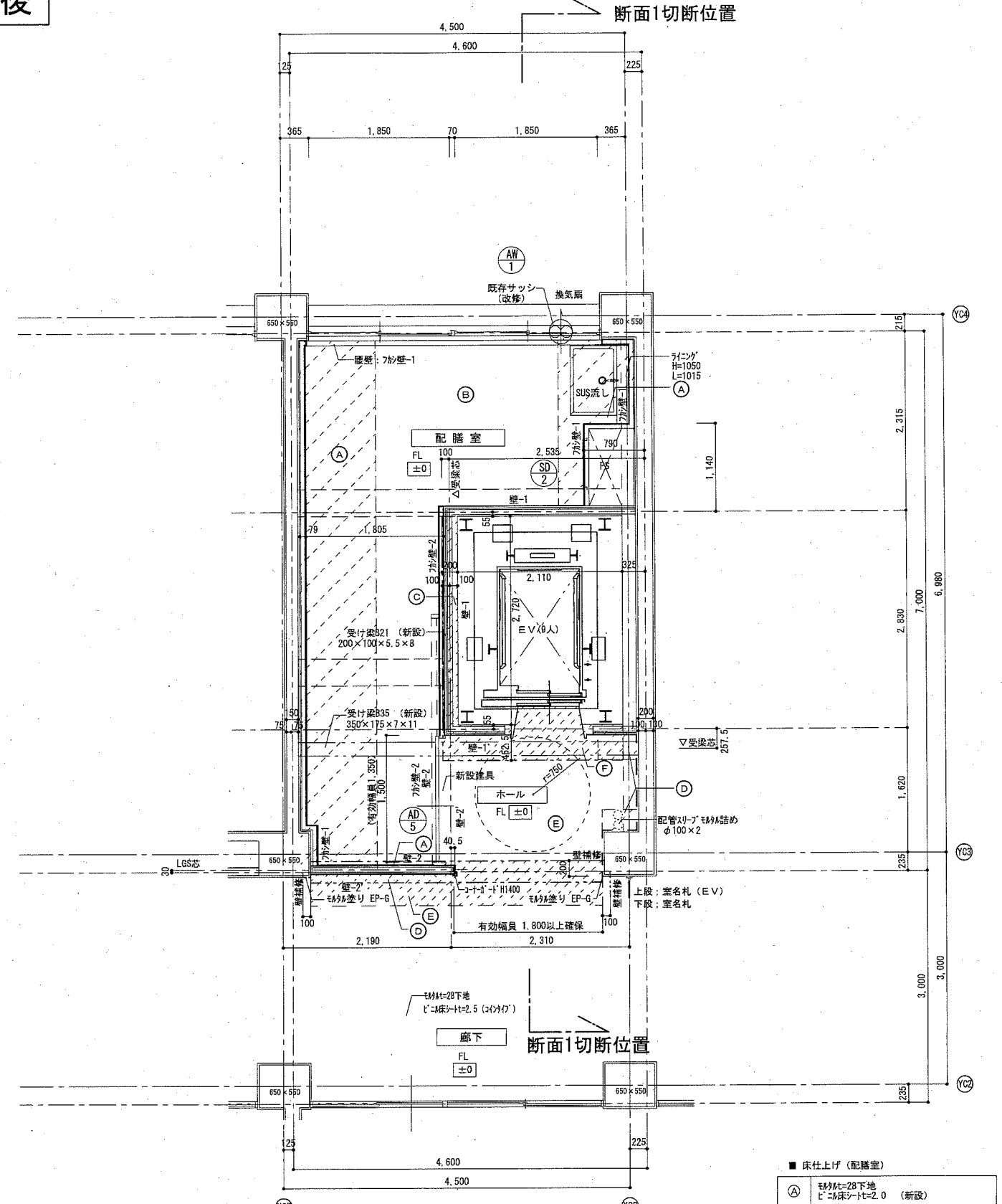
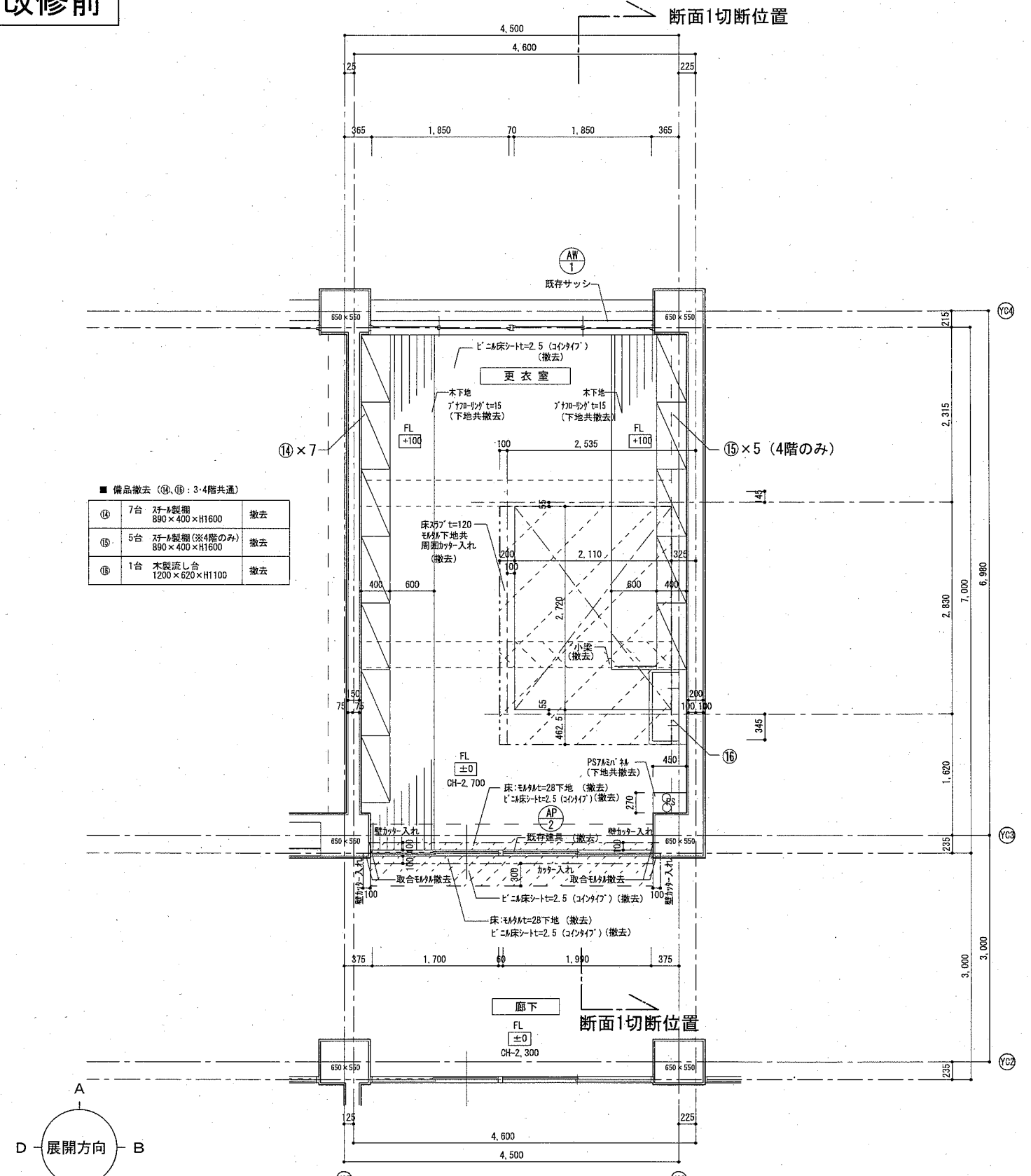
2階平面詳細図 (改修後・配膳室)

廊下・ホール	巾木	配膳室
モルタル金線 VP H=100・300 (一部新設) ビニル床シート=100・300 (新設)	ビニル床シート=2.5 (一部新設)	モルタル=48下地 (撤去) モルタル=28下地 (撤去) モルタル=28下地 (撤去) モルタル=28下地 (撤去) モルタル=28下地 (撤去) モルタル=28下地 (撤去)
モルタル塗りの上 EP-G (一部新設) 既存面 EP-G (一部新設) 壁-1・2の上 EP-G (新設)	モルタル塗りの上 EP-G (一部新設) モルタル塗り EP-G (一部新設)	モルタル=48下地 (撤去) モルタル=28下地 (撤去) モルタル=28下地 (撤去) モルタル=28下地 (撤去) モルタル=28下地 (撤去) モルタル=28下地 (撤去)
LGS19形225 (巾木共)下地 (一部新設) 化粧石膏ボード=9.5 (一部新設)	LGS19形225 (巾木共)下地 (新設) 化粧石膏ボード=9.5 (一部新設)	モルタル=48下地 (撤去) モルタル=28下地 (撤去) モルタル=28下地 (撤去) モルタル=28下地 (撤去) モルタル=28下地 (撤去) モルタル=28下地 (撤去)

- 床仕上げ (配膳室)
- (A) モルタル=48下地 (撤去)
モルタル=28下地 (撤去)
モルタル=28下地 (撤去)
- (B) 床スラブ=120 (撤去) モルタル=48
- 床仕上げ (廊下・ホール)
- (C) モルタル=48下地 (撤去)
モルタル=28下地 (撤去)
モルタル=28下地 (撤去)
- (D) モルタル=28下地 (撤去)
モルタル=28下地 (撤去)
- (E) 既存モルタル下地調整の上
モルタル=28下地 (撤去)
- (F) 床スラブ=120 (撤去) モルタル=48下地
モルタル=28下地 (撤去)

改修前

改修後



■ 備品撤去 (④, ⑤: 3-4階共通)

④	7台	スチール製棚 890×400×H1600	撤去
⑤	5台	スチール製棚 (※4階のみ) 890×400×H1600	撤去
⑥	1台	木製流し台 1200×620×H1100	撤去

	廊下	更衣室
床	モルタル=28下地 (一部撤去) ビニルシート=2.5 (コウキアワ) X (一部撤去) 木下地/アクリル=15 (下地共撤去)	モルタル=28下地 (一部撤去) 床スラブ=120 モルタル下地共 (一部撤去) ビニルシート=2.5 (コウキアワ) (撤去) 木下地/アクリル=15 (撤去)
巾木	モルタル金縁 VP H=100 (一部撤去)	木製幅木 H=100 (一部撤去)
壁	モルタル金縁 VP (一部撤去) アクリル=塗 (一部撤去)	モルタル金縁 VP (既存のまま) アクリル=塗 (既存のまま)
天井	LGS下地 (一部撤去) 化粧石膏板=1' t=9.5 (一部撤去) 4階のみ二重張り	LGS下地 (撤去) 3階: 化粧石膏板=1' t=9.5 (撤去) 4階: 石膏板=1' t=9 EP (撤去)

3、4階平面詳細図 (改修前・更衣室)

3、4階平面詳細図 (改修後・配膳室)

	廊下・ホール	配膳室
中木	モルタル金縁 VP H=100・300 (一部新設) 化粧石膏板=100・300 (新設)	ビニル中木 H=300 (新設)
壁	モルタル塗りの上 EP-G (一部新設) 既存モルタル EP-G (一部新設) 壁=1'・2'の上 EP-G (新設)	7分厚=1・2の上 (新設) 化粧石膏板=100 (新設) 壁=1'・2の上化粧石膏板=100 (新設)
天井	LGS19形#225 (巾糸共)下地 (一部新設) 化粧石膏板=1' t=9.5 (一部新設)	LGS19形#225 (巾糸共)下地 (新設) 化粧石膏板=1' t=9.5 (新設)

■ 床仕上げ (配膳室)

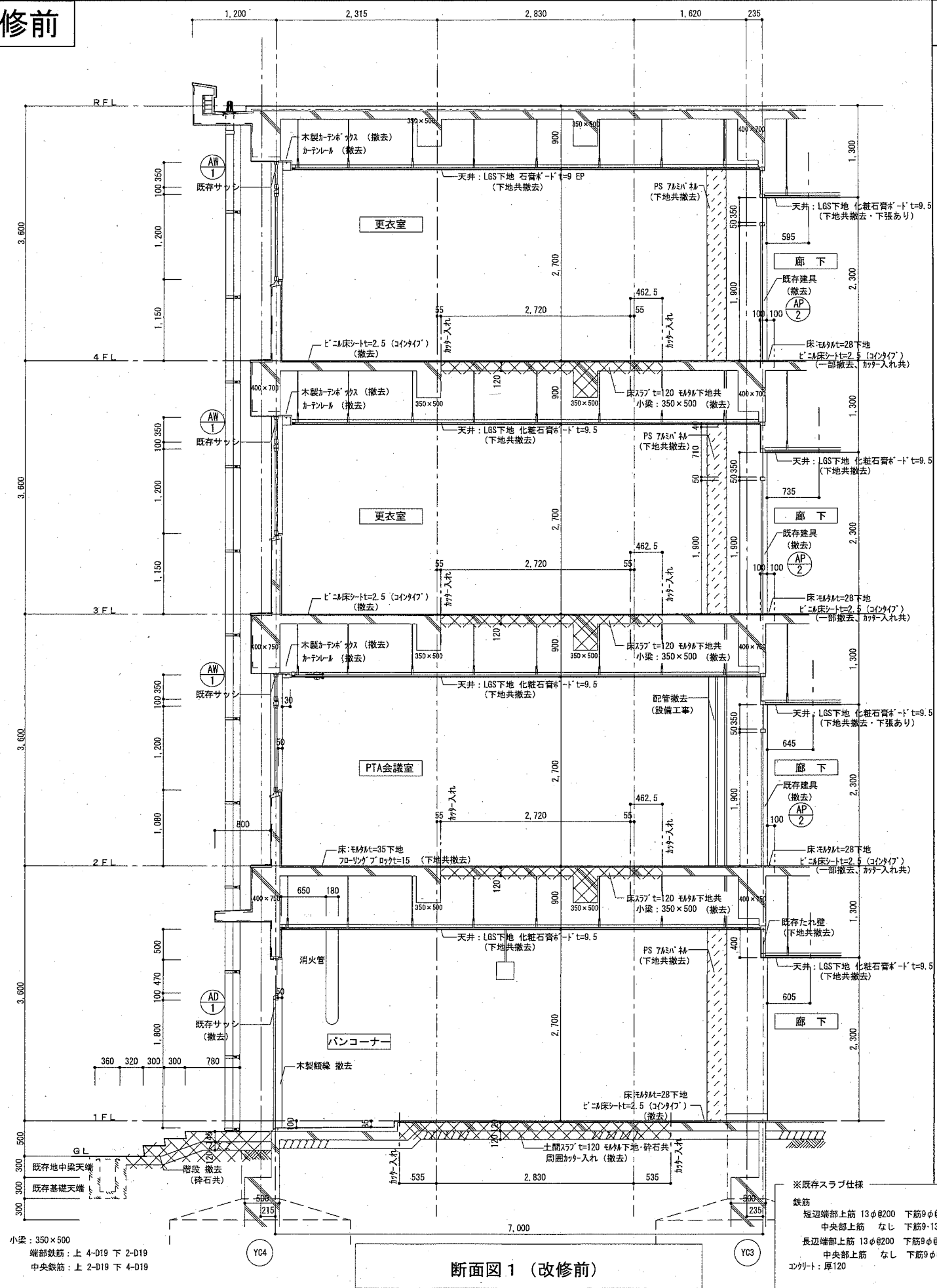
①	モルタル=28下地 ビニルシート=2.0 (新設)
②	既存モルタル 下地調整の上、 ビニルシート=2.0 (新設)
③	床スラブ=120 (復旧) モルタル=28

■ 床仕上げ (廊下・ホール)

④	モルタル=28下地 ビニルシート=2.5 (コウキアワ) (一部新設)
⑤	既存モルタル 下地調整の上、 ビニルシート=2.5 (コウキアワ) (一部新設)
⑥	床スラブ=120 (復旧) モルタル=28下地 ビニルシート=2.5 (コウキアワ) (一部新設)

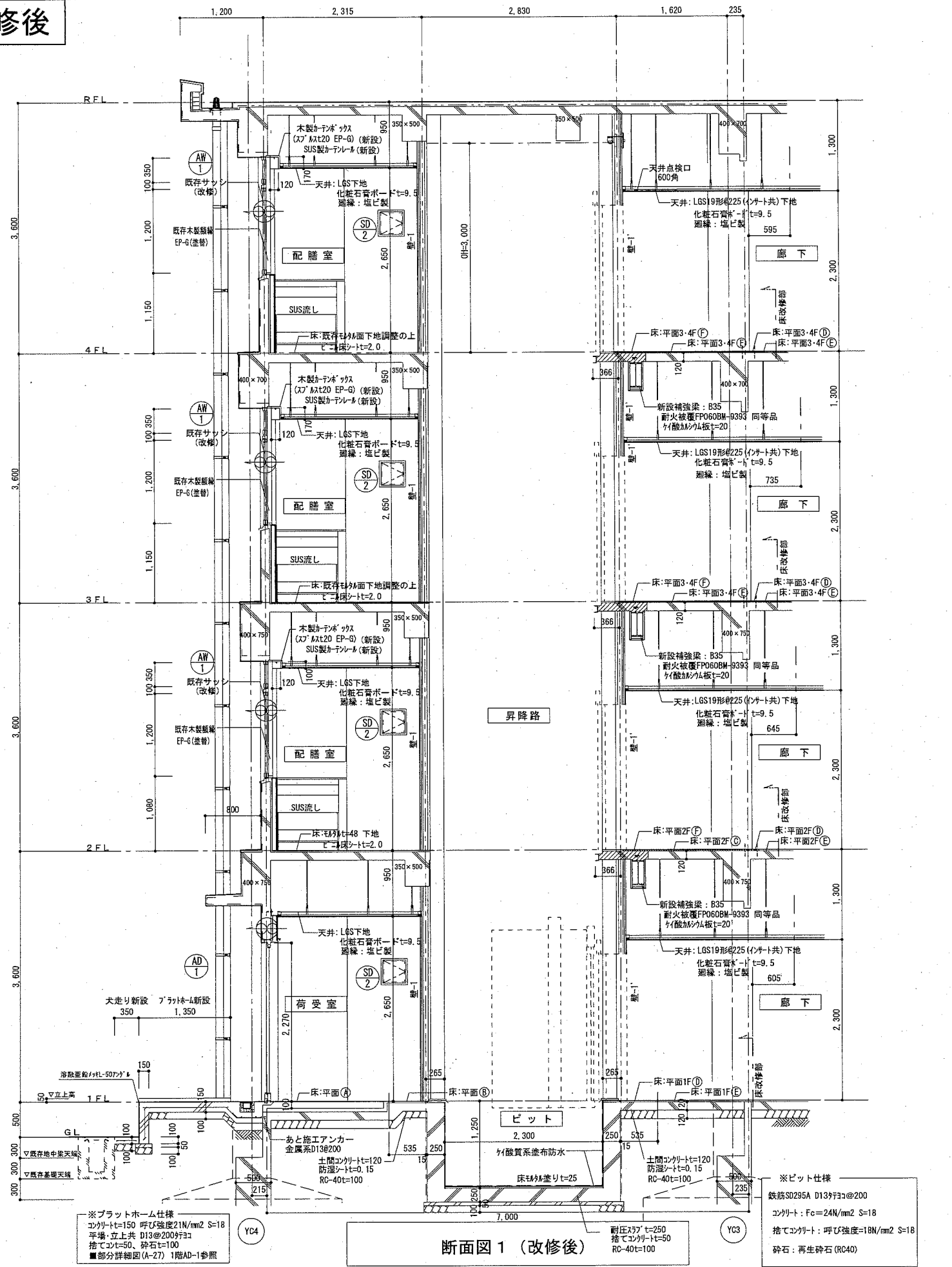
改修前

改修後



断面図1 (改修前)

※既存スラブ仕様
 鉄筋 短辺端部上筋 13φ@200 下筋9φ@400
 中央部上筋 なし 下筋9-13φ@200交互
 長辺端部上筋 13φ@200 下筋9φ@400
 中央部上筋 なし 下筋9φ@200
 コナクリト 厚120

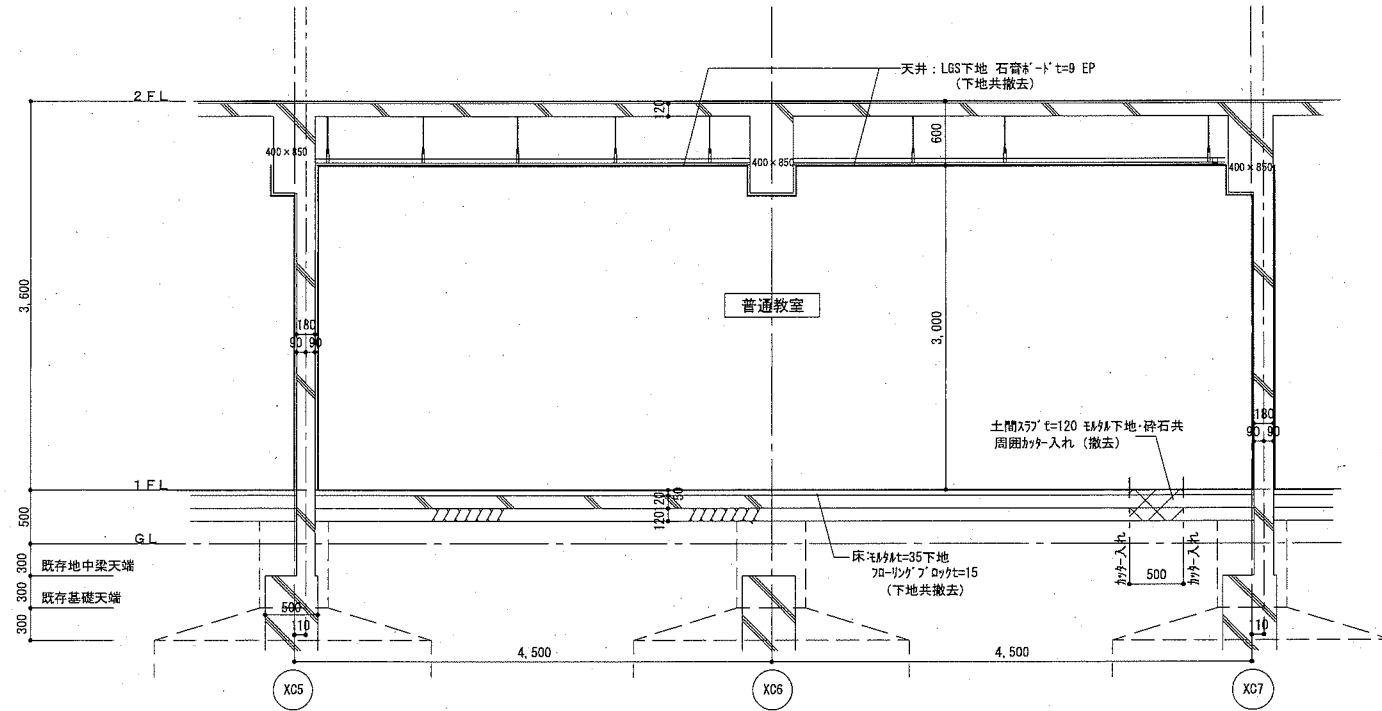


断面図1 (改修後)

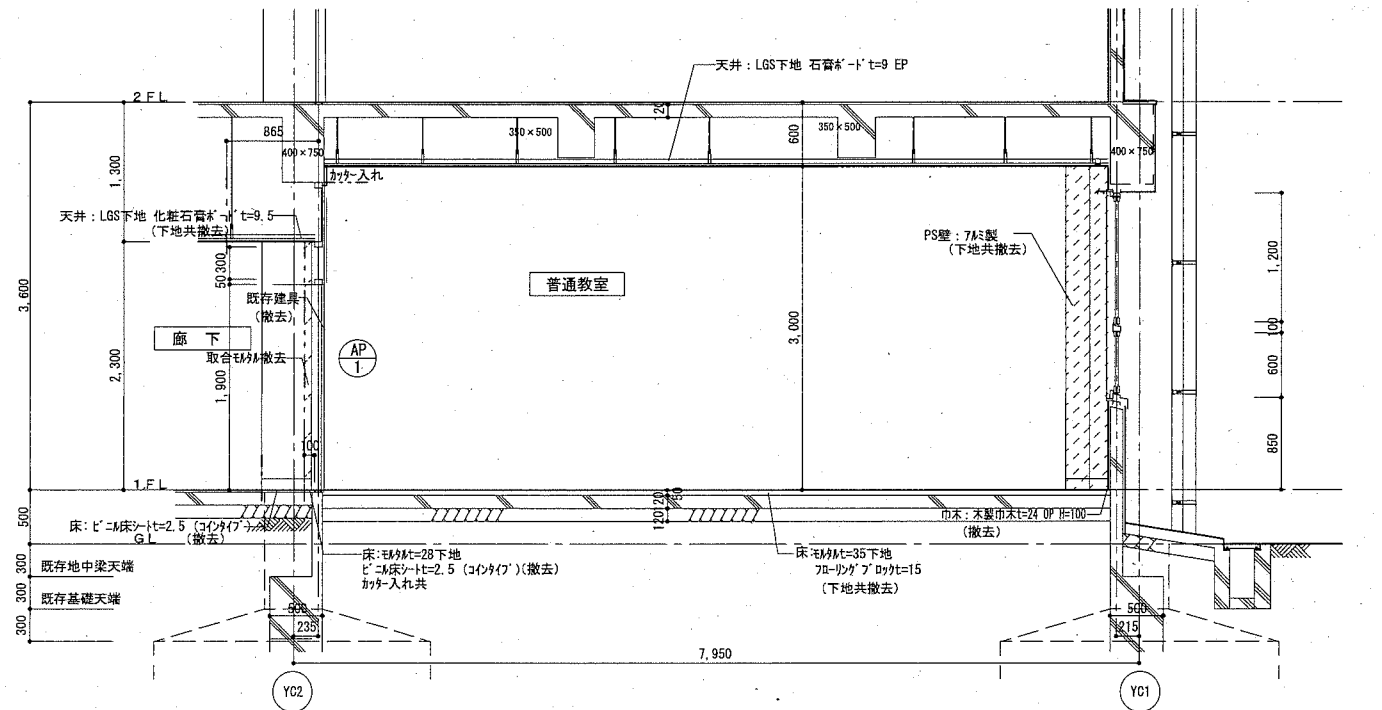
※プラットホーム仕様
 コナクリト=150 呼び強度21N/mm² S=18
 平場・立上共 D13@200呼び
 捨てコナクリト=50、砕石=100
 ■部分詳細図(A-27) 1階AD-1参照

※ビット仕様
 コナクリト: Fc=24N/mm² S=18
 捨てコナクリト: 呼び強度=18N/mm² S=18
 砕石: 再生砕石(RC40)

改修前

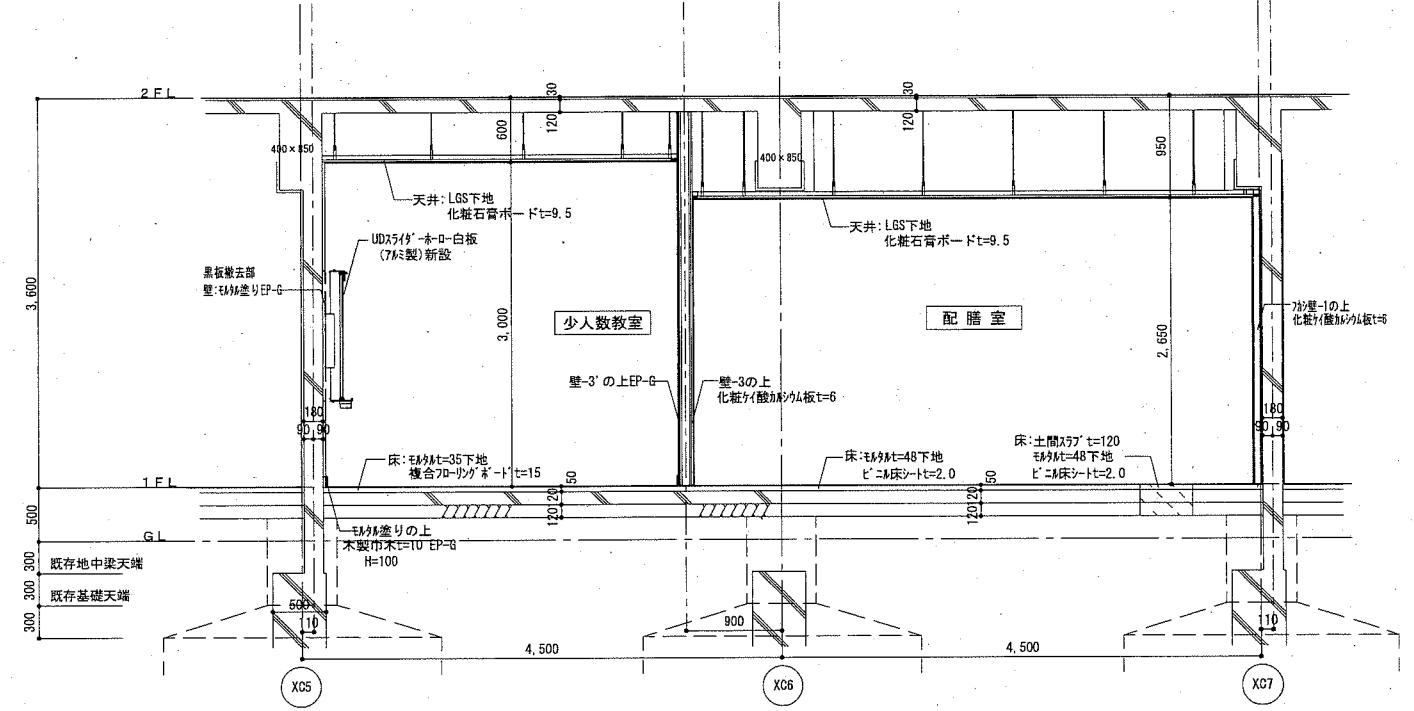


A-A断面図 (改修前)

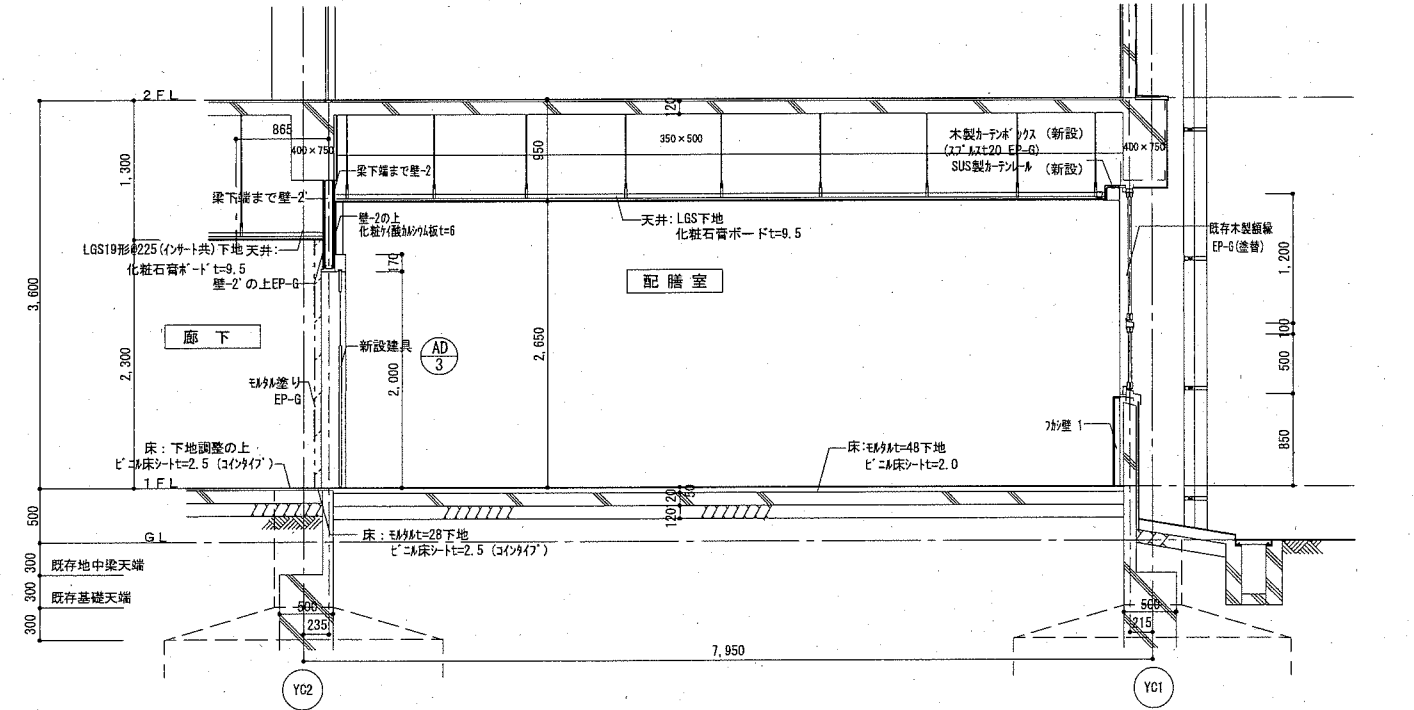


B-B断面図 (改修前)

改修後



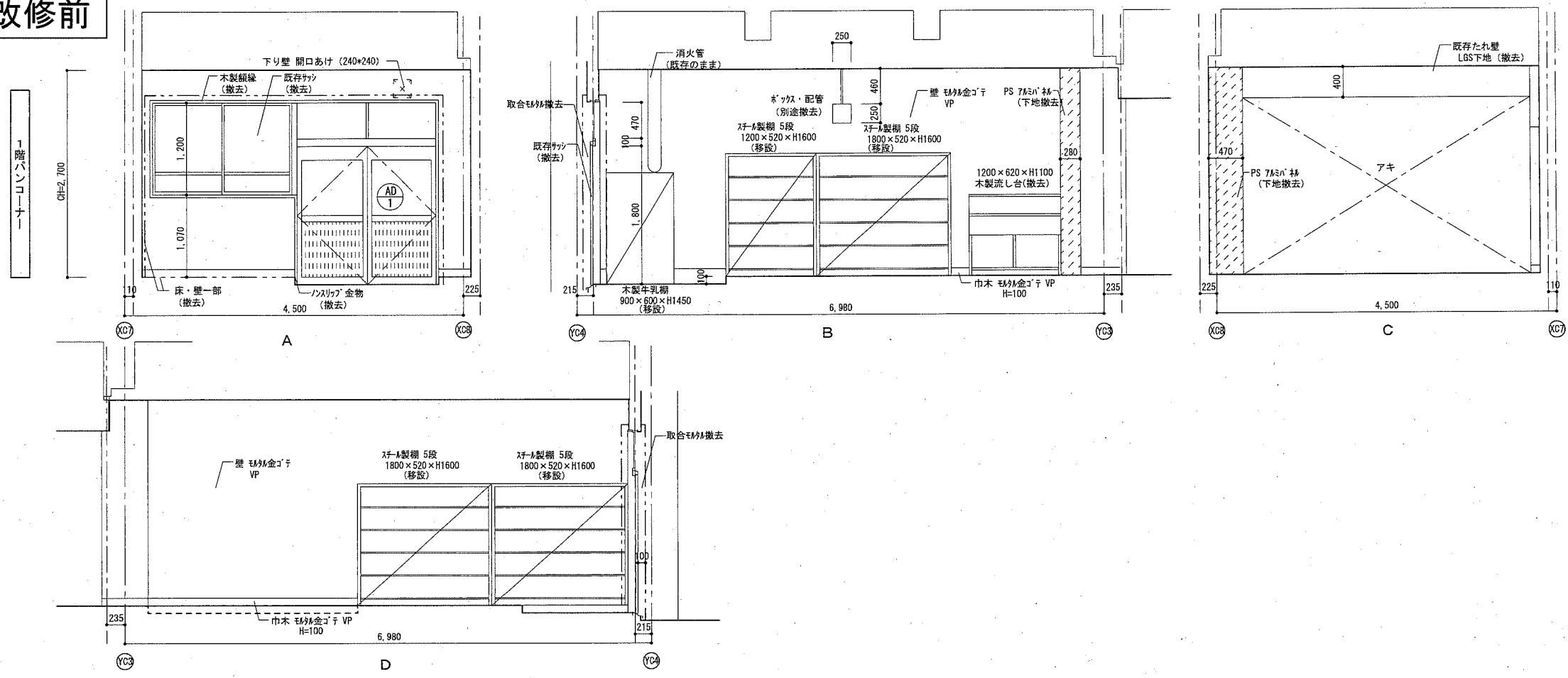
A-A断面図 (改修後)



B-B断面図 (改修後)

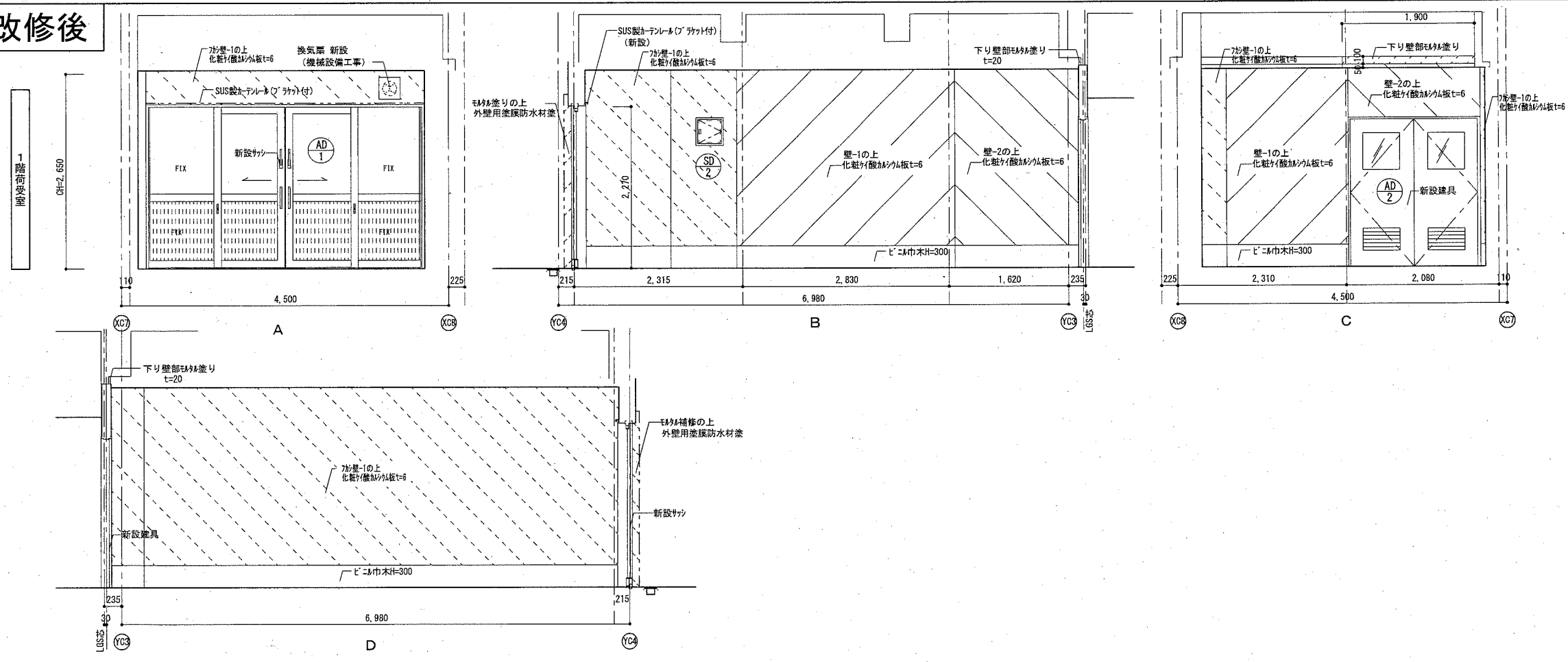
公共建築課長	主査等	担当者	横須賀市 都市部 公共建築課	設計名称	市立大津中学校昇降機設置建築その他工事	図面名称	断面図2	縮尺 1:50	A-19
			設計年月日 令和2年2月	PROJECT NUMBER		DRAWING NUMBER			

改修前



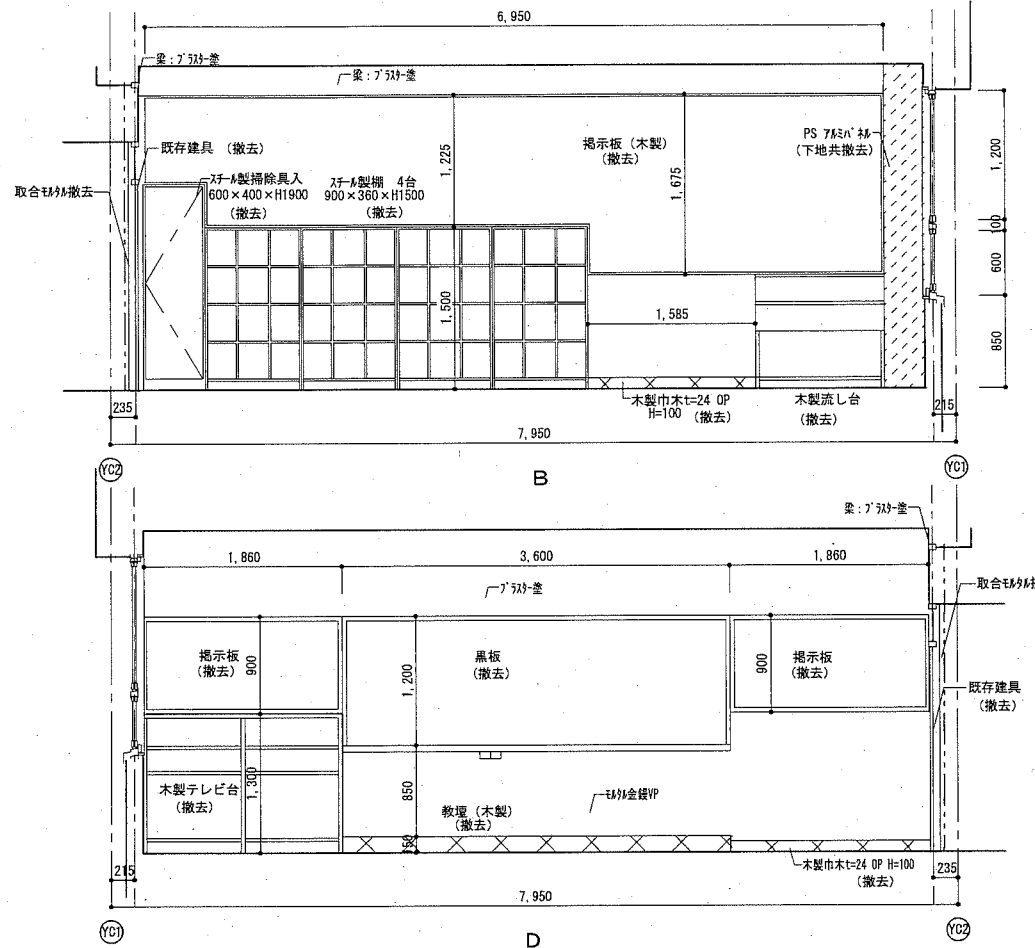
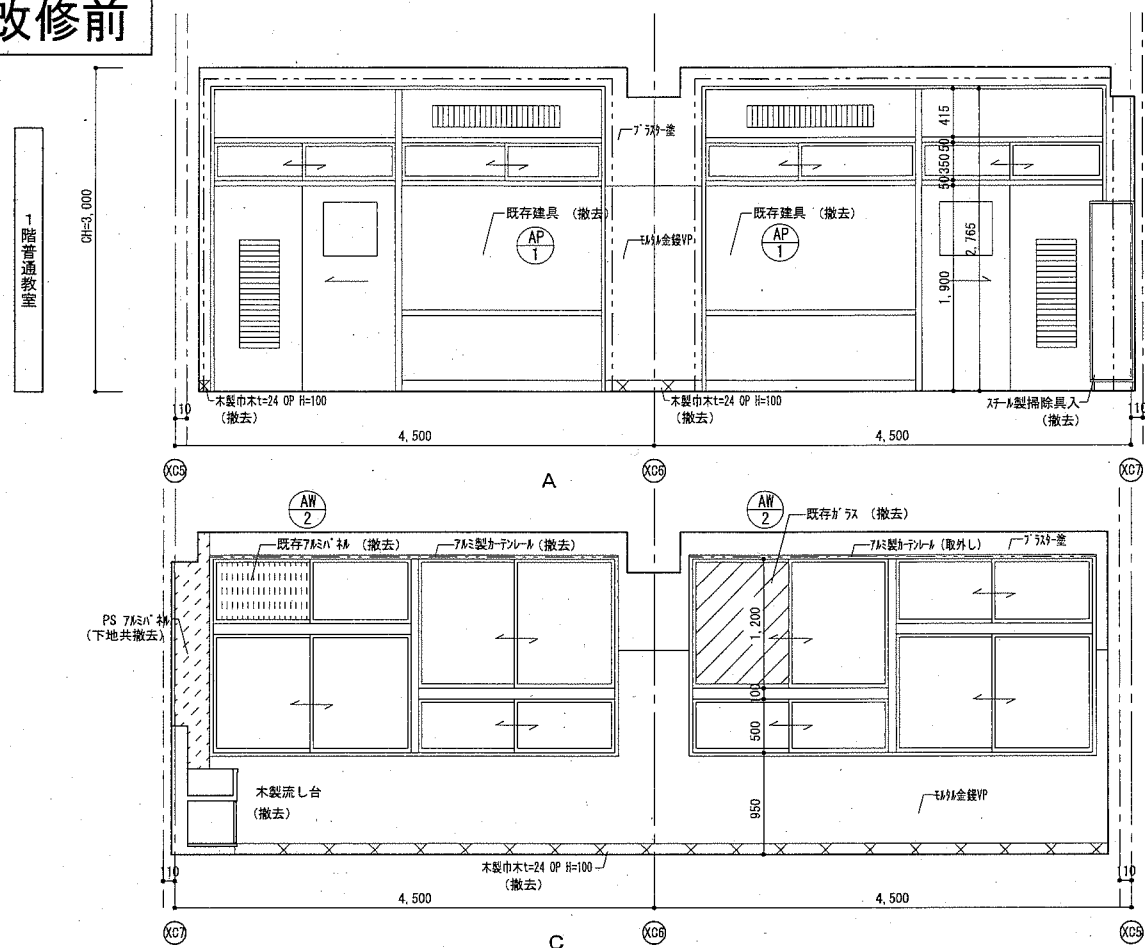
----- カッター入れを表す

改修後



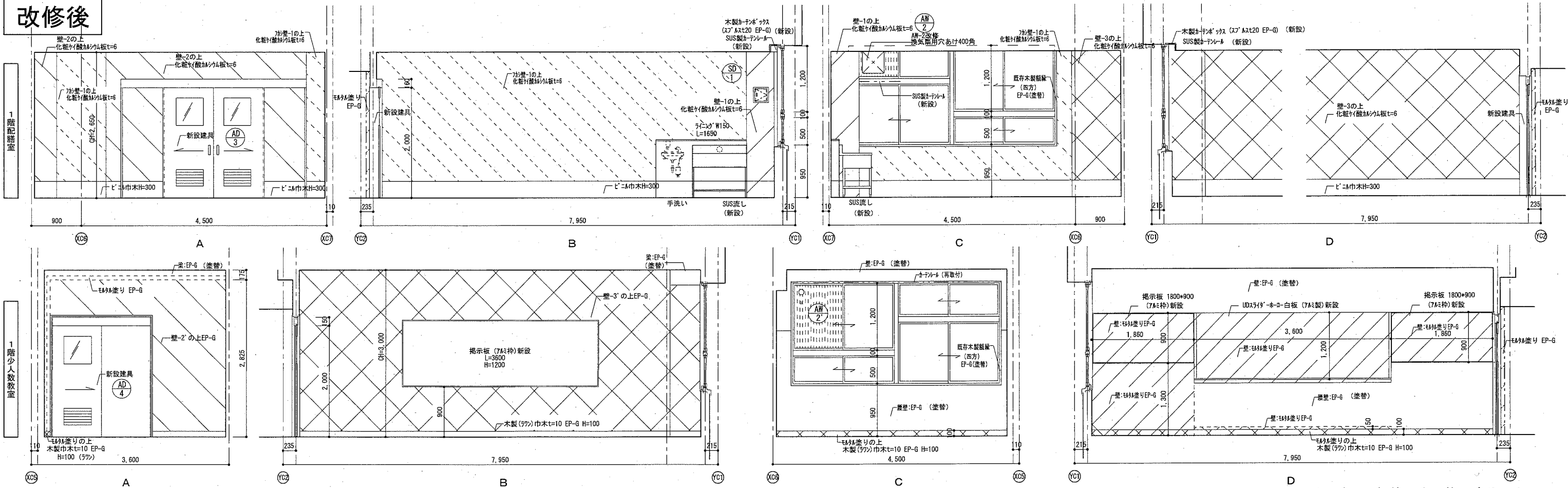
◎ 耐火壁は、躯体下まで施工すること。

改修前



----- カッター入れを表す

改修後



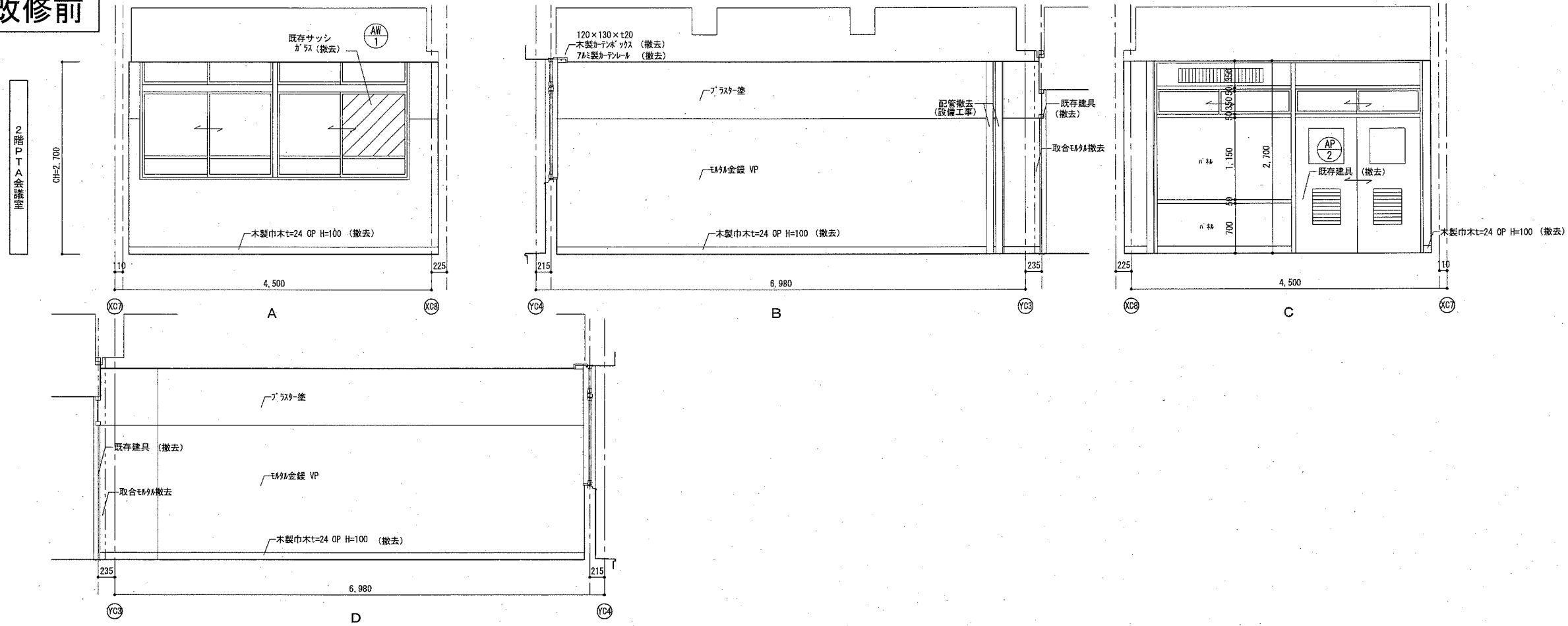
◎ 耐火壁は、躯体下まで施工すること。

公共建築課長	主査等	担当者

横須賀市 都市部 公共建築課
設計年月日 令和 2年 2月

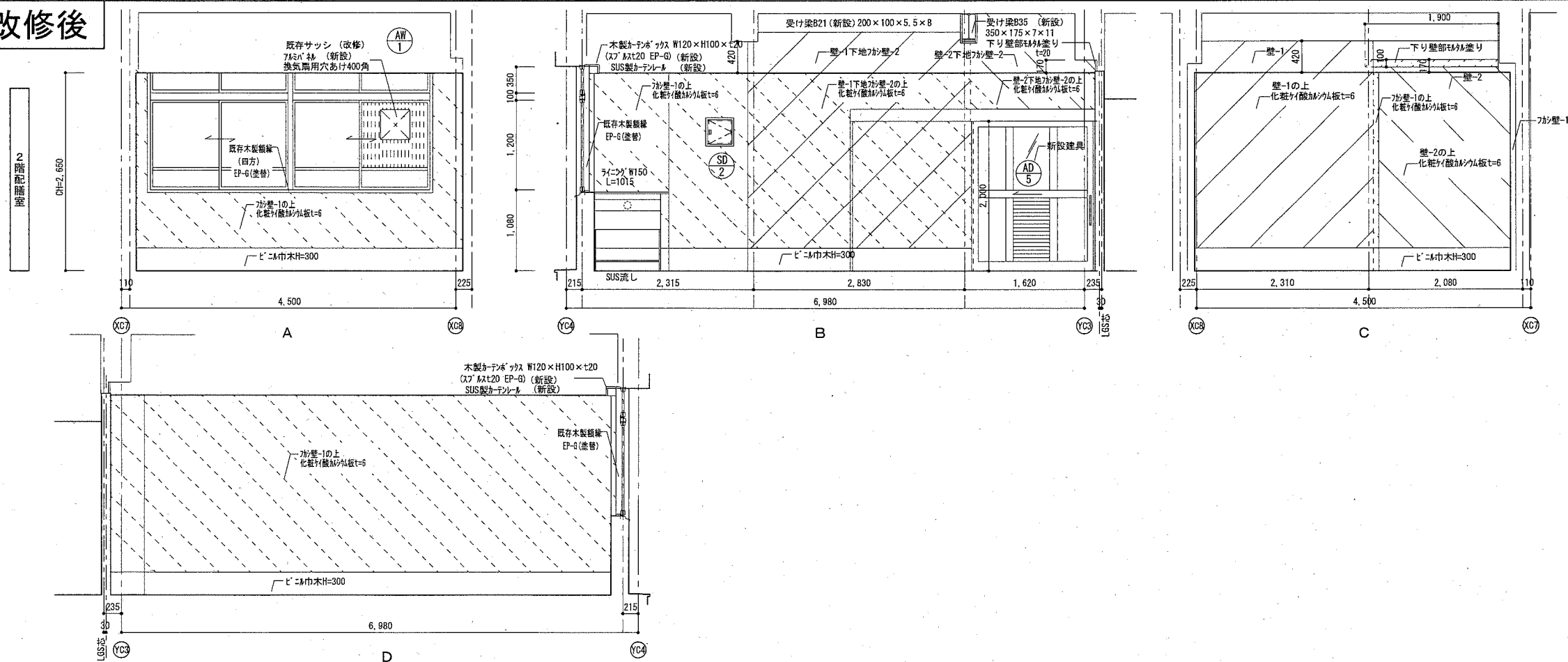
設計名称 NAME OF PROJECT	図面名称 ITEM OF DRAWING
市立大塚中学校昇降機設置建築その他工事	1階配膳室 展開図
PROJECT NUMBER	DRAWING NUMBER
	縮尺 1 : 50 SCALE

改修前



----- カッター入れを表す

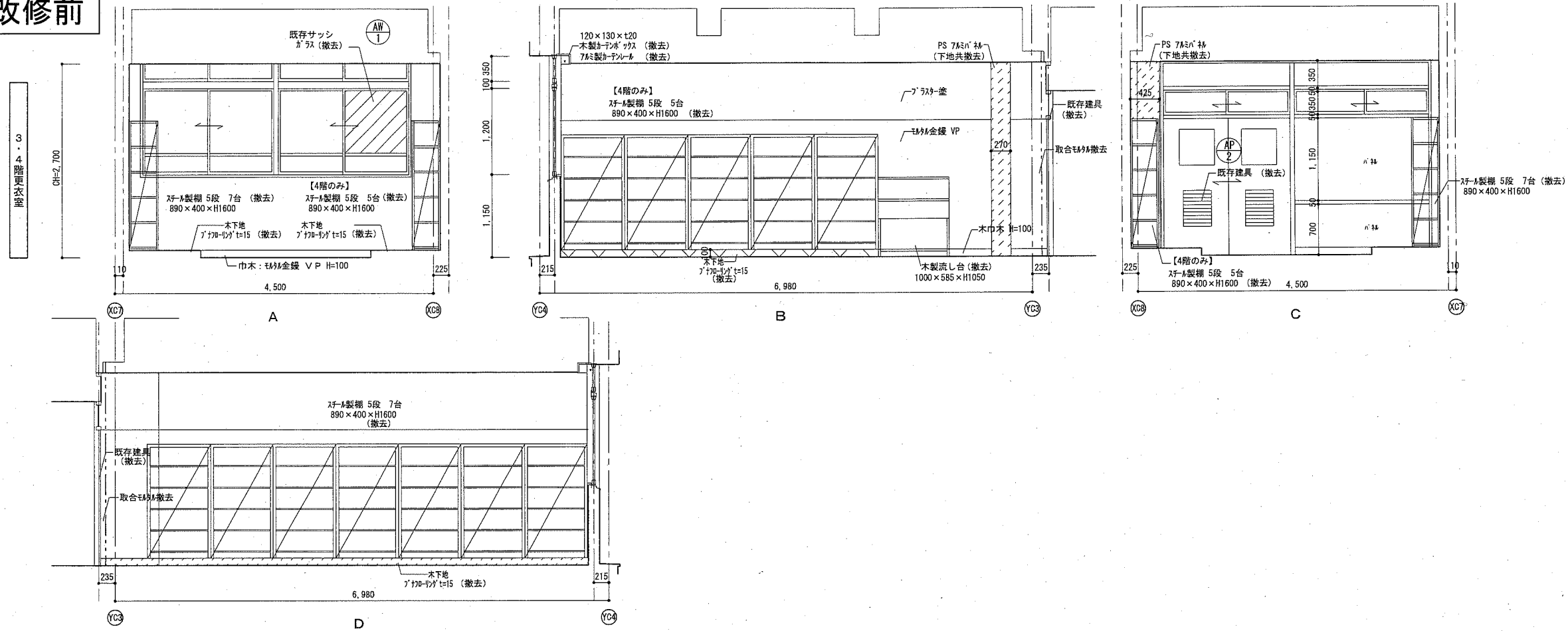
改修後



◎ 耐火壁は、躯体下まで施工すること。

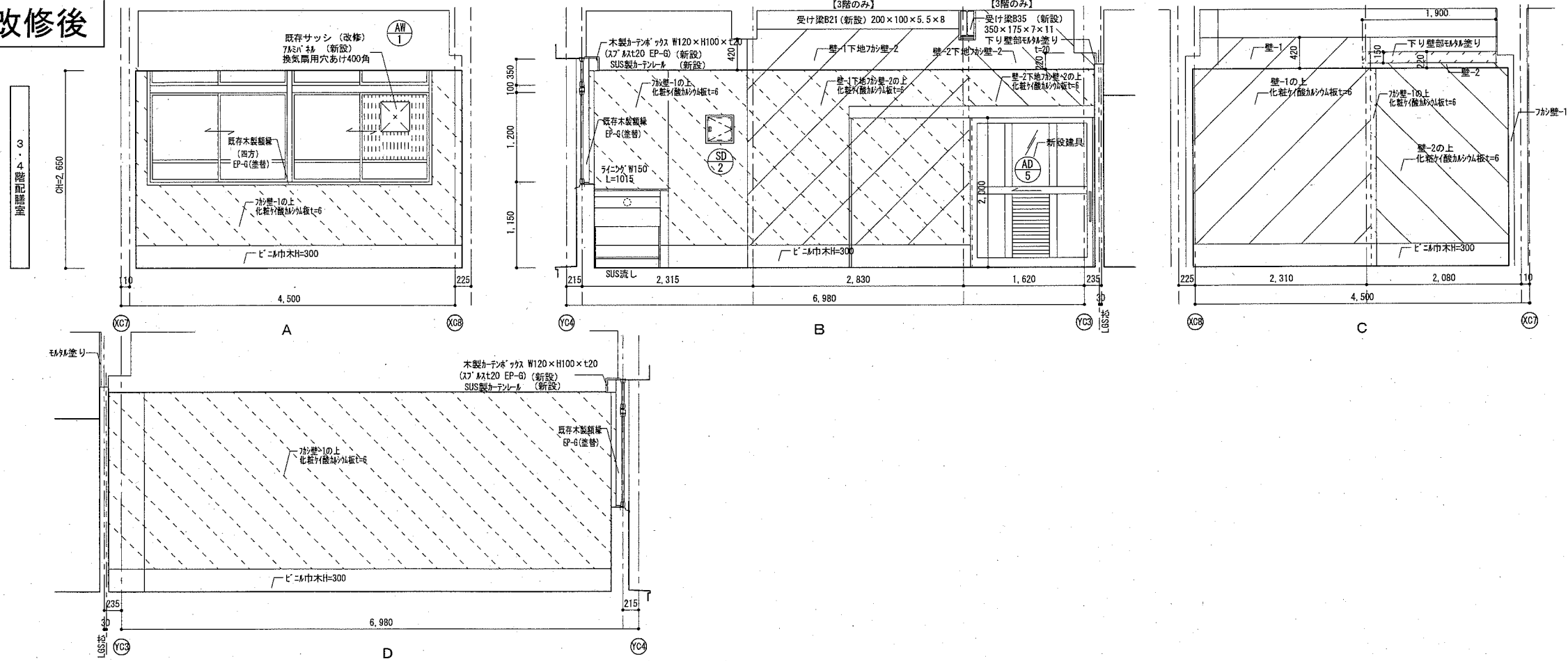
公共建築課長	主査等	担当者	横須賀市 都市部 公共建築課	設計名称 市立大津中学校昇降機設置建築その他工事	図面名称 2階配膳室 展開図	A-22
			設計年月日 令和 2年 2月	縮尺 1:50	DRAWING NUMBER	

改修前



----- カッター入れを表す

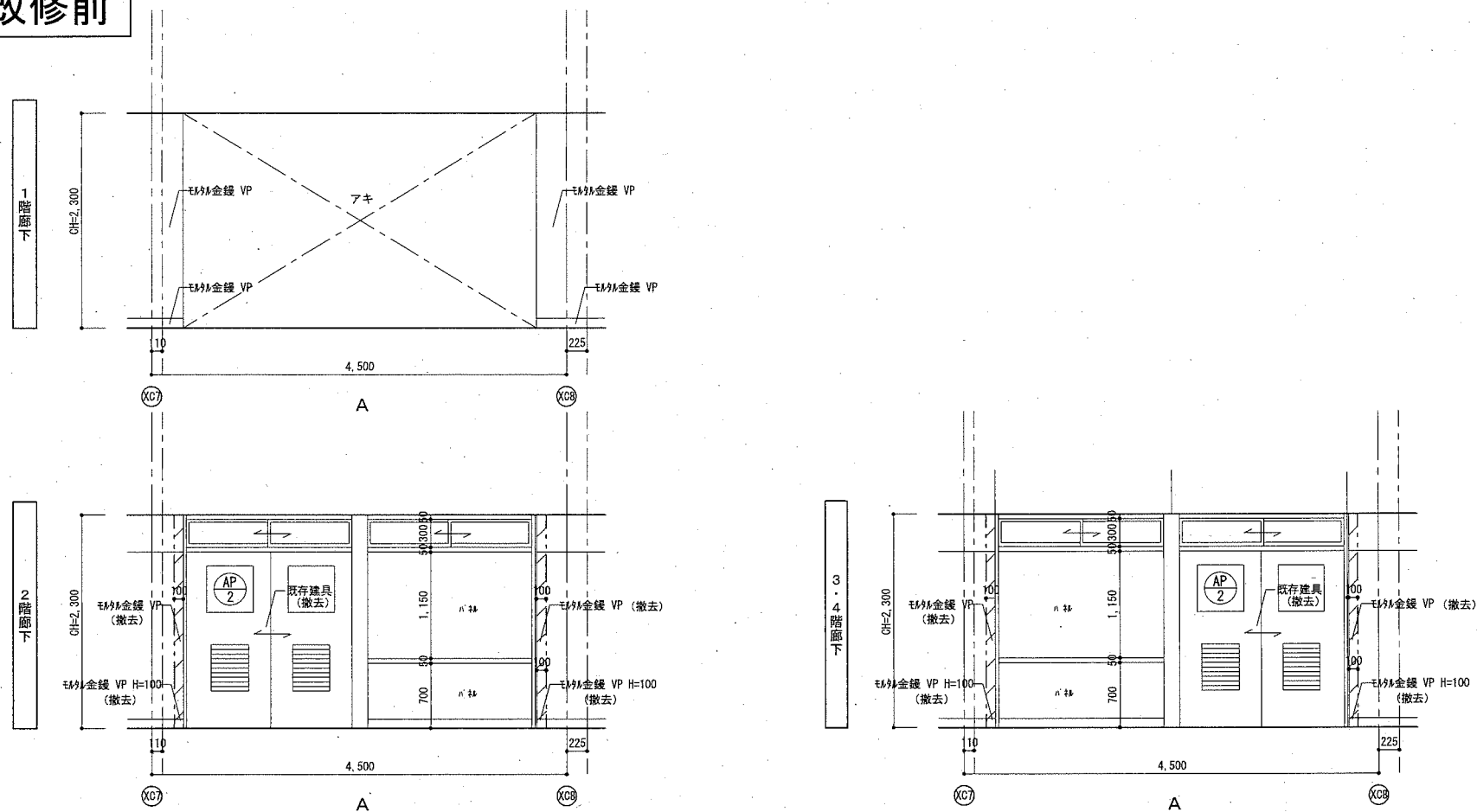
改修後



◎ 耐火壁は、躯体下まで施工すること。

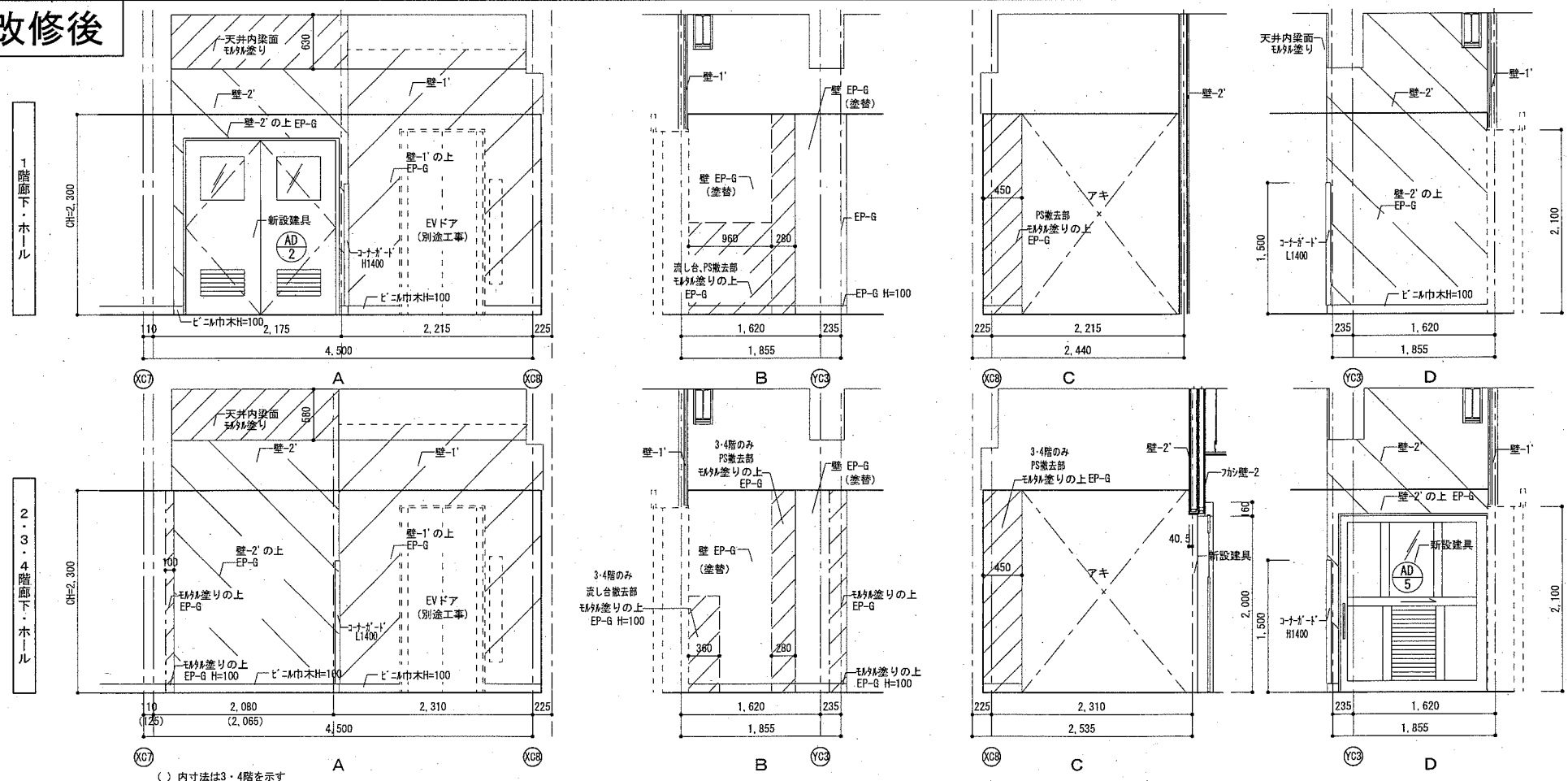
公共建築課長	主査等	担当者	横須賀市 都市部 公共建築課	設計名称 NAME OF PROJECT	図面名称 ITEM OF DRAWING	縮尺 SCALE	NO
			設計年月日 令和 2 年 2 月	市立大津中学校昇降機設置工事の他工事	3.4階配膳室 展開図	1 : 50	A-23

改修前



----- カッター入れを表す

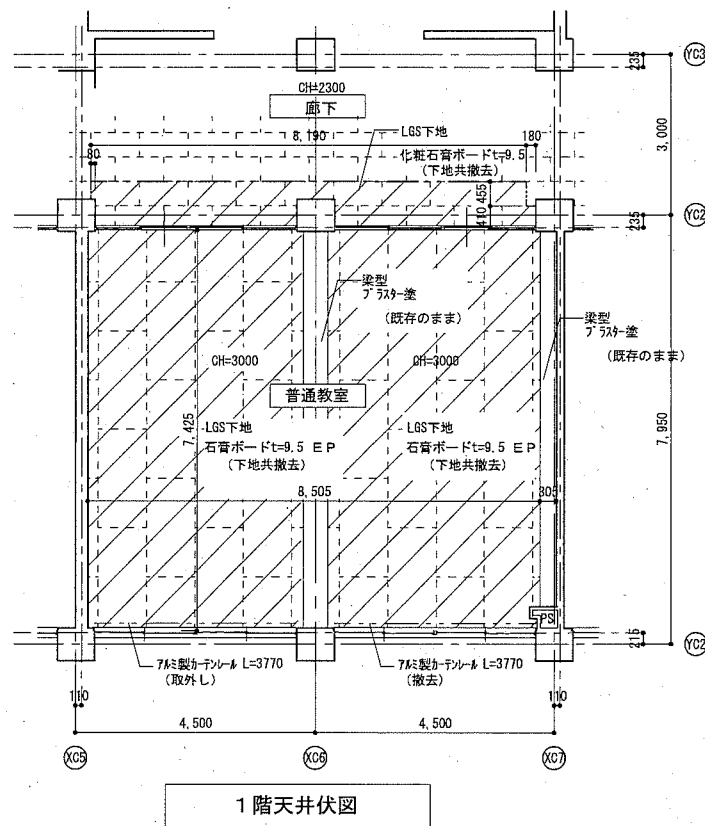
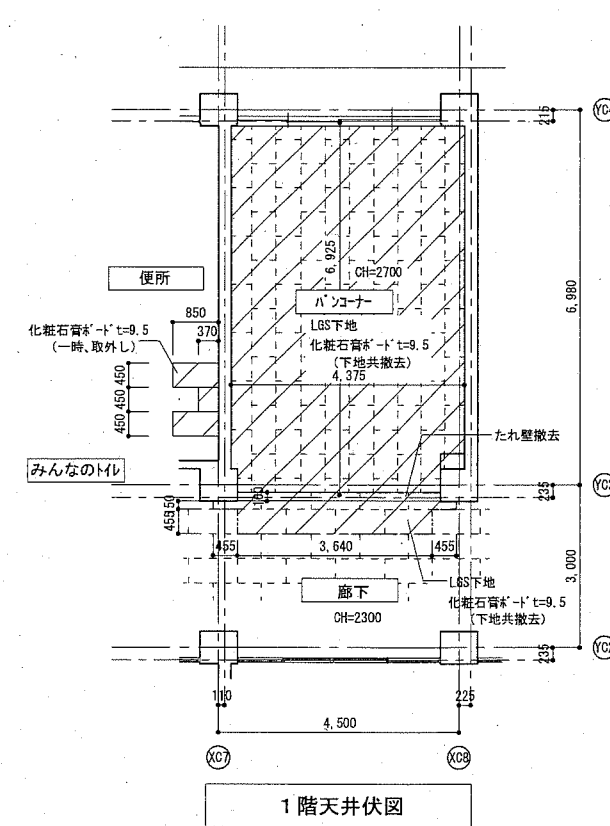
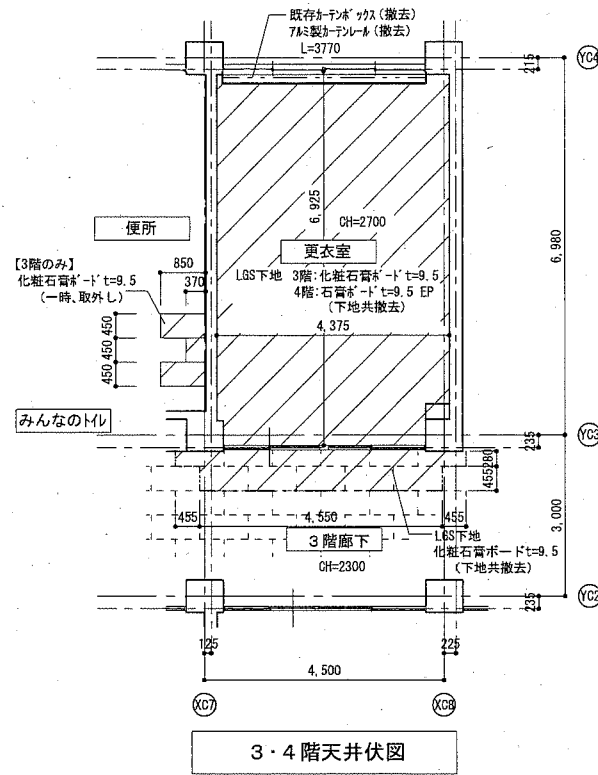
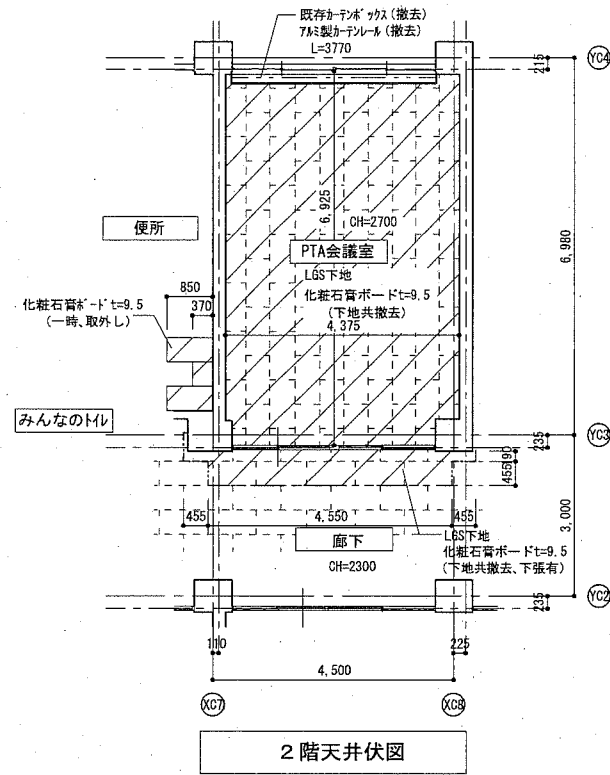
改修後



◎ 耐火壁は、躯体下まで施工すること。

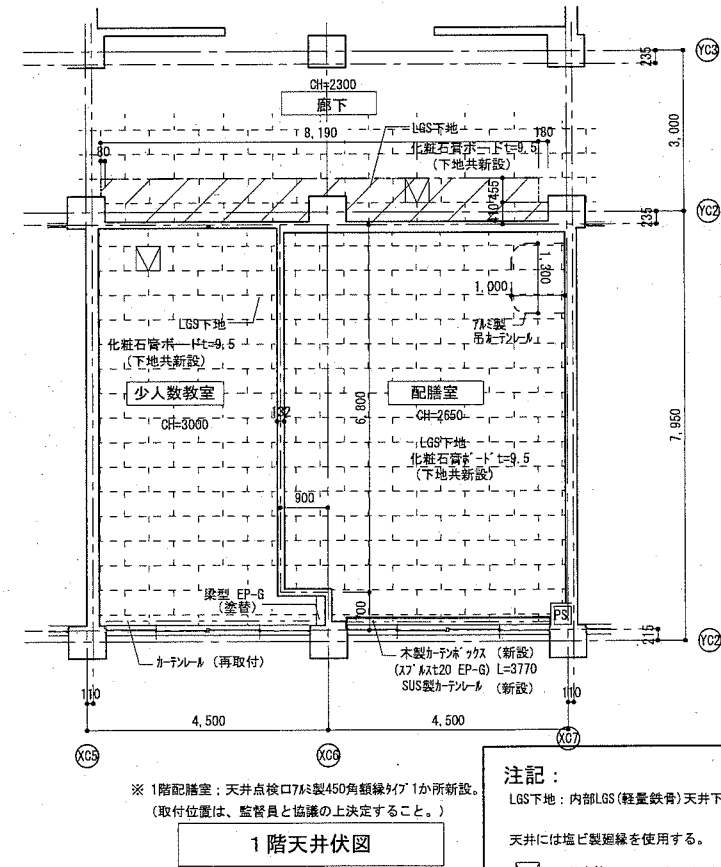
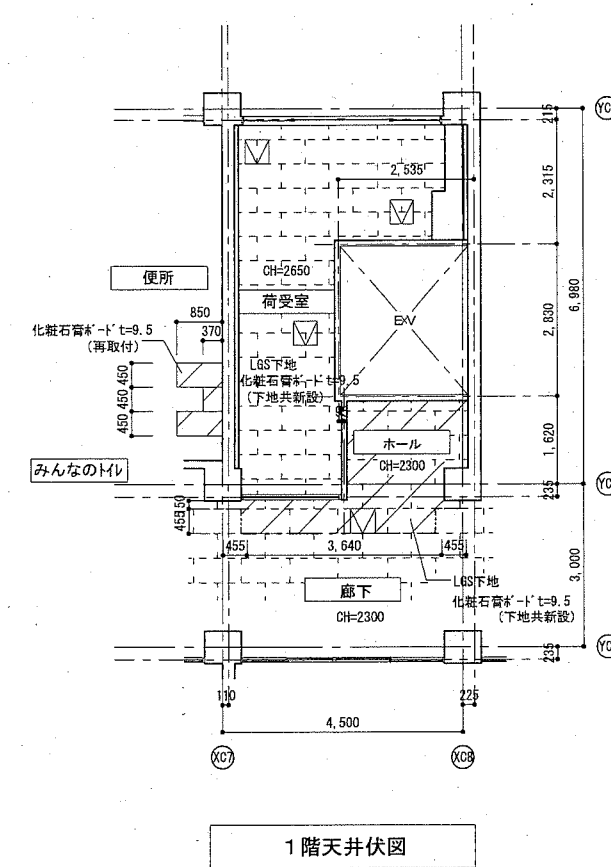
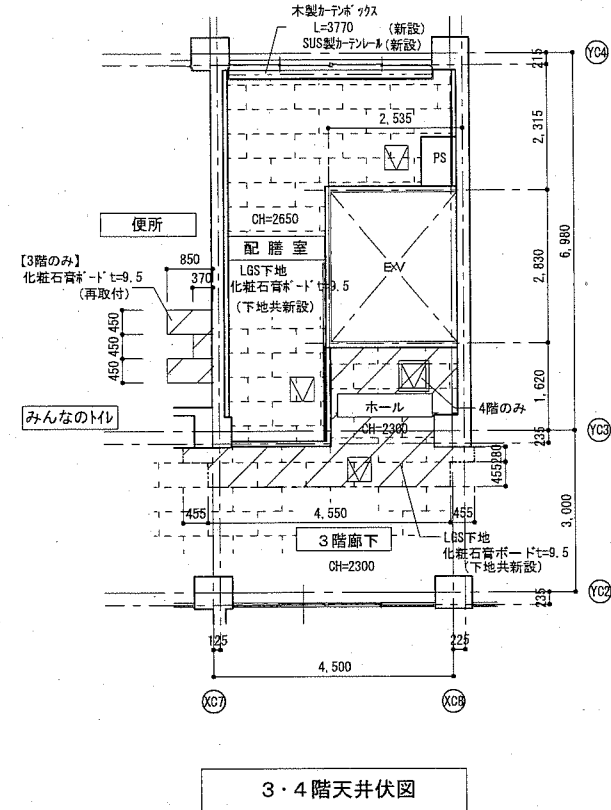
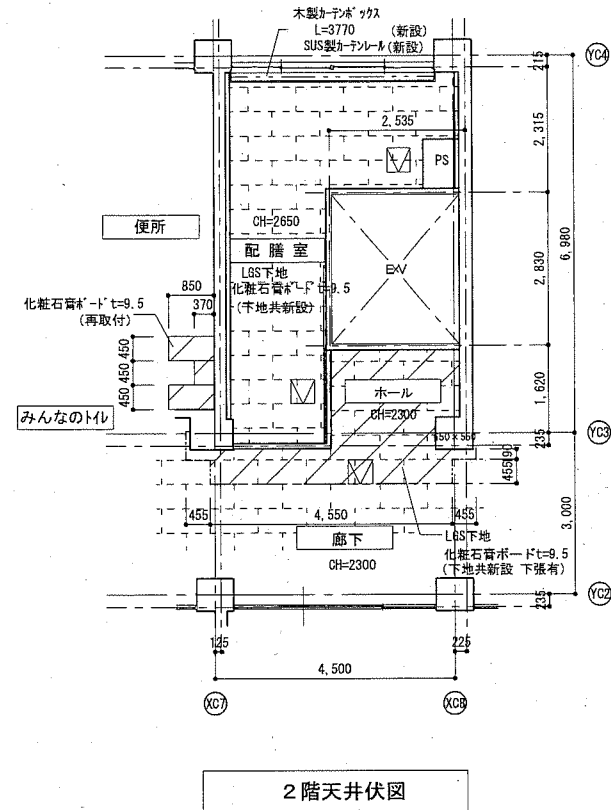
公共建築課長	主査等	担当者	横須賀市 都市部 公共建築課	設計名称 NAME OF PROJECT	図面名称 ITEM OF DRAWING
			設計年月日 令和 2 年 2 月	市立大津中学校昇降機設置建築その他工事	廊下、ホール 展開図
				縮尺 1 : 50	

改修前



注記：
天井撤去は塩ビ製廻縁とする。

改修後

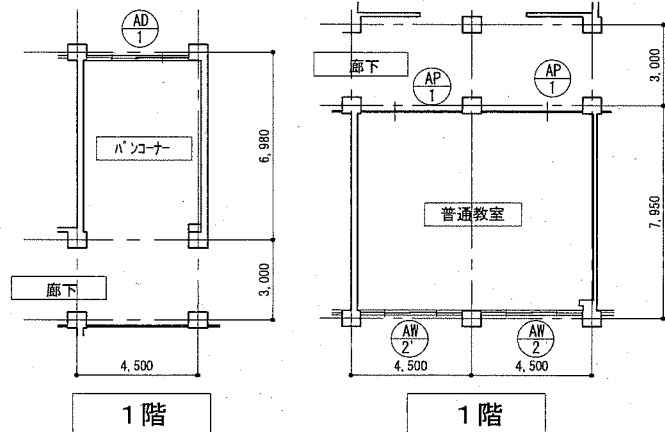
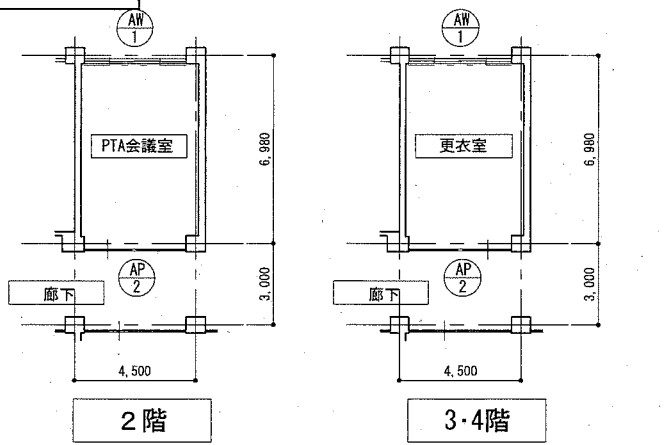


※1階配膳室：天井点検口7M製450角額縁タイプ1か所新設。
(取付位置は、監督員と協議の上決定すること。)

注記：
LGS下地：内部LGS(軽量鉄骨)天井下地は19形
天井には塩ビ製廻縁を使用する。
▽天井点検口：7M製450角 額縁タイプ (下地開口補強共)
▽天井点検口：7M製600角 額縁タイプ (下地開口補強共)

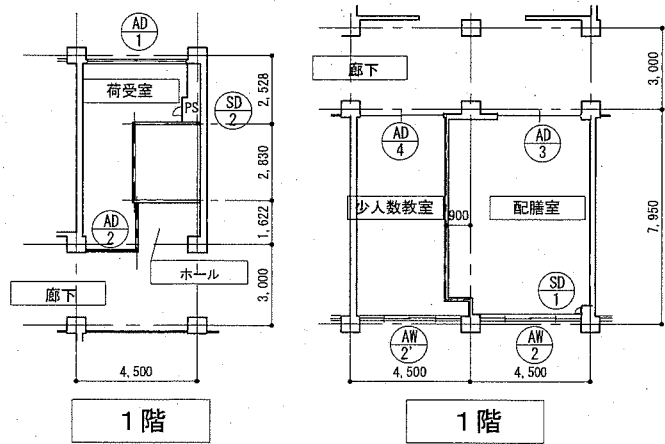
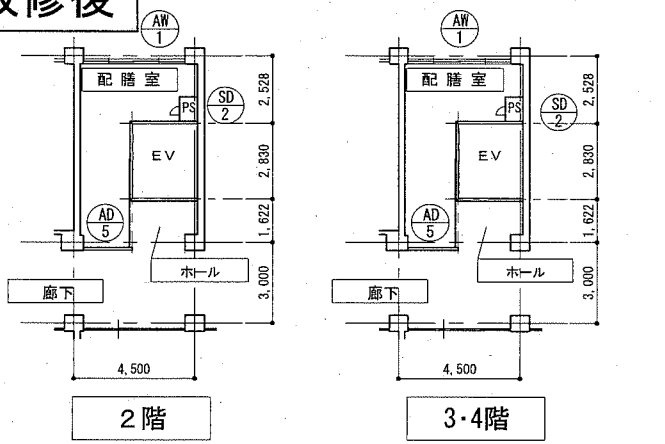
改修前

建具キープン S=1/200



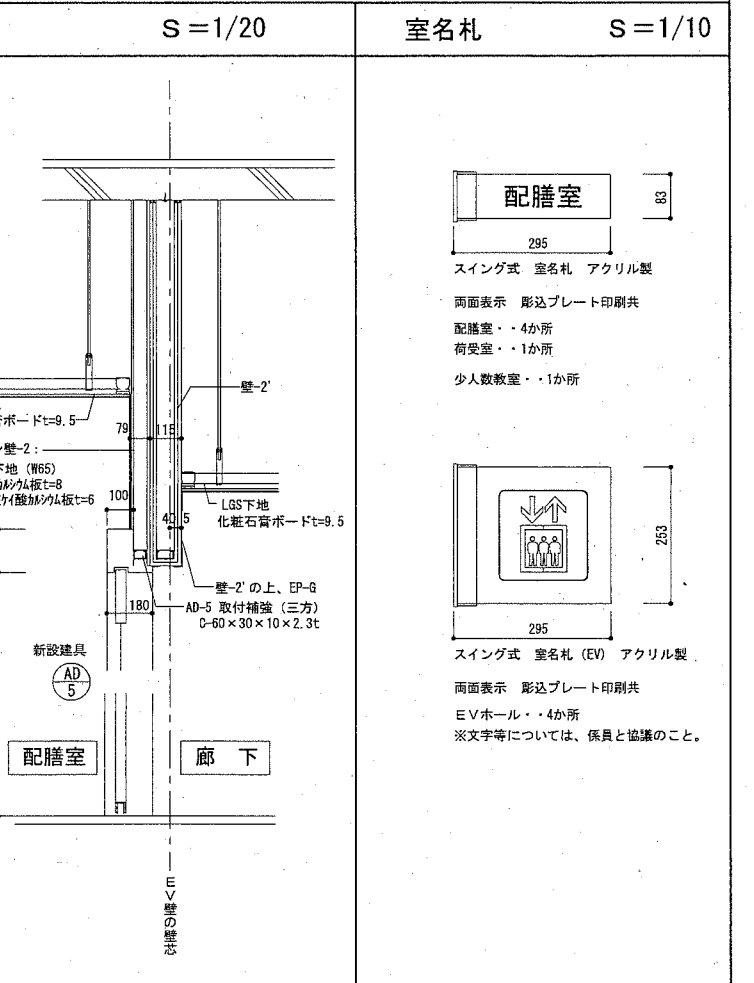
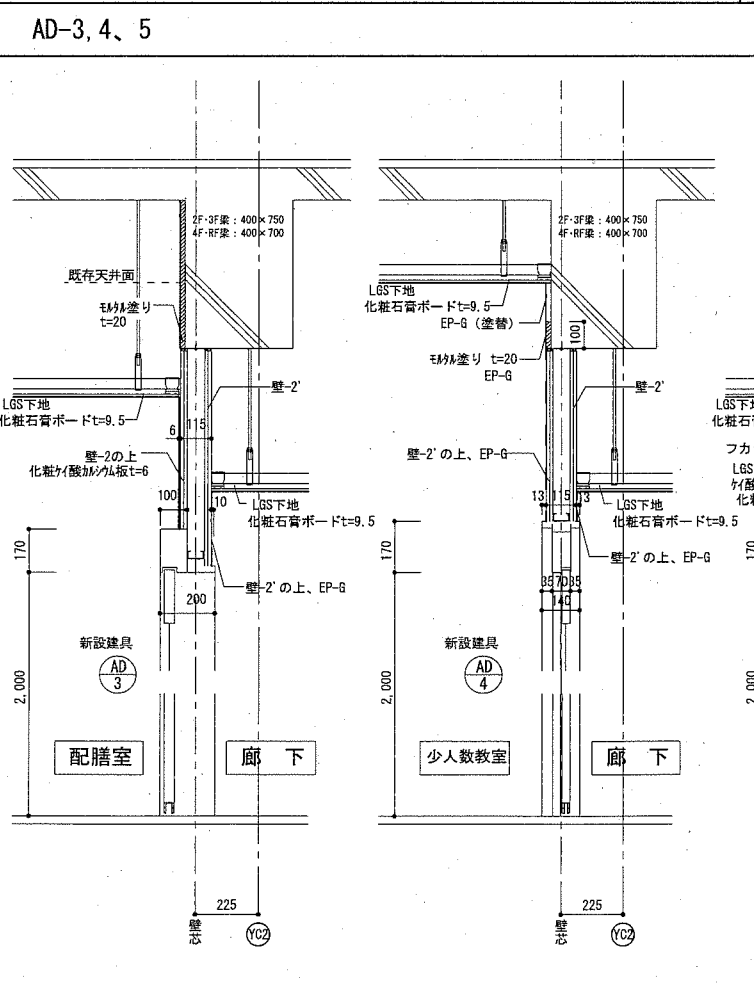
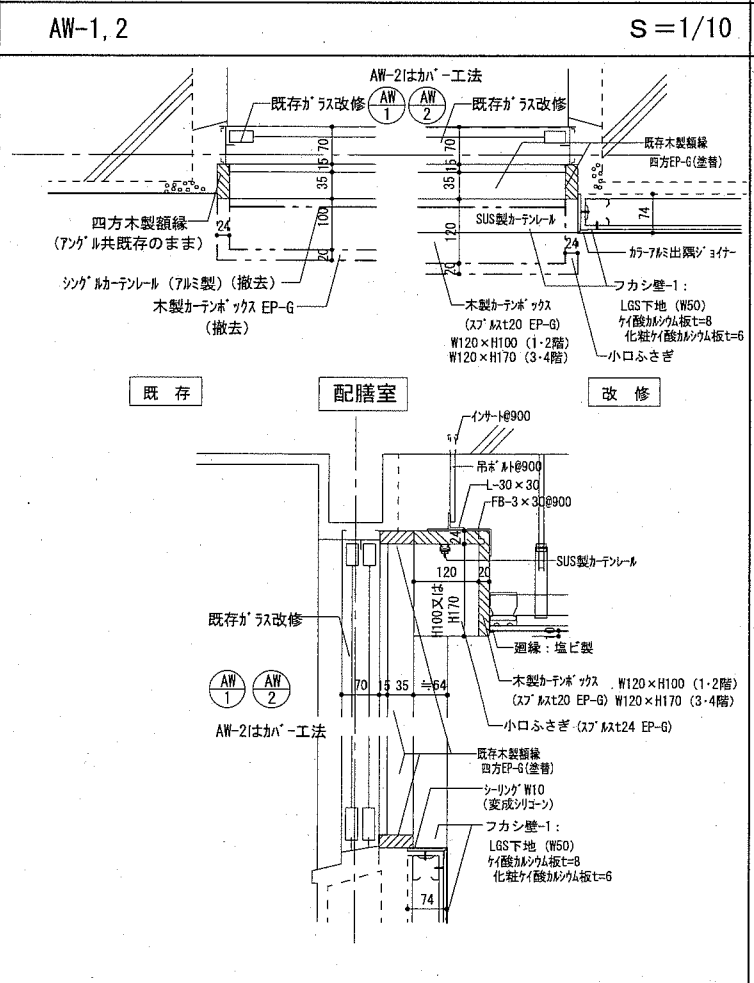
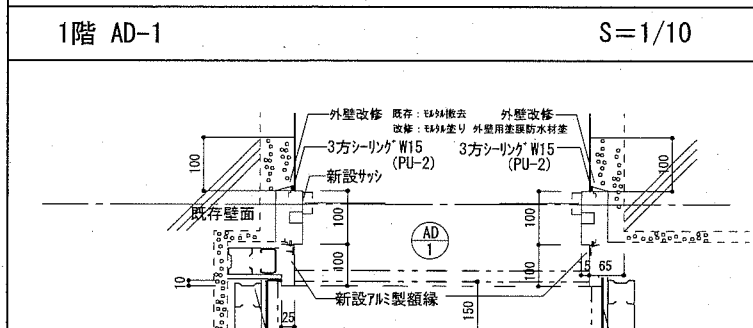
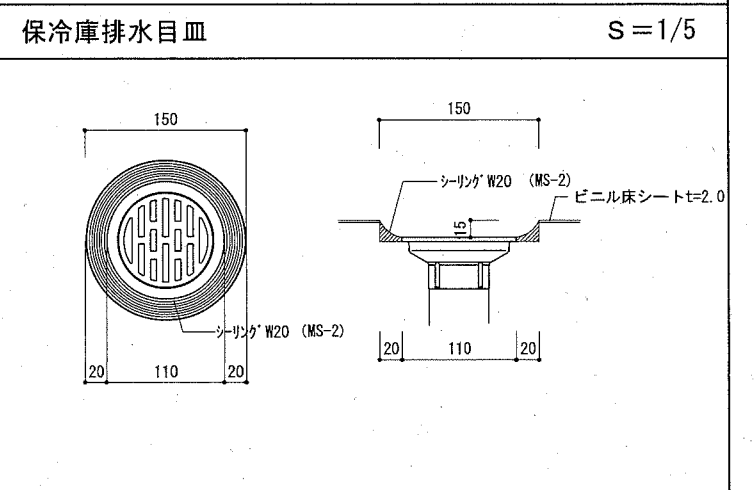
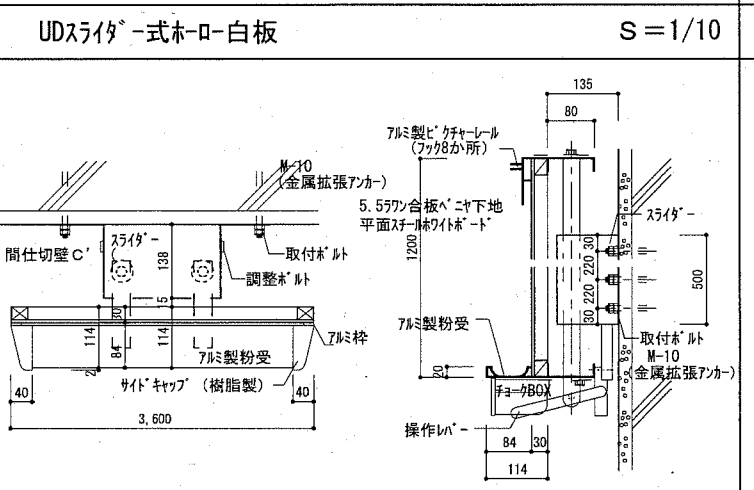
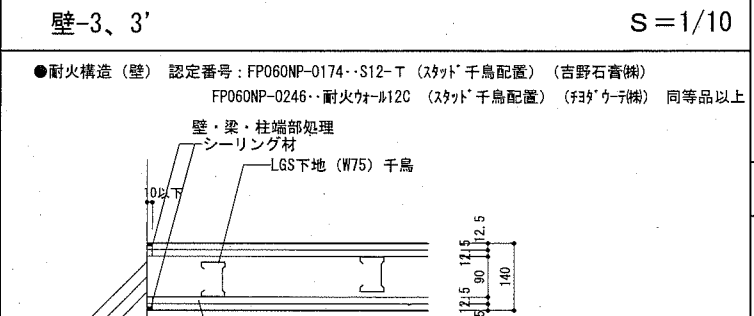
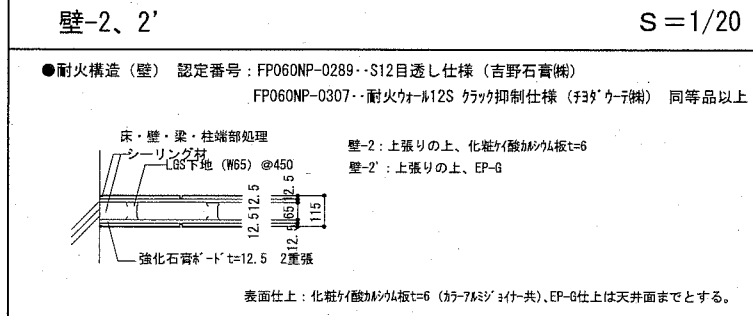
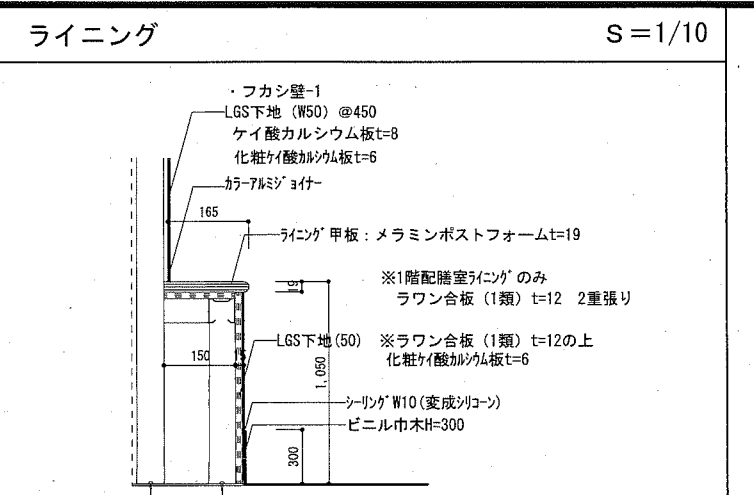
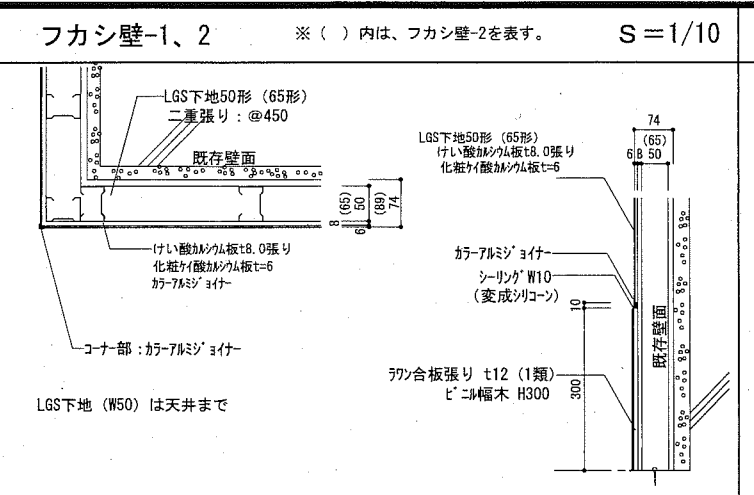
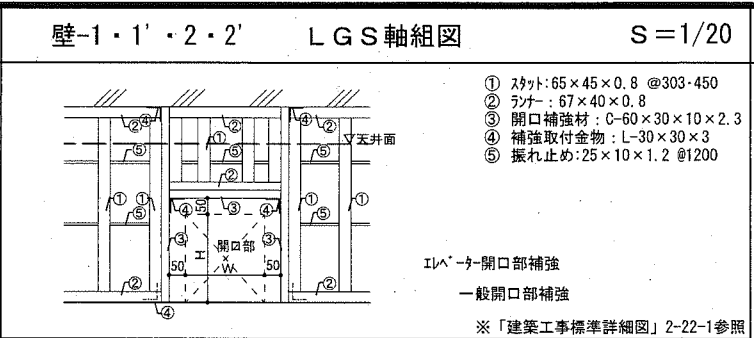
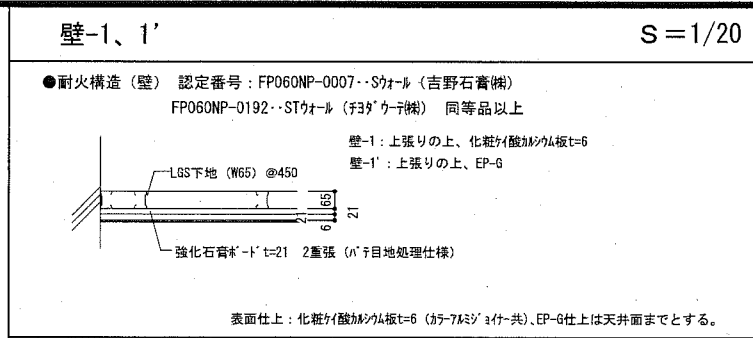
改修後

建具キープン S=1/200



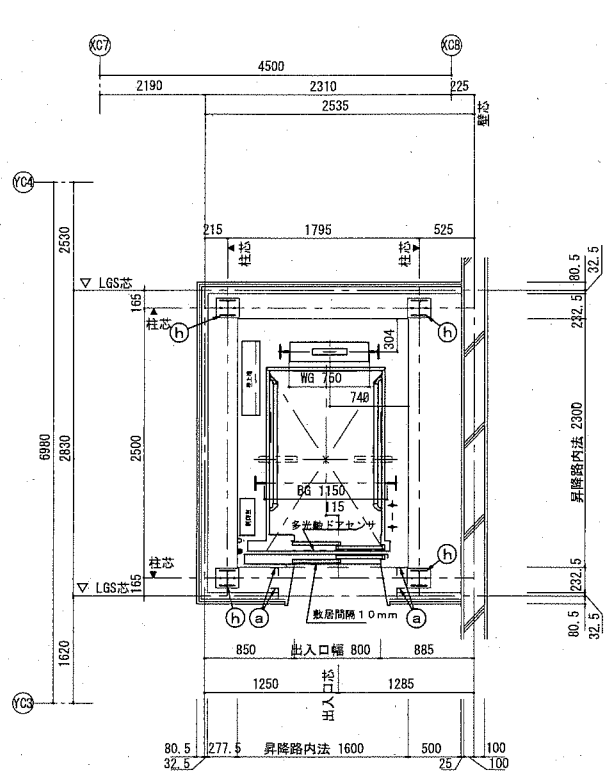
建具表 S=1/50

記号・個数	AD-1	1か所	AW-1	3か所
取付場所	パンコーナー	1階荷受室	2階PTA会議室、3・4階更衣室	2・3・4階配膳室
形状・寸法	既存 3,750 (1,840+70+1,840) 1,070 1,800 2,370	改修 3,750 豊和工業製 HAA-100-B II-K 同等品以上 耐風圧性:S-6、 気密性:A-4、 水密性:W-5 1,800 2,270	既存 3,750 (1,840+70+1,840) 1,200 1,650 870	改修 3,750 (1,840+70+1,840) 1,200 1,650 870 換気扇用穴あけ400角 ストッパー止め
見込・寸法	70	100	70	
種別方式	引違い窓、両開き扉戸	FIX付引き分けドア	引違い窓	
材料仕上	アルミ製(シルバー)	アルミ製(シルバー)	アルミ製(シルバー)	
ガラス厚	透明網入りガラスt6.8	透明ガラスt3.0+透明フィルム30mil+透明ガラスt3.0	透明網入りガラスt6.8 (一部撤去)	7&M製t3
付属金物	7&M製t2.5、水切、木製額縁	引戸錠、内外通動引寄せノブ、引棒、シリンダー錠、SUS製フットレール	7&M製t2.5、水切、木製額縁	
備考	既存サッシ:撤去	7&M額縁、7&M製t5、下部レール:SUS製水抜n'47×4ヶ所		ストッパー止め
記号・個数	AW-2、-2'	各1か所	AD-2	1か所
取付場所	1階普通教室	1階配膳室	1階荷受室	AD-3
形状・寸法	既存 3,650 (1,790+70+1,790) 1,800	改修 3,650 (1,790+70+1,790) 1,800 AW-2の場合 AW-2'の場合 換気扇用穴あけ400角 7&M製t3 ストッパー止め SUS製キャブレ	改修 1,730 (有効開口幅1500以上) 500 500 2,000 扉下部:メ7等でほこり対策をする	改修 1,800 (有効開口幅1500) 500 500 2,000 扉下部・メシ合せ部:メ7等でほこり対策をする
見込・寸法			70	100
種別方式			両開きドア(必要換気量:0.04m³)	引分け半自動ドア(必要換気量:0.08m³)
材料仕上			アルミ(カラー)	アルミ(カラー)
ガラス厚	透明網入りガラスt6.8撤去	7&M製t3	網入型板ガラスt6.8	網入型板ガラスt6.8
付属金物	7&M製t撤去	7&M製t3 キャブレ ストッパー止め	ドアノブ、丁番、DG、戸当り、額縁 シリンダー錠(廊下側) 4&M錠(室内側)	点検口用レジン・ドアノブ 点検口用レジン・ドアノブ
備考	加-工法改修済	加-工法改修済	ガラリの扉下部にSUS24メッシュの防虫網を取付	ガラリの室内側にSUS24メッシュの防虫網を取付
記号・個数	AD-4	1か所	AD-5	3か所
取付場所	1階少人数教室	2・3・4階配膳室	1階普通教室	AP-1
形状・寸法	改修 1,800 500 2,000 300	改修 1,500 (有効開口幅1350) 400 500 375 2,000	既存 3,750 (1,990+60+1,700) 1,300 500 1,000 2,165	既存 3,750 (1,990+60+1,700) 1,030 500 360 2,165
見込・寸法	100	100	100	100
種別方式	片引き半自動ドア	片引きドア(必要換気量:0.06m³)	引違い戸、引違い窓	引違い戸、引違い窓
材料仕上	アルミ(カラー)	アルミ(カラー)	7&M製	7&M製
ガラス厚	網入型板ガラスt6.8	網入型板ガラスt6.8	網入り型ガラスt6.8、透明ガラスt3	網入り型ガラスt6.8、透明ガラスt3
付属金物	自閉装置、スリッパ、ガイドローラ、エンドストッパー、引戸錠、額縁	ガイドローラ、エンドストッパー、引戸錠、押し棒、額縁		
備考	シリンダー錠(廊下側のみ)	ガラリの室内側にSUS24メッシュの防虫網を取付	枠共撤去	枠共撤去
記号・個数	AD-4	1か所	AD-5	3か所
取付場所	1階少人数教室	2・3・4階配膳室	1階普通教室	AP-2
形状・寸法	改修 1,800 500 2,000 300	改修 1,500 (有効開口幅1350) 400 500 375 2,000	既存 3,750 (1,990+60+1,700) 1,300 500 1,000 2,165	既存 3,750 (1,990+60+1,700) 1,030 500 360 2,165
見込・寸法	100	100	100	100
種別方式	片引き半自動ドア	片引きドア(必要換気量:0.06m³)	引違い戸、引違い窓	引違い戸、引違い窓
材料仕上	アルミ(カラー)	アルミ(カラー)	7&M製	7&M製
ガラス厚	網入型板ガラスt6.8	網入型板ガラスt6.8	網入り型ガラスt6.8、透明ガラスt3	網入り型ガラスt6.8、透明ガラスt3
付属金物	自閉装置、スリッパ、ガイドローラ、エンドストッパー、引戸錠、額縁	ガイドローラ、エンドストッパー、引戸錠、押し棒、額縁		
備考	シリンダー錠(廊下側のみ)	ガラリの室内側にSUS24メッシュの防虫網を取付	枠共撤去	枠共撤去

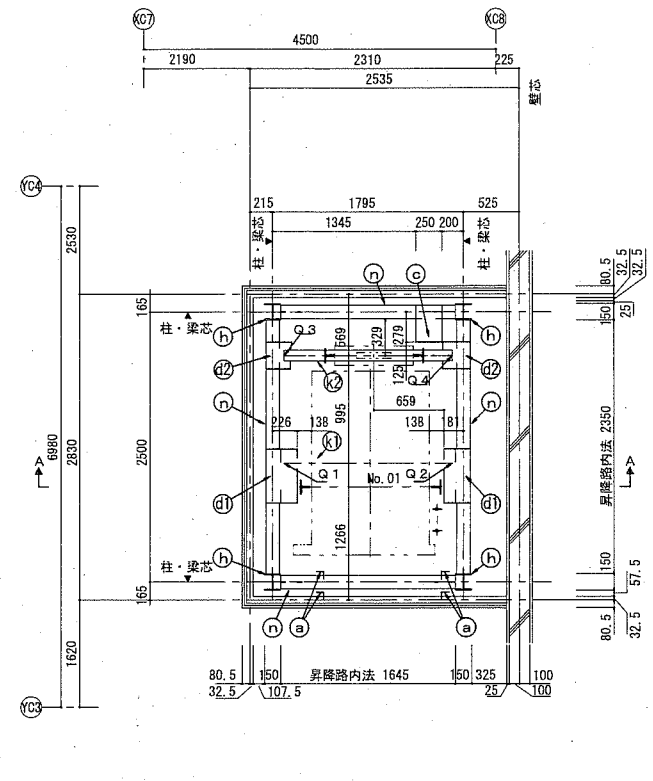


公共建築課長	主査等	担当者
横須賀市 都市部 公共建築課		
設計年月日 令和 2年 2月		

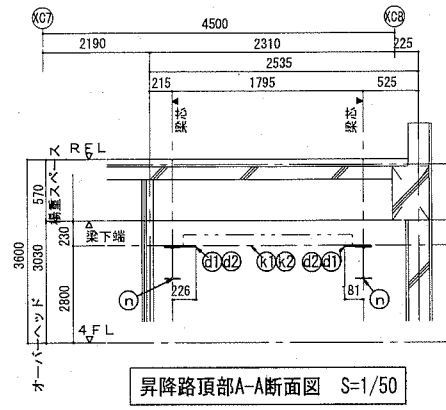
設計名称 市立大津中学校隣接児童遊園地等工事	図面名称 部分詳細図
縮尺 1:5・10・20	NO



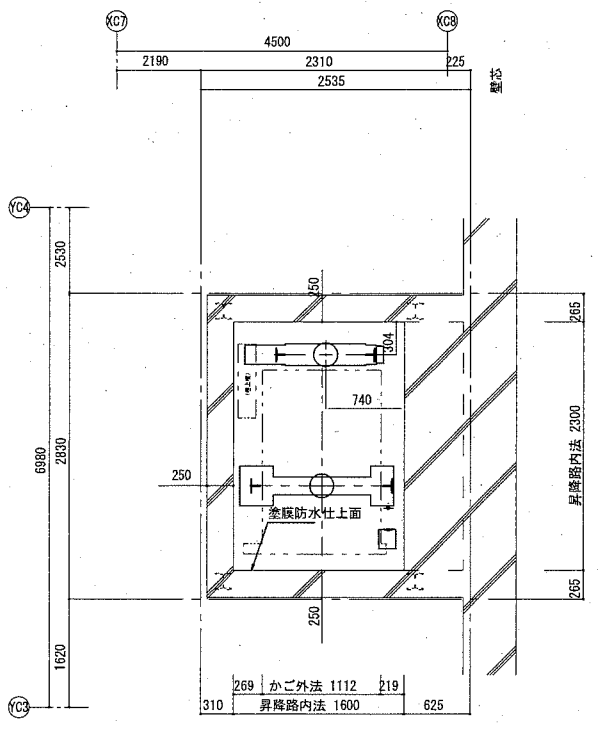
昇降路1階平面図 S=1/50



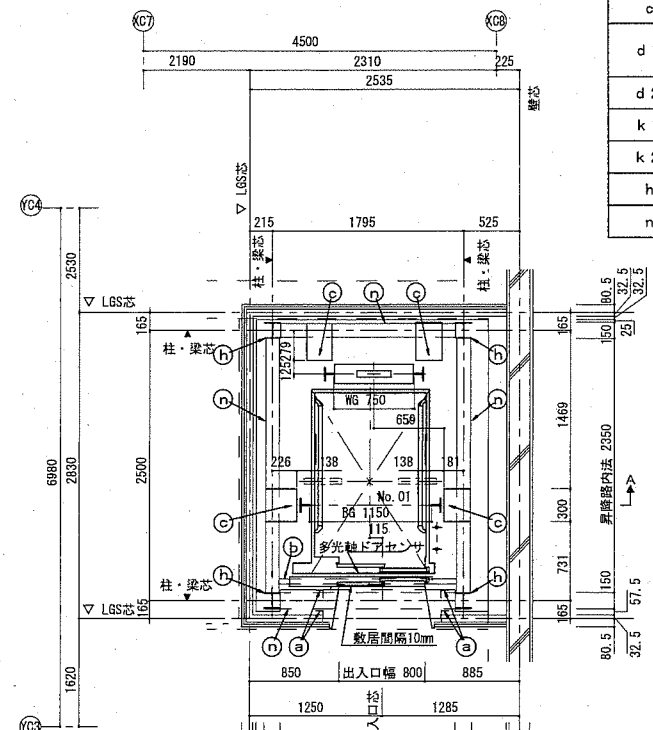
昇降路頂部平面図 S=1/50
(頂部: 4FL+2800)



昇降路頂部A-A断面図 S=1/50

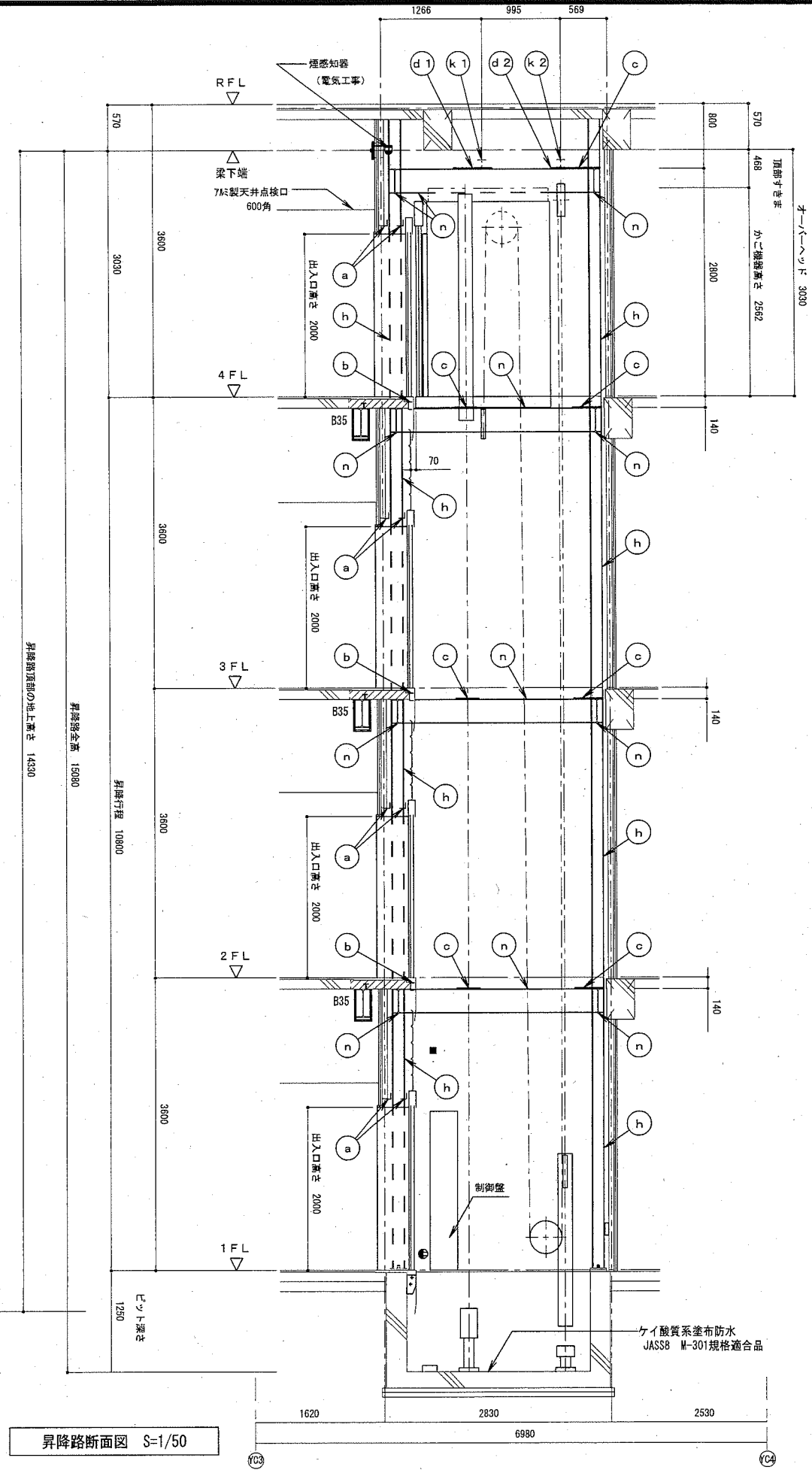


昇降路ピット平面図 S=1/50

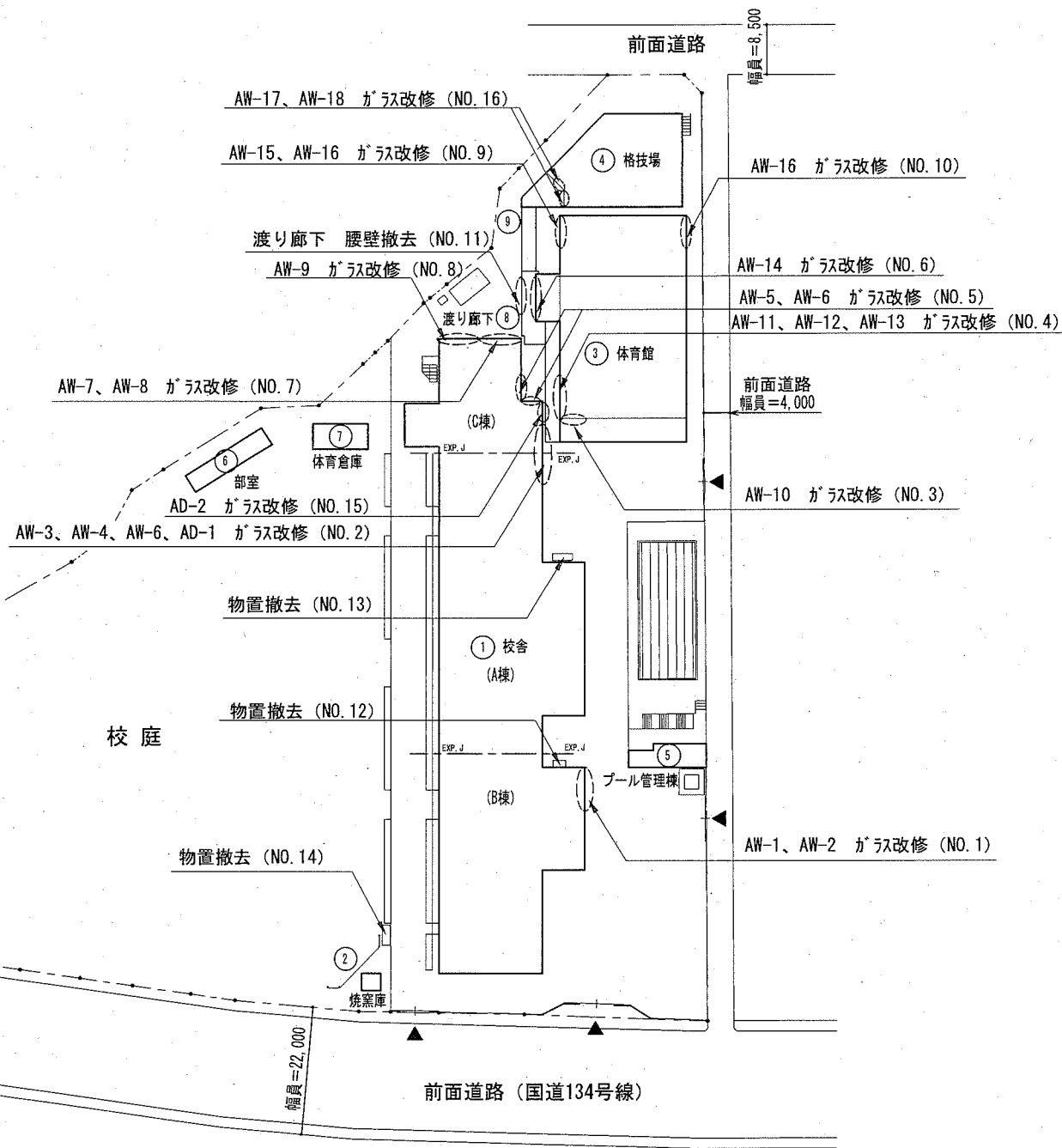
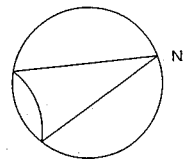


昇降路2~4階平面図 S=1/50

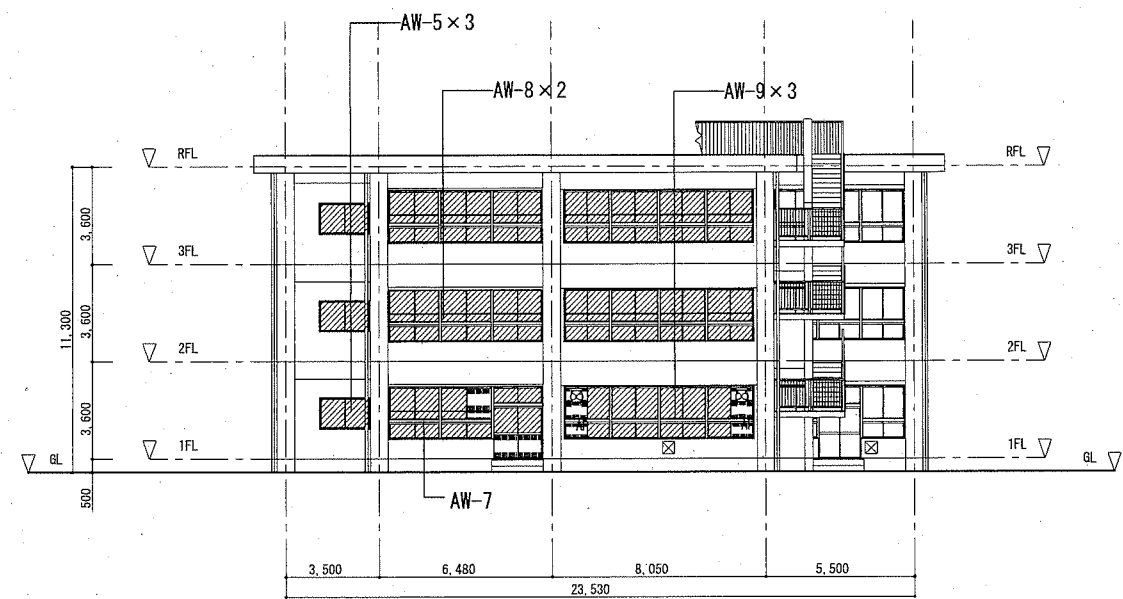
部材記号	名称	部材	工事区分
a	三方枠取付鋼材	L-75×75×6	建築工事
b	敷居取付材	[-100×50×5×7.5	建築工事
c	レールブラケット取付用ファスナー	PL-t12	建築工事
d1	レールブラケット取付用ファスナー兼 揚重ビーム取付用ファスナー	PL-t12	建築工事
d2	揚重ビーム取付用ファスナー	PL-t12	建築工事
k1	揚重ビーム (据付後撤去)	H-100×100×6×8	EV工事
k2	揚重ビーム	H-100×100×6×8	EV工事
h	EV支柱	H-150×150×7×10	建築工事
n	中間ビーム	H-250×125×6×9	建築工事



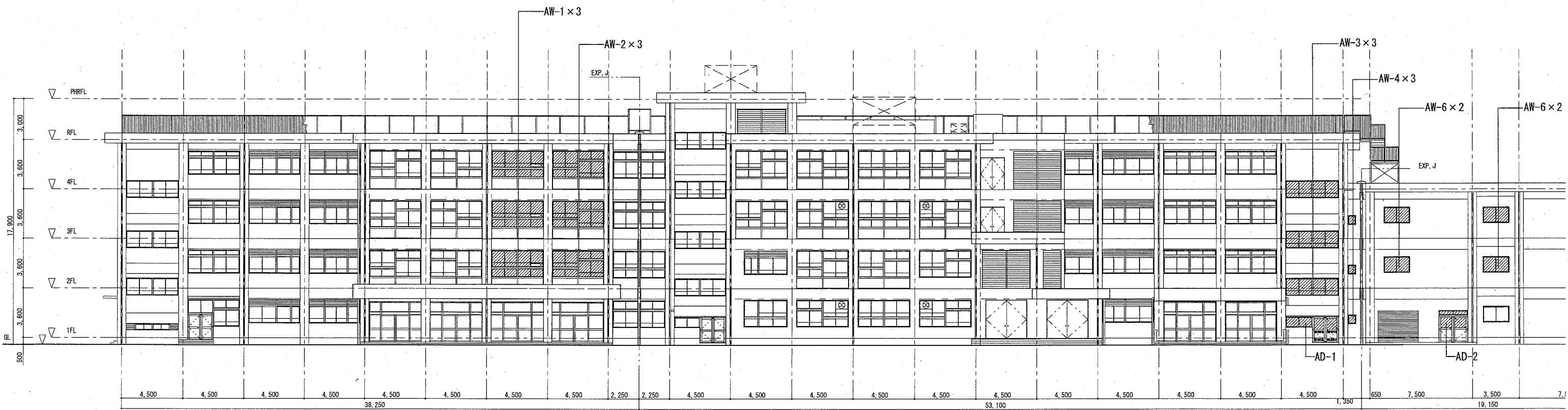
昇降路断面図 S=1/50



配置図 1/800



A棟 西面立面図 S=1/200

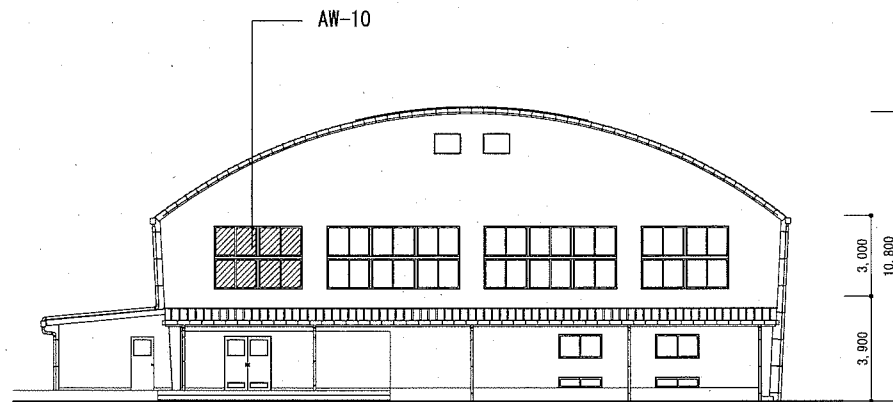


A、B、C棟 北面立面図 S=1/200

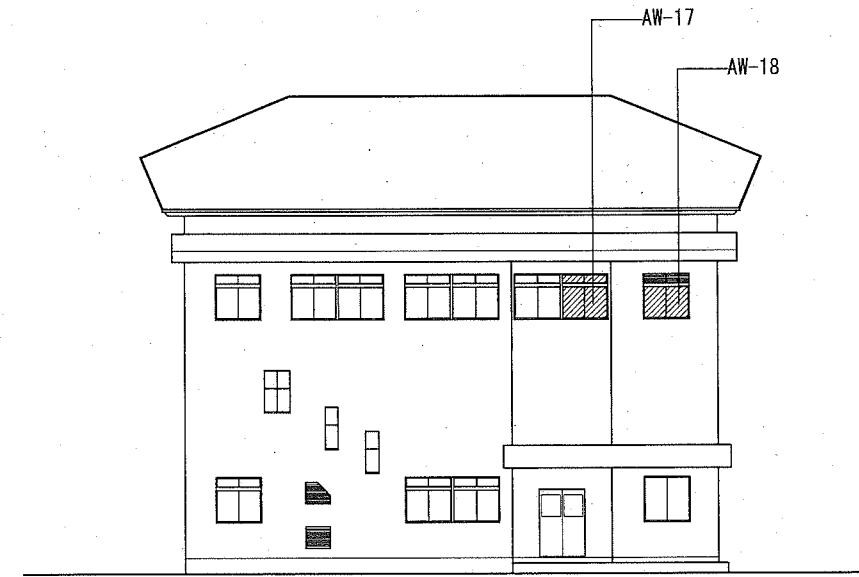
既存がガラス撤去し、透明網入りガラスt=6.8新設
(防火設備用シーリング共) (建具表参照)

公共建築課長	主査等	担当者	横須賀市 都市部 公共建築課
			設計年月日 令和 2年 2月

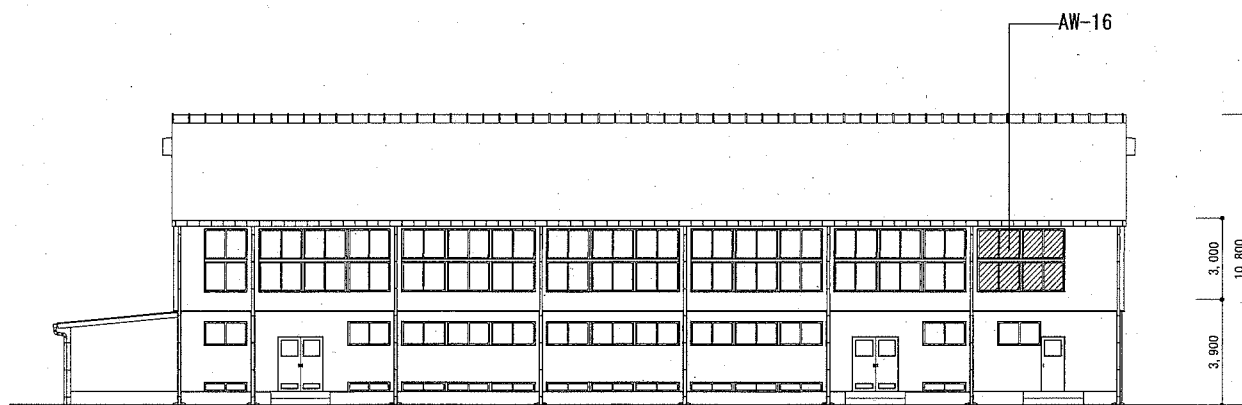
設計名称 NAME OF PROJECT	図面名称 ITEM OF DRAWING
市立大津中学校昇降機設置建築その他工事	既存建物改修 立面図 1
縮尺 1 : 200	
PROJECT NUMBER	DRAWING NUMBER



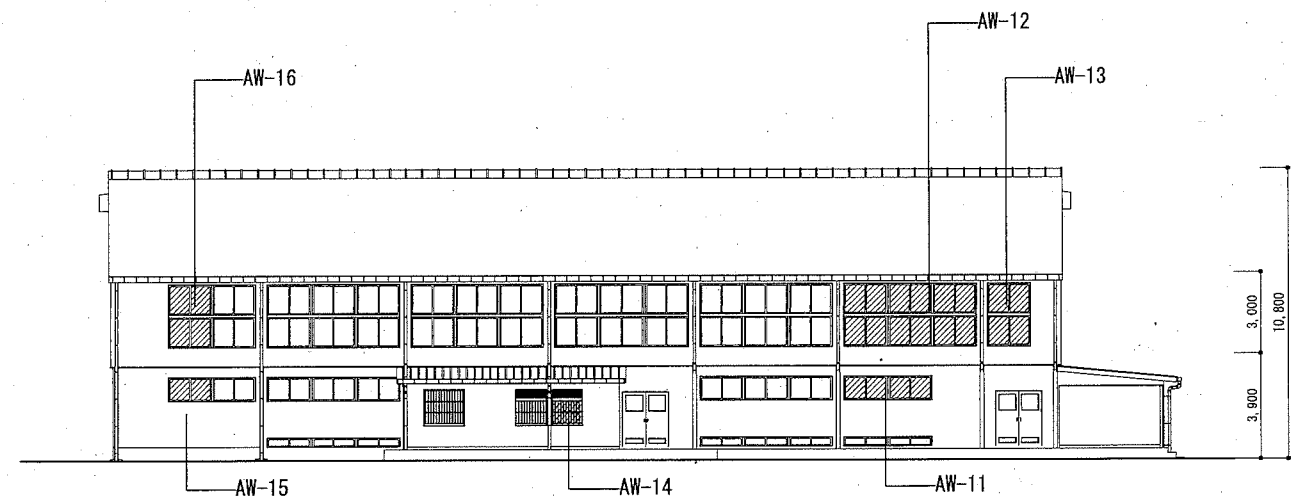
体育館 東面立面図 S=1/200



格技場 南面立面図 S=1/200



体育館 北面立面図 S=1/200

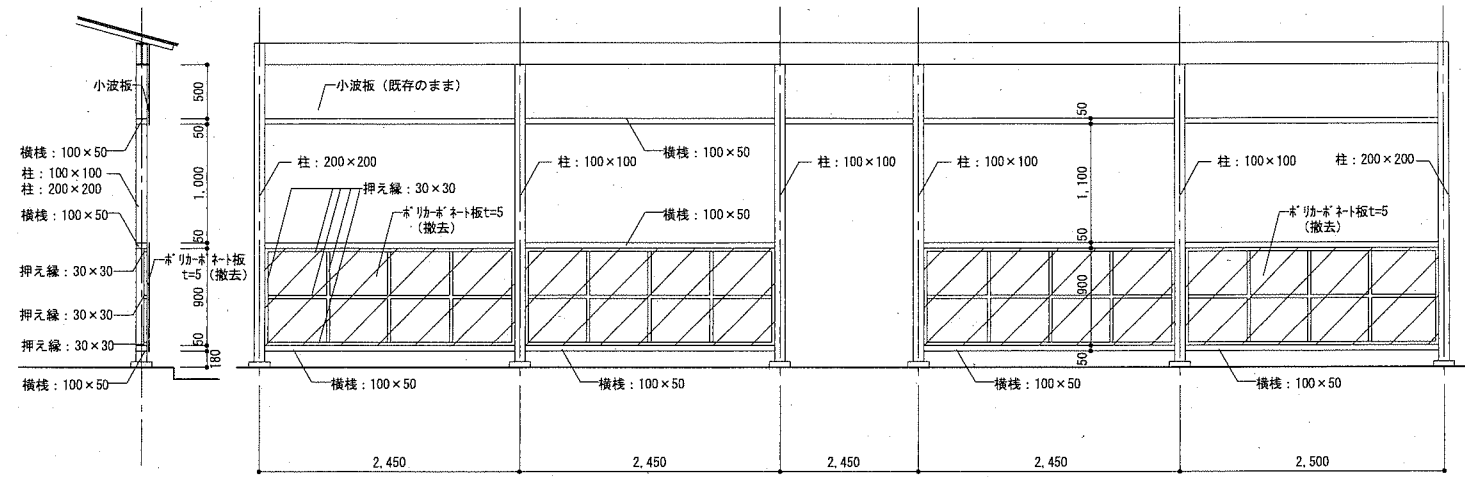


体育館 南面立面図 S=1/200

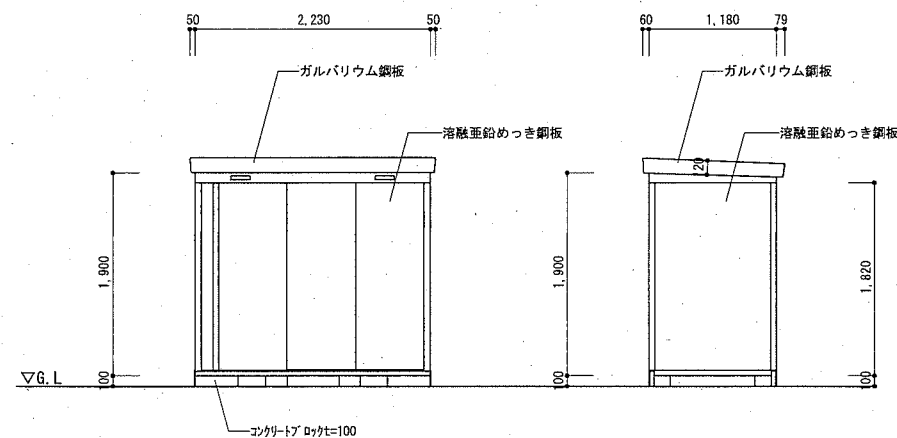
既存が撤去し、透明網入りガラス=6.8新設
(防火設備用シーリング共) (建具表参照)

記号・個数	AW-1 3か所	AW-2 3か所	AW-3 3か所	AW-4 3か所	AW-5 3か所	AW-6 4か所
取付場所	校舎 No1 B棟 2・3・4階	校舎 No1 B棟 2・3・4階	校舎 No2 A棟 2・3・4階	校舎 No2 A棟 1・2・3階	校舎 No5 A棟 1・2・3階	校舎 No2-5 C棟 2・3階
形状・寸法						
ガラス厚	透明ガラスt3+飛散防止フィルムの上撤去 透明網入りガラスt6.8+防火設備用シリング(内外共)	透明ガラスt3+飛散防止フィルムの上撤去 透明網入りガラスt6.8+防火設備用シリング(内外共)	透明ガラスt3+飛散防止フィルムの上撤去 透明網入りガラスt6.8+防火設備用シリング(内外共)	同左	透明ガラスt3+飛散防止フィルムの上撤去 透明網入りガラスt6.8+防火設備用シリング(内外共)	透明ガラスt3+飛散防止フィルムの上撤去 透明網入りガラスt6.8+防火設備用シリング(内外共)
記号・個数	AW-7 1か所	AW-8 2か所	AW-9 3か所			
取付場所	校舎 No7 C棟 1階	校舎 No7 C棟 2・3階	校舎 No8 C棟 1・2・3階			
形状・寸法						
ガラス厚	透明ガラスt3+飛散防止フィルムの上撤去 透明網入りガラスt6.8+防火設備用シリング(内外共)	透明ガラスt3+飛散防止フィルムの上撤去 透明網入りガラスt6.8+防火設備用シリング(内外共)	透明ガラスt3+飛散防止フィルムの上撤去 透明網入りガラスt6.8+防火設備用シリング(内外共)			
記号・個数	AW-10 1か所	AW-11 1か所	AW-12 1か所	AW-13 1か所	AW-14 1か所	AW-15 1か所
取付場所	体育館 No3 2階(キョウケイ部)	体育館 No4 1階	体育館 No4 2階(キョウケイ部)	体育館 No4 2階(キョウケイ部)	体育館 No6 1階	体育館 No9 1階
形状・寸法						
ガラス厚	透明ガラスt3+飛散防止フィルムの上撤去 透明網入りガラスt6.8+防火設備用シリング(内外共)	透明ガラスt3+飛散防止フィルムの上撤去 透明網入りガラスt6.8+防火設備用シリング(内外共)	透明ガラスt3+飛散防止フィルムの上撤去 透明網入りガラスt6.8+防火設備用シリング(内外共)	同左	同左	透明ガラスt3+飛散防止フィルムの上撤去 透明網入りガラスt6.8+防火設備用シリング(内外共)
記号・個数	AW-16 計:2か所	AW-17 1か所	AW-18 1か所	AD-1 1か所	AD-2 1か所	
取付場所	体育館 No9 2階(キョウケイ部):1か所	体育館 No10 2階(キョウケイ部):1か所	格技場 No16 2階	格技場 No16 2階	校舎 No2 A棟 1階	校舎 No15 A棟 1階
形状・寸法						
ガラス厚	透明ガラスt3+飛散防止フィルムの上撤去 透明網入りガラスt6.8+防火設備用シリング(内外共)	透明ガラスt3+飛散防止フィルムの上撤去 透明網入りガラスt6.8+防火設備用シリング(内外共)	透明ガラスt3+飛散防止フィルムの上撤去 透明網入りガラスt6.8+防火設備用シリング(内外共)	透明ガラスt3+飛散防止フィルムの上撤去 透明網入りガラスt6.8+防火設備用シリング(内外共)	透明ガラスt3+飛散防止フィルムの上撤去 透明網入りガラスt6.8+防火設備用シリング(内外共)	透明ガラスt3+飛散防止フィルムの上撤去 透明網入りガラスt6.8+防火設備用シリング(内外共)

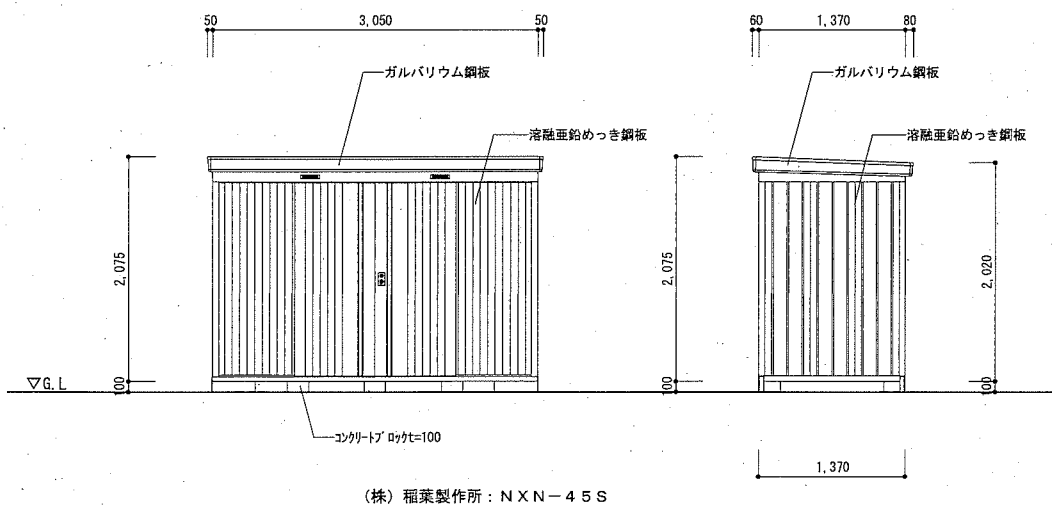
No11 渡り廊下 腰壁撤去



No12 物置撤去

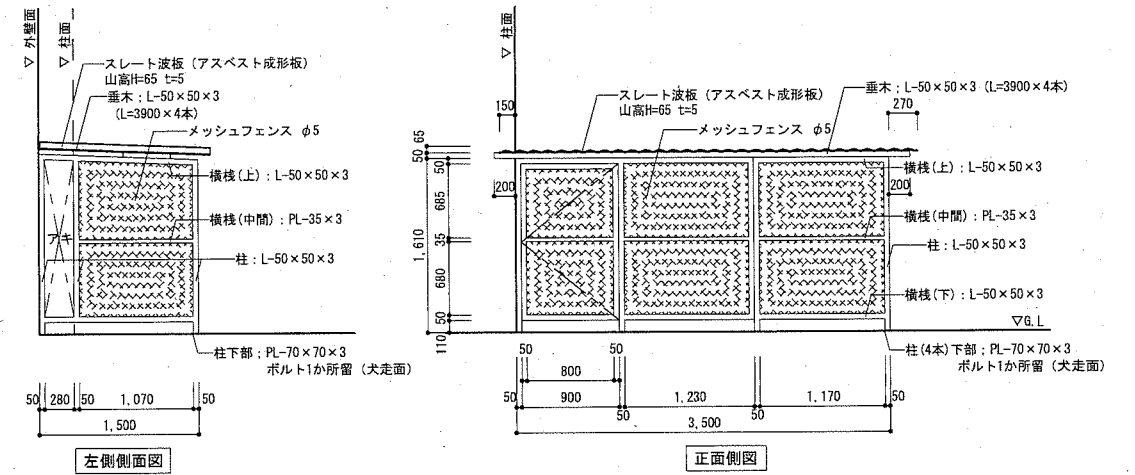


No14 物置撤去

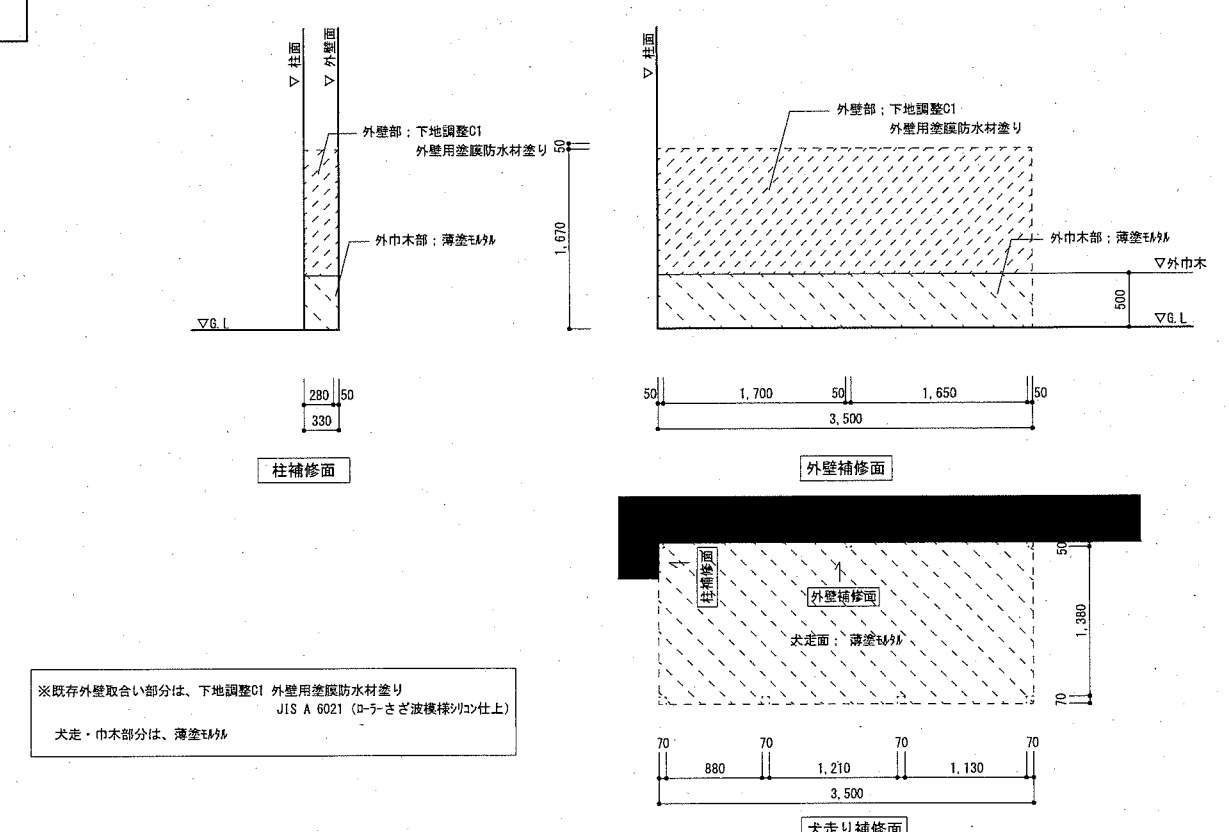
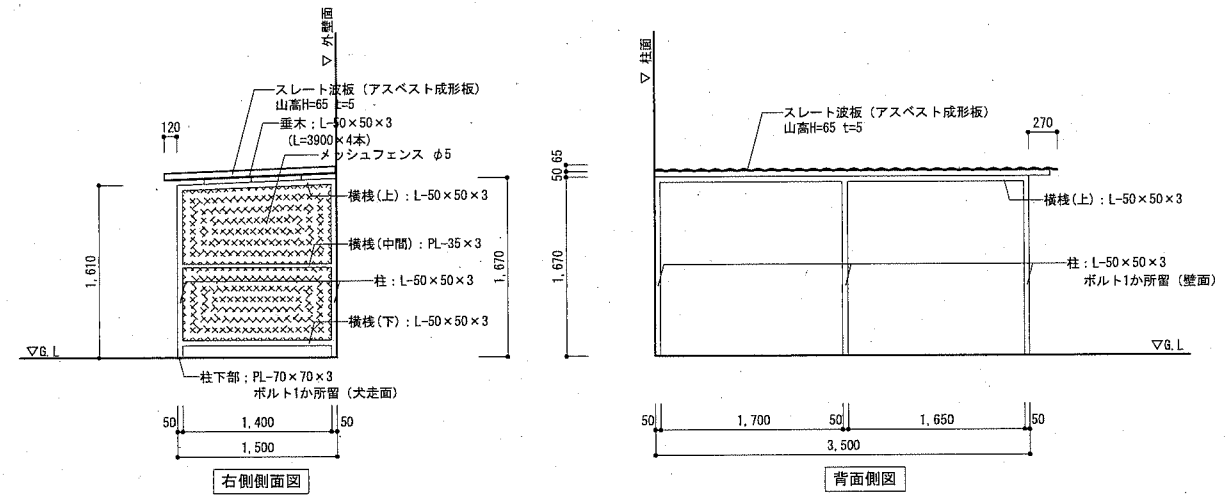


No13 物置撤去

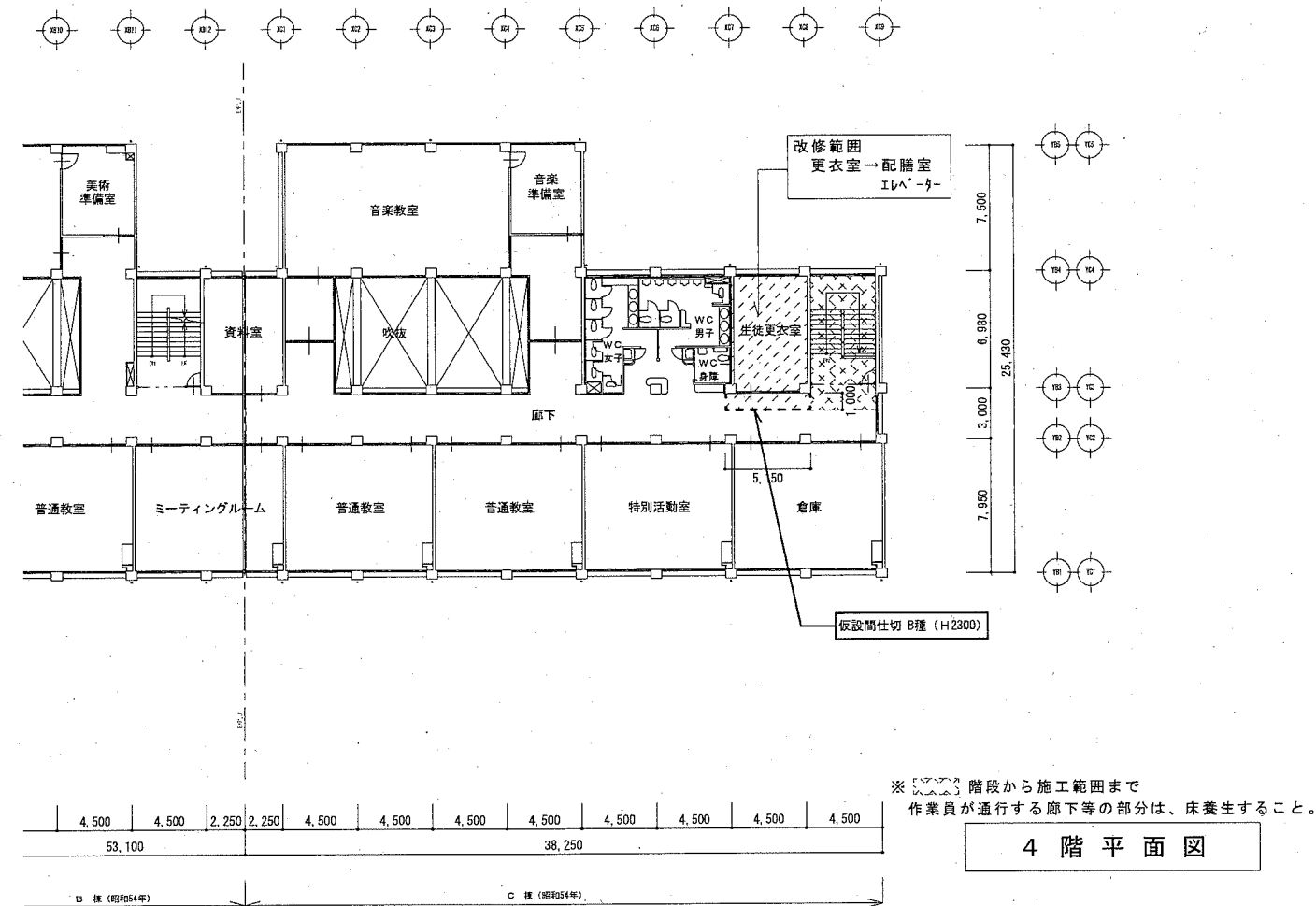
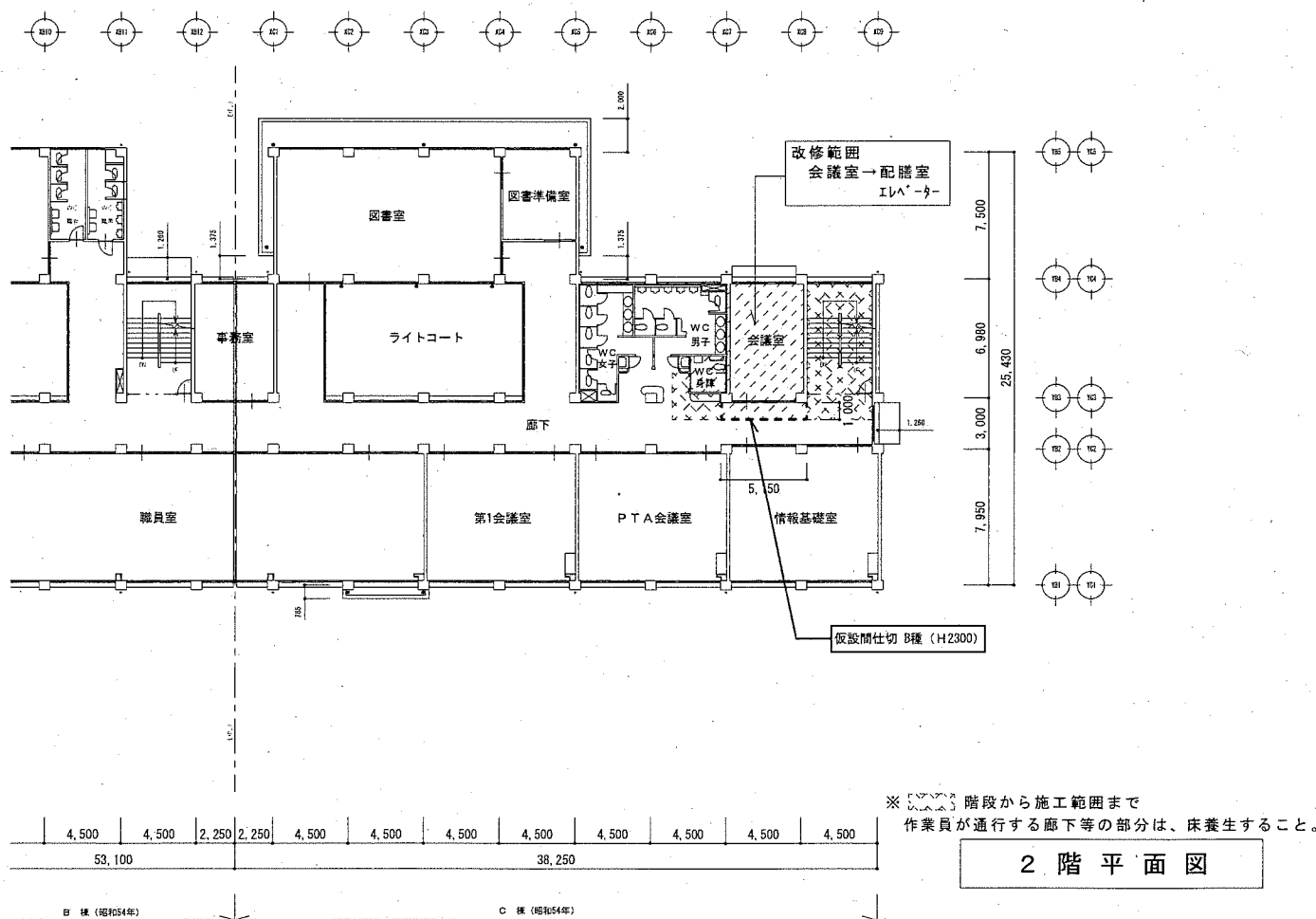
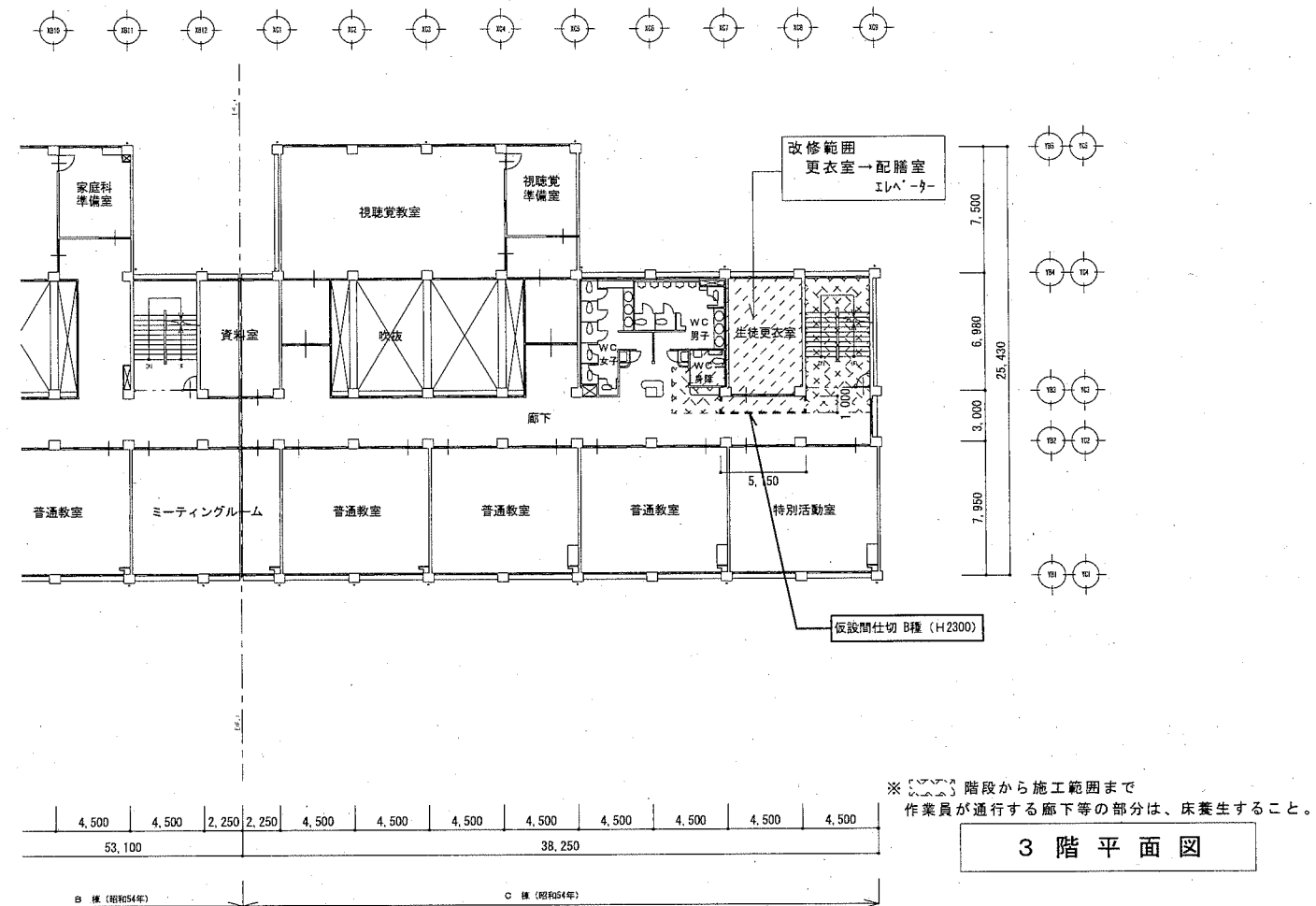
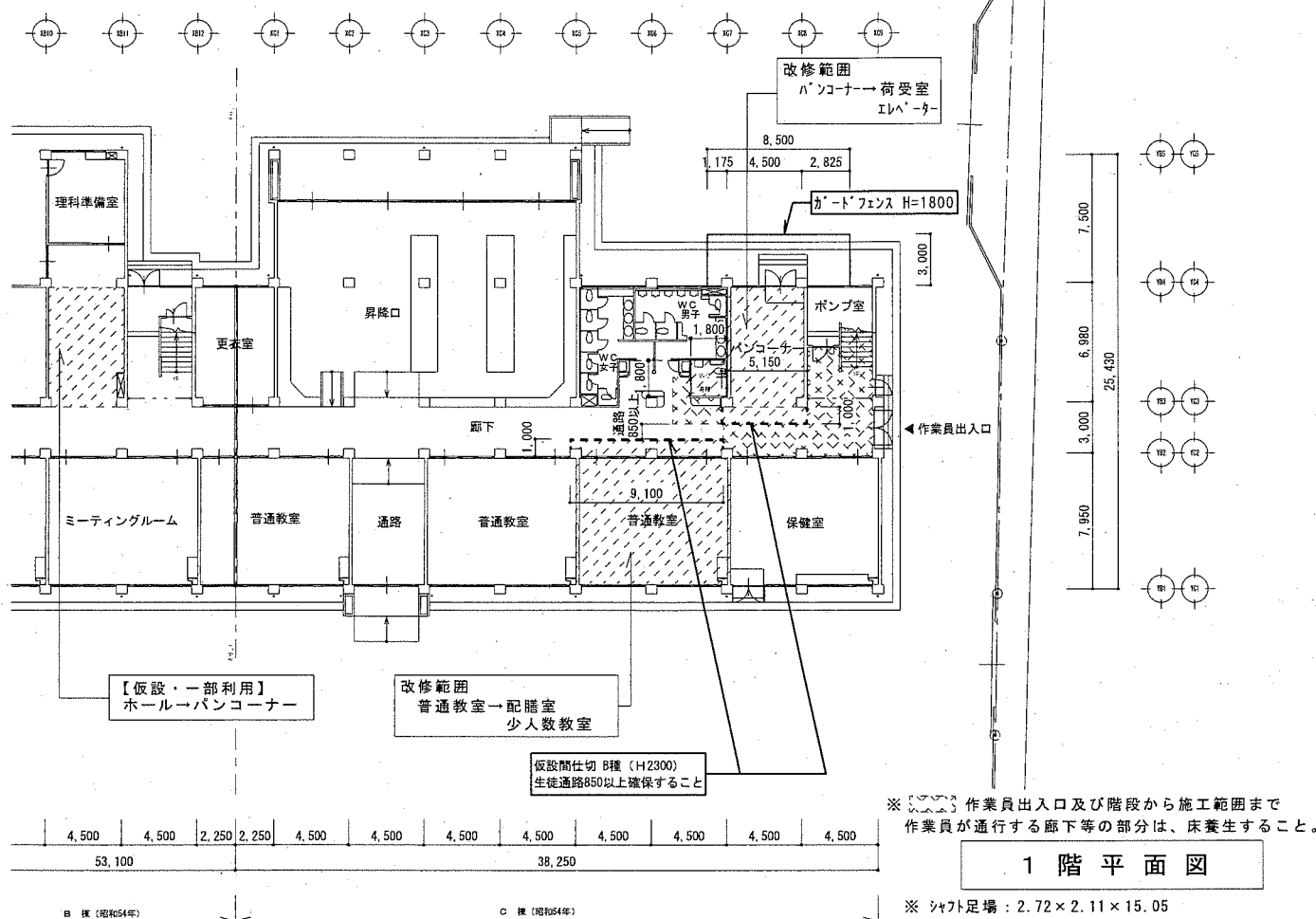
改修前

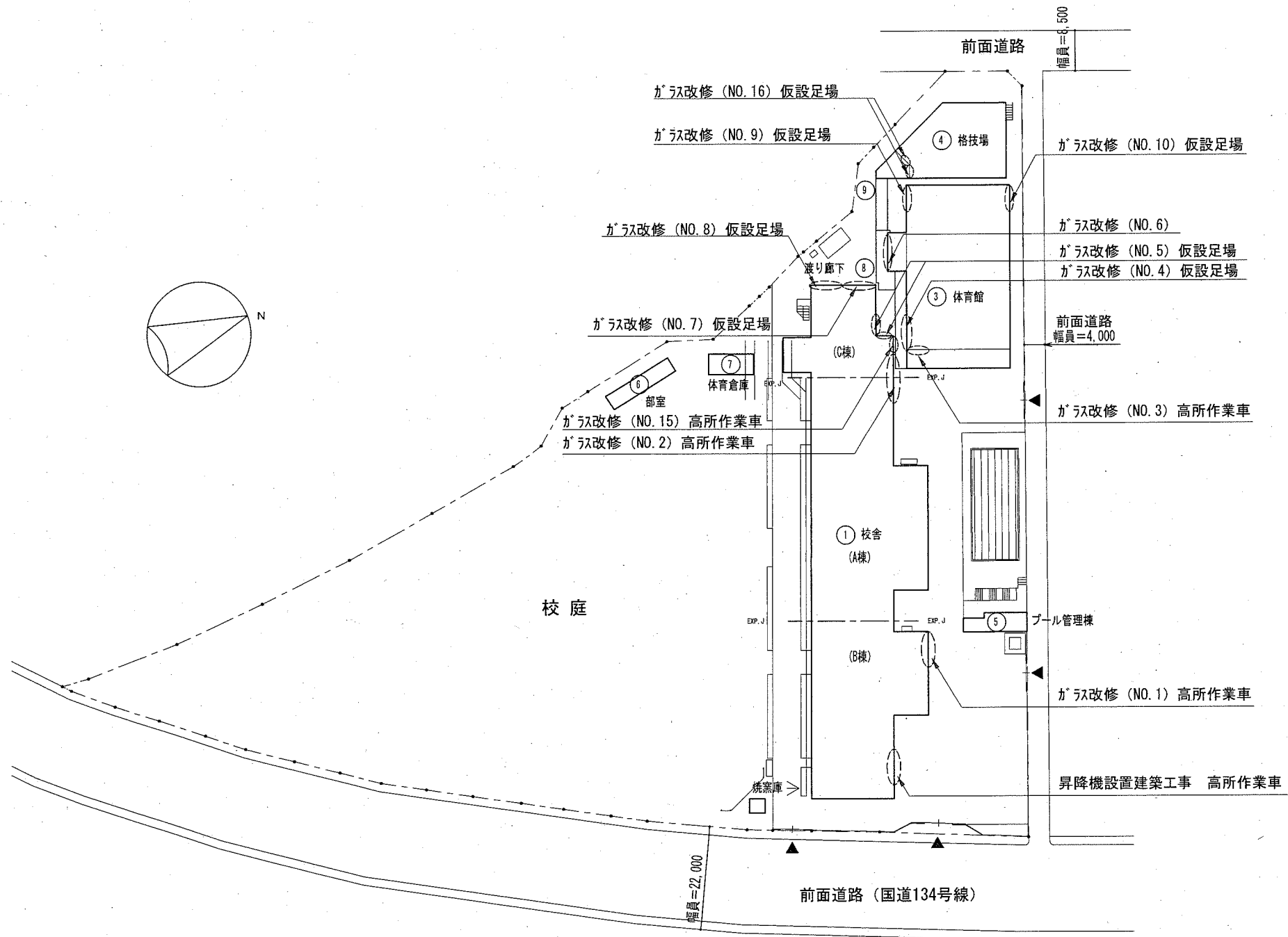


改修後

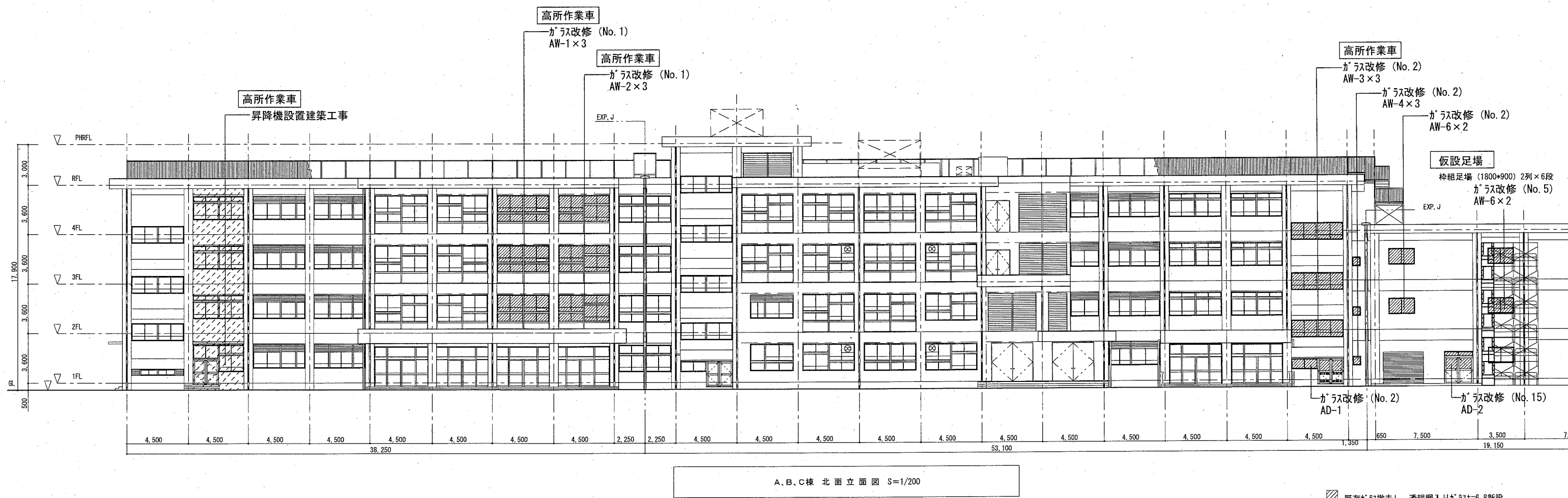
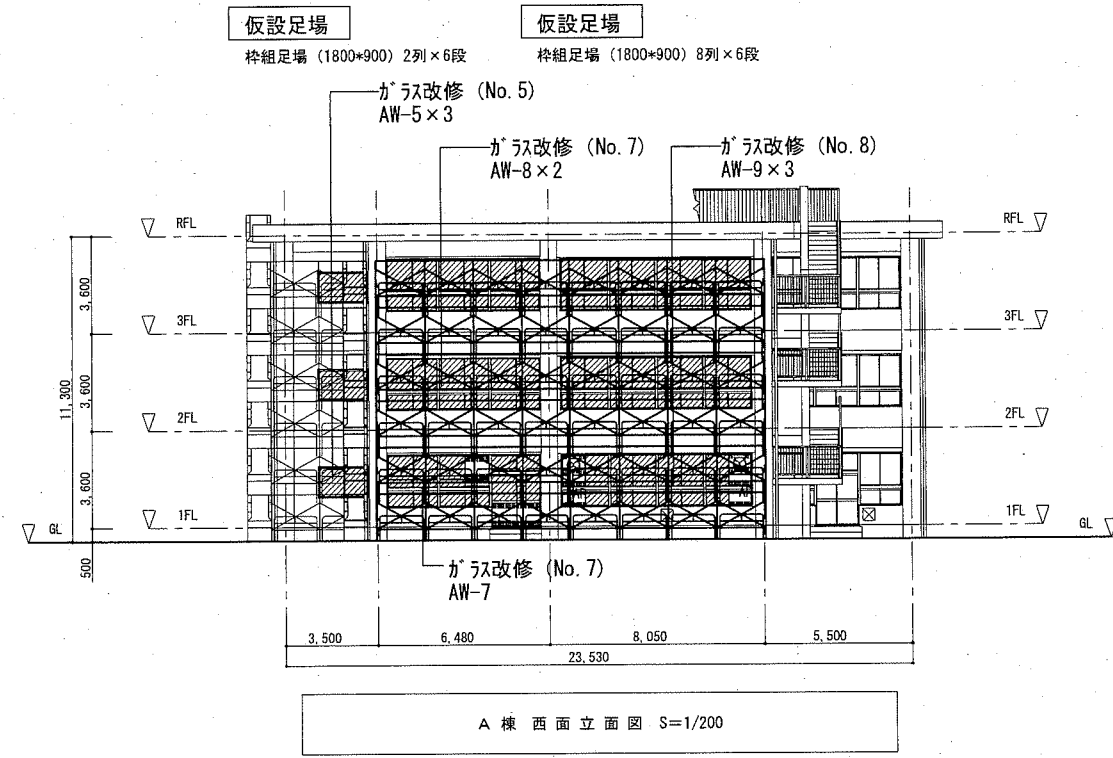


※既存外壁取合い部分は、下地調整C1 外壁用遮断防水材塗り
JIS A 6021 (D-5-さざ波模様シラ)仕上)
犬走・巾木部分は、薄塗タタキ



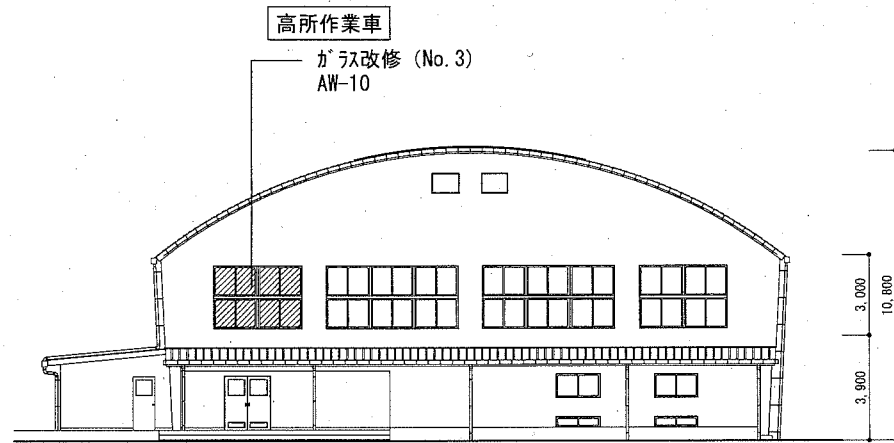


配置図 1/800

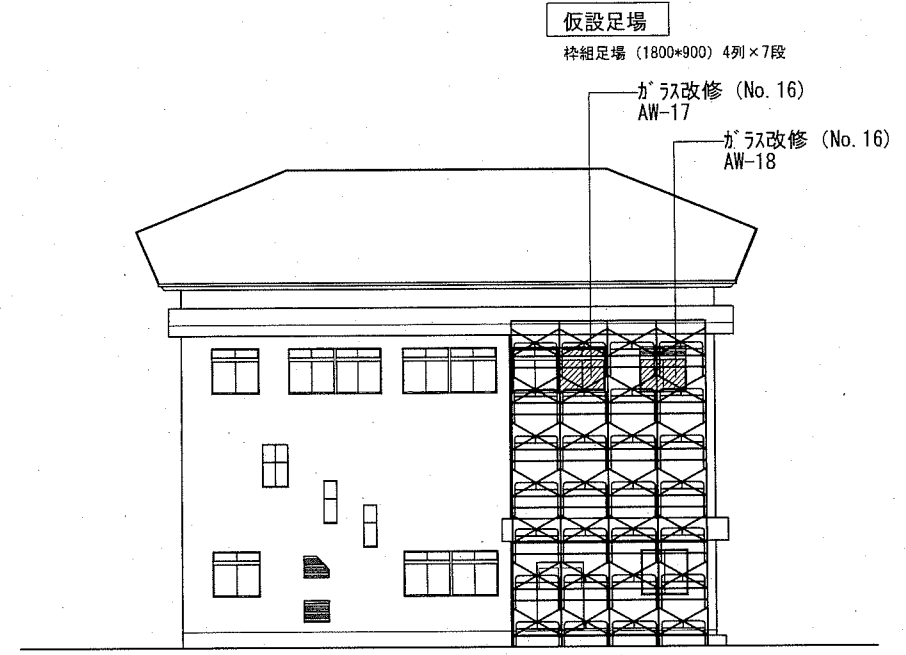


既存ガラス撤去し、透明網入りガラスt=6.8新設
(防火設備用シーリング共) (建具表参照)

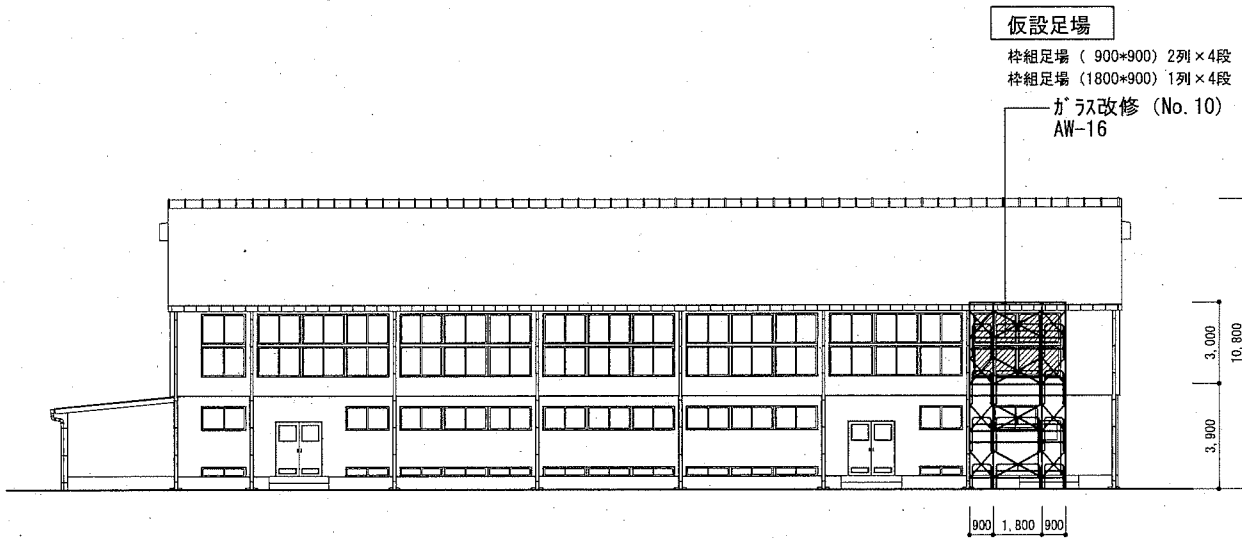
公共建築課長	主査等	担当者	横須賀市 都市部 公共建築課	設計名称 NAME OF PROJECT	図面名称 ITEM OF DRAWING	K-03
			設計年月日 令和 2年 2月	市立大津中学校昇降機設置工事その他工事	仮設計画図3 (参考用)	
				縮尺 1 : 200	縮尺 1 : 200	



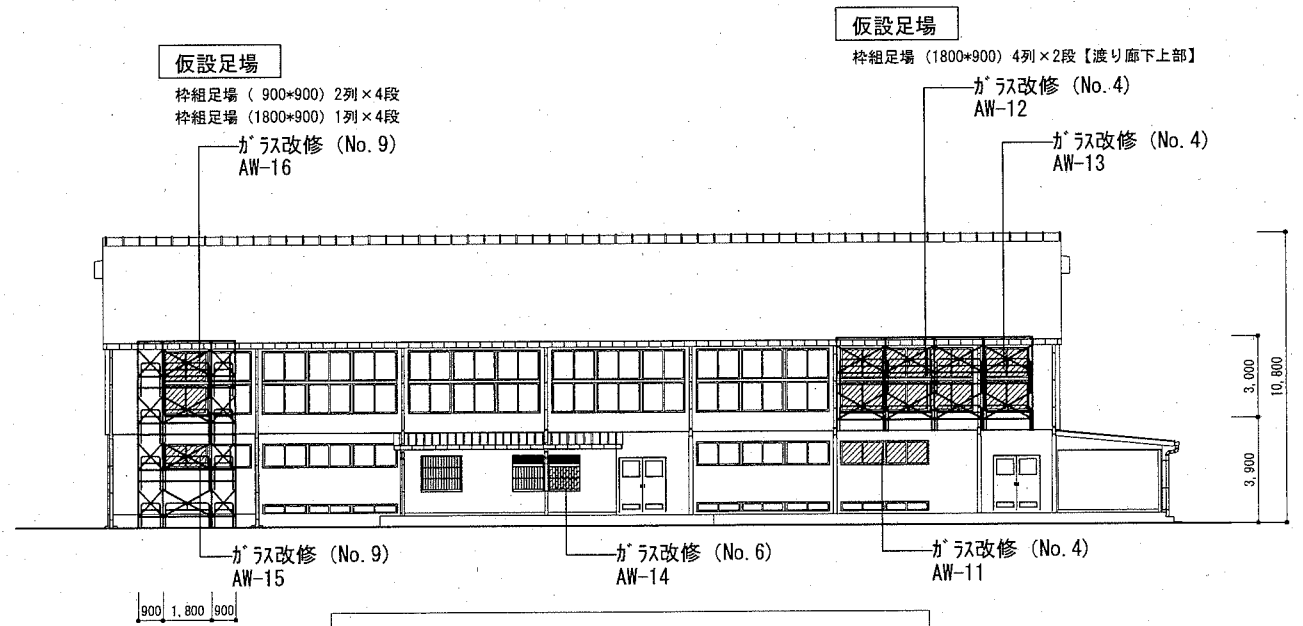
体育館 東面立面図 S=1/200



格技場 南面立面図 S=1/200



体育館 北面立面図 S=1/200



体育館 南面立面図 S=1/200

既存ガラス撤去し、透明網入りガラス=6.8新設
(防火設備用シーリング共) (建具表参照)

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

1. 一般事項

- 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- 記号
 - d...異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D...部材の成 R...直径
 - @...間隔 r...半径 C...中心線 lo部材の内寸法距離 ho...部材間の内法高さ
 - ST...あばら筋 HOOP...帯筋 S. HOOP...補強帯筋 φ...直径又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり ※JASS5(2009)による。

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°はスラブ、鉄筋の末端部はスラブに固定打ち込み形とし、鉄筋のキャッチタイにのみ用いる。
鉄筋の寸法	4d以上	6d以上 ※4d以上	8d以上 ※4d以上	キャッチタイ
折曲げ寸法Rは、SR235は3d以上、SD295A、SD295B、SD345のD16以下は、3d以上、D19以上は4d以上	※片側スラブ、L配筋の先端			

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋折り曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げの内寸法(R)
帯筋 あばら筋 スパイラル筋	筋	SR235, SR295	16φ以下	3d以上
		SD295A, SD295B, SD345	19φ以上	4d以上
上記以外の鉄筋	筋	SD295A, SD295B, SD345, SD390	D16以下	4d以上
			D19~D25	6d以上
			D29~D41	8d以上

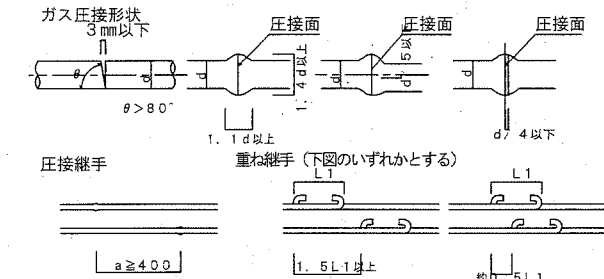
(3) 鉄筋の定着及び重ね継手長さ

鉄筋の種類	普通、経量コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ(L1)
		一般(L2)	下地(L3)	
SR235	21, 24	25dフック付	150mmフック付	25dフック付
SD295A	27~36	30dフック付	150mmフック付	35dフック付
SD295B	21, 24	35dフック付	10dかつ150mm以上	40dかつ30d以上
SD345	18d付	40dフック付	10dかつ150mm以上	45dかつ35d以上
SD390	27~36	35dフック付	10dかつ150mm以上	40dかつ35d以上

(注) 許容応力度計算、許容応力度等計算、(ルート1)、その他構造計算を要さない小規模建築物の場合は、梁主筋の柱への定着は4dとする

継手

- 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
- 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない



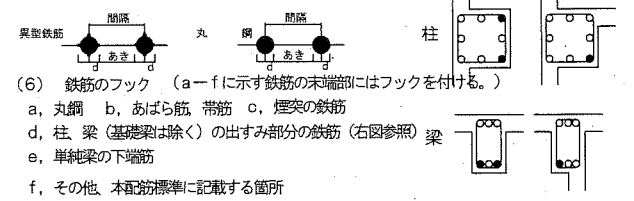
(4) かぶり厚さ (単位:mm)

部	位	設計がかり厚さかかぶり厚さ(mm)	
		設計がかり厚さ	かぶり厚さ
土に接しない部分	屋外	30	20
	屋内	40	30
土に接する部分	柱・はり・スラブ・耐力壁	50	40
	基礎・擁壁	70	60

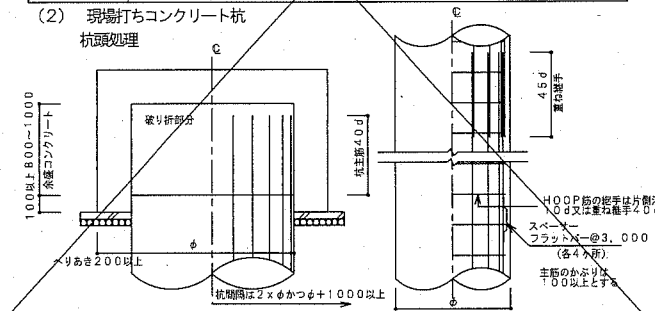
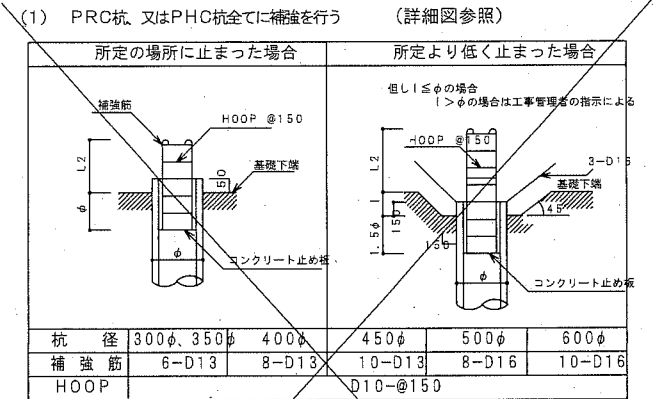
※ 既基礎の場合のかぶり厚さは既基礎からとする。

(5) 鉄筋のあき

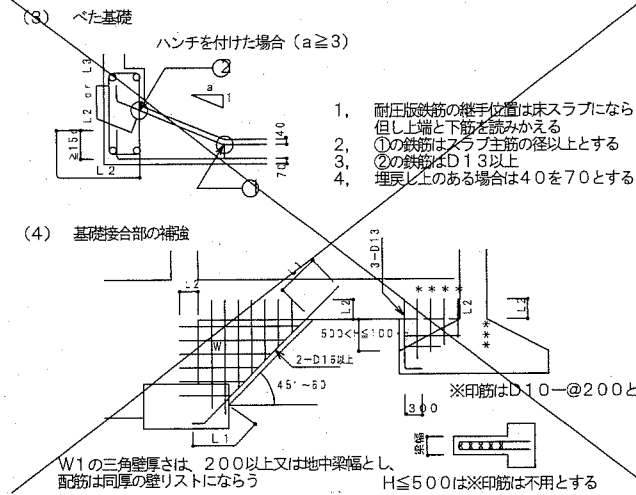
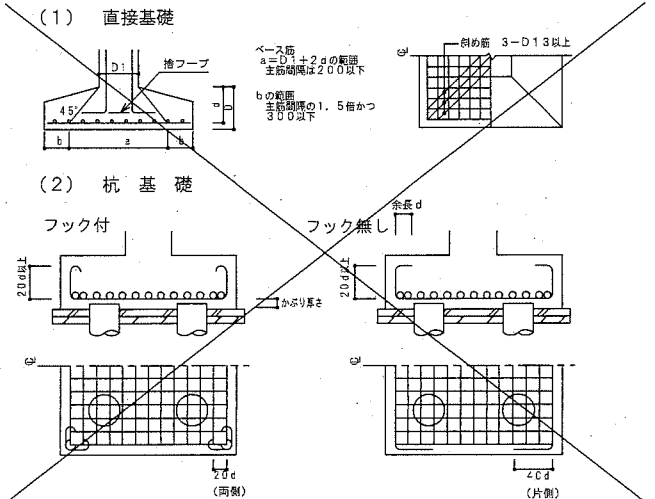
丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上 図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



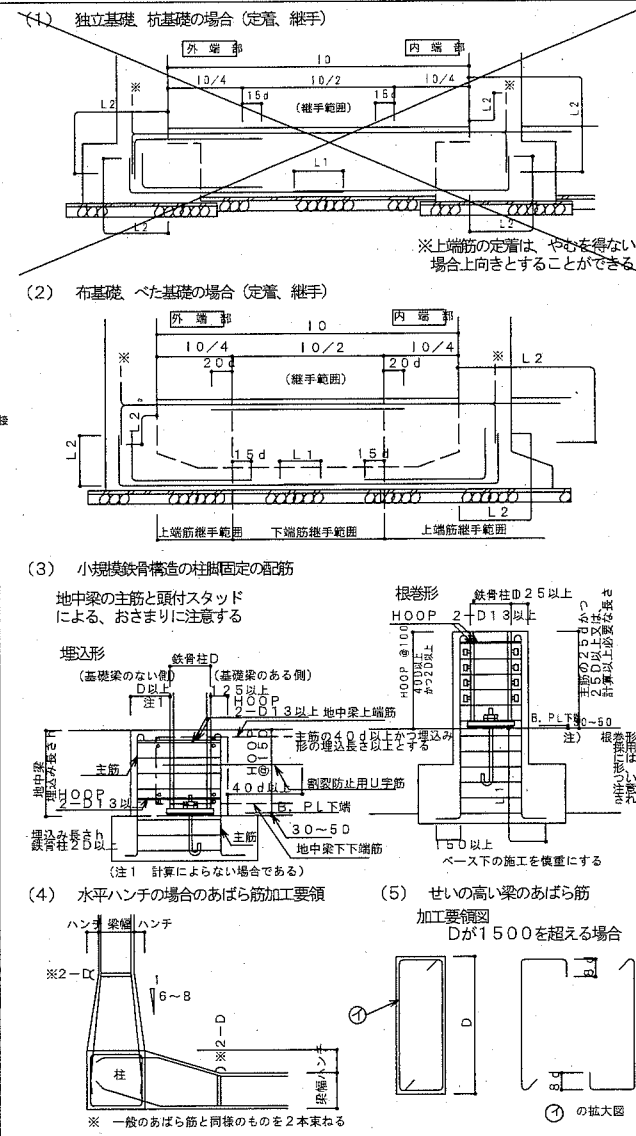
3. 杭 (地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)



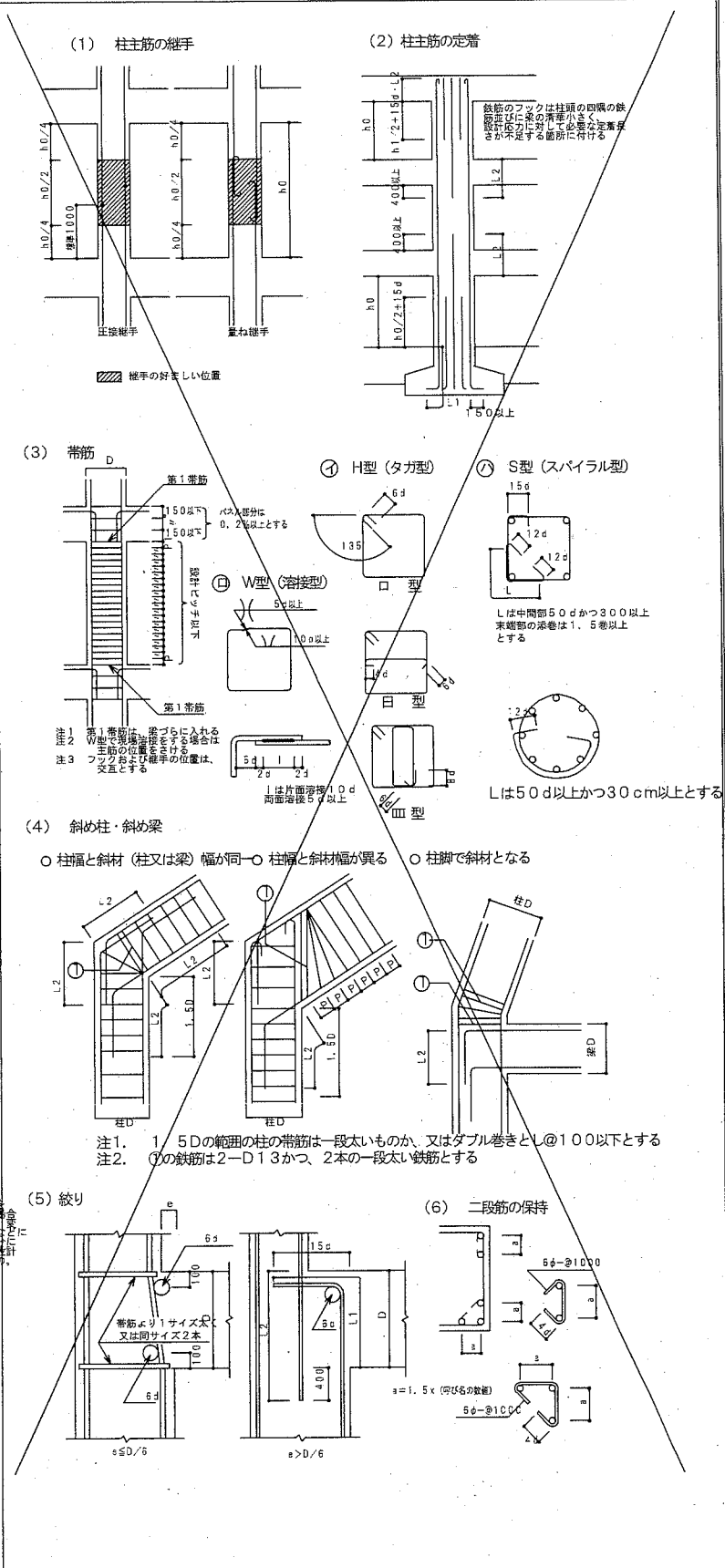
4. 基礎



5. 地中梁



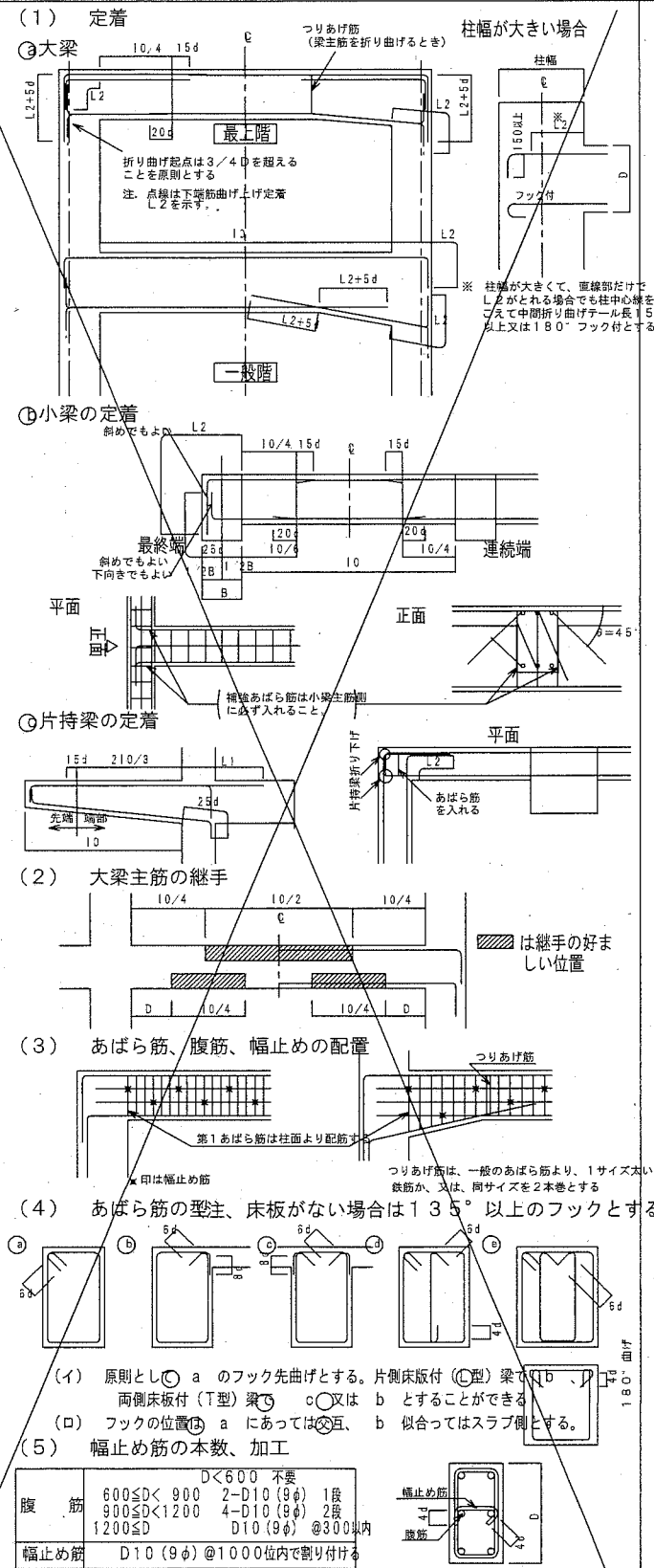
6. 柱



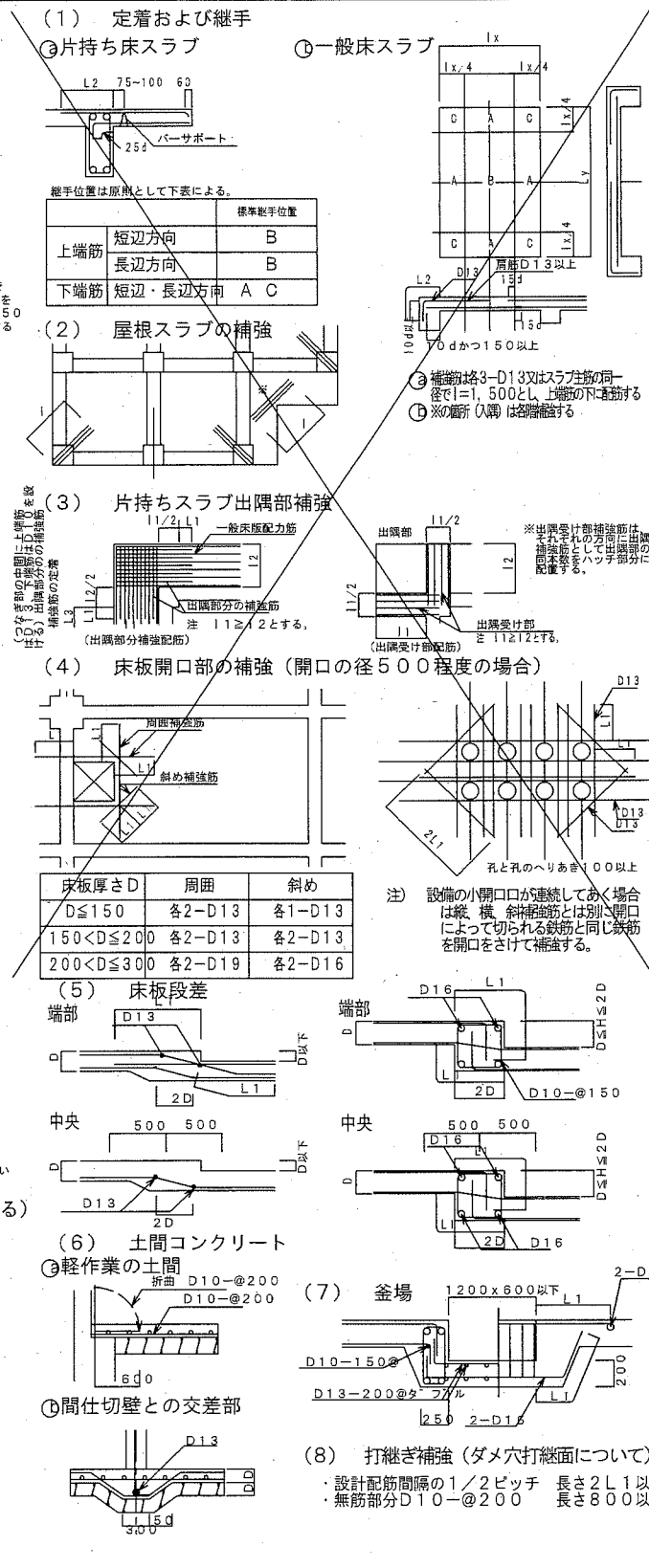
鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

L=鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

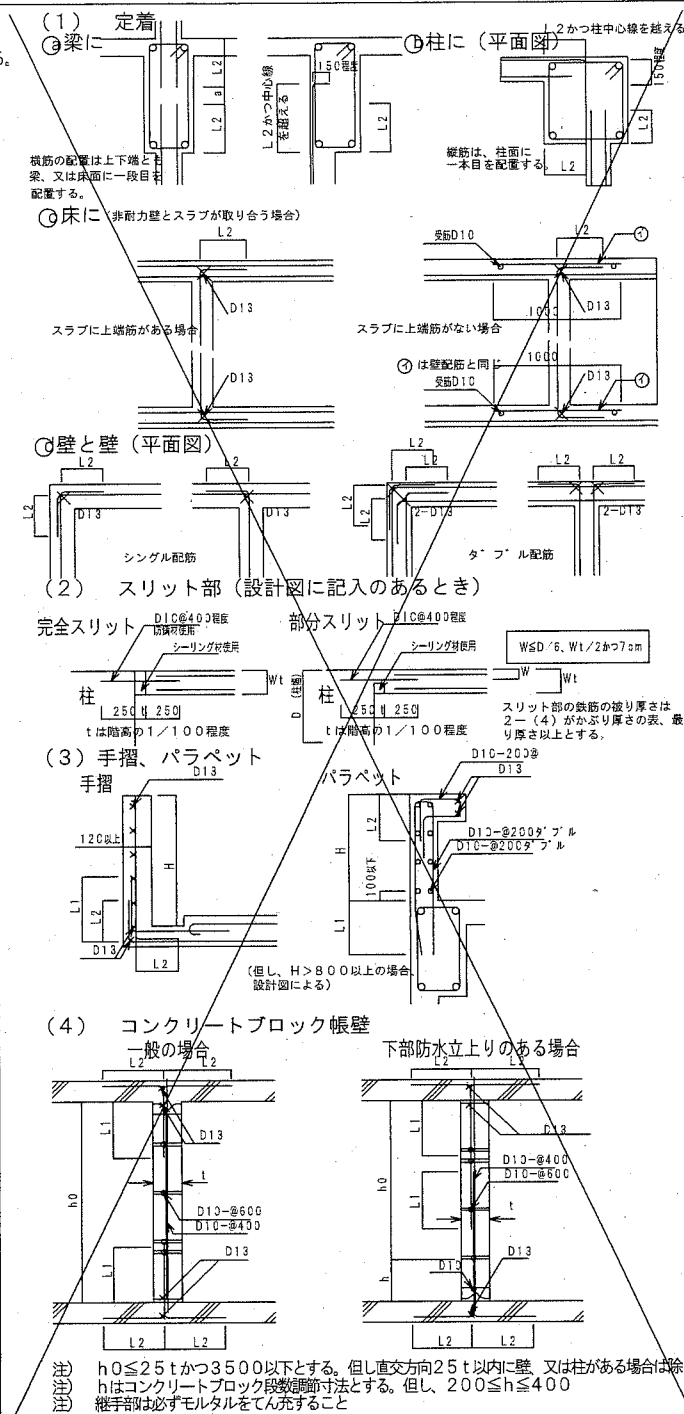
7. 大梁、小梁、片持梁



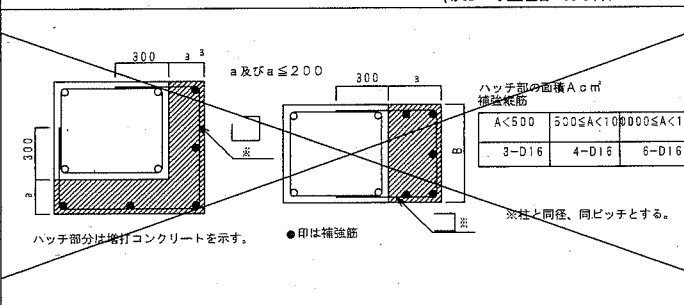
8. 床板



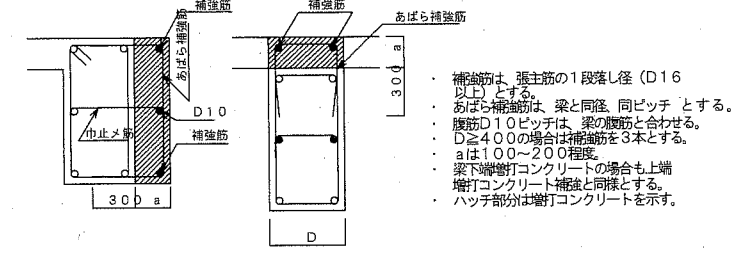
9. 壁



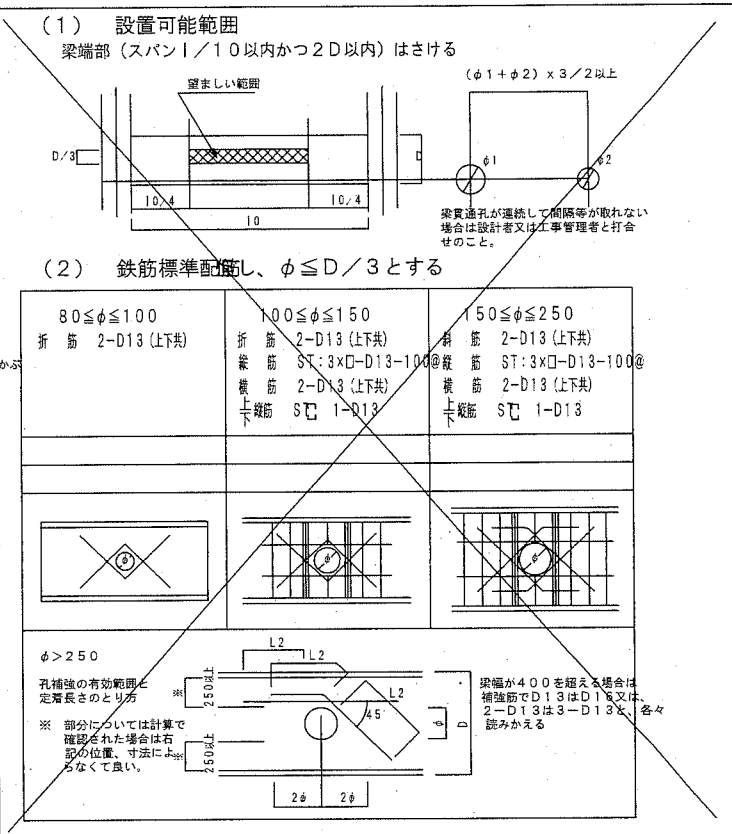
10. 柱、梁増打コンクリート補強 (増打するときは事前に設計者、及び工事管理者と打ち合わせのこと)



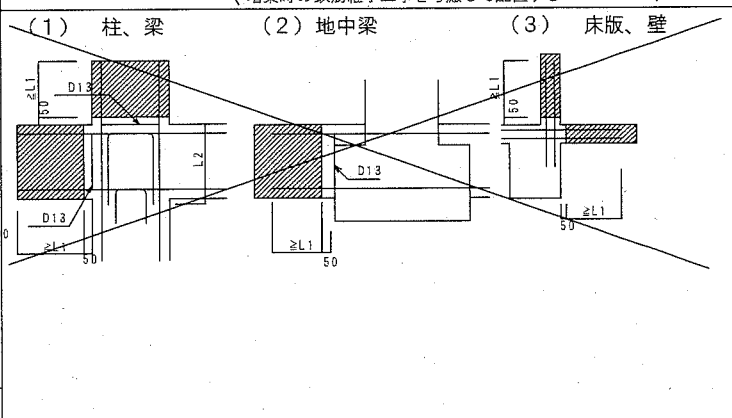
(2) 梁



11. 梁貫通孔補強

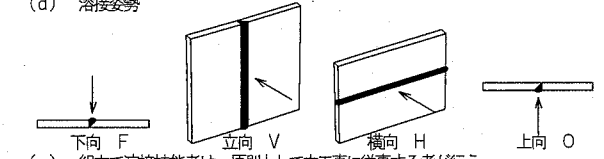
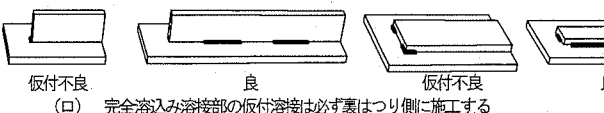
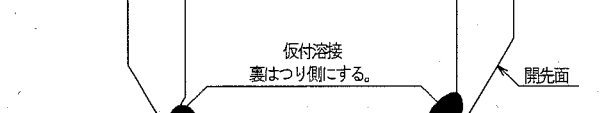
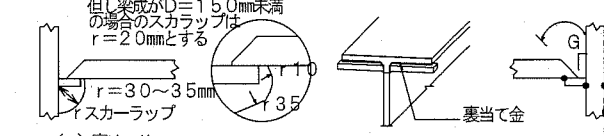


12. 増築予定 (将来増築予定のコンクリート間仕切り部分、増築時の鉄筋継手工事を考慮して配置する)



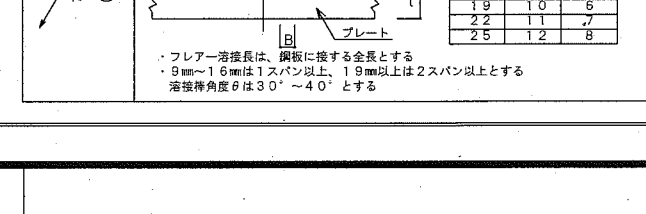
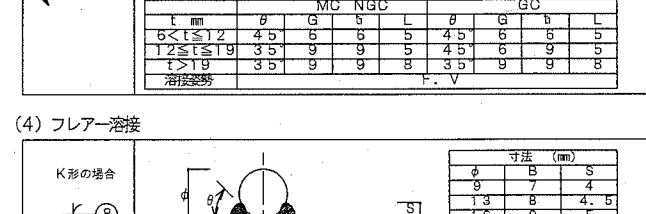
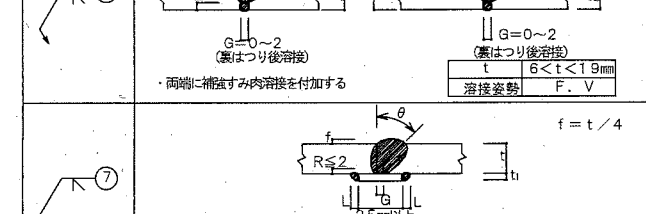
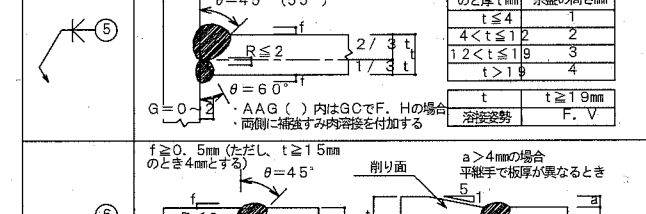
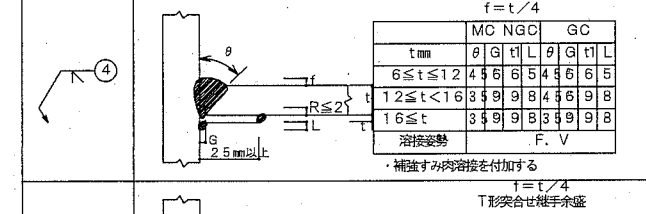
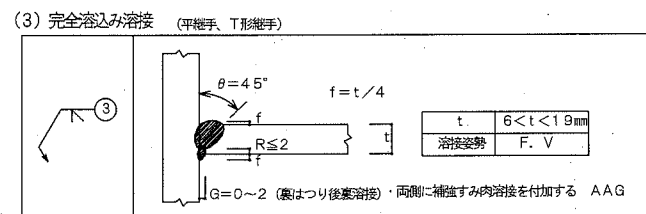
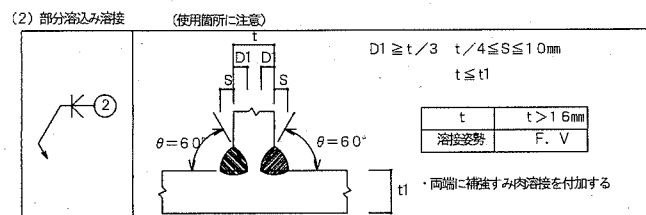
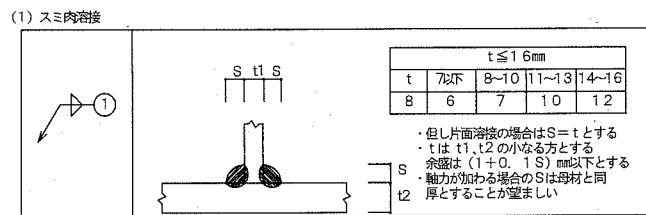
鉄骨構造標準図(1)

1. 一般事項

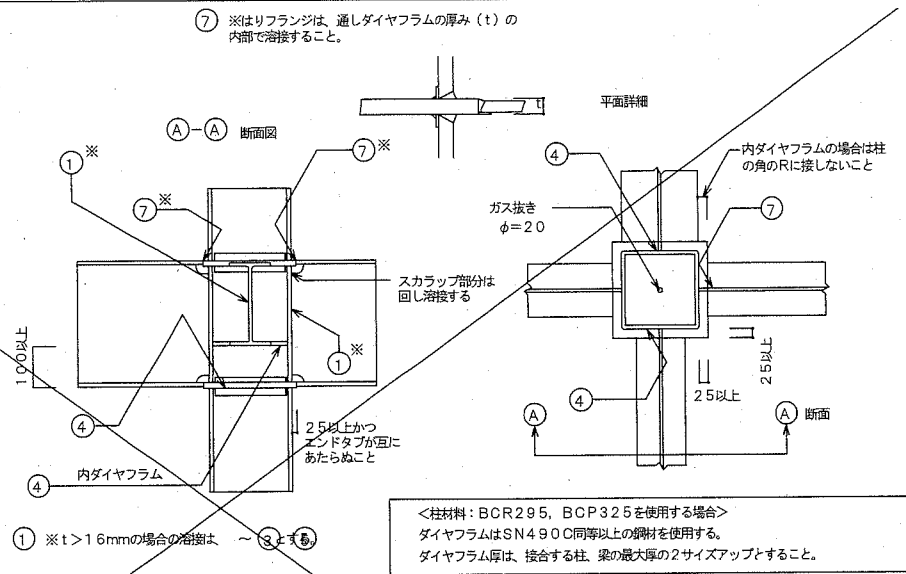
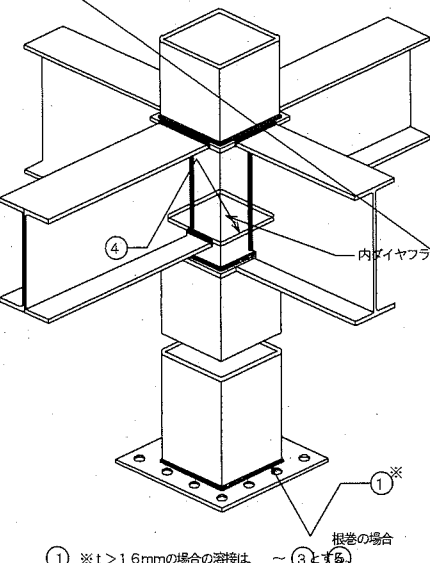
- (1) 材料及び検査
- 構造設計仕様による
 - 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
 - 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する
- (2) 工作一般
- 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し、工事監督者の承認を得る
 - 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
 - 高張力鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする
- (3) 高力ボルト接合
- 本構めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
- (4) 溶接接合
- (a) 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適合する JIS Z3801(手溶接)又は JIS Z3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し、半年以上溶接に従事している者とする
- (b) 溶接機器
- 交流アーク溶接機 300A~500A
 - 炭酸ガスアーク半自動溶接機
 - アークエアークラウジング機(直流)
 - 溶接電流を測定する電流計
 - サブマージアーク溶接機1式
 - 溶接棒乾燥器
- (c) 溶接方法
アーク手溶接(MC) ガスシールドアーク半自動溶接(GC)
セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接(NGC) アークエアークラウジング(AAG)
- (d) 溶接姿勢
- 
- (e) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
- (イ) 仮付位置
組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける
- 
- (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する
- 
- (f) 溶接施工
- (イ) エンドタブ
- 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の高端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
 - エンドタブの材質は、母材と同質とする
 - エンドタブの長さ、MC: 35mm以上
NGC、GC: 40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、エンドタブ かつ2t以下
母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
 - プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監督者の承認を得る
- (ロ) 裏あて金
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする
- (ハ) スカラップ 半径は30~35mmと、10mmのダブルアールとする
- スカラップ工法
但し梁成がD=150mm未満の場合のスカラップはr=20mmとする
 - ノンスカラップ工法
- 
- (ニ) 裏はつり
標準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監督者の承認を履行し、部材に確認マークを付ける
- (ホ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためない様に、養生を行う
- (5) 塗装
コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

2. 溶接標準図

(注) f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース S:脚長 (単位 mm)



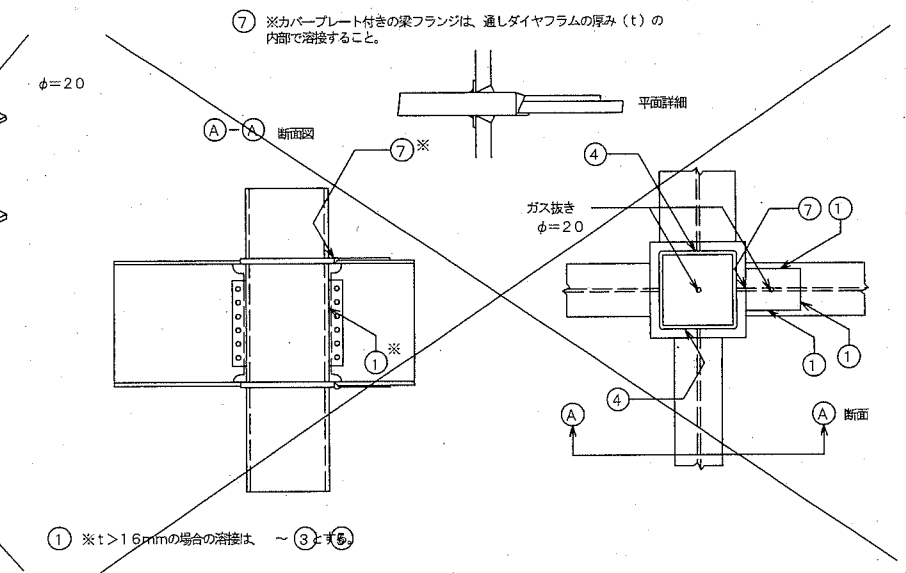
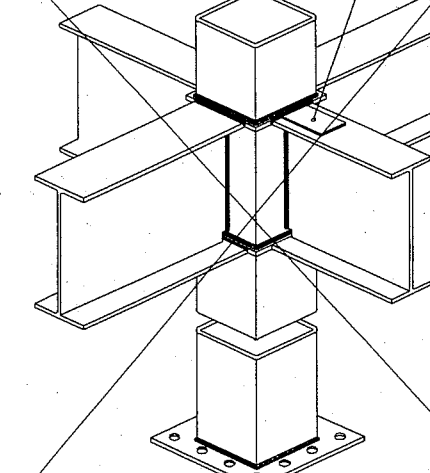
●BOX型(通しダイヤフラムの場合)



●鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	バス温度 (°C)
400N級鋼	JISZ 3211, 3212, 3214	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	YGA-50W, 50P		
490N級鋼	JISZ 3212, 3214	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	YGA-50W, 50P		

●カバープレート部



◎カバープレート付き大梁の現場溶接についての注意事項

カバープレート付き大梁の現場溶接について
従来のカバープレートを取り付けた状態で行うと鋼板の重ね合わせ目が欠陥の発生に影響している場合が多いため下記の手順で溶接及び検査を行うこと。

本溶接→[検査] (欠陥なし)→カバープレート取り付け→カバープレート部溶接→[検査] (欠陥なし)→終了

「突合せ継ぎ手の食い違い・仕口のずれの検査・補強マニュアル」等の参考文献を参照して施工すること。

鉄骨構造標準図 (2)

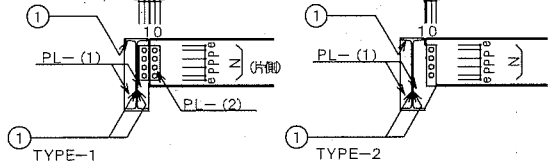
3. 継手標準図、その他

(1) ボルトピッチ (P) ボルト穴径・最小縁端距離 (mm)

呼び	ボルト穴径	最小縁端距離 (e)			ピッチ (P)	
		(1)	(2)	(3)	最小	標準
M16	18	40	28	22	40	60
M20	22	50	34	26	40	60
M22	24	55	38	28	40	60
M24	26	60	44	30	45	70

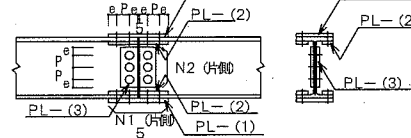
- 注 (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ぶ場合の応力方向の縁端距離
 (2) せん断線・手動ガス切断線の場合の縁端距離
 (3) 圧延線・自動ガス切断線・のこ引き線・機械仕上げの場合の縁端距離

(2) ボルト接合部継手リスト



タイプ	部材	PL-(1)	PL-(2)	N-径
B21	H-200x100x5.5x8	PL-9		2-M20
b	H-250x125x6x9	PL-9		3-M20

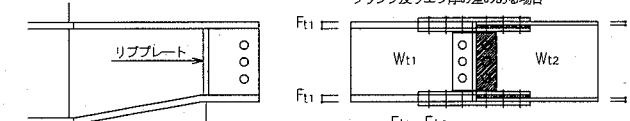
(3) 梁鋼接合部継手リスト (SCSS-H97による)



注 端部をBHとする場合の部材は設計図による

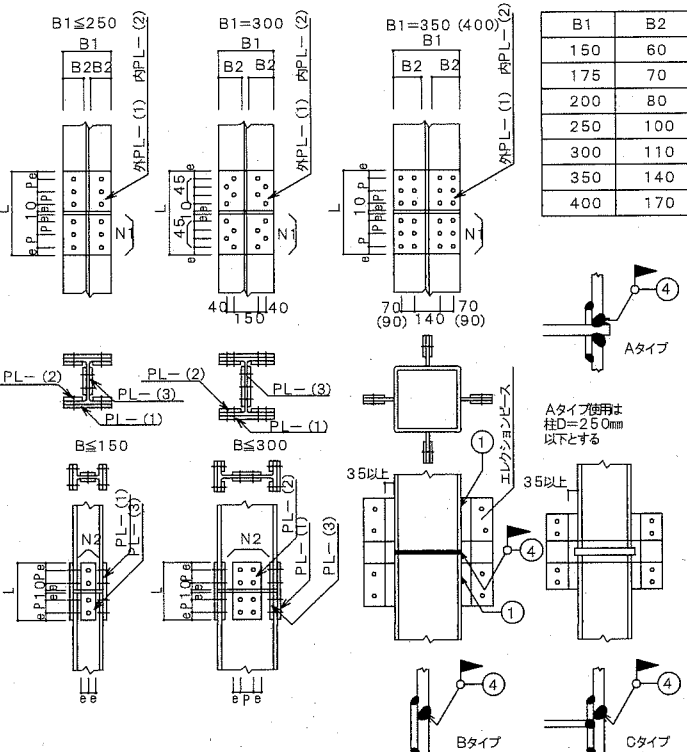
符号	部材	フランジ		ウェブ
		PL-(1)	PL-(2) N1-径	
		PL-(1)	PL-(2) N2-径	

(4) ハンチ部の継手



ハンチ起点は離れた方がよい
 Wt1, Wt2 ≥ 1mm フィラープレート採用のこと
 ハンチ角度は普通 1 : 4 程度であるが構造図による

(5) 継手リスト (SCSS-H97による)



符号	部材	フランジ		ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2) N1-径	PL-(3)	N2-径
a (支柱)	H-150x150x7x10			PL-9	3-M20

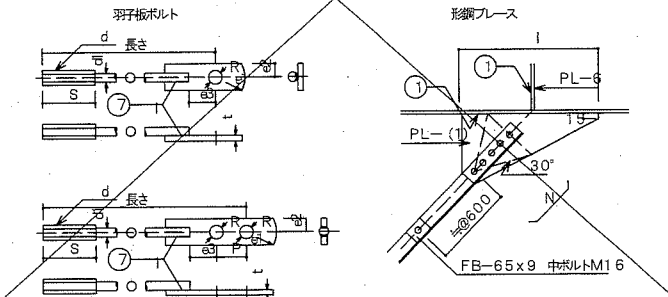
(6) 鉄筋ブレース (JIS規格品とする JISA5540~5542-1982)

ねじの呼び (d)	M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24	
								軸径 d1
調整ねじ長さ	S	100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径	R	13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき (最小)	(2) e1	35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき (最小)	(1) e2	22	28	28	34	34	38
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9
平鋼製	へりあき (最小)	(1) e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴心のあき (最小)	e3	47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ (最小)	l	40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト	種類	JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T) 又は JIS B 1180 中 8g 10.9						
	ねじの呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
本数		1	1	1	1	1	1	2

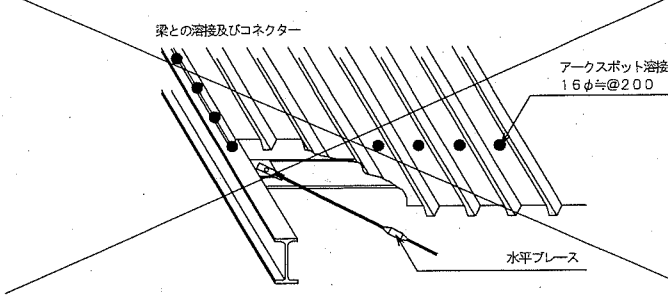
注 (1) ①, ②が確保されていれば部材は自由
 (2) 羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断 (支圧) 接合とする

(b) 形鋼ブレース

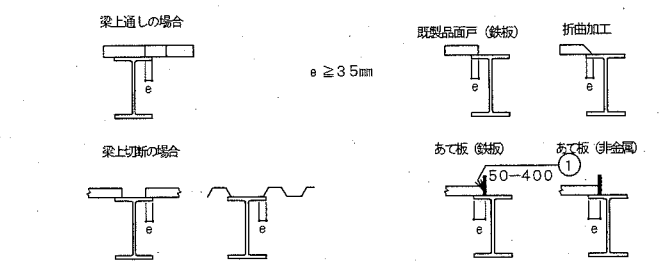
符号	部材	PL-(1)	N-径	l



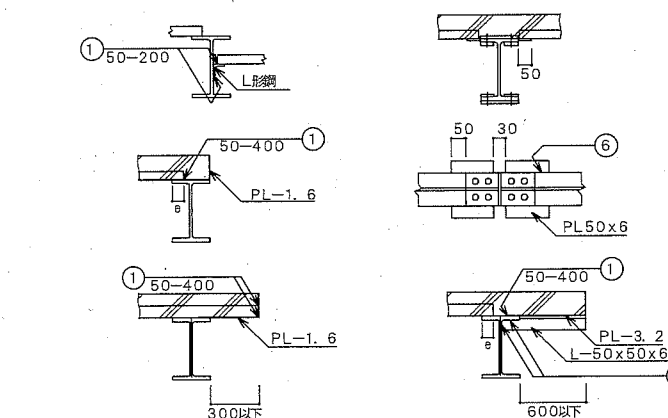
(7) デッキプレート (保剛性を考慮する合成床、合成床のときは構造部参照)



受梁へのかり寸法および端部処理

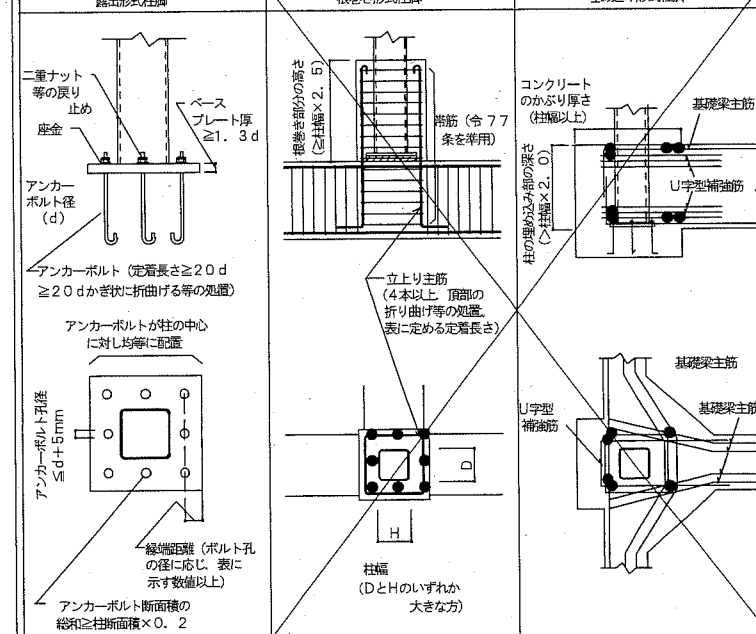


スラブ部材の補足材

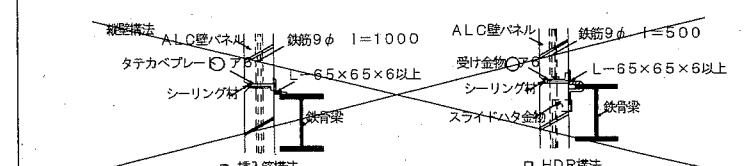


(8) 柱脚

注 許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式



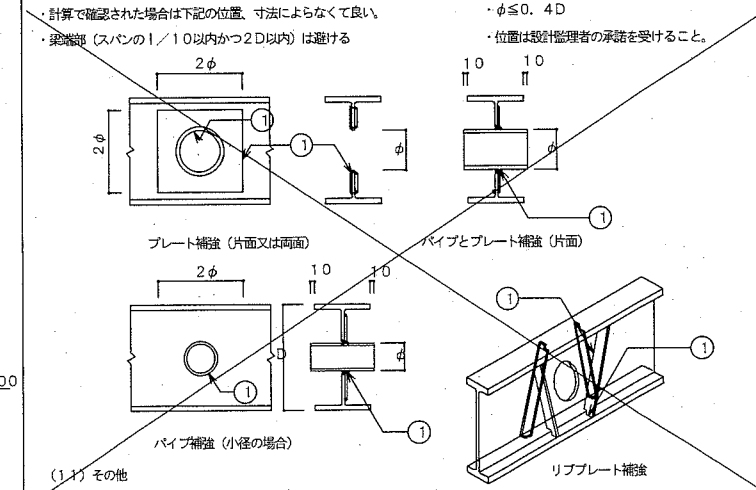
(9) ALC板取付要領は、図面番号S-09 (縦壁HDR構造) 標準図による



(10) 頭付きスタッド (JIS1198)

形状	スタッド材				
	呼び名	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	溶接後の長さ L mm
●	φ13mm	13.0	22.0	10.0	50, (80), 100, 130
	φ16mm	16.0	29.0	10.0	80, 100, 130
○	φ19mm	19.0	32.0	10.0	80, 100, 130, 150
	φ22mm	22.2	35.0	10.0	100, 130, 150

(11) 梁貫通補強 別図参照



接着系あと施工アンカー特記仕様書

1: 使用材質

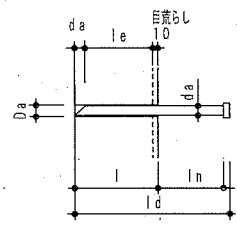
- アンカー筋 JIS G3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) に規定されている熱間圧延異形棒鋼SD345の規格品とし、頭部はネジ切加工とし、ナット取付のこと。
- アンカーボルト 鋼材SS400 (JIS規格)。
頭部は、ベース・アンカーボルト詳細図による。
先端を斜めに切った全ネジボルト
- 樹脂接着剤 カプセル型樹脂接着剤とし、公的機関による引張せん断強度、耐アルカリ性の認定を受けたもので、樹脂タレの少ないものとする。

2: アンカー長さ

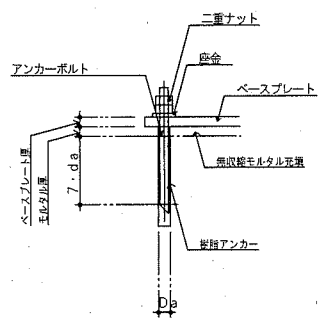
- Da: 既存コンクリート躯体への穿孔径 (mm)
- da: アンカー軸部の直径 (アンカー筋の呼び名 mm)
- ld: 接合筋及びアンカー筋の全長 (mm)
- l: コンクリートの穿孔深さ (mm)
- ln: 増設壁の有効定着長さ (mm)
- le: アンカーの有効埋め込み長さ (mm)

使用場所	符号	da	Da	le	l	ln	ld
アンカー筋	D10	10	13	70以上	84以上	200	300
アンカー筋	D13	13	16	91以上	114以上	260	387
アンカー筋	D19	19	25	133以上	162以上	380	474
アンカーボルト	M10	10	12	70以上	90以上		
アンカーボルト	M12	12	14	84以上	106以上		
アンカーボルト	M16	16	20	112以上	138以上		
アンカーボルト	M20	20	25	140以上	170以上		

1: アンカー筋の長さ



2: アンカーボルトの長さ



無収縮モルタル標準図 (支柱接合部充填用、貫通ボルト穴圧入用、柱脚ベースプレート下)

グラウト材料及び施工一般事項

(1) 材料

モルタルは早強形特殊セメント系無収縮モルタルとし、調合はプレミックスタイプを使用し、品質は下記の項目を満足するものとする。なお、監督員の承認を得ること。

項目	コンシステンシーの範囲	圧縮強度	乾燥収縮 (x 10 ⁻⁴)
支柱接合部 柱脚	J14ロート 8±2秒	300kgf/cm ² 以上 (30N/mm ²)	0
ボルト穴圧入	JA15-30秒	300kgf/cm ² 以上 (30N/mm ²)	0

(2) 型枠

モルタル圧入部の型枠は注入圧力に耐え得るグラウト用とし、周囲に急結性又は速乾性コーキング材を施し、モルタル漏れのないようにする。

(3) 使用材料の保管

使用するグラウト材は、夏期の直射日光の当たる場所や雨が当たる場所には放置せずに保管する。

(4) 注入

- モルタル注入工事はメーカーの責任施工とし、事前に詳細な施工要領書を監督員に提出し承諾を得ること。
- モルタルの注入前に既存コンクリート表面及びコンクリート打継部の清掃及び水湿しを十分に行う。注入に先立ち試し練りを行い、適切な練り上がり温度及び所定のコンシステンシーが得られる事を確認してから注入を開始する。
- 施工時に水温の管理を十分に行い、水温10℃以上の水を用いてグラウト材を練り上げ、練り上がり時の温度が10~35℃の範囲のものを注入する。なお、グラウト材の練混ぜ温度が規定温度以上になる場合は、水を添加する等の措置を講じた冷水を用いる。
- グラウト材の攪拌には、アルミ羽の攪拌機を用いないこと。
- 圧入は適切な圧力で行い、打継ぎのないように行う。グラウト孔をスパン中央上部下端に、空気抜きを上部スパン両端に設け、グラウト孔にホースを接続して連続圧送を行い、グラウトモルタルが空気抜きに出てくることを確認した段階で注入を中断し、各空気抜きパイプの封入を確認した後、再び加圧作業を終了する。密封後の圧力は、圧力計を用い注入孔側で0.5~1.0kgf/cm²程度を確認すること。

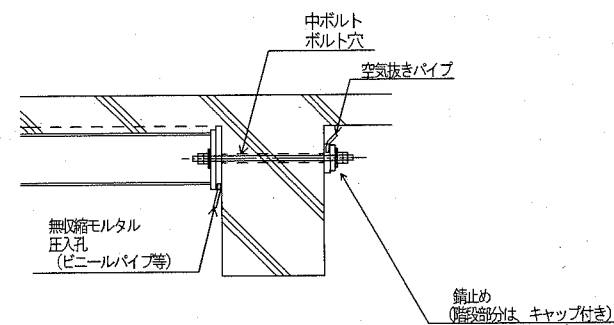
(5) 試験確認等

a) コンシステンシー試験 試験は日本道路公団「無収縮モルタル基準」に示されている試験方法による。試験はロート法とし、ロートはJ14ロートとする。試験は午前・午後後の打設前及び監督員が指示した時に行う。

(6) ボルト穴施工及びモルタル圧入要領

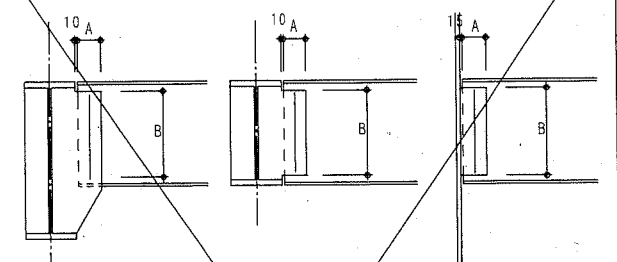
- モルタル圧入及び空気抜き穴は、ボルト及びベースプレート周りにモルタル充填が確実に出来る位置に設けること。また、モルタル充填が確認出来るようにする事。
- 型枠及びシールは、モルタル充填に対して、十分な強度・気密性を持つようにする事。
- ボルト穴径は、モルタル充填が確実に出来るものとして決定する事。

無収縮モルタル圧入詳細図 1/20 (ボルト穴充填用)



小梁継手標準図

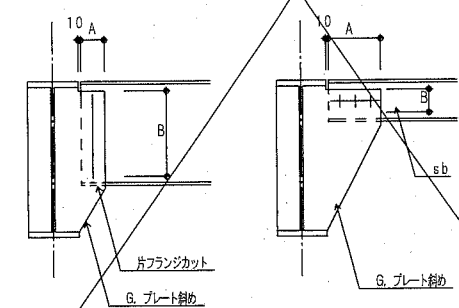
ガセットプレート表示: P-t x A x B



*角型鋼管柱等の中間に小梁等を接合する場合は、鉄骨標準図による。

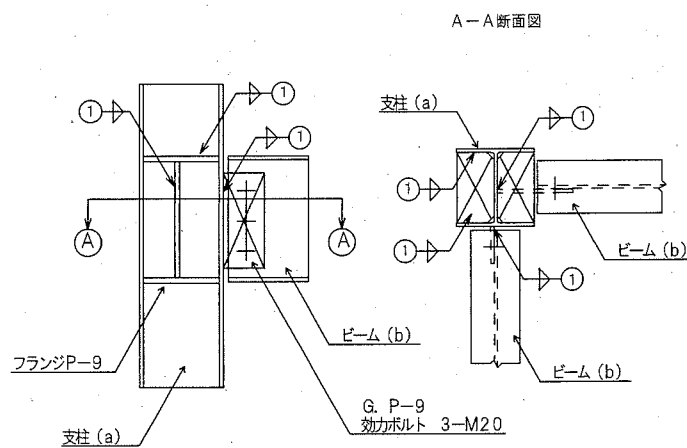
指定位置小梁の納まり

つなぎ材 (sb) の納まり

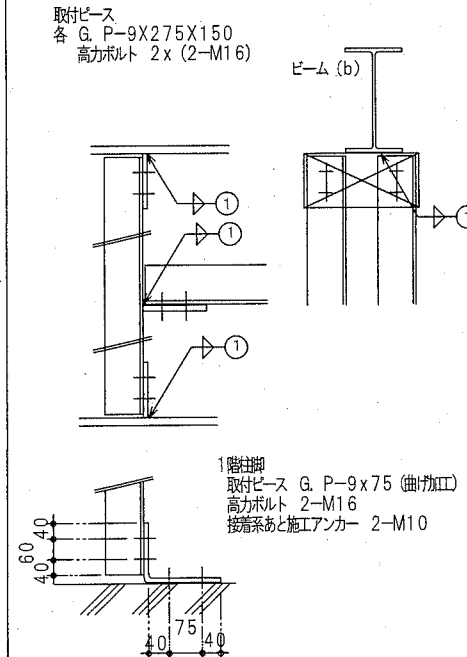


溶接標準図

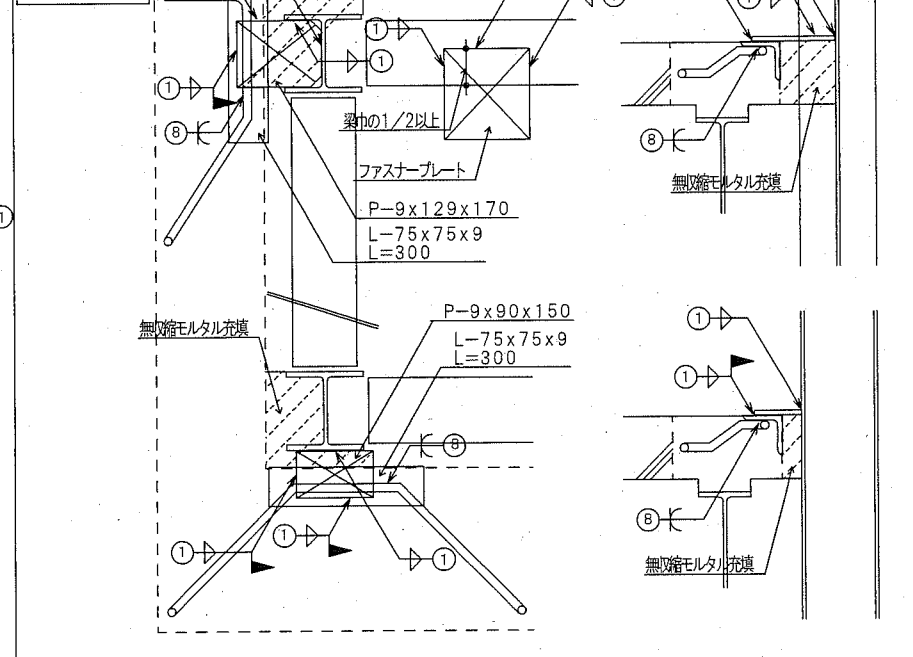
柱 (支柱) - 中間ビーム 接合部



三方枠等接合部



支柱固定金具接合部

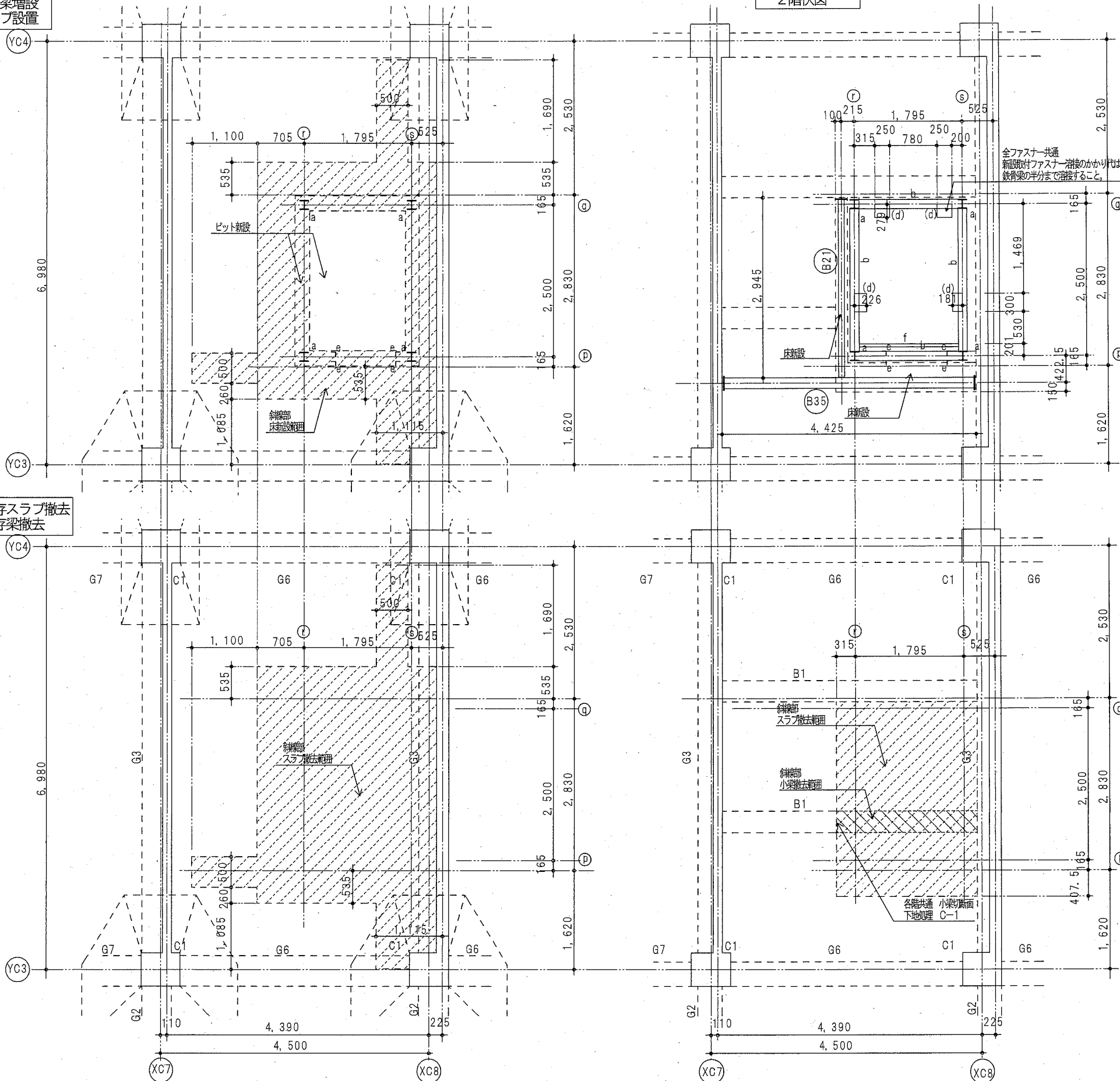


基礎・1階伏図

2階伏図

鉄骨梁増設
スラブ設置

既存スラブ撤去
既存梁撤去



・使用材料、部材サイズ、施工手順等

1. 使用材料
 - ・コンクリート $F_c=21$ N/mm² (JIS規格)
 - ・無収縮モルタル $F_c=30$ N/mm²
 - ・鉄筋 D13:SD295A (JIS規格)
 - ・鉄骨 SS400 (JIS規格)
2. 部材サイズ一覧表 (大津中学校)
 - 既存RC梁
 - ・G1 4, RF 400x800
 - 2, 3F 400x850
 - 1F 500x1,300
 - ・G2 4, RF 400x550
 - 2, 3F 400x600
 - 1F 500x1,300
 - ・G3, 4, 5 4, RF 400x750
 - 2, 3F 400x800
 - 1F 500x1,300
 - ・G6, 7, 8 4, RF 400x700
 - 2, 3F 400x750
 - 1F 500x1,300
 - ・B1 2~RF 350x500
- 増設S梁
 - ・B21 2~4F H-200x100x5.5x8
 - ・B35 2~4F H-350x175x7x11
- ・EVフレーム
 - a H-150x150x7x10 : EV支柱
 - b H-250x125x6x9 : 中間ビーム
 - k1 H-100x100x6x8 : 横重ビーム (据付け後撤去 EV工事)
 - k2 : (EV工事)
 - d レールブラケット取付用ファスナー
 - 横重ビーム取付用ファスナー
 - e L-75x75x6 : 三方取付材
 - f [-100x50x5x7.5 : 敷居取付材

・アンカーボルト施工手順 (貫通ボルト)

 1. ボルト用穴をドリル明する。
 2. 鉄骨受け梁 (ベースプレート付) を設置する。
 3. ボルトを設置する。
 4. 無収縮モルタル充填用の注入口を設け、周囲をシールする。
 5. 無収縮モルタルを充填する。

・床開口施工手順 (2, 3, 4階)

 1. 床開口寸法+200mm程度以上 (片側) でコンクリートを撤去する。コンクリートを折る前に、カッターで両面に切り込みを入れ、ひび割れが入らないよう、また、鉄筋を切断しないようにすること。
 2. 鉄筋は新設コンクリート部への定着部分を残して切断する。
 3. 増設S梁がある場合は、アンカーボルトを用いて設置する。
 4. EVフレーム (支柱・ビーム) を設置する。
 5. 既存鉄筋及び新設の鉄筋を加工配置する。EVフレームとのシャコネクターを設置し、フレームの金物と溶接し接合する。
 6. 清掃のち、型枠を設置する。壁型枠上端に、コンクリート充填用の投入口を設ける。
 7. コンクリートを充填する。
 8. 床と支柱接合部の間を、無収縮モルタルを充填して一体化する。

公共建築課長 主査等 担当者 横須賀市 都市部 公共建築課
設計年月日 令和2年2月

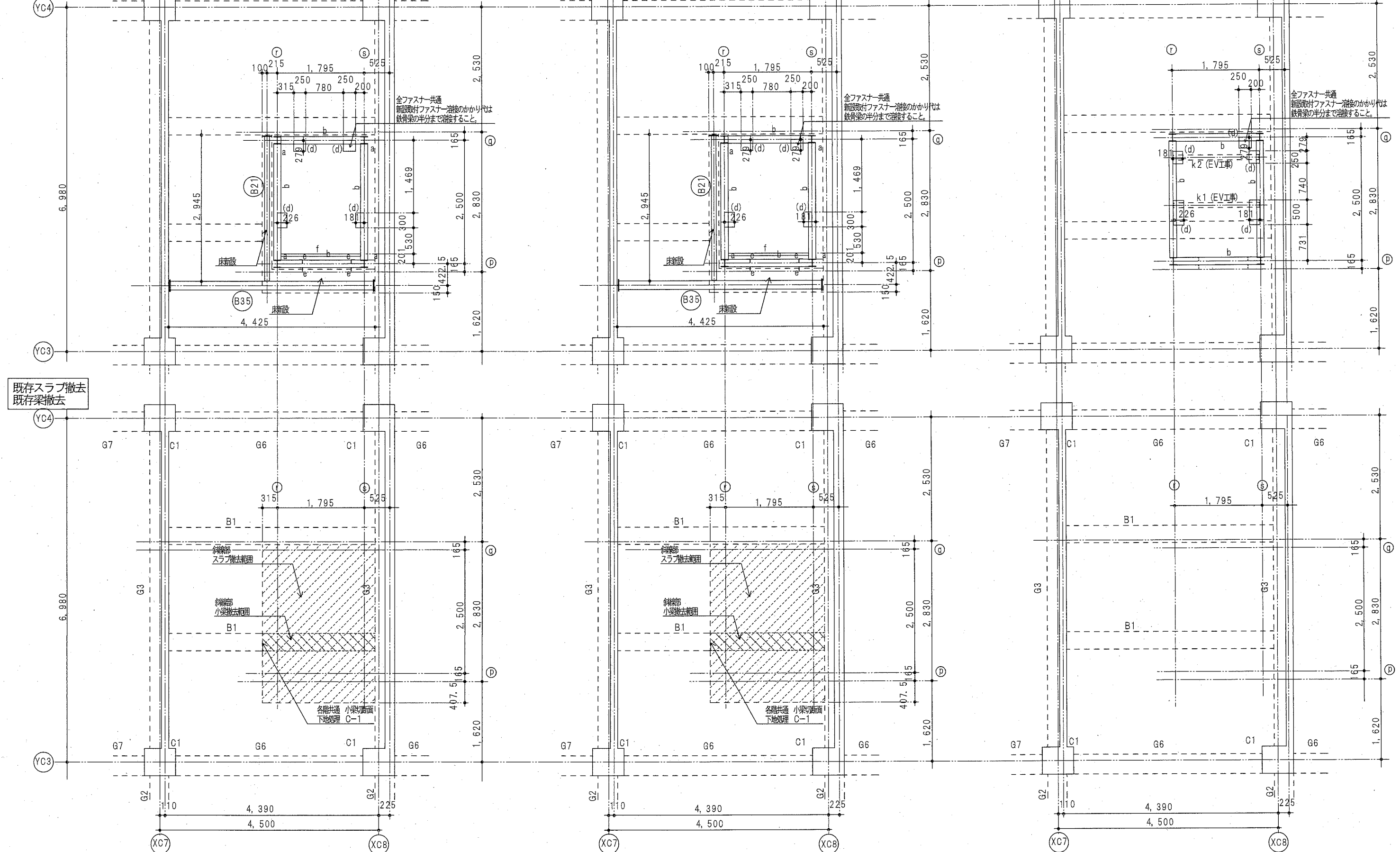
設計名称 市立大津中学校群障壁設置建築その他工事
図面名称 基礎・1, 2階伏図 (撤去、増設)
縮尺 1:50

鉄骨梁増設
スラブ設置

3階伏図

4階伏図

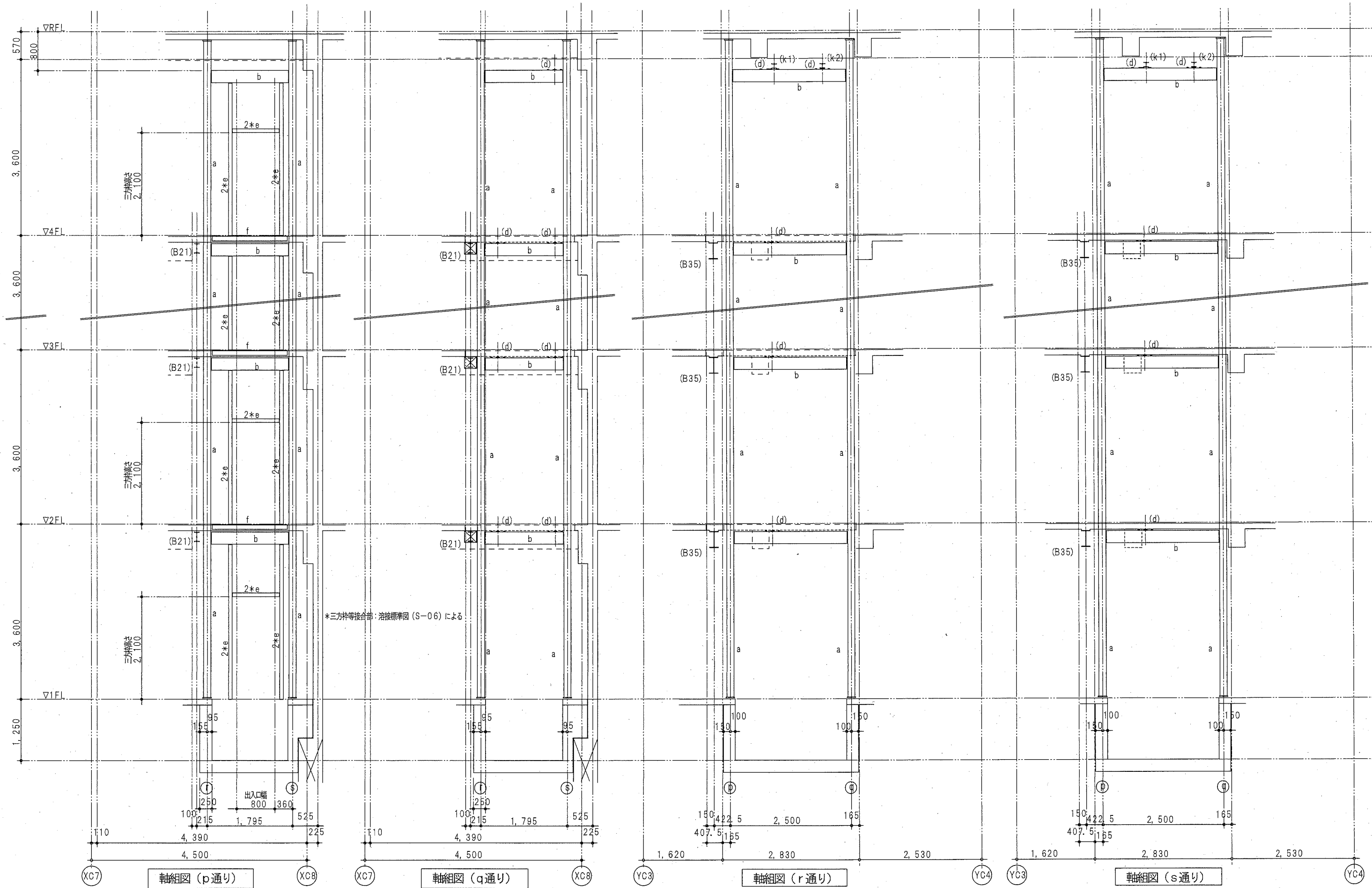
R階伏図



既存スラブ撤去
既存梁撤去

公共建築課長 主査等 担当者 横須賀市 都市部 公共建築課
設計年月日 令和2年2月

設計名称 市立大津中学校昇降機設置建築その他工事
図面名称 3, 4, R階伏図 (撤去 増設)
縮尺 1:50
S-08

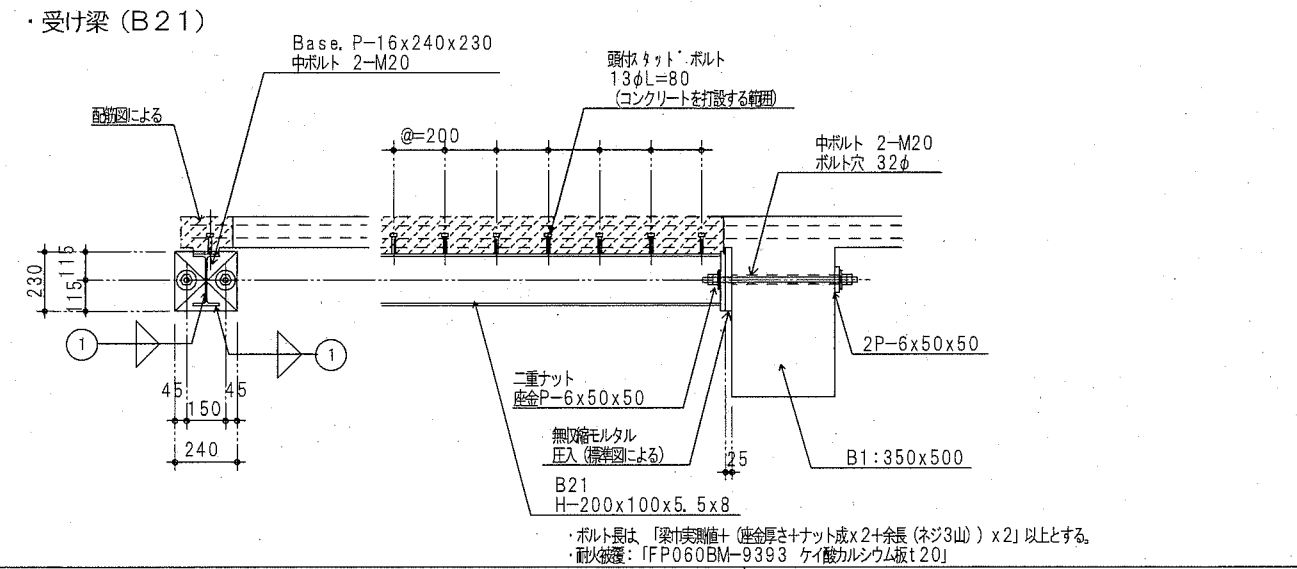
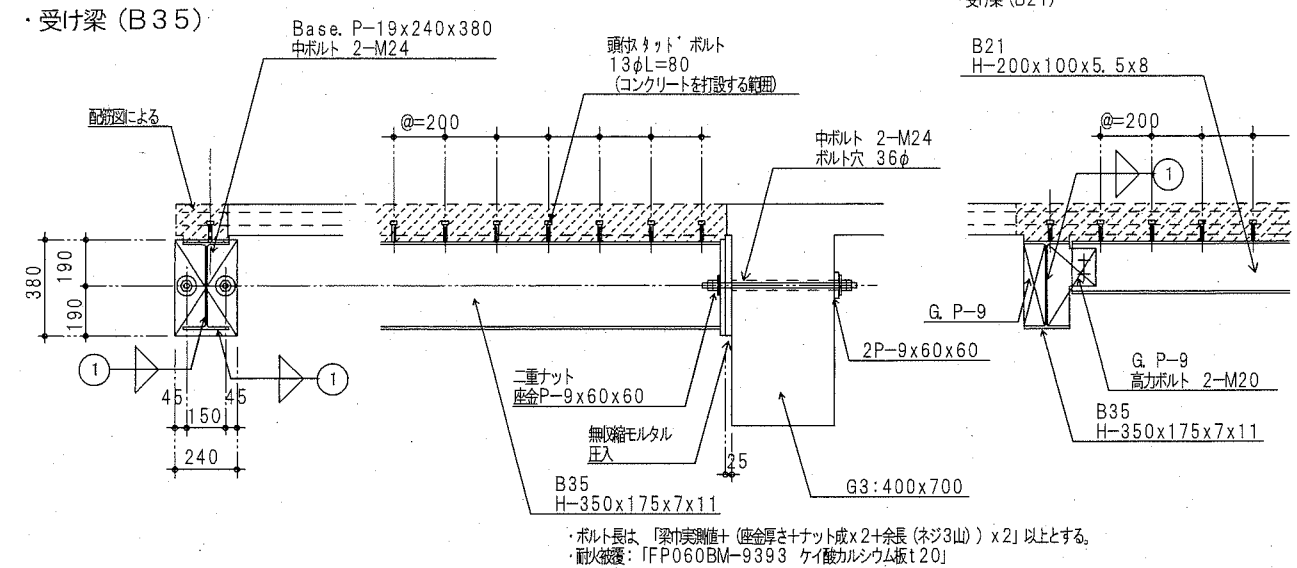


*三方棒等接合部: 溶接標準図(S-06)による

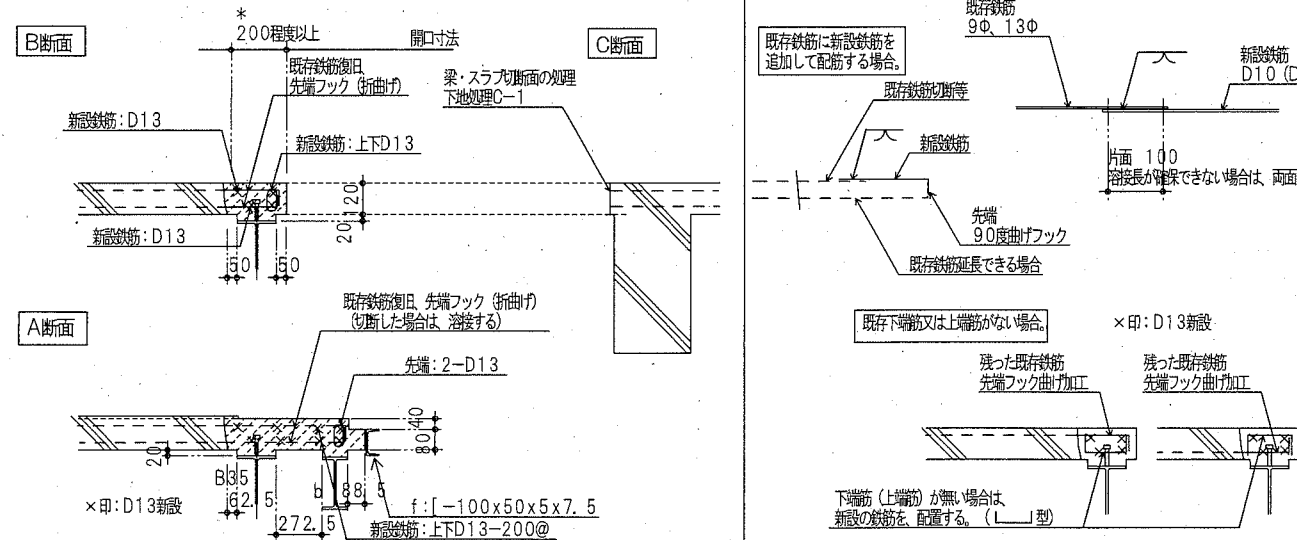
公共建築課長 主査等 担当者 横須賀市 都市部 公共建築課
 設計年月日 令和2年2月

設計名称 市立大津中学校体育館増設工事
 図面名称 軸組図(鉄骨部材増設)
 縮尺 1:50
 S-09

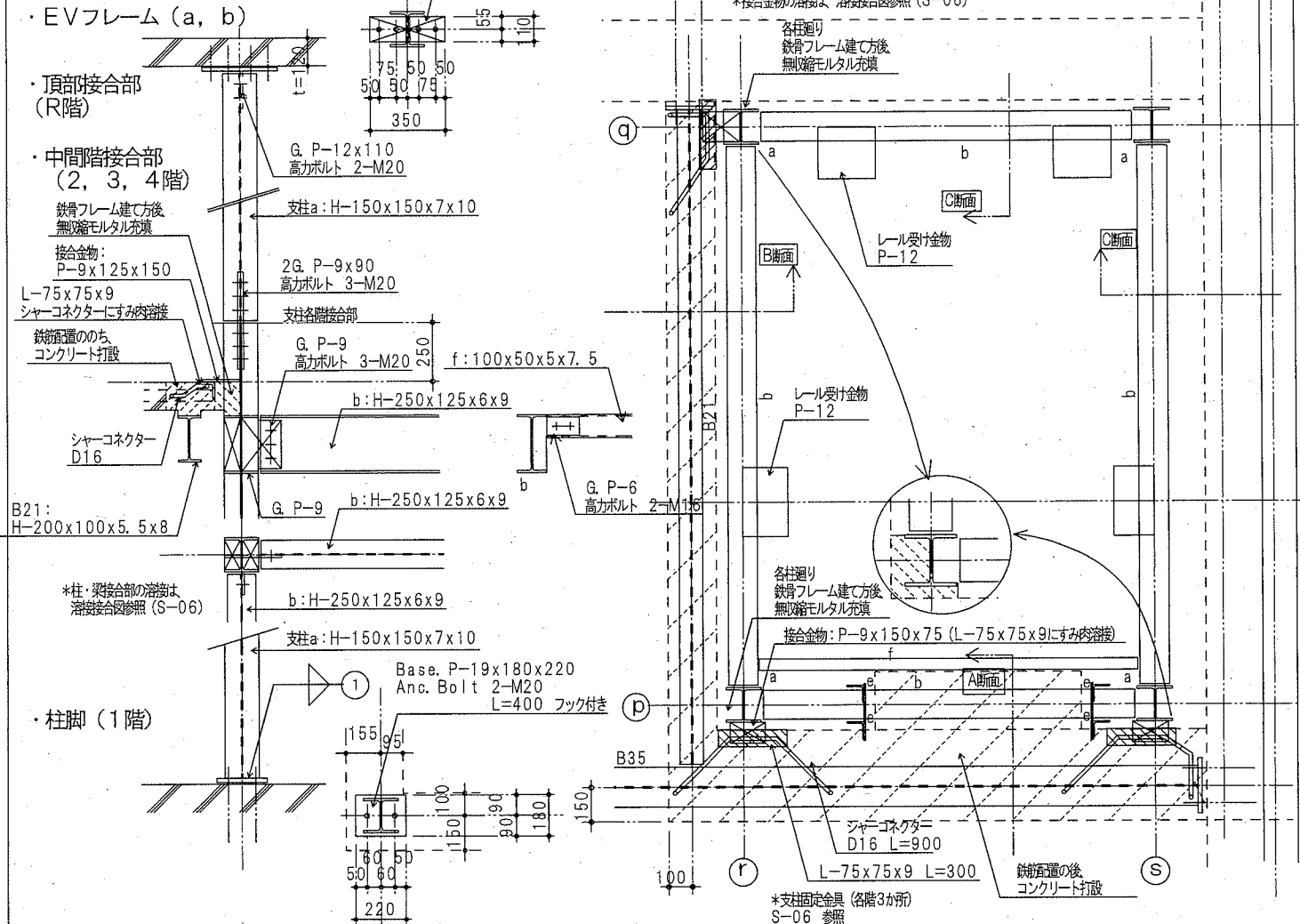
EVシャフト回り鉄骨詳細図 1/20



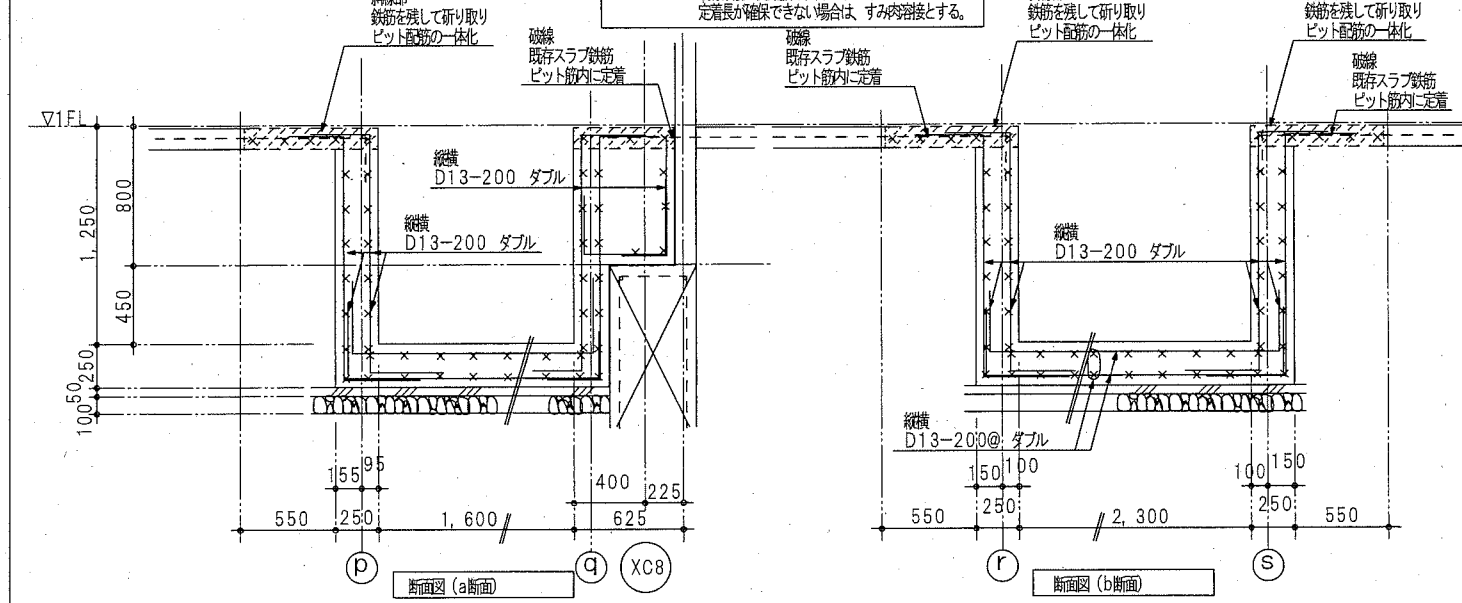
・2, 3, 4階EVシャフト詳細図 (西記筋図) 1/20



EVフレームおよび接合部鉄骨詳細図 1/20 (溶接 S-06参照)



EVピット増設詳細図 1/30



機器表 (エアコン)																
機器番号	型式	形状	機器能力		電源容量		付属品(室外)					付属品(室内)			設置場所	備考
			冷房 [kW]	暖房 [kW]	相 (φ)	電圧 (V)	APF 2015	フィルター	合 数	非 常 電 源	設置場所	備考				
ACP-1	天井吊形	マルチエアコン	10.0	11.2	1-200	—							1	1	1階 少人数教室	※取外し・再取付
AC-1	ウィンドエアコン	ウィンドエアコン	1.6	1.8	1-100	—							1		2階 PTA会議室	撤去

※ACP-1の屋外機能力は22.4kW+33.5kW+45.0kWであり、屋内機は全9台である。本工事では、この中の屋内機1台の取外し・再取付を行う。工事期間中に他の屋内機が使用できるよう、対象屋内機取外し時及び再取付付け時に、冷媒回収・処分、冷媒充填を行うこととする。

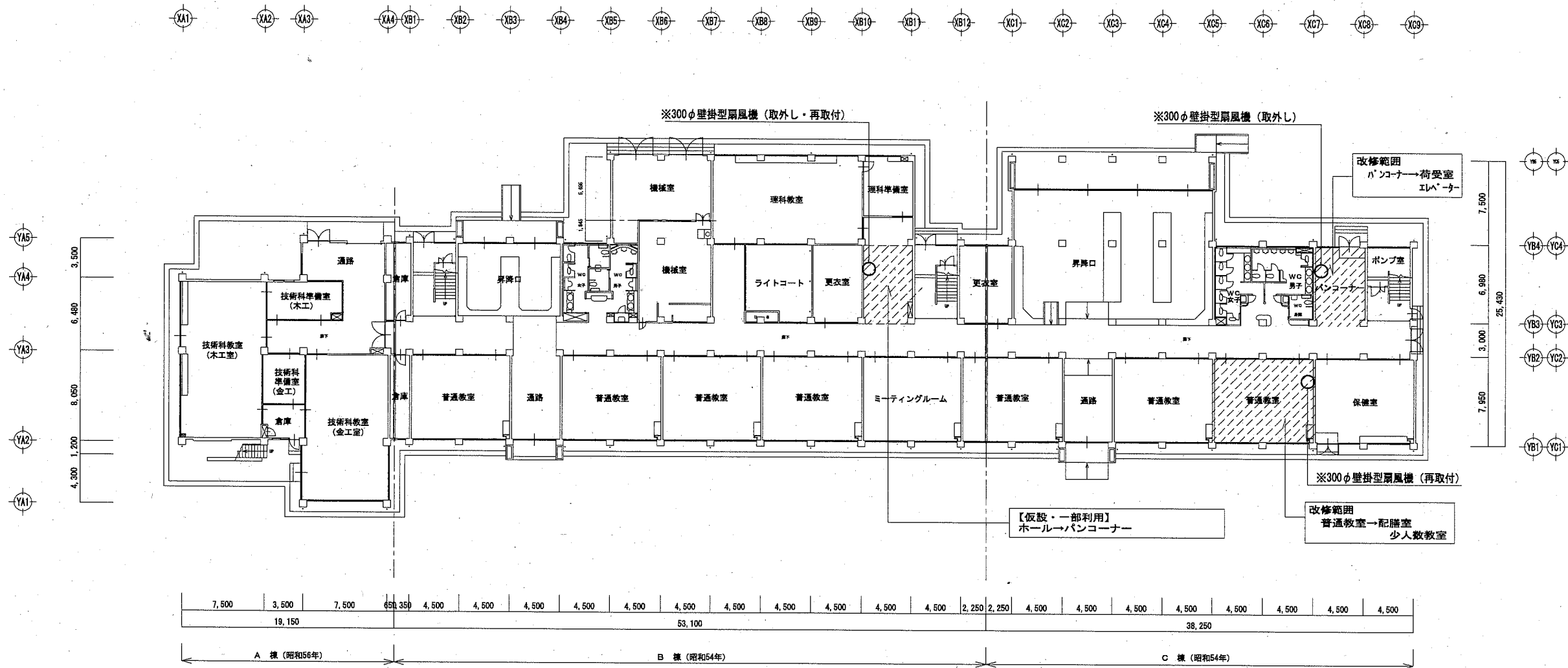
機器表 (換気)																
機器番号	名称	機器仕様	機器能力		電源容量			ウェザーカバー	防露網	その他付属品	合 数	非 常 電 源	設置場所	備考		
			風量 (m3/h)	静圧 (Pa)	相 (φ)	電圧 (V)	容量 (W)								設置場所	備考
FE-1	換気扇	φ200壁取付	300	—	1-100	16	●	●	●		1		1階 荷受室			
FE-2	換気扇	φ250壁取付	550	—	1-100	32	●	●	●		1		1階 配膳室			
FE-3	換気扇	φ200壁取付	450	—	1-100	16	●	●	●		1		2階 配膳室			
FE-4	換気扇	φ200壁取付	450	—	1-100	16	●	●	●		1		3階 配膳室			
FE-5	換気扇	φ200壁取付	450	—	1-100	16	●	●	●		1		4階 配膳室			

【特記】 1.機器類の能力・容量は表示された能力以上とし、電動機出力は参考値とする。
2.電源周波数は50Hzとする。
3.ウェザーカバーはステンレス製とする。

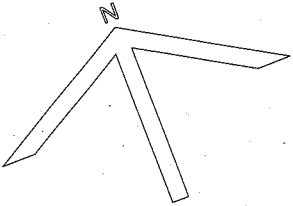
器具表									
名称	TOTO 参考型番	LIXIL 参考型番	付属品	数量	1階 配膳室	2階 配膳室	3階 配膳室	4階 配膳室	備考
洗面器	L210C	L-176UEC	自動水栓(単水栓)、Sトラップ、壁給水	1	1				
自在水栓	T131SUN13C	LF-16F-13		4	1	1	1	1	

凡例				
記号	名称	施工場所	材料	保温防食塗装
— R —	冷媒管	屋内露出	冷媒用被覆銅管	保温化熱ケース
		屋外露出		SUSラッキング
— D —	ドレン管	屋内露出	保温付VP	保温化熱ケース
		屋外露出	カラーVP	—
— — —	給水管	屋内隠蔽	SUS-C	—
			SGP-VB	グラスウール+ALGC(c2,(口),Ⅷ)
		埋設	HVP	管廻り100mm山砂
— — —	排水管	屋内隠蔽	VP	グラスウール+ALGC(c2,(口),Ⅷ)
		埋設	VU	管底より管上部100mmまで山砂(管底は突き固め)
— — — — —	通気管	屋内隠蔽	VP	—
— X —	消火管	屋内隠蔽	SGP白	—

※給水管の異種管接続には電蝕防止継手を用いること。

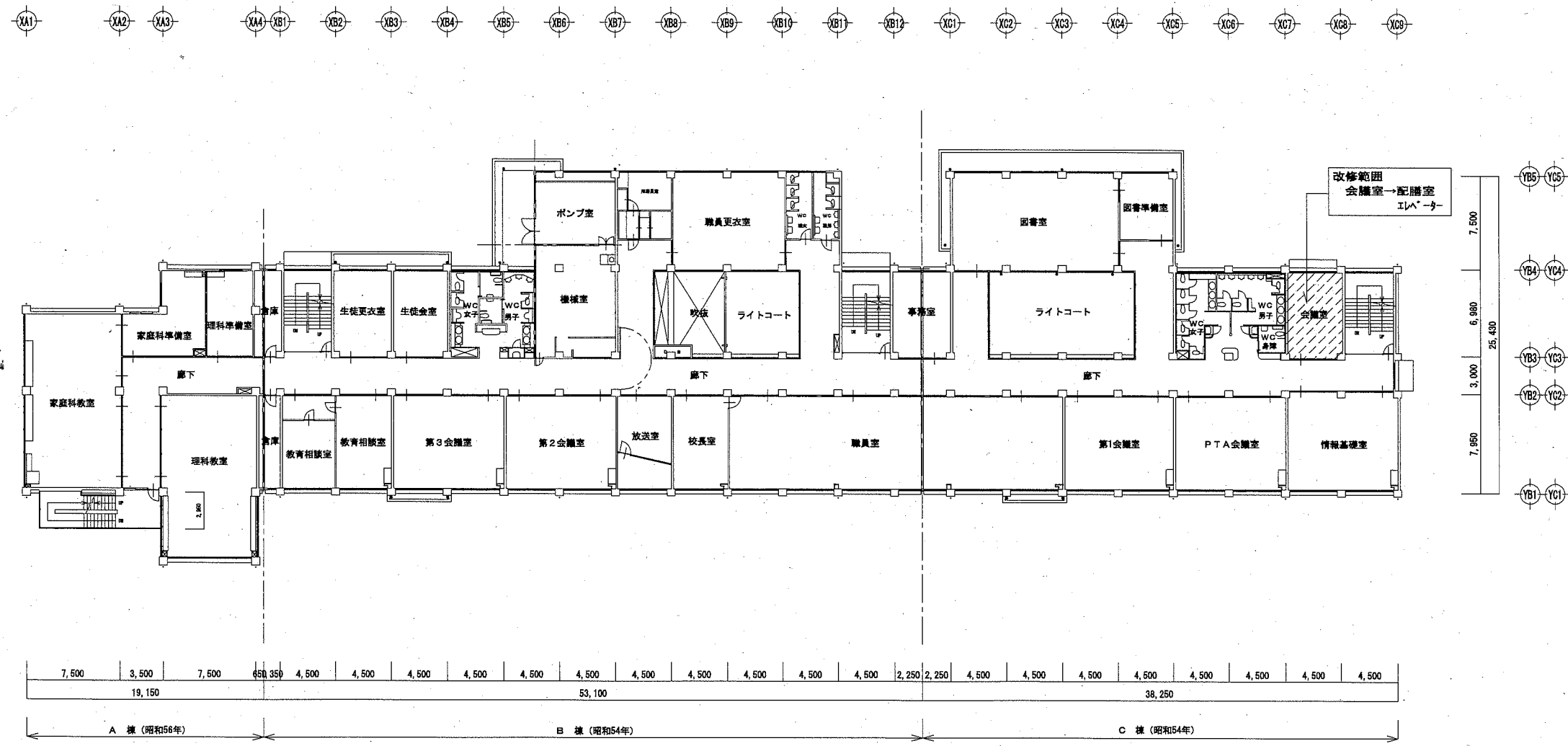


1階平面図

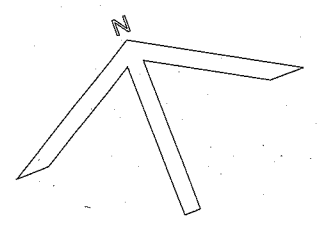


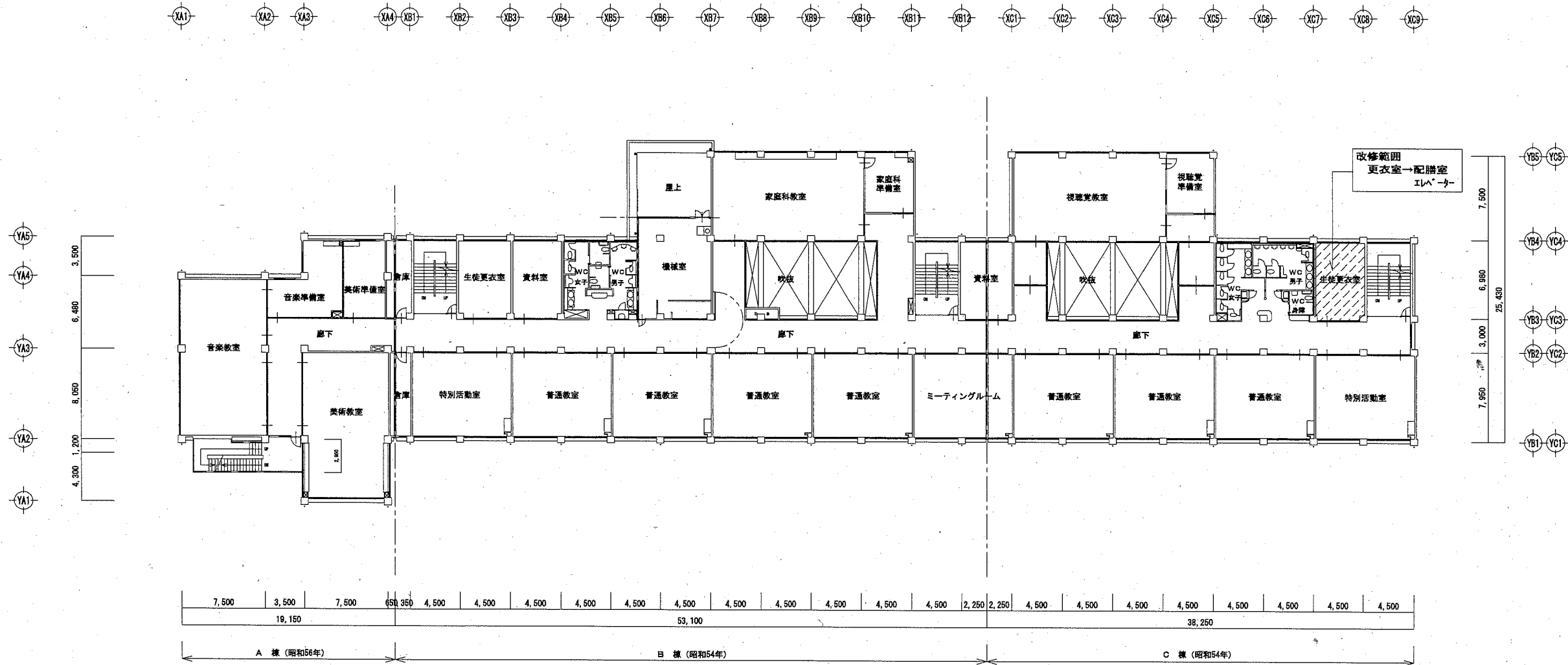
※扇風機の移設はバンコナー→仮設バンコナー→配膳室とする。(移設2回)

公共建築課長	主査等	担当者	横須賀市 都市部 公共建築課	設計名称 NAME OF PROJECT	図面名称 ITEM OF DRAWING	M-02
			設計年月日 令和 2 年 2 月	市立大津中学校昇降機設置建築その他工事	1階平面図	
				縮尺 1 : 300		

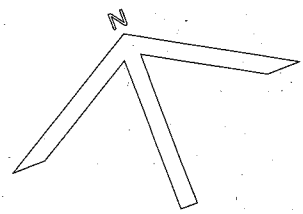


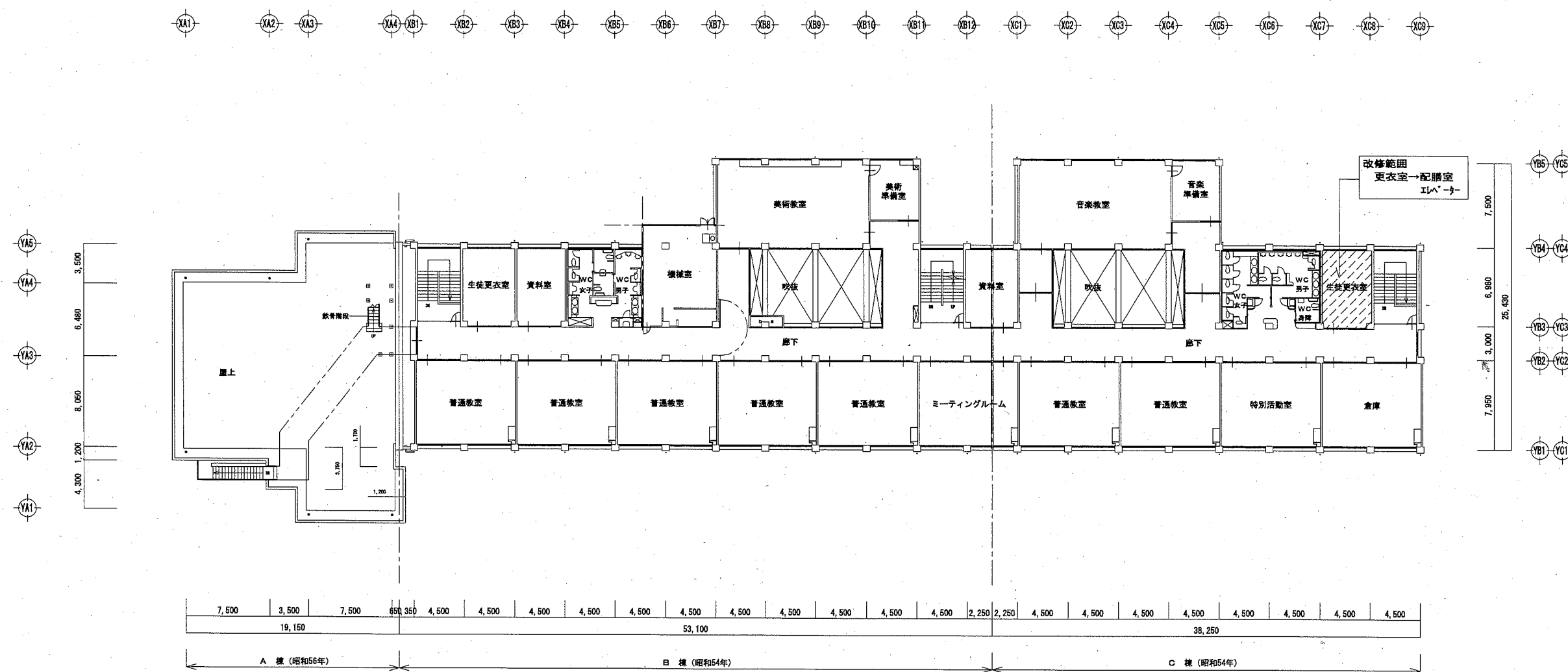
2階平面図



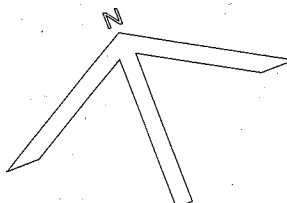


3階平面図

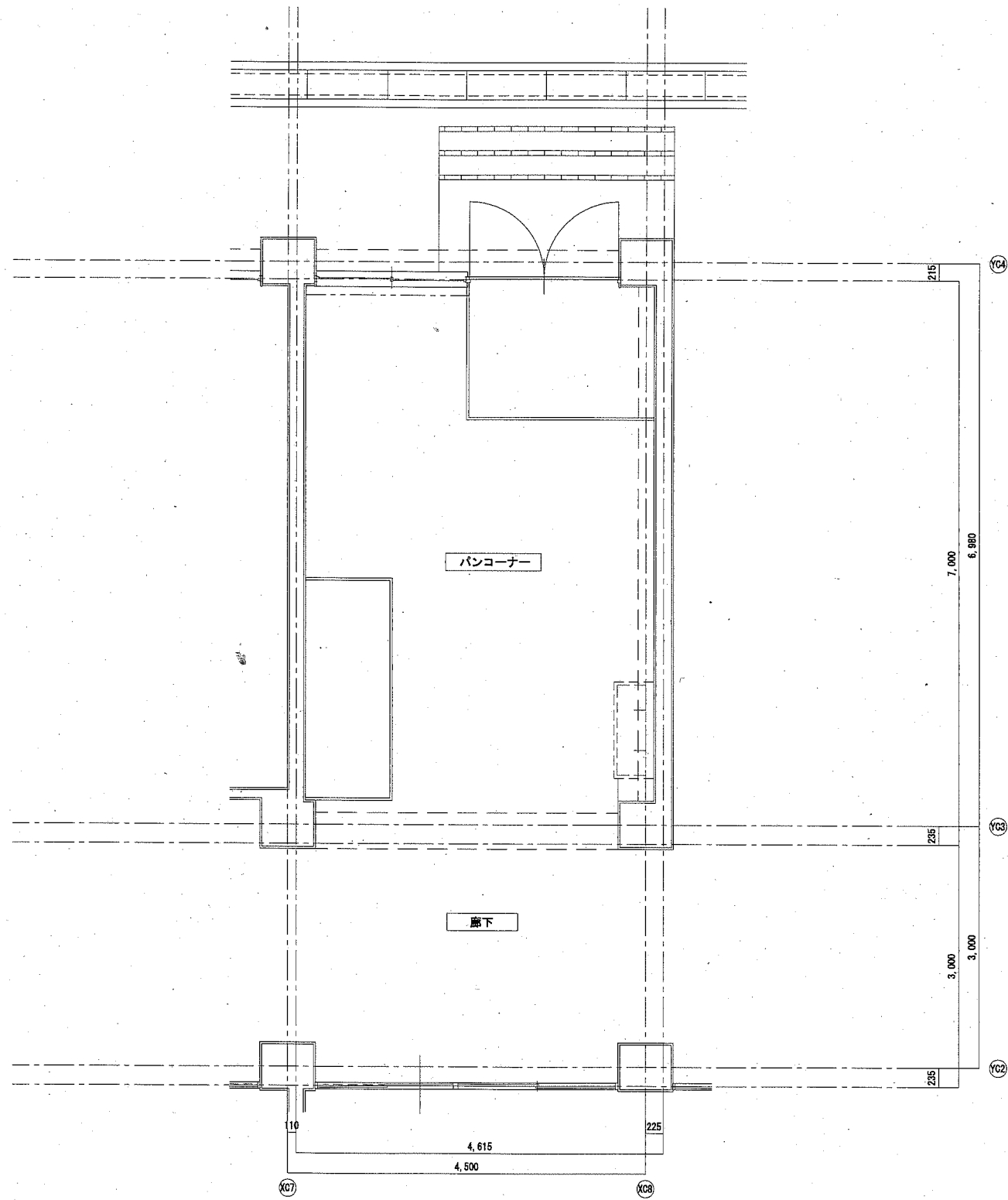




4階平面図

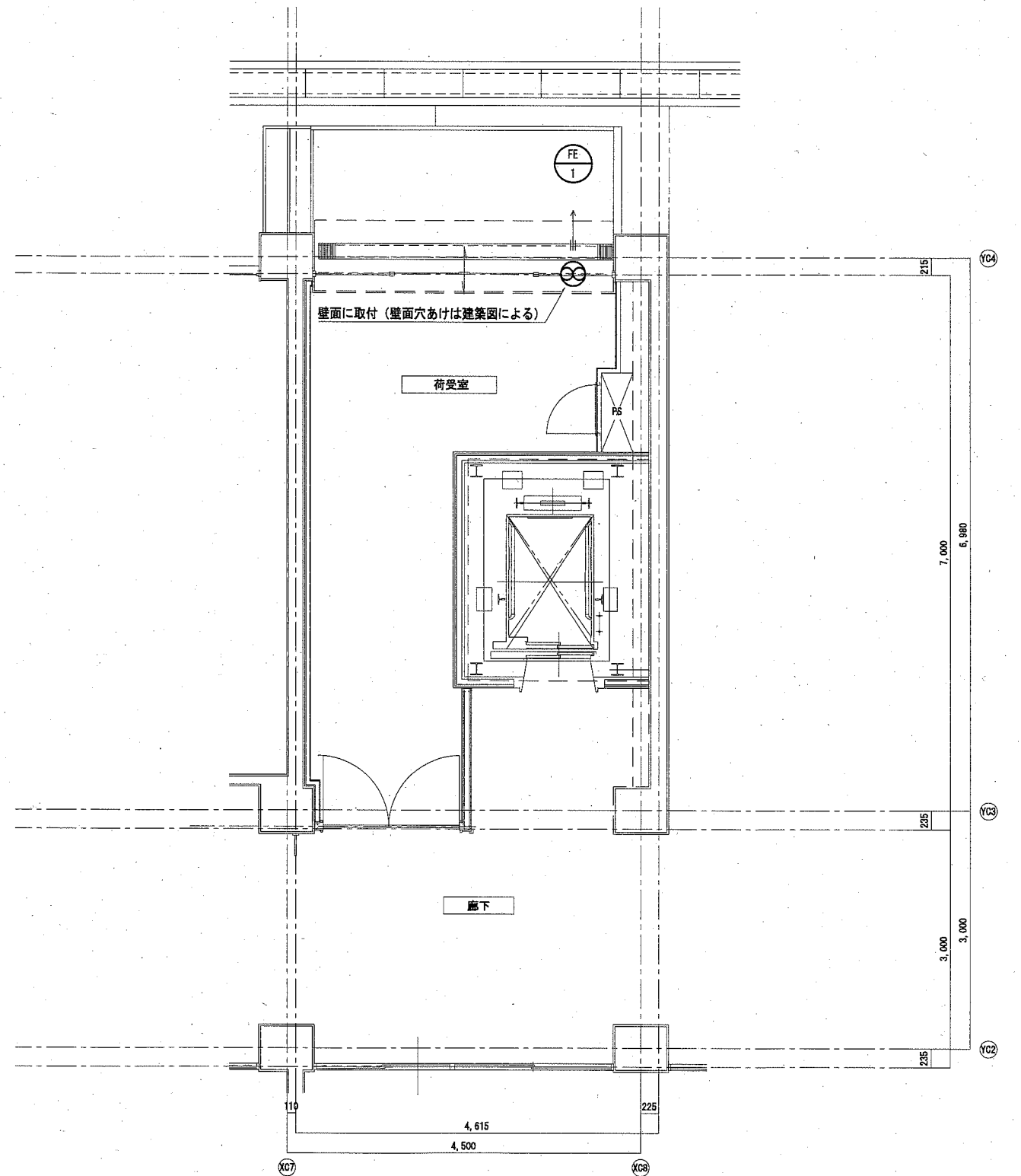


改修前



空調設備 1階荷受室平面図 (改修前)

改修後



空調設備 1階荷受室平面図 (改修後)

公共建築課長 主査等 担当者

横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 令和 2年 2月



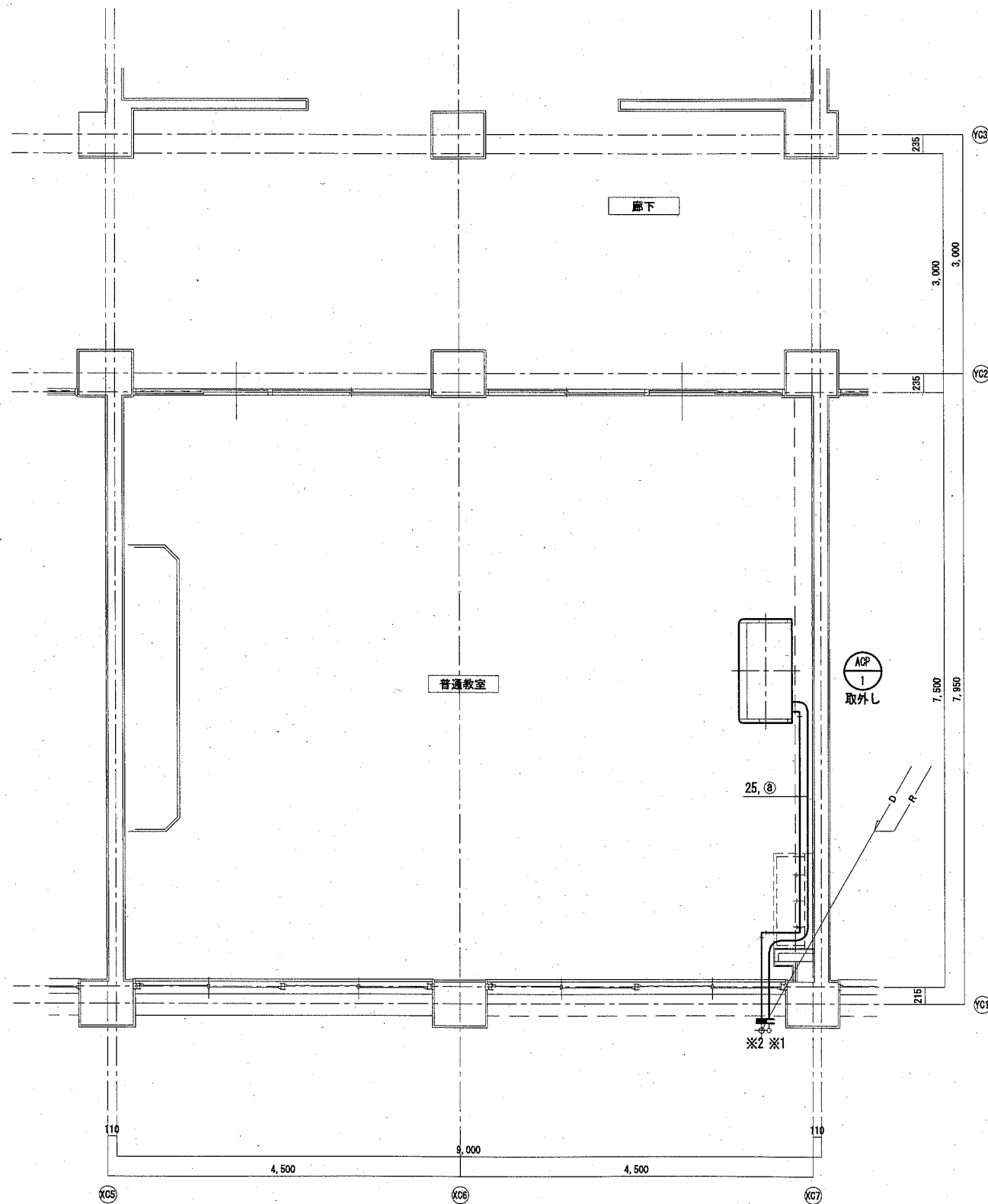
設計名称
 市立大津中学校昇降機設置建築その他工事

図面名称
 空調設備 1階荷受室平面図

縮尺 1 : 50

M-06

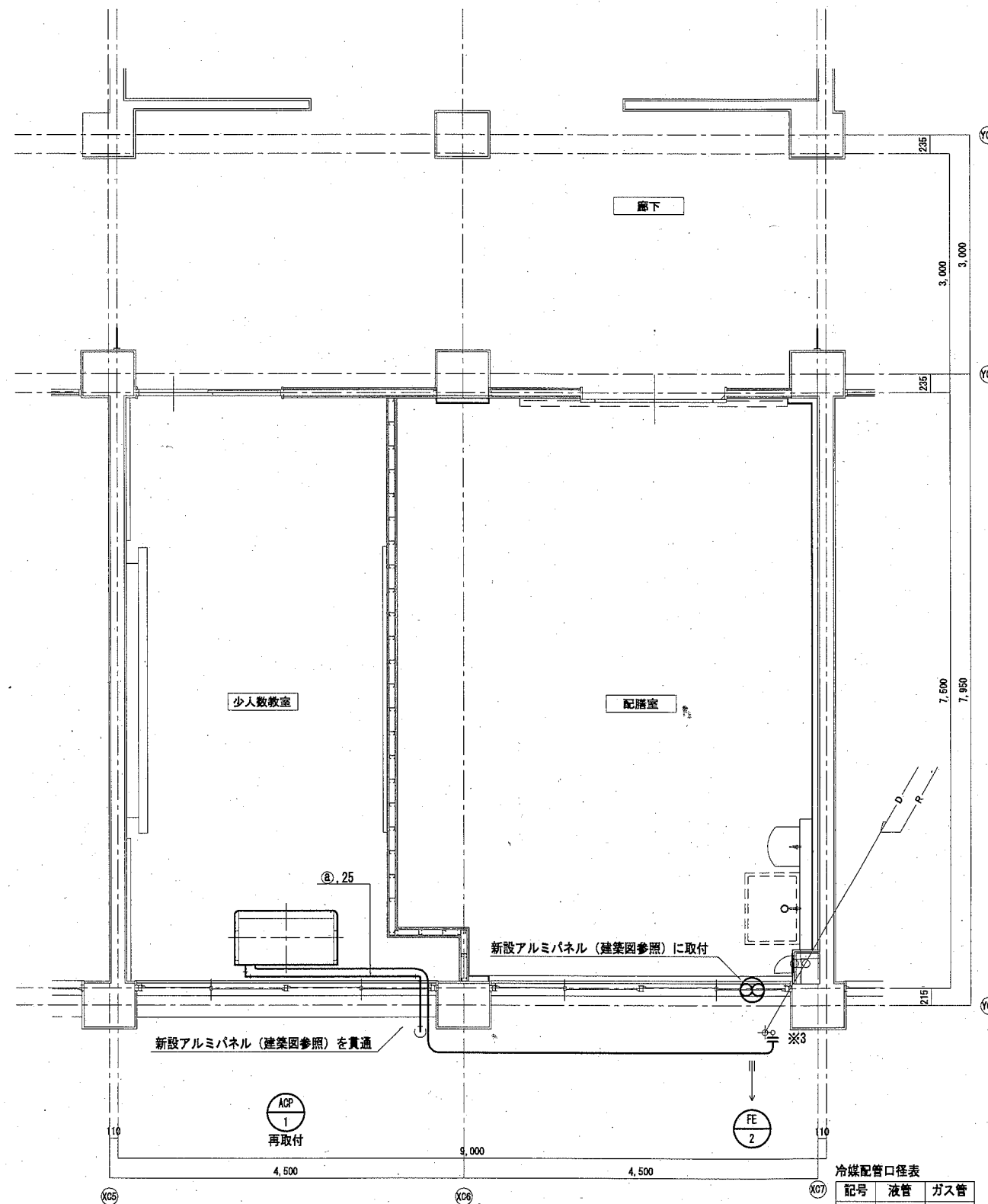
改修前



空調設備 1階配膳室平面図 (改修前)

- 1) ※1部は既存配管切断を示す。
- 2) ※2部は既存配管切断閉塞を示す。
- 3) 細線部は既設再使用を示す。
- 4) 太線部は撤去を示す。

改修後



空調設備 1階配膳室平面図 (改修後)

- 1) 内外連絡配線は冷媒管共巻工事とする。
- 2) ※3部は既存配管接続を示す。
- 3) 細線部は既設再使用を示す。
- 4) 冷媒管・ドレン管はアルミパネル貫通とする。

冷媒配管口径表

記号	液管	ガス管
⑧	9.5φ	15.9φ

公共建築課長 主査等 担当者

横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 令和 2年 2月

設計名称
市立大津中学校昇降機設置建築その他工事

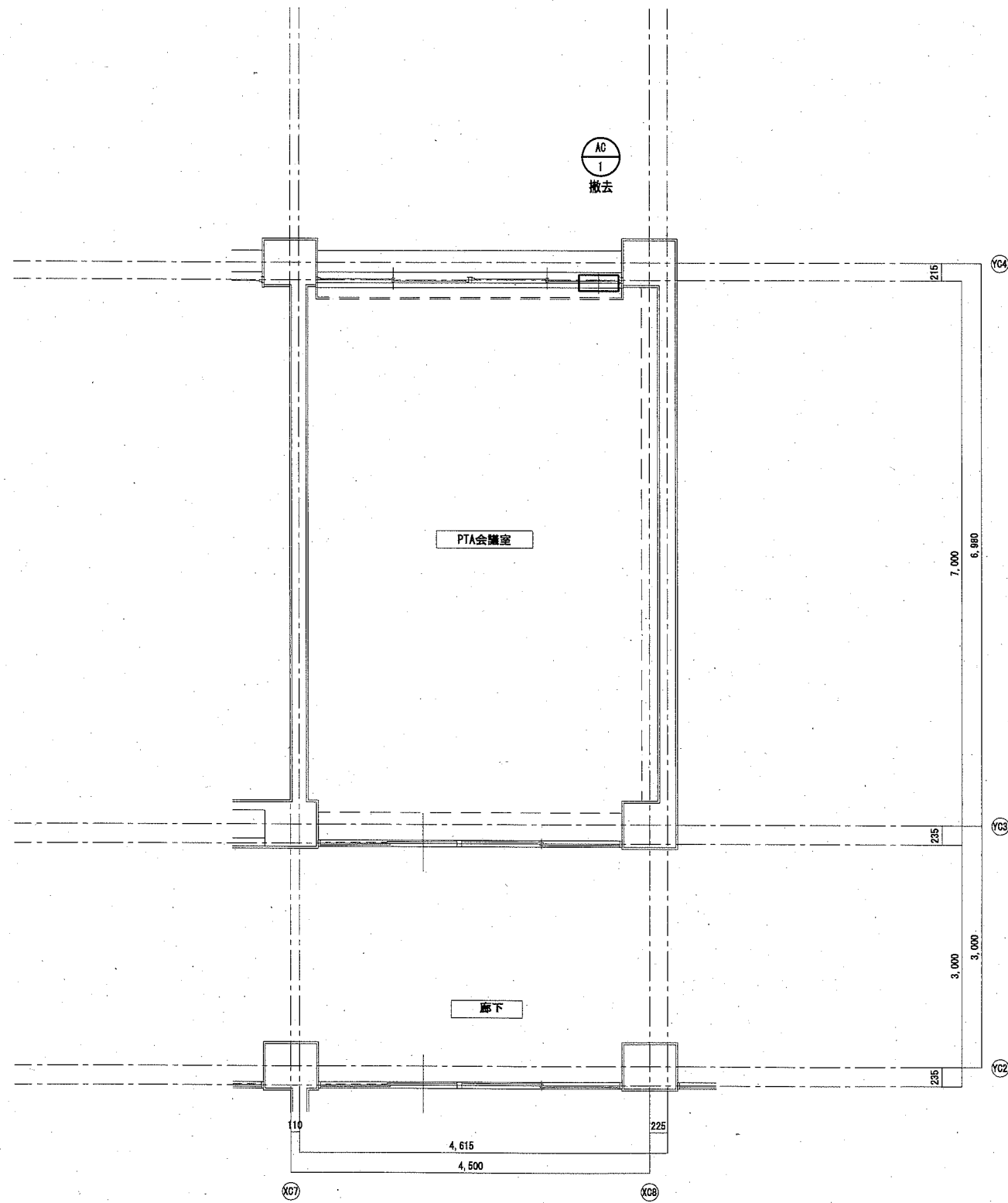
図面名称
空調設備 1階配膳室平面図

縮尺 1 : 50

図面番号

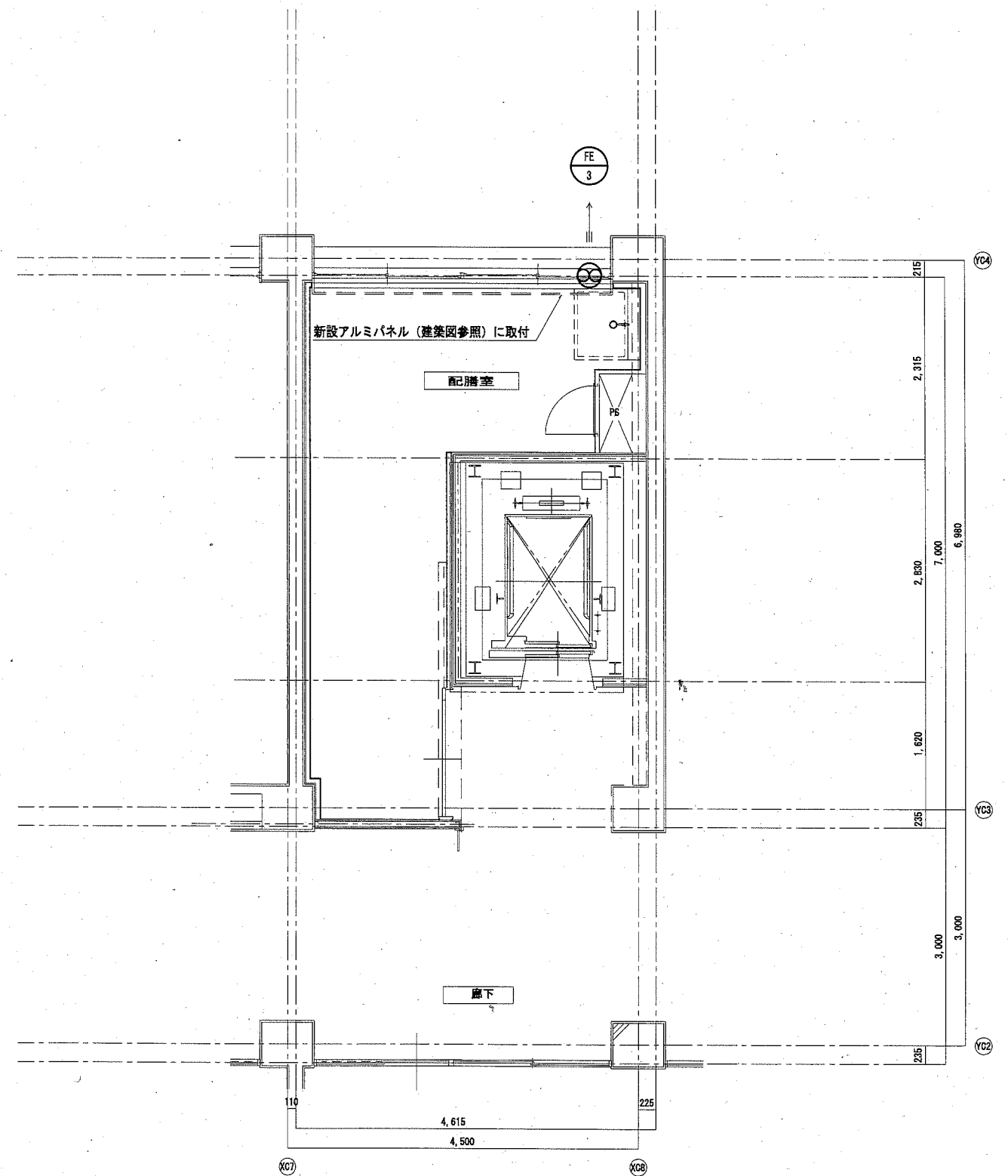
M-07

改修前



空調設備 2階配膳室平面図 (改修前)

改修後



空調設備 2階配膳室平面図 (改修後)

公共建築課長	主査等	担当者
--------	-----	-----

横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 令和 2年 2月

設計名称 市立大塚中学校昇降機設置建築その他工事

図面名称 空調設備 2階配膳室平面図

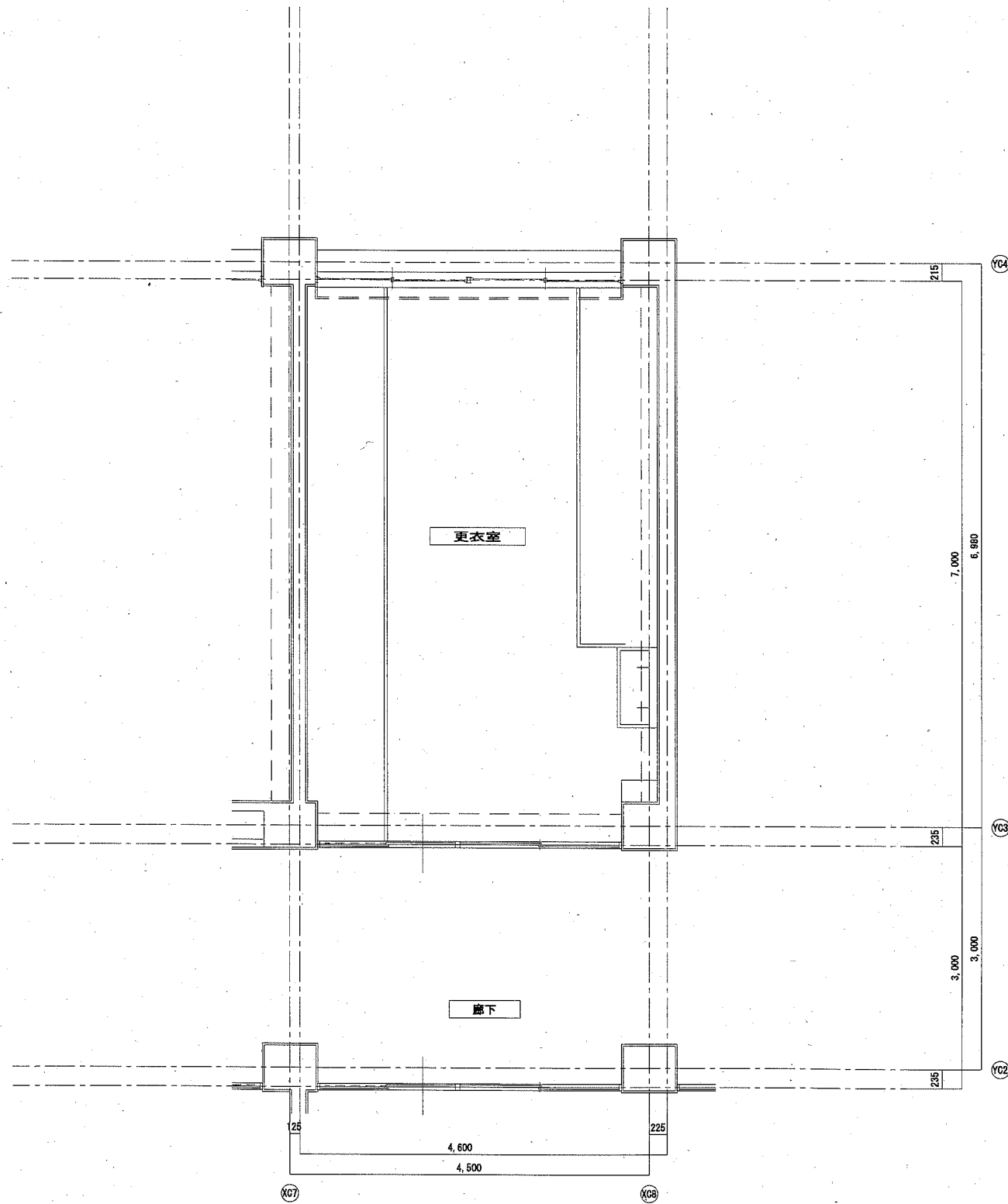
縮尺 1 : 50

NO

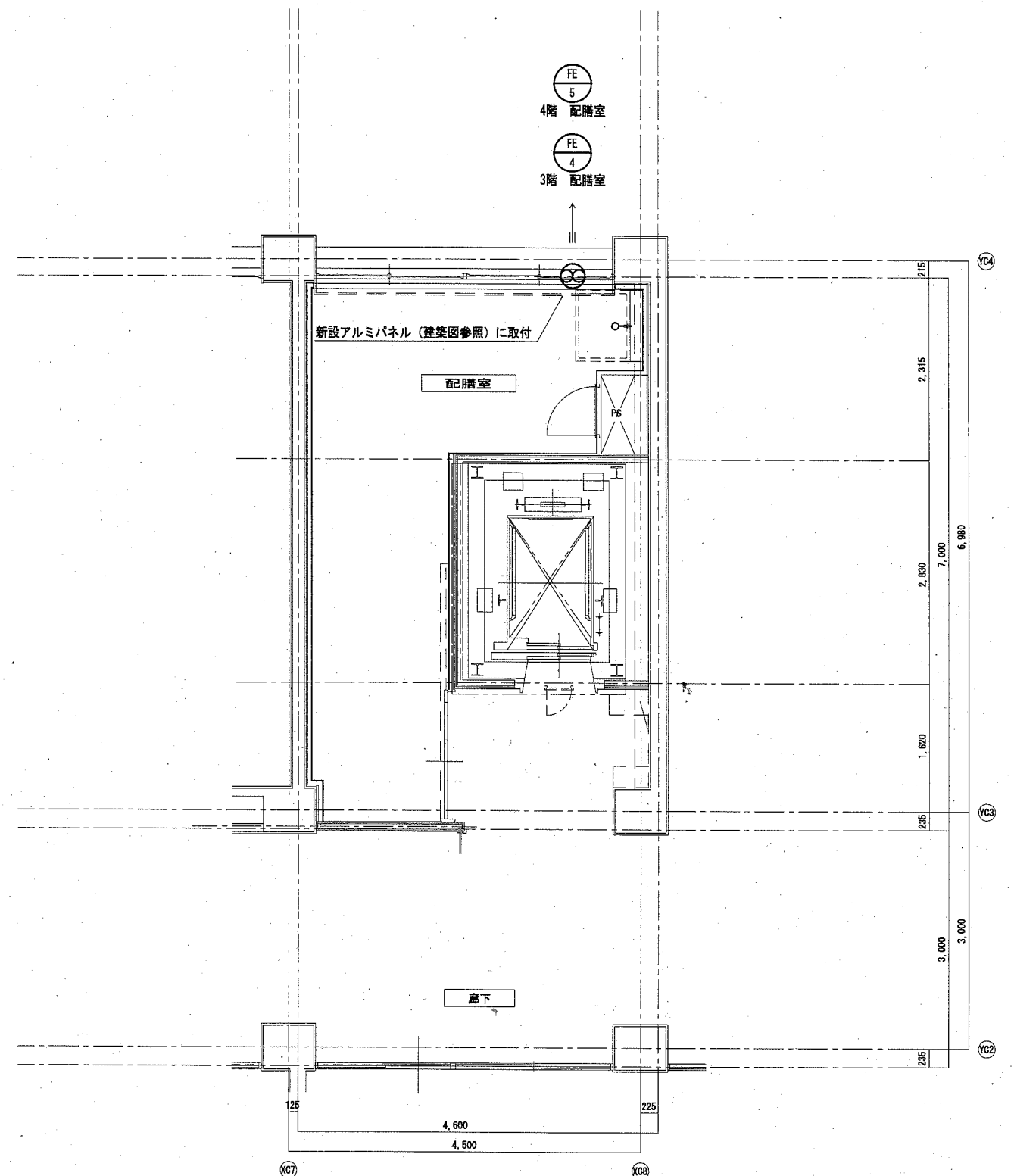
M-08

改修前

改修後



空調設備3・4階配膳室平面図 (改修前)



空調設備3・4階配膳室平面図 (改修後)

公共建築課長 主査等 担当者

横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 令和 2年 2月

設計名称
NAME OF PROJECT
市立大津中学校昇降機設置進捗その他工事

図面名称
ITEM OF DRAWING
空調設備3・4階配膳室平面図

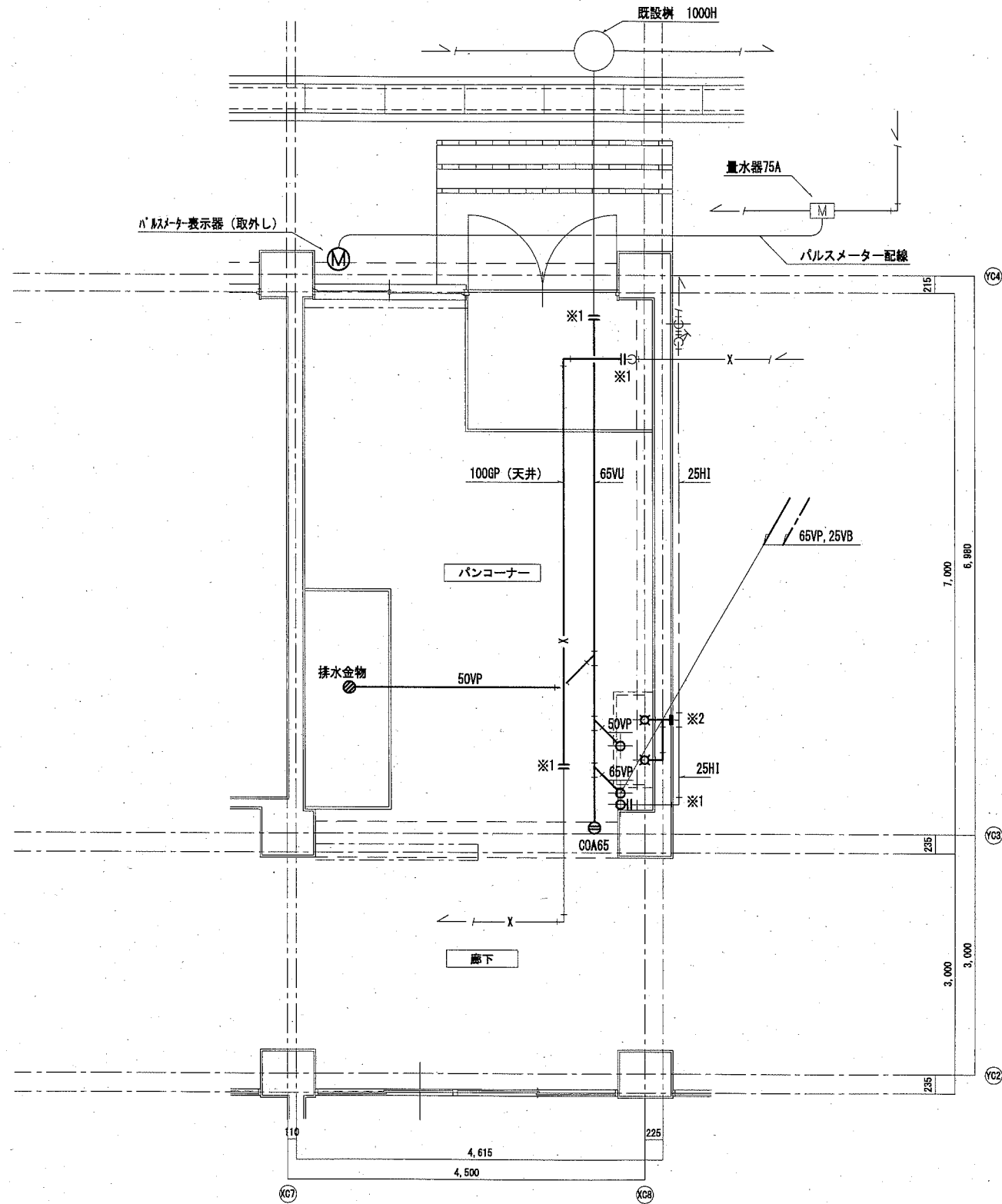
PROJECT NUMBER

DRAWING NUMBER

縮尺 1:50
SCALE

M-09

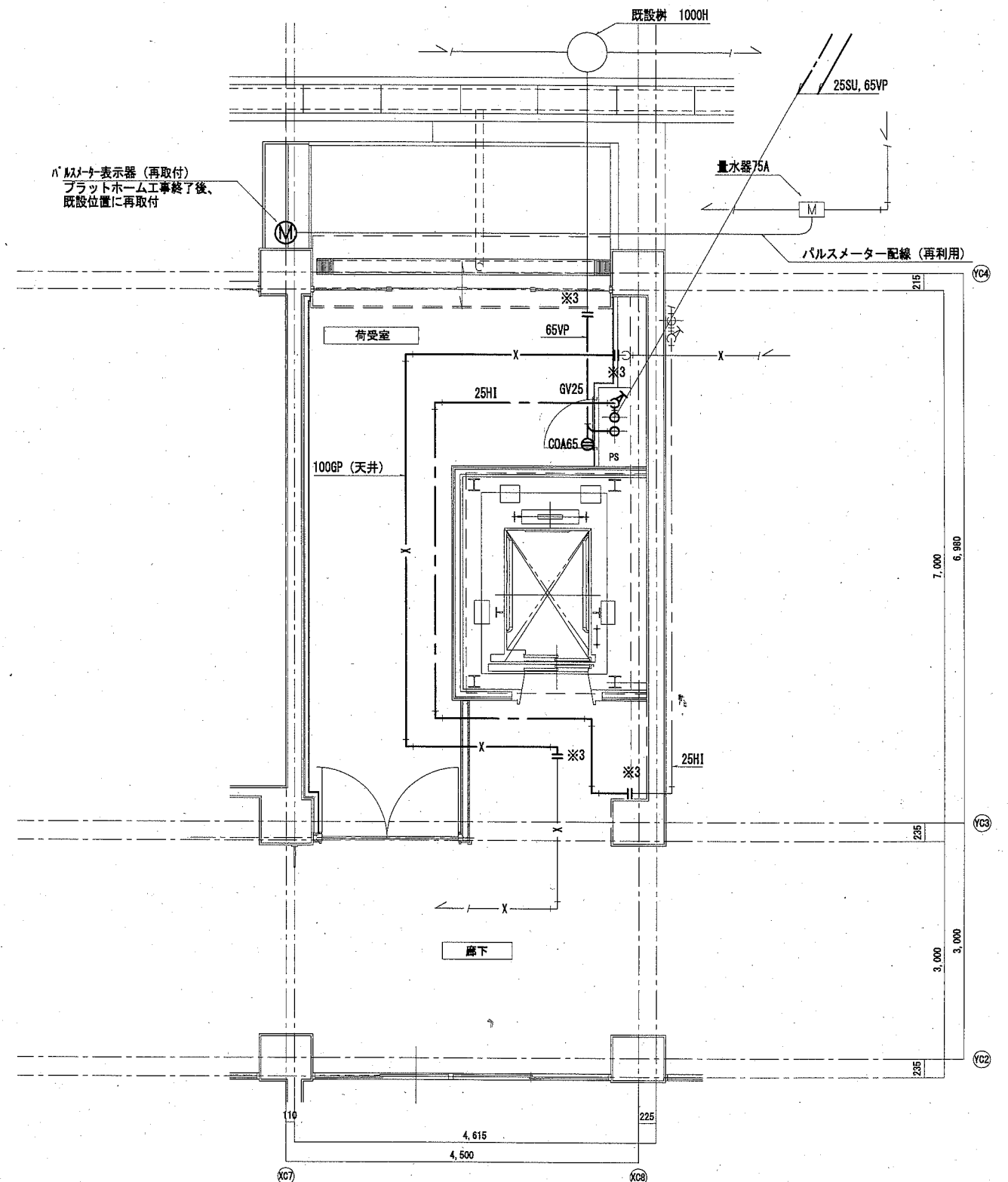
改修前



衛生設備1階荷受室平面図 (改修前)

- 1) ※1部は既存配管切断を示す。
- 2) ※2部は既存配管切断閉塞を示す。
- 3) 細線部は既設再使用を示す。
- 4) 太線部は撤去を示す。

改修後



衛生設備1階荷受室平面図 (改修後)

- 1) ※3部は既存配管接続を示す。
- 2) 細線部は既設再使用を示す。

公共建築課長 主査等 担当者

横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 令和 2 年 2 月

電気設備担当
ELECTRICAL ENG
衛生設備担当
SANITARY ENG
空調設備担当
MECHANICAL ENG

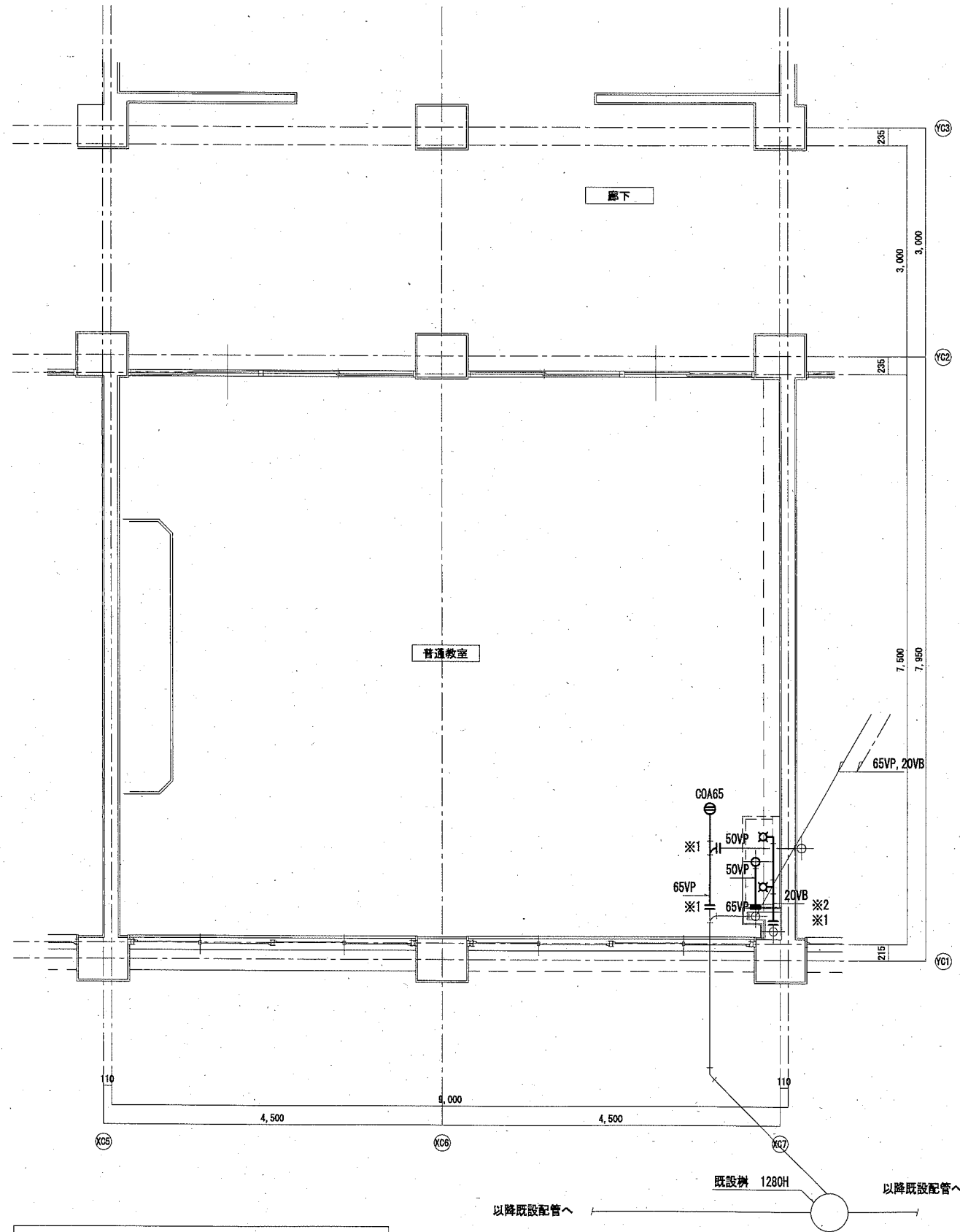
岡 正浩
長見 直
長見 直

設計名称
NAME OF PROJECT
市立大津中学校界隈緑地建設その他工事
PROJECT NUMBER

図面名称
ITEM OF DRAWING
衛生設備1階荷受室平面図
DRAWING NUMBER

縮尺 1 : 50
SCALE

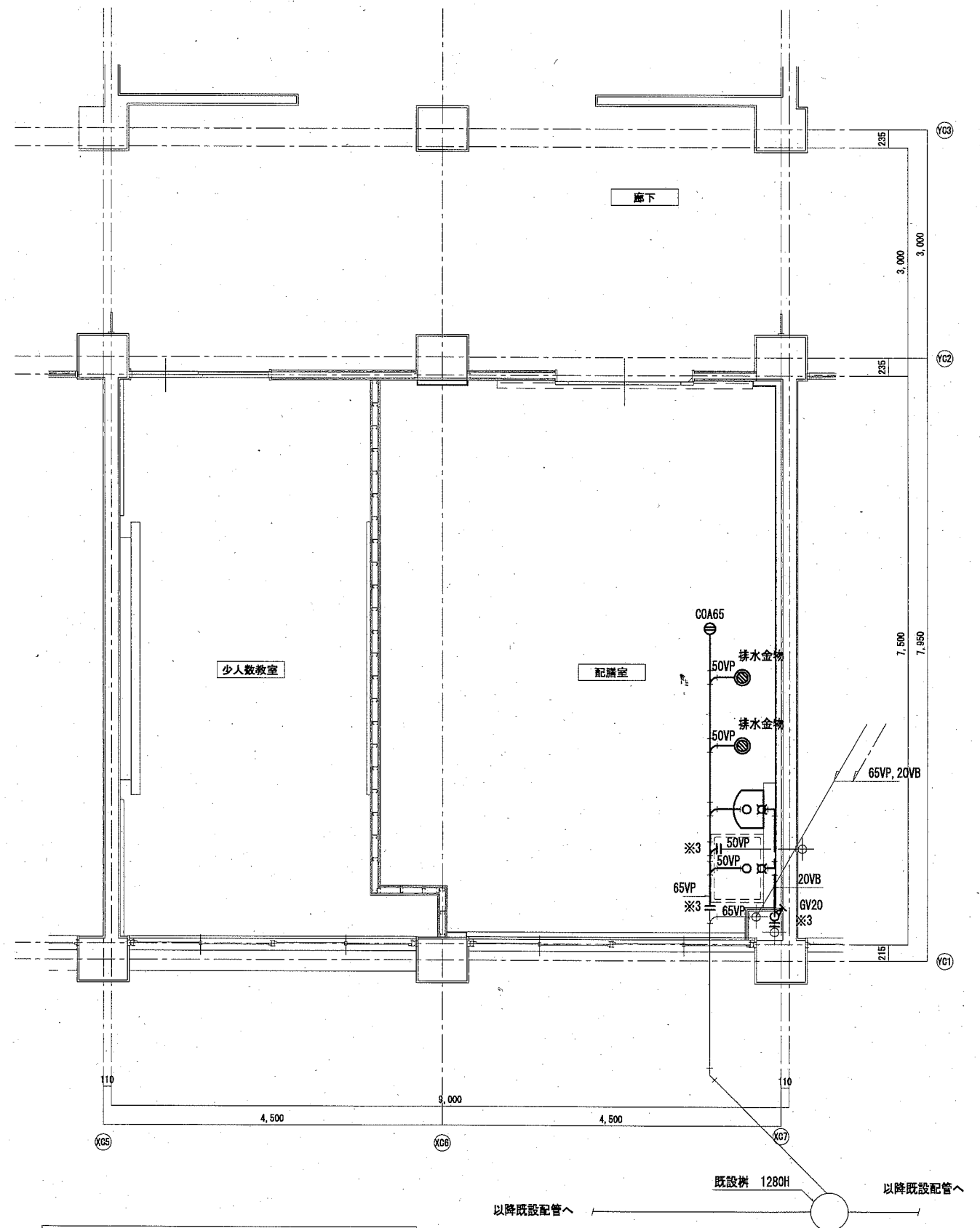
改修前



衛生設備 1階配膳室平面図 (改修前)

- 1) ※1部は既存配管切断を示す。
- 2) ※2部は既存配管切断・閉塞を示す。
- 3) 細線部は既設再使用を示す。
- 4) 太線部は撤去を示す。

改修後



衛生設備 1階配膳室平面図 (改修後)

- 1) ※3部は既存配管接続を示す。
- 2) 細線部は既設再使用を示す。

公共建築課長 主査等 担当者



横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 令和 2年 2月

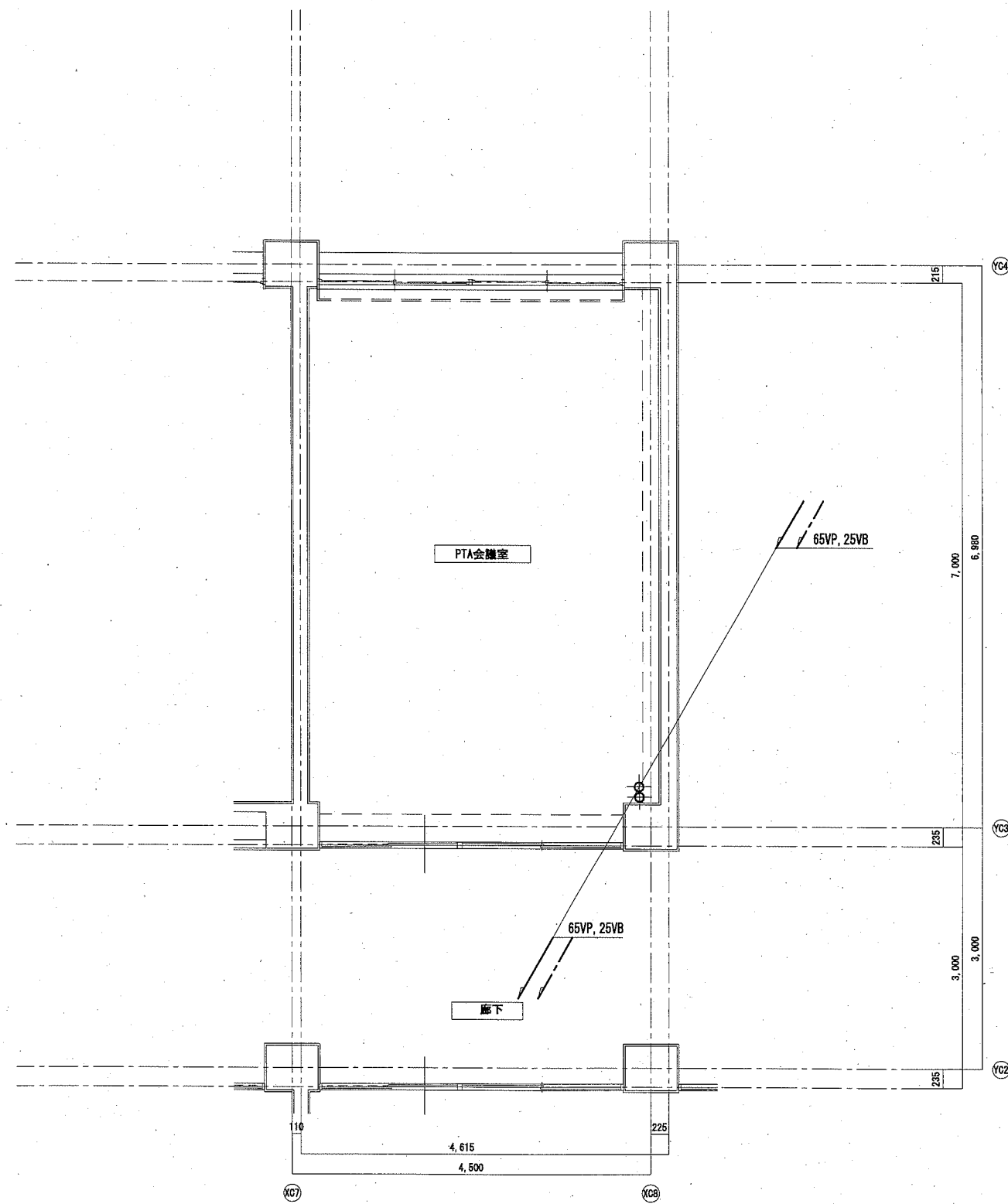
設計名称
市立大津中学校昇降機設置建築その他工事

図面名称
衛生設備1階配膳室平面図

縮尺 1 : 50

M-11

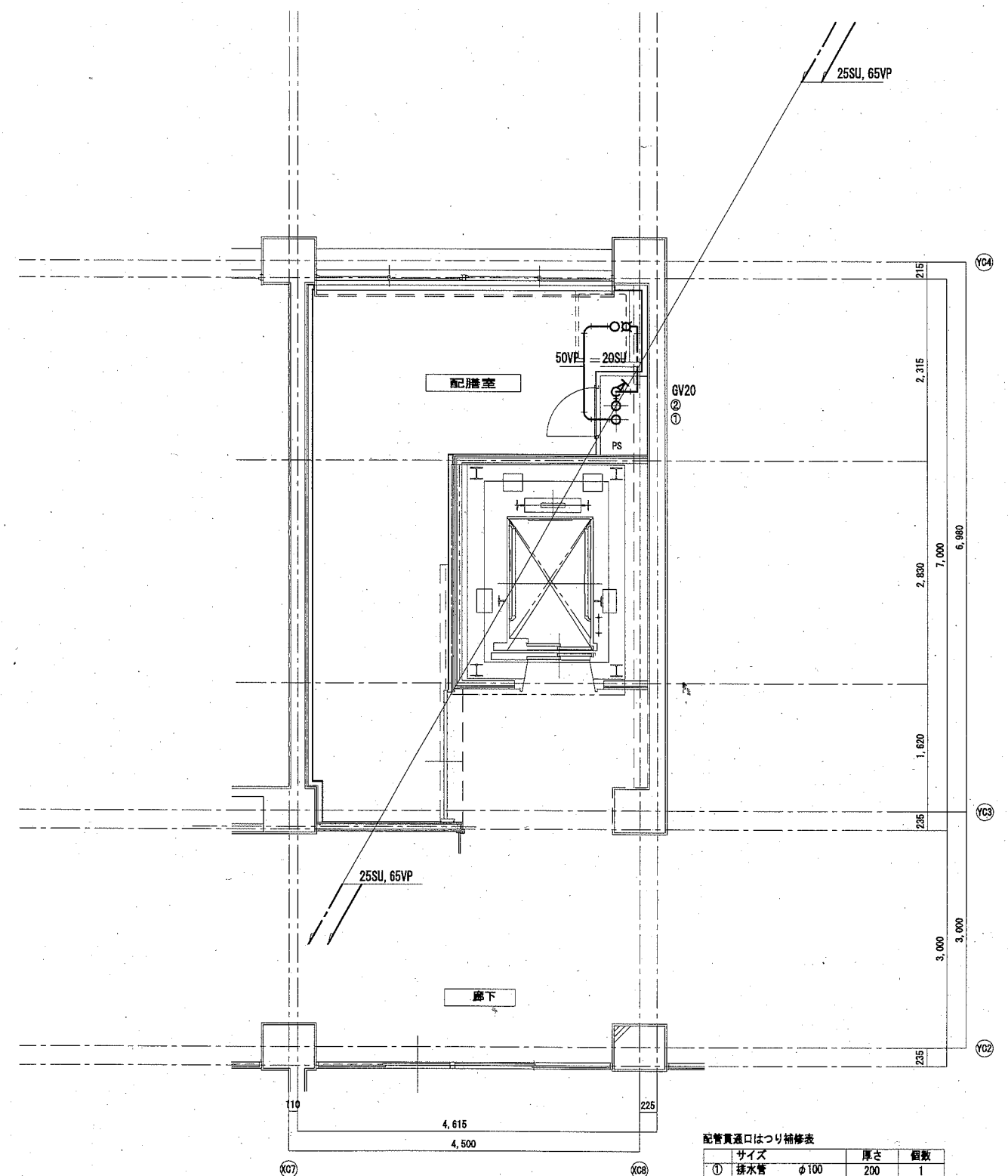
改修前



衛生設備2階配膳室平面図(改修前)

- 1) ※1部は既存配管切断を示す。
- 2) ※2部は既存配管切断・閉塞を示す。
- 3) 細線部は既設再使用を示す。
- 4) 太線部は撤去を示す。

改修後



衛生設備2階配膳室平面図(改修後)

- 1) ※3部は既存配管接続を示す。
- 2) 細線部は既設再使用を示す。

配管貫通口はつり補修表

サイズ	厚さ	個数
① 排水管 φ100	200	1
② 給水管 φ50	200	1

公共建築課長 主査等 担当者

横須賀市 都市部 公共建築課

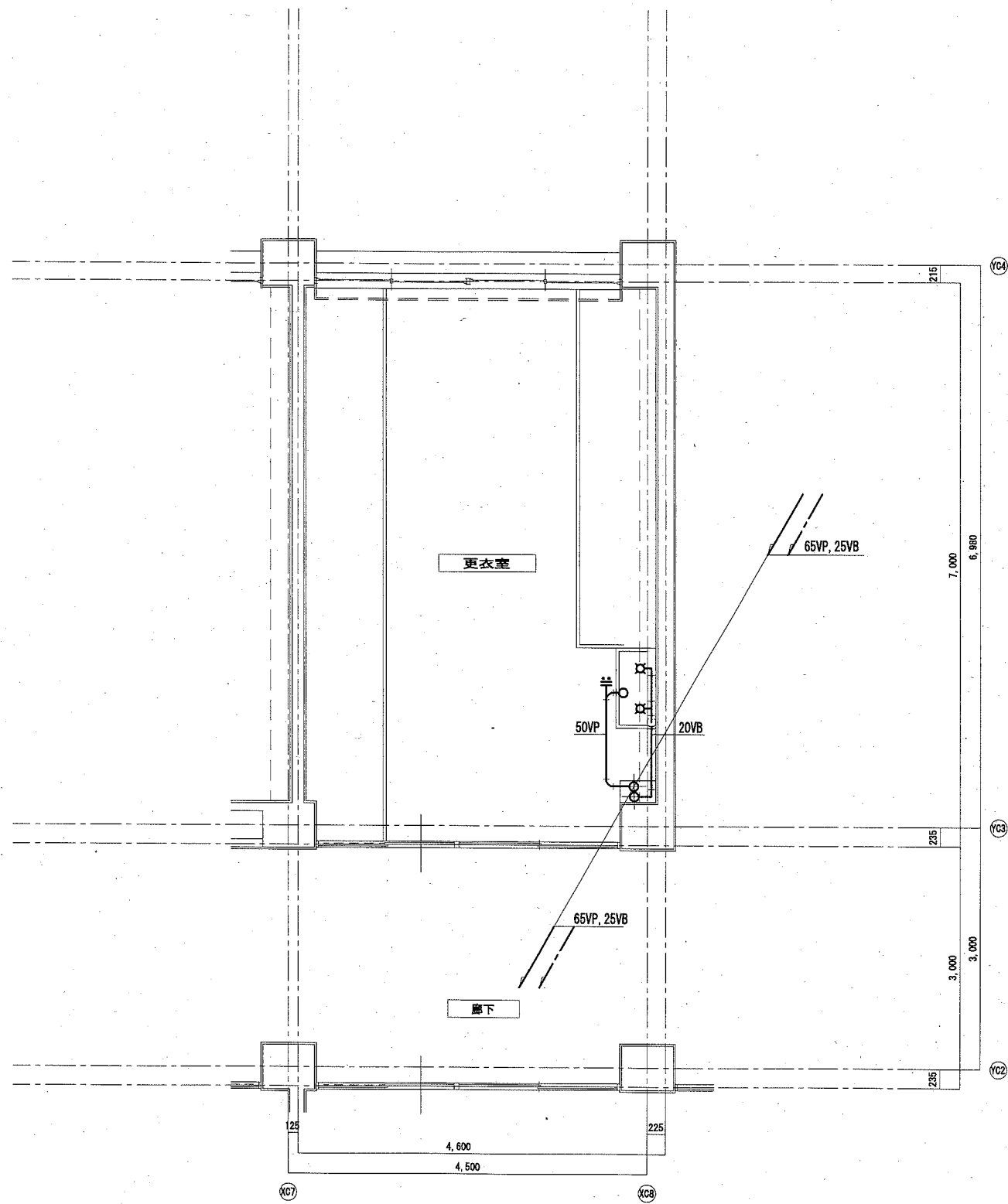
設計年月日 令和 2年 2月

設計名称
市立大津中学校界隈補修設置建築その他工事

図面名称
衛生設備2階配膳室平面図

縮尺 1:50

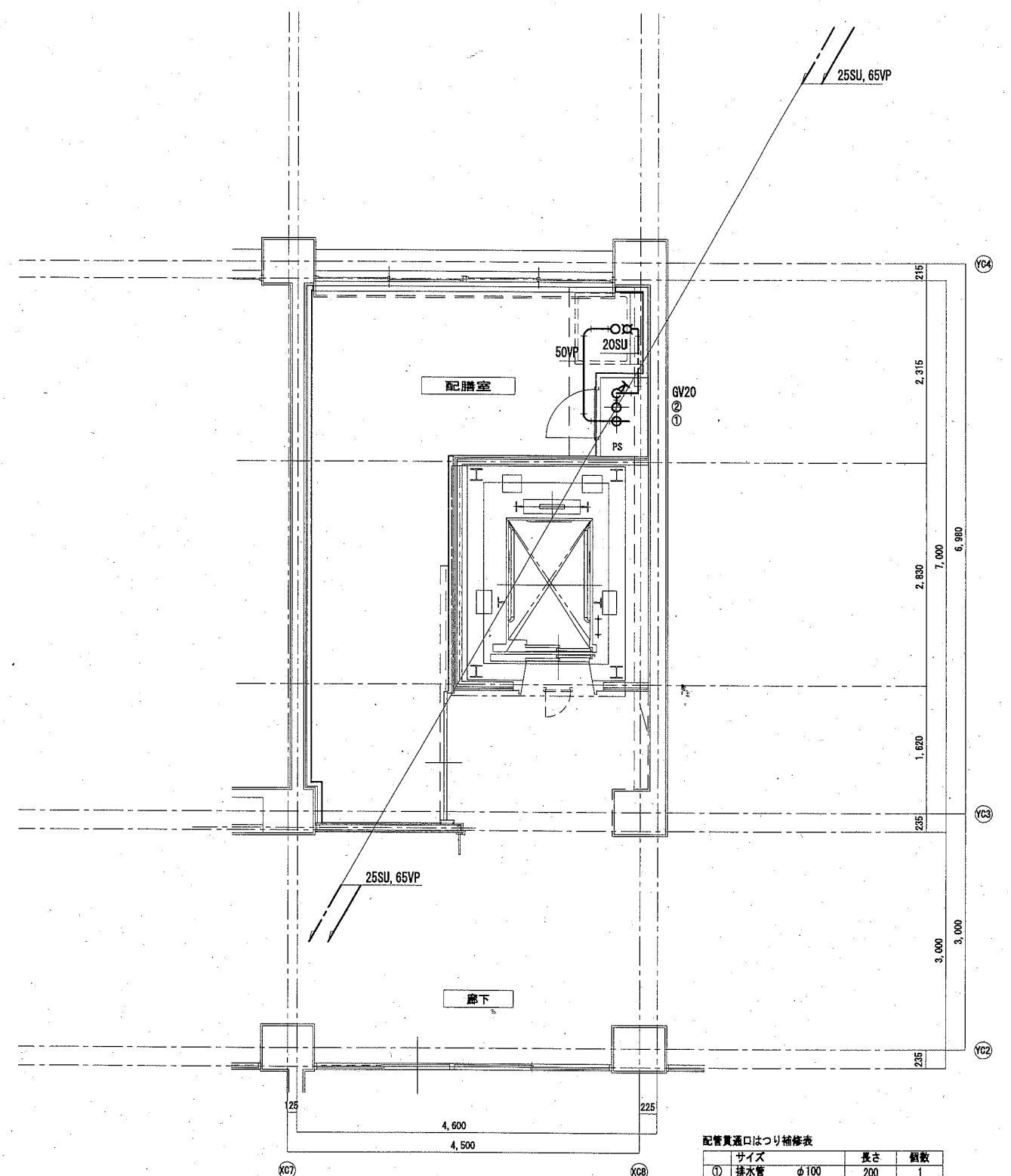
改修前



衛生設備3階配膳室平面図(改修前)

- 1) ※1部は既存配管切断を示す。
- 2) ※2部は既存配管切断・閉塞を示す。
- 3) 細線部は既設再使用を示す。
- 4) 太線部は撤去を示す。

改修後



衛生設備3階配膳室平面図(改修後)

- 1) ※3部は既存配管接続を示す。
- 2) 細線部は既設再使用を示す。

配管貫通口はつり補修表

サイズ	長さ	個数
① 排水管 φ100	200	1
② 給水管 φ50	200	1

公共建築課長 主査等 担当者

横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 令和 2年 2月

設計名称 市立大津中学校昇降機設置建築その他工事

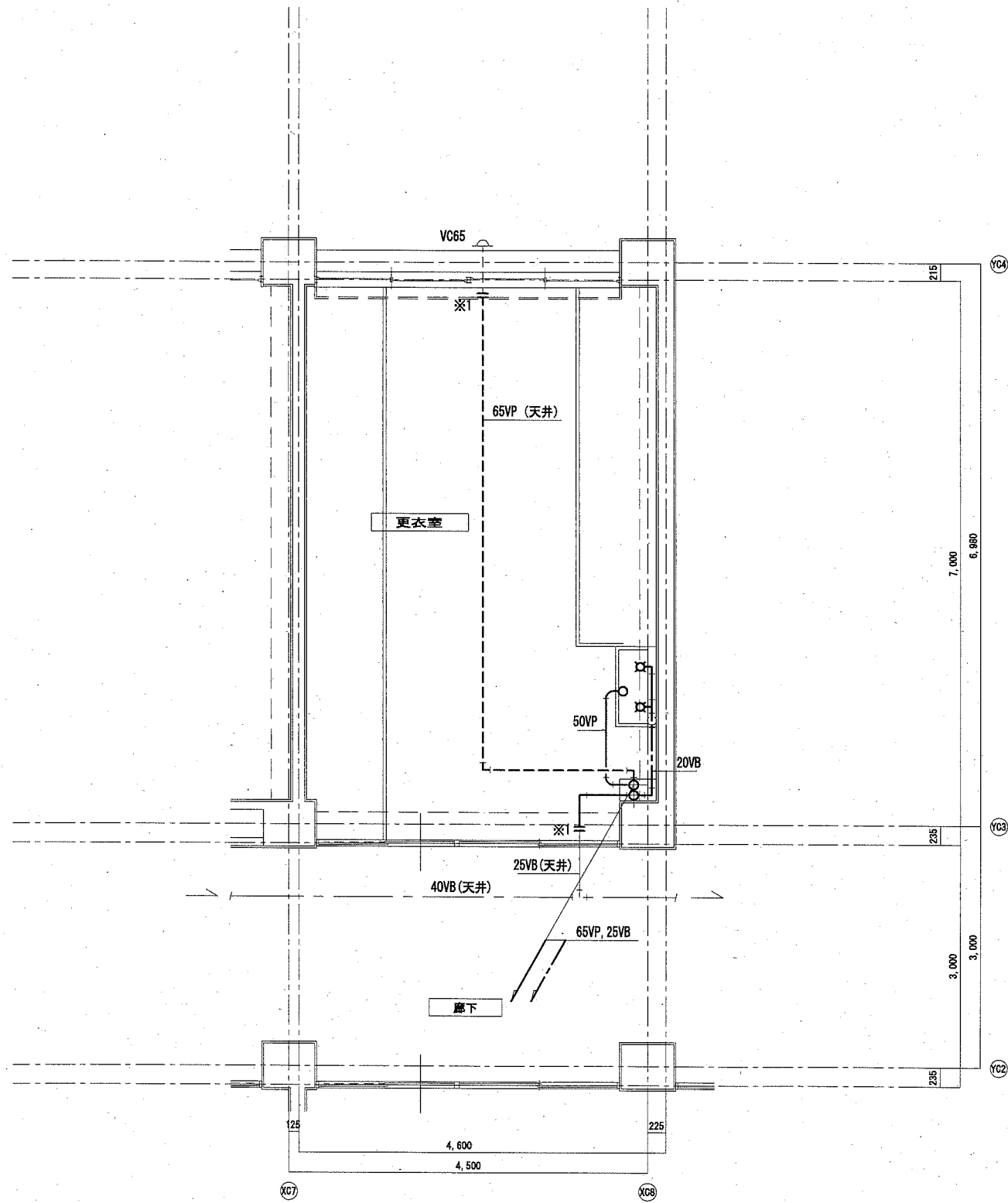
図面名称 衛生設備3階配膳室平面図

PROJECT NUMBER

DRAWING NUMBER

縮尺 1:50

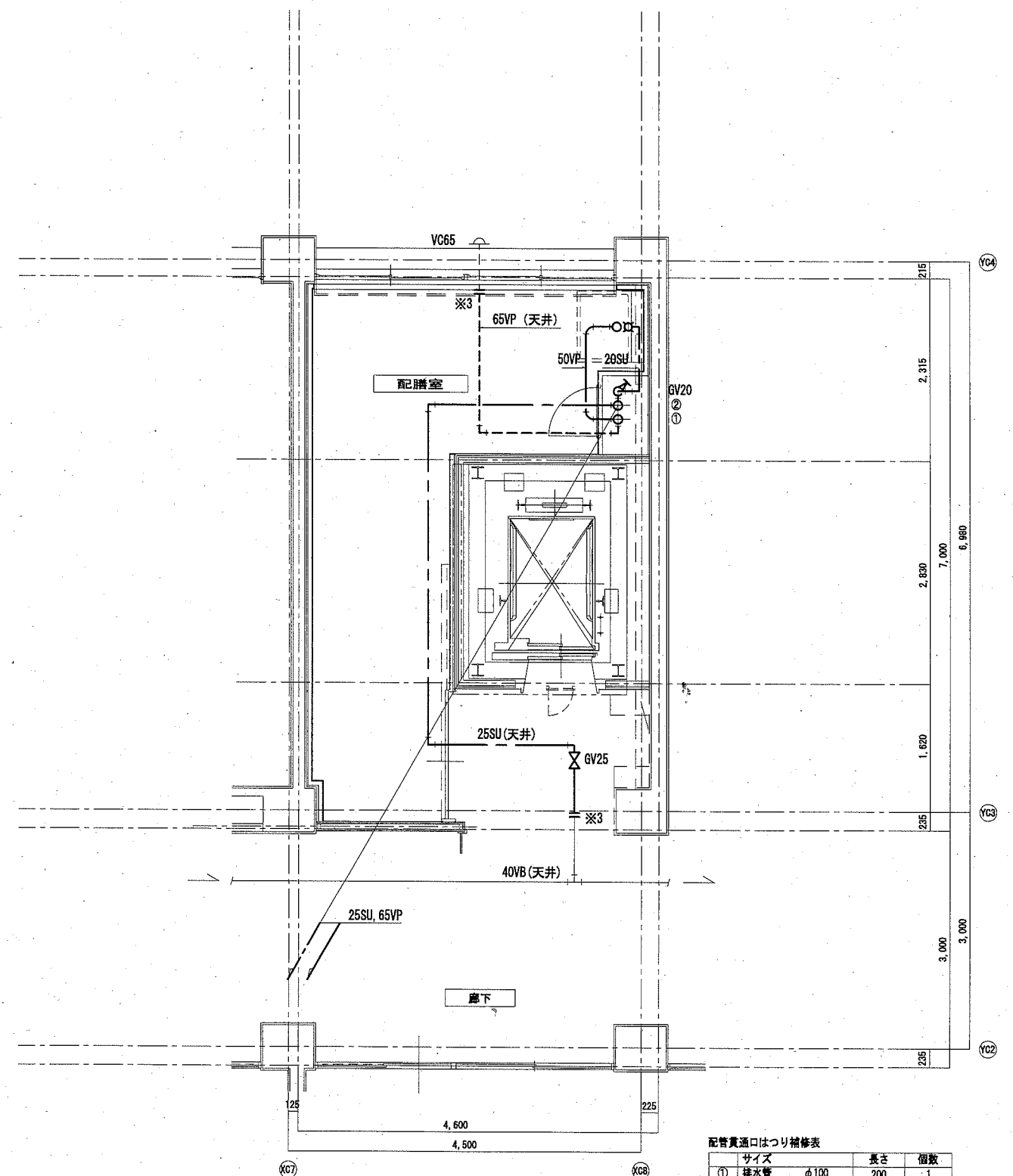
改修前



衛生設備 4階配膳室平面図 (改修前)

- 1) ※1部は既存配管切断を示す。
- 2) ※2部は既存配管切断・閉塞を示す。
- 3) 細線部は既設再使用を示す。
- 4) 太線部は撤去を示す。

改修後



衛生設備 4階配膳室平面図 (改修後)

- 1) ※3部は既存配管接続を示す。
- 2) 細線部は既設再使用を示す。

配管貫通口はつり補修表

サイズ	長さ	個数
① 排水管 φ100	200	1
② 給水管 φ50	200	1

公共建築課長 主査等 担当者

横須賀市 都市部 公共建築課

設計年月日 令和 2年 2月

設計名称
NAME OF PROJECT
市立大津中学校昇降機設置建築その他工事

図面名称
TITLE OF DRAWING
衛生設備4階配膳室平面図

縮尺
SCALE
1 : 50